

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン キンキダイガク 学校法人 近畿大学							
フリガナ大学の名称	キンキダイガク 近畿大学 (Kindai University)							
大学本部の位置	大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号							
大学の目的	教育基本法の本旨に則り、法律学、経済学、経営学、理学、工学、薬学、農学、水産学、文学及び医学に関する学術の理論及び応用を深く研究教授し、人格を陶冶することを目的とする。							
新設学部等の目的	地域における医師不足の解消が喫緊の課題であり、地域の医師確保等に早急に対応するために、医師確保等が必要とされる府県と連携し、医学部医学科の入学定員、収容定員の増員を行う。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	法学部	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	法律学科	4	500	-	2,000	学士 (法学) 【Bachelor of Law】	昭和25年4月 第1年次	大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
	経済学部							
	経済学科	4	420	-	1,680	学士 (経済学) 【Bachelor of Economics】	平成15年4月 第1年次	大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
	総合経済政策学科	4	170	-	680	学士 (経済政策学) 【Bachelor of Political Economics】	平成15年4月 第1年次	
	国際経済学科	4	170	-	680	学士 (国際経済学) 【Bachelor of International Economics】	平成18年4月 第1年次	
	経営学部							
	経営学科 昼間主コース	4	425	-	1,700	学士 (経営学) 【Bachelor of Business Administration】	平成15年4月 第1年次	大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
	夜間主コース	4	160	-	640	学士 (経営学) 【Bachelor of Business Administration】	平成15年4月 第1年次	
	商学科	4	405	-	1,620	学士 (商学) 【Bachelor of Commerce】	平成15年4月 第1年次	
	会計学科	4	175	-	700	学士 (会計学) 【Bachelor of Accounting】	平成18年4月 第1年次	
	キャリア・マネジメント学科	4	175	-	700	学士 (キャリア・マネジメント学) 【Bachelor of Career Management】	平成19年4月 第1年次	
	理工学部							
	理学科	4	225	-	900	学士 (理学) 【Bachelor of Science】	平成14年4月 第1年次	大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
生命科学科	4	95	-	380	学士 (理学) 【Bachelor of Science】	平成14年4月 第1年次		

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次人	人		年月 第 年次	
理工学部							大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
応用化学科	4	130	-	520	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成14年4月 第1年次	
機械工学科	4	200	-	800	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成14年4月 第1年次	
電気電子工学科	4	190	-	760	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成14年4月 第1年次	
社会環境工学科	4	100	-	400	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成14年4月 第1年次	
情報学科	4	190	-	760	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成14年4月 第1年次	
建築学部							大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
建築学科	4	280	-	1,120	学士 (建築学) 【Bachelor of Architecture】	平成23年4月 第1年次	
薬学部							大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
医療薬学科	6	150	-	900	学士 (薬学) 【Bachelor of Pharmacy】	平成18年4月 第1年次	
創薬科学科	4	40	-	160	学士 (薬科学) 【Bachelor of Pharmaceutical Sciences】	平成18年4月 第1年次	
文芸学部							大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
文学科 日本文学専攻	4	120	-	480	学士 (文学) 【Bachelor of Arts】	平成元年4月 第1年次	
英語英米文学専攻	4	60	-	240	学士 (文学) 【Bachelor of Arts】	平成元年4月 第1年次	
芸術学科 舞台芸術専攻	4	50	-	200	学士 (文芸学) 【Bachelor of Arts】	平成元年4月 第1年次	
造形芸術専攻	4	65	-	260	学士 (文芸学) 【Bachelor of Arts】	平成元年4月 第1年次	
文化・歴史学科	4	140	-	560	学士 (文学) 【Bachelor of Arts】	平成元年4月 第1年次	
文化デザイン学科	4	80	-	320	学士 (文芸学) 【Bachelor of Arts】	平成28年4月 第1年次	
総合社会学部							大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
総合社会学科	4	510	-	2,040	学士 (総合社会学) 【Bachelor of Applied Sociology】	平成22年4月 第1年次	
国際学部							大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
国際学科	4	500	-	2,000	学士 (国際学) 【Bachelor of International Studies】	平成28年4月 第1年次	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
農学部							奈良県奈良市中町3327番204	
農業生産科学科	4	120	-	480	学士(農学) 【Bachelor of Agricultural Science】	平成17年4月第1年次		
水産学科	4	120	-	480	学士(農学) 【Bachelor of Agricultural Science】	昭和33年4月第1年次		
応用生命化学科	4	120	-	480	学士(農学) 【Bachelor of Agricultural Science】	平成17年4月第1年次		
食品栄養学科	4	80	-	320	学士(農学) 【Bachelor of Agricultural Science】	昭和42年4月第1年次		
環境管理学科	4	120	-	480	学士(農学) 【Bachelor of Agricultural Science】	平成17年4月第1年次		
生物機能科学科	4	120	-	480	学士(農学) 【Bachelor of Agricultural Science】	平成17年4月第1年次		
医学部							大阪府大阪狭山市大野東377番2	医学部医学科の今回の12名の入学定員の増員は、令和3年度までの臨時定員増である。また、医学部医学科の令和元年度における収容定員は685人である。
医学科	6	107(95)	-	594(570)	学士(医学) 【Bachelor of Medicine】	令和2年4月第1年次		
生物理工学部							和歌山県紀の川市西三谷930	
生物工学科	4	90	-	360	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	平成5年4月第1年次		
食品安全工学科	4	90	-	360	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	平成22年4月第1年次		
遺伝子工学科	4	90	-	360	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	平成9年4月第1年次		
生命情報工学科	4	80	-	320	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	平成22年4月第1年次		
人間環境デザイン工学科	4	80	-	320	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	平成22年4月第1年次		
医用工学科	4	55	-	220	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	平成22年4月第1年次		
工学部							広島県東広島市高屋うめの辺1番	
化学生命工学科	4	85	-	340	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	昭和34年4月第1年次		
機械工学科	4	100	-	400	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	昭和34年4月第1年次		
情報学科	4	90	-	360	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	昭和37年4月第1年次		

(人)	入学定員	編入定員	収容定員
令和2年度	107	0	682
令和3年度	107	0	674
令和4年度	95	0	654
令和5年度	95	0	634
令和6年度	95	0	614
令和7年度	85	0	584
令和8年度	95	0	582
令和9年度	95	0	570

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
									年	人
工学部							広島県東広島市高屋うめの辺1番			
建築学科	4	100	-	400	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	昭和40年4月 第1年次				
電子情報工学科	4	90	-	360	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成4年4月 第1年次				
ロボティクス学科	4	80	-	320	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成4年4月 第1年次				
産業理工学部							福岡県飯塚市柏の森11番6			
生物環境化学科	4	75	-	300	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成16年4月 第1年次				
電気電子工学科	4	65	-	260	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成16年4月 第1年次				
建築・デザイン学科	4	90	-	360	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成16年4月 第1年次				
情報学科	4	70	-	280	学士 (工学) 【Bachelor of Engineering】	平成16年4月 第1年次				
経営ビジネス学科	4	120	-	480	学士 (経営ビジネス学) 【Bachelor of Management and Business】	平成16年4月 第1年次				
計		7,962 (7,950)	-	32,362 (32,290)						
通信教育部法学部							大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号			
法律学科	4	2,000	-	8,000	学士 (法学) 【Bachelor of Law】	昭和35年4月 第1年次				
計		2,000	-	8,000						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計	— 単位				
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	通信教育部法学部 法律学科分を含む
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	法学部	法律学科	23 (23)	14 (14)	4 (4)	0 (0)	41 (41)	0 (0)	164 (164)	
	経済学部	経済学科	10 (10)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	70 (70)	
	総合経済政策学科		6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	30 (30)	
	国際経済学科		6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	32 (32)	
	経営学部	経営学科	21 (21)	14 (14)	1 (1)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	69 (69)	
	商学科		13 (13)	15 (15)	2 (2)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	57 (57)	
	会計学科		7 (7)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	47 (47)	
	キャリア・マネジメント学科		7 (7)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	41 (41)	
理工学部	理学科	20 (20)	17 (17)	4 (4)	0 (0)	41 (41)	0 (0)	42 (42)		

学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等	
	教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	人	人	人	人	人	人		
理工学部	生命科学科	5 (5)	4 (4)	5 (5)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	17 (17)
	応用化学科	5 (5)	9 (9)	4 (4)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	11 (11)
	機械工学科	10 (10)	9 (9)	3 (3)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	14 (14)
	電気電子工学科	8 (8)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	25 (25)	0 (0)	14 (14)
	社会環境工学科	7 (7)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	41 (41)
	情報学科	7 (7)	11 (11)	7 (7)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	17 (17)
建築学部	建築学科	13 (13)	12 (12)	8 (8)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	41 (41)
薬学部	医療薬学科	15 (15)	11 (11)	8 (8)	5 (5)	39 (39)	1 (1)	65 (65)
	創薬科学科	6 (6)	3 (3)	6 (6)	1 (1)	16 (16)	1 (1)	7 (7)
文芸学部	文学科	11 (11)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	32 (32)
	芸術学科	12 (12)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	50 (50)
	文化・歴史学科	8 (8)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	35 (35)
	文化デザイン学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	24 (24)
総合社会学部	総合社会学科	16 (16)	26 (26)	5 (5)	0 (0)	47 (47)	0 (0)	72 (72)
国際学部	国際学科	16 (16)	13 (13)	2 (2)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	37 (37)
農学部	農業生産科学科	7 (7)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	31 (31)
	水産学科	8 (8)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	16 (16)
	応用生命化学科	6 (6)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	1 (1)	20 (20)
	食品栄養学科	4 (4)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	4 (4)	22 (22)
	環境管理学科	6 (6)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	19 (19)
	生物機能科学科	6 (6)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	15 (15)
医学部	医学科	55 (55)	43 (43)	161 (161)	143 (143)	402 (402)	1 (1)	157 (157)
生物理工学部	生物工学科	7 (7)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	4 (4)
	食品安全工学科	6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	9 (9)
	遺伝子工学科	6 (6)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	5 (5)
	生命情報工学科	5 (5)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	10 (10)
	人間環境デザイン工学科	4 (4)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	6 (6)
	医用工学科	4 (4)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	13 (13)
	工学部	化学生命工学科	6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)
機械工学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	16 (16)	
情報学科	6 (6)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	14 (14)	
建築学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	22 (22)	
電子情報工学科	5 (5)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	9 (9)	
ロボティクス学科	5 (5)	3 (3)	4 (4)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	
産業理工学部	生物環境化学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	9 (9)
	電気電子工学科	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	6 (6)

教員組織の概要

新設分

	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等			
			教授	准教授	講師	助教	計		助手		
			人	人	人	人	人	人			
教員組織の概要	新設分	産業理工学部 建築・デザイン学科	8 (8)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	13 (13)		
		情報学科	6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	9 (9)		
		経営ビジネス学科	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	10 (10)		
		計	451 (451)	363 (363)	301 (301)	168 (168)	1,283 (1,283)	8 (8)	-		
	全学共通教育機構	教職教育部	10 (10)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	23 (23)		
		計	10 (10)	7 (7)	4 (4)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	-		
		合計	461 (461)	370 (370)	305 (305)	169 (169)	1,305 (1,305)	8 (8)	-		
	教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
		事 務 職 員		562 (562)	人	666 (666)	人	1,228 (1,228)	人		
		技 術 職 員		1,990 (1,990)		180 (180)		2,170 (2,170)			
図 書 館 専 門 職 員			18 (18)		8 (8)		26 (26)				
そ の 他 の 職 員			17 (17)		40 (40)		57 (57)				
計			2,587 (2,587)		894 (894)		3,481 (3,481)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	514,601㎡	146,565㎡		0㎡		661,166㎡				
	運 動 場 用 地	98,831㎡	321,841㎡		0㎡		420,672㎡				
	小 計	613,432㎡	468,406㎡		0㎡		1,081,838㎡				
	そ の 他	1,807,887㎡	0㎡		0㎡		1,807,887㎡				
合 計	2,421,319㎡	468,406㎡		0㎡		2,889,725㎡					
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
	343,823㎡ ( 322,242㎡)	76,974㎡ ( 95,308㎡)		1,900㎡ ( 1,900㎡)		422,697㎡ ( 419,450㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設						
	336室	252室	661室	79室 (補助職員103人)	8室 (補助職員 3人)						
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数							
		大学全体		1,337 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
	大学全体	2,399,401 [863,013] (2,323,856 [858,209])	21,382 [10,125] (22,492 [10,302])	93,790 [77,434] (86,128 [70,364])	49,360 (48,445)	35382 (53,626)	466 (658)				
	計	2,399,401 [863,013] (2,323,856 [858,209])	21,382 [10,125] (22,492 [10,302])	93,790 [77,434] (86,128 [70,364])	49,360 (48,445)	35,382 (53,626)	466 (658)				
図 書 館	面積	閲覧席数		収 納 可 能 冊 数							
	35,402㎡	5,268		2,556,680							
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要									
	24,350㎡	屋内プール			野球場・武道場						
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体	
		教員1人当り研究費等		2,496千円	2,496千円	2,496千円	2,496千円	2,496千円	2,496千円	2,496千円	図書購入費には 電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		共同研究費等		33,264千円	33,264千円	33,264千円	33,264千円	33,264千円	33,264千円		
		図書購入費	964,733千円	964,733千円	964,733千円	964,733千円	964,733千円	964,733千円	964,733千円		
		設備購入費	2,494,508千円	7,254,240千円	7,254,240千円	7,354,240千円	1,954,240千円	1,954,240千円	1,954,240千円		

経費の見積り及び維持方法の概要	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	法	1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－千円	－千円		
	経済	1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－千円	－千円		
	経営	1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－千円	－千円		
	理工	1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－千円	－千円		
	建築	1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－千円	－千円		
	薬	医療薬学科	2,302千円	2,082千円	2,112千円	2,142千円	2,172千円	2,202千円	
		創薬科学科	1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－千円	－千円	
	文芸	文学科 文化・歴史学科 文化デザイン学科	1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－千円	－千円	
		芸術学科	1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－千円	－千円	
		総合社会	1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－千円	－千円	
		国際	1,550千円	1,300千円	1,320千円	1,320千円	－千円	－千円	
		農	1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－千円	－千円	
		医	6,800千円	5,800千円	5,800千円	5,800千円	5,800千円	5,800千円	
		生物理工	1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－千円	－千円	
		工	1,648千円	1,428千円	1,458千円	1,488千円	－千円	－千円	
	産業理工	生物環境化学科 電気電子工学科 建築・デザイン学科 情報学科	1,514千円	1,294千円	1,324千円	1,354千円	－千円	－千円	
		経営ビジネス学科	1,139千円	919千円	949千円	979千円	－千円	－千円	
	別途、学生健保共済会費、学部学生部会費、校友会終身会費が必要								
	学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、寄付金、補助金、資産運用事業収入等で維持する。					
既設大学等の状況	大学の名称	近畿大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	法務研究科								
	法務専攻	3	-	-	-	法務博士(専門職)	-	平成16年度	大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
	法学研究科								
	法律学専攻								
	博士前期課程	2	10	-	20	修士(法学)	0.65	昭和45年度	大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
	博士後期課程	3	5	-	15	博士(法学)	0.06	昭和47年度	
	商学研究科								
	商学専攻								
	博士前期課程	2	20	-	40	修士(商学)	0.47	昭和27年度	大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
	博士後期課程	3	5	-	15	博士(商学)	0.13	昭和45年度	
	経済学研究科								
	経済学専攻								
博士前期課程	2	20	-	40	修士(経済学)	0.10	平成元年度	大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
博士後期課程	3	5	-	15	博士(経済学)	0.00	平成3年度		
総合理工学研究科									
理学専攻									
博士前期課程	2	30	-	60	修士(理学)	1.25	平成11年度	大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
博士後期課程	3	2	-	6	博士(理学)	0.83	平成11年度		

大学等の名称	近畿大学大学院								所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
既設大学等の状況	総合理工学研究科	年	人	年次人	人					大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
	物質系工学専攻									
	博士前期課程	2	40	-	80	修士(工学)	1.08	平成11年度		
	博士後期課程	3	2	-	6	博士(工学)	0.83	平成11年度		
	メカニクス系工学専攻									
	博士前期課程	2	25	-	50	修士(工学)	1.78	平成11年度		
	博士後期課程	3	2	-	6	博士(工学)	0.66	平成11年度		
	エレクトロニクス系工学専攻									
	博士前期課程	2	30	-	60	修士(工学)	1.68	平成11年度		
	博士後期課程	3	2	-	6	博士(工学)	0.83	平成11年度		
	環境系工学専攻									
	博士前期課程	2	15	-	30	修士(工学)	0.46	平成11年度		
	博士後期課程	3	2	-	6	博士(工学)	0.50	平成11年度		
	建築デザイン専攻									
	修士課程	2	10	-	20	修士(建築学)	1.20	平成27年度		
東大阪モノづくり専攻										
博士前期課程	2	10	-	20	修士(工学)	0.25	平成16年度			
博士後期課程	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	平成20年度			
薬学研究科									大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
薬科学専攻										
博士前期課程	2	15	-	30	修士(薬科学)	1.43	平成22年度			
博士後期課程	3	2	-	6	博士(薬科学)	1.33	平成24年度			
薬学専攻										
博士課程	4	3	-	12	博士(薬学)	1.32	平成24年度			
総合文化研究科									大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
日本文学専攻										
修士課程	2	4	-	8	修士(文学)	0.75	平成26年度			
英語英米文学専攻										
修士課程	2	3	-	6	修士(文学)	0.16	平成26年度			
文化・社会学専攻										
修士課程	2	8	-	16	修士(文化学(社会学))	1.12	平成26年度			
心理学専攻										
修士課程	2	6	-	12	修士(心理学)	0.91	平成26年度			

大学等の名称	近畿大学大学院									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	農学研究科	年	人	年次人	人				奈良県奈良市中町3327番204	
	農業生産科学専攻									
	博士前期課程	2	10	-	20	修士(農学)	1.25	平成17年度		
	博士後期課程	3	2	-	6	博士(農学)	0.33	平成17年度		
	水産学専攻									
	博士前期課程	2	10	-	20	修士(農学)	1.10	昭和61年度		
	博士後期課程	3	4	-	12	博士(農学)	0.25	平成元年度		
	応用生命化学専攻									
	博士前期課程	2	14	-	28	修士(農学)	1.53	昭和60年度		
	博士後期課程	3	5	-	15	博士(農学)	0.13	平成元年度		
	環境管理学専攻									
	博士前期課程	2	10	-	20	修士(農学)	0.85	平成17年度		
	博士後期課程	3	2	-	6	博士(農学)	0.33	平成17年度		
	バイオサイエンス専攻									
	博士前期課程	2	12	-	24	修士(農学)	1.45	平成17年度		
	博士後期課程	3	4	-	12	博士(農学)	0.16	平成17年度		
	生物理工学研究科									和歌山県紀の川市西三谷930
	生物工学専攻									
博士前期課程	2	16	-	32	修士(工学)	1.06	平成9年度			
博士後期課程	3	3	-	9	博士(工学)	0.77	平成11年度			
生体システム工学専攻										
博士前期課程	2	18	-	36	修士(工学)	1.19	平成26年度			
博士後期課程	3	2	-	6	博士(工学)	0.50	平成28年度			
システム工学研究科								広島県東広島市高屋うめの辺1番		
システム工学専攻										
博士前期課程	2	45	-	90	修士(工学)	0.65	平成17年度			
博士後期課程	3	5	-	15	博士(工学)	0.00	平成17年度			
産業理工学研究科								福岡県飯塚市柏の森11番6		
産業理工学専攻										
博士前期課程	2	30	-	60	修士(工学)	0.65	平成25年度			
博士後期課程	3	3	-	9	博士(工学)	0.22	平成27年度			
医学研究科								大阪府大阪狭山市大野東377番2		
医学系専攻										
博士課程	4	45	-	180	博士(医学)	0.51	平成20年度			

	大学の名称	近畿大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	法学部						1.04		大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
	法律学科	4	500	-	2,000	学士(法学)	1.04	昭和25年度		
	経済学部						1.04		大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
	経済学科	4	420	-	1,610	学士(経済学)	1.06	平成15年度		平成29年度入学定員増(70人)
	総合経済政策学科	4	170	-	660	学士(経済政策学)	1.01	平成15年度		平成29年度入学定員増(20人)
	国際経済学科	4	170	-	660	学士(国際経済学)	1.01	平成18年度		平成29年度入学定員増(20人)
	経営学部						1.02		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	経営学科		585		2,265	学士(経営学)	1.02			平成29年度入学定員増(75人)
	昼間主コース	4	425	-	1,625	学士(経営学)	1.02	平成15年度		
	夜間主コース	4	160	-	640	学士(経営学)	1.04	平成15年度		
	商学科	4	405	-	1,565	学士(商学)	1.02	平成15年度		平成29年度入学定員増(55人)
	会計学科	4	175	-	675	学士(会計学)	1.02	平成18年度		平成29年度入学定員増(25人)
	キャリア・マネジメント学科	4	175	-	675	学士(キャリア・マネジメント学)	1.04	平成19年度	平成29年度入学定員増(25人)	
	理工学部						1.04		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	理学科	4	225	-	855	学士(理学)	1.04	平成14年度		平成29年度入学定員増(45人)
	生命科学科	4	95	-	365	学士(理学)	1.05	平成14年度		平成29年度入学定員増(15人)
	応用化学科	4	130	-	500	学士(工学)	1.10	平成14年度		平成29年度入学定員増(20人)
	機械工学科	4	200	-	780	学士(工学)	1.01	平成14年度		平成29年度入学定員増(20人)
	電気電子工学科	4	190	-	740	学士(工学)	1.04	平成14年度		平成29年度入学定員増(20人)
	社会環境工学科	4	100	-	370	学士(工学)	1.02	平成14年度		平成29年度入学定員増(30人)
情報学科	4	190	-	740	学士(工学)	1.05	平成14年度	平成29年度入学定員増(20人)		
建築学部						1.05		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号		
建築学科	4	280	-	1,080	学士(建築学)	1.05	平成23年度		平成29年度入学定員増(40人)	
薬学部						1.02		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号		
医療薬学科	6	150	-	900	学士(薬学)	1.02	平成18年度		6年制学科	
創薬科学科	4	40	-	150	学士(薬科学)	1.04	平成18年度		4年制学科 平成29年度入学定員増(10人)	
文芸学部						1.04		大阪府東大阪市 新上小阪228番3号		
文学科		180		695		1.06				
日本文学専攻	4	120	-	465	学士(文学)	1.06	平成元年度		平成29年度入学定員増(15人)	
英語英米文学専攻	4	60	-	230	学士(文学)	1.08	平成元年度		平成29年度入学定員増(10人)	

	大学の名称	近畿大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
既設大学等の状況	文芸学部	年	人	年次人	人		倍		大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	平成29年度入学定員増(5人) 平成29年度入学定員増(10人) 平成29年度入学定員増(20人)
	芸術学科		115	-	445		0.97			
	舞台芸術専攻	4	50	-	195	学士(文芸学)	1.01	平成元年度		
	造形芸術専攻	4	65	-	250	学士(文芸学)	0.94	平成元年度		
	文化・歴史学科	4	140	-	540	学士(文学)	1.09	平成元年度		
	文化デザイン学科	4	80	-	320	学士(文芸学)	0.99	平成28年度		
	総合社会学部						1.04		大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	平成29年度入学定員増(60人)
	総合社会学科	4	510	-	1,980	学士(総合社会学)	1.04	平成22年度		
	国際学部						1.04		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	国際学科	4	500	-	2,000	学士(国際学)	1.04	平成28年度		
	農学部						1.03		奈良県奈良市中町 3327番204	平成29年度入学定員増(10人) 平成29年度入学定員増(10人) 平成29年度入学定員増(10人) 平成29年度入学定員増(10人) 平成31年度学生募集停止(食品栄養学科3年次編入学定員) 平成29年度入学定員増(10人) 平成29年度入学定員増(10人)
	農業生産科学科	4	120	-	470	学士(農学)	1.02	平成17年度		
	水産学科	4	120	-	470	学士(農学)	0.96	昭和33年度		
	応用生命化学科	4	120	-	470	学士(農学)	1.07	平成17年度		
	食品栄養学科	4	80	-	320	学士(農学)	1.11	昭和42年度		
	環境管理学科	4	120	-	470	学士(農学)	1.09	平成17年度		
	生物機能科学科	4	120	-	470	学士(農学)	0.99	平成17年度		
	医学部						1.01		大阪府大阪狭山市大野東377番2	平成27年度入学定員増(5人)
	医学科	6	115	-	685	学士(医学)	1.01	昭和49年度		
	生物理工学部						1.04		和歌山県紀の川市西三谷930	平成29年度入学定員増(20人) 平成29年度入学定員増(20人) 平成29年度入学定員増(20人) 平成29年度入学定員増(10人) 平成29年度入学定員増(10人) 平成29年度入学定員増(5人)
	生物工学科	4	90	-	340	学士(工学)	1.06	平成5年度		
	食品安全工学科	4	90	-	340	学士(工学)	1.02	平成22年度		
	遺伝子工学科	4	90	-	340	学士(工学)	1.08	平成9年度		
生命情報工学科	4	80	-	310	学士(工学)	1.05	平成22年度			
人間環境デザイン工学科	4	80	-	310	学士(工学)	1.05	平成22年度			
医用工学科	4	55	-	215	学士(工学)	1.00	平成22年度			
工学部						1.03		広島県東広島市高屋うめの辺1番	平成29年度入学定員増(5人) 平成29年度入学定員増(15人) 平成29年度入学定員増(15人)	
化学生命工学科	4	85	-	335	学士(工学)	1.02	昭和34年度			
機械工学科	4	100	-	385	学士(工学)	0.99	昭和34年度			
情報学科	4	90	-	345	学士(工学)	1.02	昭和37年度			

既設大学等の状況	大学の名称	近畿大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	工学部	年	人	年次人	人		倍		広島県東広島市高屋うめの辺1番
	建築学科	4	100	-	380	学士(工学)	1.08	昭和40年度	
	電子情報工学科	4	90	-	345	学士(工学)	1.02	平成4年度	
	ロボティクス学科	4	80	-	305	学士(工学)	1.04	平成4年度	
	産業理工学部						1.05		福岡県飯塚市柏の森11番6
	生物環境化学科	4	75	-	285	学士(工学)	0.99	平成16年度	
	電気電子工学科	4	65	-	255	学士(工学)	1.06	平成16年度	
	建築・デザイン学科	4	90	-	350	学士(工学)	1.03	平成16年度	
	情報学科	4	70	-	270	学士(工学)	1.10	平成16年度	
	経営ビジネス学科	4	120	-	460	学士(経営ビジネス学)	1.07	平成16年度	平成29年度入学定員増(20人)
	通信教育学部								大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
	法律学科	4	2,000	-	8,000	学士(法学)	0.04	昭和35年度	
	大学の名称	近畿大学短期大学部							
	商経科 第2部	2	80	-	160	短期大学士(経営学)	0.99	昭和25年度	大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
	通信教育部商経科	2	2,000	-	4,000	短期大学士(経営学)	0.15	昭和32年度	
	大学の名称	近畿大学九州短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	生活福祉情報科	2	50	-	100	短期大学士(生活科学)	0.80	昭和41年度	福岡県飯塚市菰田東1丁目5番30号
保育科	2	70	-	140	短期大学士(教育・保育学)	0.94	昭和41年度		
通信教育部生活福祉情報科	2	300	-	600	短期大学士(生活科学)	0.23	平成9年度		
通信教育部保育科	2	600	-	1,200	短期大学士(教育・保育学)	1.18	昭和53年度		
大学の名称	近畿大学工業高等専門学校								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
総合システム工学科	5	160	-	800	準学士(工学)	1.06	平成17年度	三重県名張市春日丘七番町1番地	

附属施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名称：近畿大学病院            目的：医学分野における臨床教育、臨床研究、臨床試験の部分を担い、また地域に対する高度な医療の提供            所在地：大阪府大阪狭山市大野東377-2            設置年月：昭和50年5月            規模等：土地 2,064㎡，建物 88,334㎡</li> <li>・名称：近畿大学奈良病院            目的：医学分野における臨床教育、臨床研究、臨床試験の部分を担い、また地域に対する高度な医療の提供            所在地：奈良県生駒市乙田町1248-1            設置年月：平成11年10月            規模等：土地 164,545㎡，建物 47,245㎡</li> <li>・名称：近畿大学水産研究所            目的：水産生物の養殖に関する研究並びに学生の実験実習            所在地：和歌山県西牟婁郡白浜町3153            設置年月：昭和35年4月(白浜、大島、奄美、浦神、新宮、富山の6つの実験場を設置)            規模等：土地 216,865㎡，建物 19,941㎡</li> <li>・名称：近畿大学附属農場            目的：近代的農場経営並びに農学全般に関する教育研究            所在地：(湯浅農場)和歌山県有田郡湯浅町湯浅2355番2            (生石農場)和歌山県有田郡清水町楠本1643番21            設置年月：昭和33年4月            規模等：土地 414,507㎡，建物 4,505㎡</li> </ul>	
---------	--	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校は収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

## 学校法人近畿大学 組織の移行表

令和元年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
近畿大学					近畿大学				
法学部				→	法学部				
法律学科	500	—	2,000		法律学科	500	—	2,000	
経済学部				→	経済学部				
経済学科	420	—	1,680		経済学科	420	—	1,680	
総合経済政策学科	170	—	680		総合経済政策学科	170	—	680	
国際経済学科	170	—	680		国際経済学科	170	—	680	
経営学部				→	経営学部				
経営学科屋間主コース	425	—	1,700		経営学科屋間主コース	425	—	1,700	
経営学科夜間主コース	160	—	640		経営学科夜間主コース	160	—	640	
商学科	405	—	1,620		商学科	405	—	1,620	
会計学科	175	—	700		会計学科	175	—	700	
キャリア・マネジメント学科	175	—	700		キャリア・マネジメント学科	175	—	700	
理工学部				→	理工学部				
理学科	225	—	900		理学科	225	—	900	
生命科学科	95	—	380		生命科学科	95	—	380	
応用化学科	130	—	520		応用化学科	130	—	520	
機械工学科	200	—	800		機械工学科	200	—	800	
電気電子工学科	190	—	760		電気電子工学科	190	—	760	
社会環境工学科	100	—	400		社会環境工学科	100	—	400	
情報学科	190	—	760		情報学科	190	—	760	
建築学部				→	建築学部				
建築学科	280	—	1,120		建築学科	280	—	1,120	
薬学部				→	薬学部				
医療薬学科	150	—	900		医療薬学科	150	—	900	
創薬科学科	40	—	160		創薬科学科	40	—	160	
文芸学部				→	文芸学部				
文学科					文学科				
日本文学専攻	120	—	480		日本文学専攻	120	—	480	
英語英米文学専攻	60	—	240		英語英米文学専攻	60	—	240	
芸術学科					芸術学科				
舞台芸術専攻	50	—	200		舞台芸術専攻	50	—	200	
造形芸術専攻	65	—	260		造形芸術専攻	65	—	260	
文化・歴史学科	140	—	560		文化・歴史学科	140	—	560	
文化デザイン学科	80	—	320		文化デザイン学科	80	—	320	
総合社会学部				→	総合社会学部				
総合社会学科	510	—	2,040		総合社会学科	510	—	2,040	
国際学部				→	国際学部				
国際学科	500	—	2,000		国際学科	500	—	2,000	
農学部				→	農学部				
農業生産科学科	120	—	480		農業生産科学科	120	—	480	
水産学科	120	—	480		水産学科	120	—	480	
応用生命化学科	120	—	480		応用生命化学科	120	—	480	
食品栄養学科	80	—	320		食品栄養学科	80	—	320	
環境管理学科	120	—	480		環境管理学科	120	—	480	
生物機能科学科	120	—	480		生物機能科学科	120	—	480	
医学部				→	医学部				
医学科	115	—	658		医学科	107	—	594	定員変更(12)
生物理工学部				→	生物理工学部				
生物工学科	90	—	360		生物工学科	90	—	360	
食品安全工学科	90	—	360		食品安全工学科	90	—	360	
遺伝子工学科	90	—	360		遺伝子工学科	90	—	360	
生命情報工学科	80	—	320		生命情報工学科	80	—	320	
人間環境デザイン工学科	80	—	320		人間環境デザイン工学科	80	—	320	
医用工学科	55	—	220		医用工学科	55	—	220	
工学部				→	工学部				
化学生命工学科	85	—	340		化学生命工学科	85	—	340	
機械工学科	100	—	400		機械工学科	100	—	400	
情報学科	90	—	360		情報学科	90	—	360	
建築学科	100	—	400		建築学科	100	—	400	
電子情報工学科	90	—	360		電子情報工学科	90	—	360	
ロボティクス学科	80	—	320		ロボティクス学科	80	—	320	

令和元年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
産業理工学部					産業理工学部				
生物環境化学科	75	—	300	→	生物環境化学科	75	—	300	
電気電子工学科	65	—	260	→	電気電子工学科	65	—	260	
建築・デザイン学科	90	—	360	→	建築・デザイン学科	90	—	360	
情報学科	70	—	280	→	情報学科	70	—	280	
経営ビジネス学科	120	—	480	→	経営ビジネス学科	120	—	480	
通信教育法学部					通信教育法学部				
法律学科	2,000	—	8,000	→	法律学科	2,000	—	8,000	
計	9,970	—	40,405		計	9,962	—	40,314	

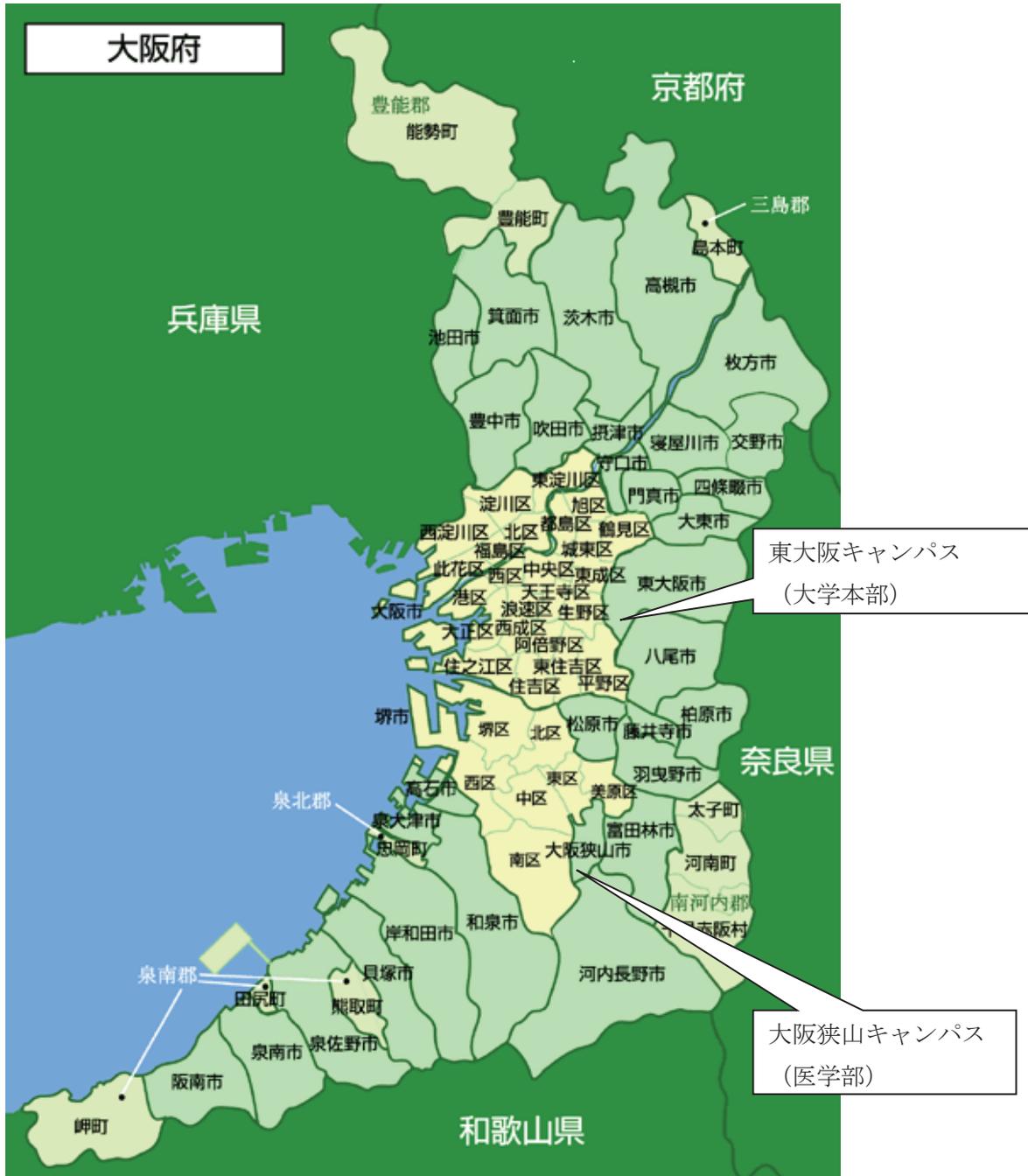
近畿大学大学院

近畿大学大学院

法務研究科					法務研究科				
法務専攻					法務専攻				
法務博士課程(専門職)	0	—	0	→	法務博士課程(専門職)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
法学研究科					法学研究科				
法律学専攻					法律学専攻				
博士前期課程	10	—	20	→	博士前期課程	10	—	20	
博士後期課程	5	—	15	→	博士後期課程	5	—	15	
商学研究科					商学研究科				
商学専攻					商学専攻				
博士前期課程	20	—	40	→	博士前期課程	20	—	40	
博士後期課程	5	—	15	→	博士後期課程	5	—	15	
経済学研究科					経済学研究科				
経済学専攻					経済学専攻				
博士前期課程	20	—	40	→	博士前期課程	20	—	40	
博士後期課程	5	—	15	→	博士後期課程	5	—	15	
総合理工学研究科					総合理工学研究科				
理学専攻					理学専攻				
博士前期課程	30	—	60	→	博士前期課程	30	—	60	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
物質系工学専攻					物質系工学専攻				
博士前期課程	40	—	80	→	博士前期課程	40	—	80	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
メカニクス系工学専攻					メカニクス系工学専攻				
博士前期課程	25	—	50	→	博士前期課程	25	—	50	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
エレクトロニクス系工学専攻					エレクトロニクス系工学専攻				
博士前期課程	30	—	60	→	博士前期課程	30	—	60	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
環境系工学専攻					環境系工学専攻				
博士前期課程	15	—	30	→	博士前期課程	15	—	30	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
建築デザイン専攻					建築デザイン専攻				
修士課程	10	—	20	→	修士課程	10	—	20	
東大阪モノづくり専攻					東大阪モノづくり専攻				
博士前期課程	10	—	20	→	博士前期課程	10	—	20	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
薬学研究科					薬学研究科				
薬科学専攻					薬科学専攻				
博士前期課程	15	—	30	→	博士前期課程	15	—	30	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
薬学専攻					薬学専攻				
博士課程	3	—	12	→	博士課程	3	—	12	
総合文化研究科					総合文化研究科				
日本文学専攻					日本文学専攻				
修士課程	4	—	8	→	修士課程	4	—	8	
英語英米文学専攻					英語英米文学専攻				
修士課程	3	—	6	→	修士課程	3	—	6	
文化・社会学専攻					文化・社会学専攻				
修士課程	8	—	16	→	修士課程	8	—	16	
心理学専攻					心理学専攻				
修士課程	6	—	12	→	修士課程	6	—	12	

令和元年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
農学研究科					農学研究科				
農業生産科学専攻					農業生産科学専攻				
博士前期課程	10	—	20	→	博士前期課程	10	—	20	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
水産学専攻					水産学専攻				
博士前期課程	10	—	20	→	博士前期課程	10	—	20	
博士後期課程	4	—	12	→	博士後期課程	4	—	12	
応用生命化学専攻					応用生命化学専攻				
博士前期課程	14	—	28	→	博士前期課程	14	—	28	
博士後期課程	5	—	15	→	博士後期課程	5	—	15	
環境管理学専攻					環境管理学専攻				
博士前期課程	10	—	20	→	博士前期課程	10	—	20	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
バイオサイエンス専攻					バイオサイエンス専攻				
博士前期課程	12	—	24	→	博士前期課程	12	—	24	
博士後期課程	4	—	12	→	博士後期課程	4	—	12	
生物理工学研究科					生物理工学研究科				
生物工学専攻					生物工学専攻				
博士前期課程	16	—	32	→	博士前期課程	16	—	32	
博士後期課程	3	—	9	→	博士後期課程	3	—	9	
生体システム工学専攻					生体システム工学専攻				
博士前期課程	18	—	36	→	博士前期課程	18	—	36	
博士後期課程	2	—	6	→	博士後期課程	2	—	6	
システム工学研究科					システム工学研究科				
システム工学専攻					システム工学専攻				
博士前期課程	45	—	90	→	博士前期課程	45	—	90	
博士後期課程	5	—	15	→	博士後期課程	5	—	15	
産業理工学研究科					産業理工学研究科				
産業理工学専攻					産業理工学専攻				
博士前期課程	30	—	60	→	博士前期課程	30	—	60	
博士後期課程	3	—	9	→	博士後期課程	3	—	9	
医学研究科					医学研究科				
医学系専攻					医学系専攻				
博士課程	45	—	180	→	博士課程	45	—	180	
計	518	—	1,191		計	518	—	1,191	
近畿大学短期大学部					近畿大学短期大学部				
商経科 第2部	80	—	160	→	商経科 第2部	80	—	160	
通信教育部商経科	2,000	—	4,000	→	通信教育部商経科	2,000	—	4,000	
計	2,080	—	4,160		計	2,080	—	4,160	
近畿大学九州短期大学					近畿大学九州短期大学				
生活福祉情報科	50	—	100	→	生活福祉情報科	50	—	100	
保育科	70	—	140	→	保育科	70	—	140	
通信教育部					通信教育部				
生活福祉情報科	300	—	600	→	生活福祉情報科	300	—	600	
保育科	600	—	1,200	→	保育科	600	—	1,200	
計	1,020	—	2,040		計	1,020	—	2,040	
近畿大学工業高等専門学校					近畿大学工業高等専門学校				
総合システム工学科	160	—	800	→	総合システム工学科	160	—	800	
計	160	—	800		計	160	—	800	
近畿大学看護専門学校					近畿大学看護専門学校				
看護学科	80	—	240	→	看護学科	80	—	240	
助産学科	15	—	15	→	助産学科	15	—	15	
計	95	—	255		計	95	—	255	

都道府県内における位置関係の図面











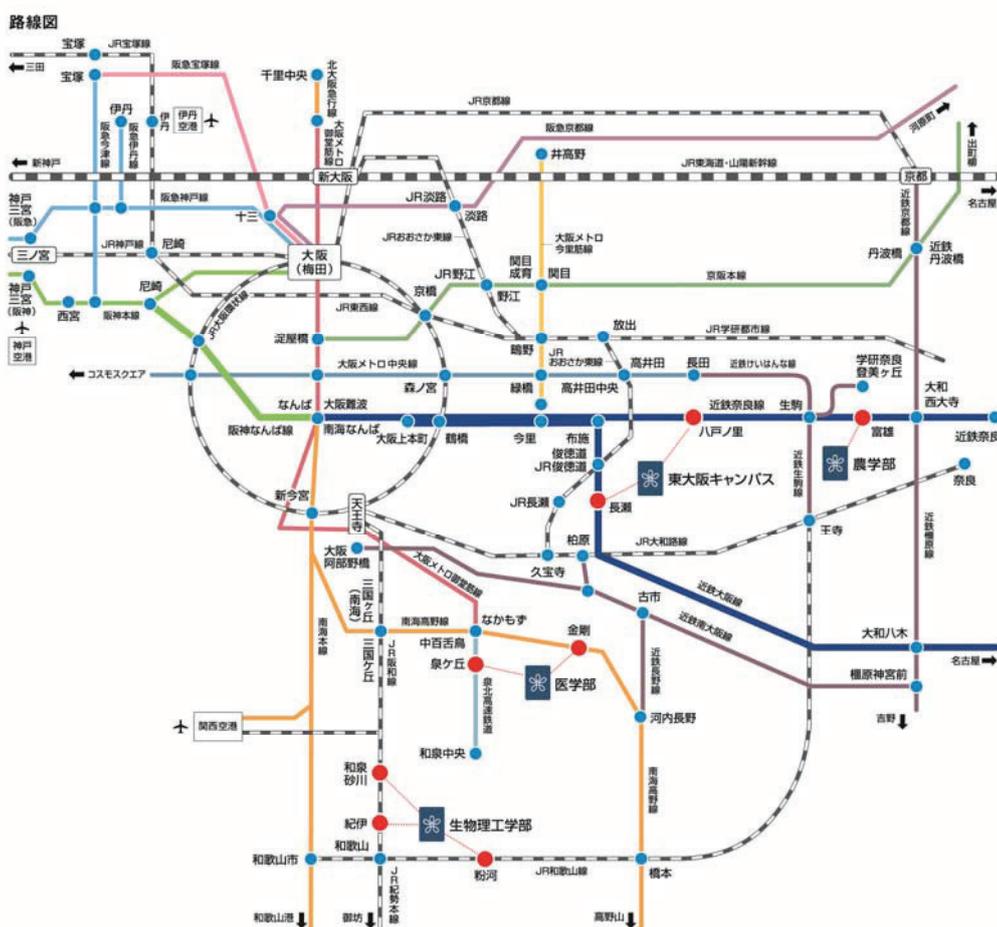
最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面

### 1 近畿圏鉄道路線図

- 東大阪キャンパス（大学本部）
- 大阪狭山キャンパス（医学部）
- 奈良キャンパス（農学部）
- 和歌山キャンパス（生物理工学部）

東大阪キャンパス（大学本部）

#### 交通アクセス



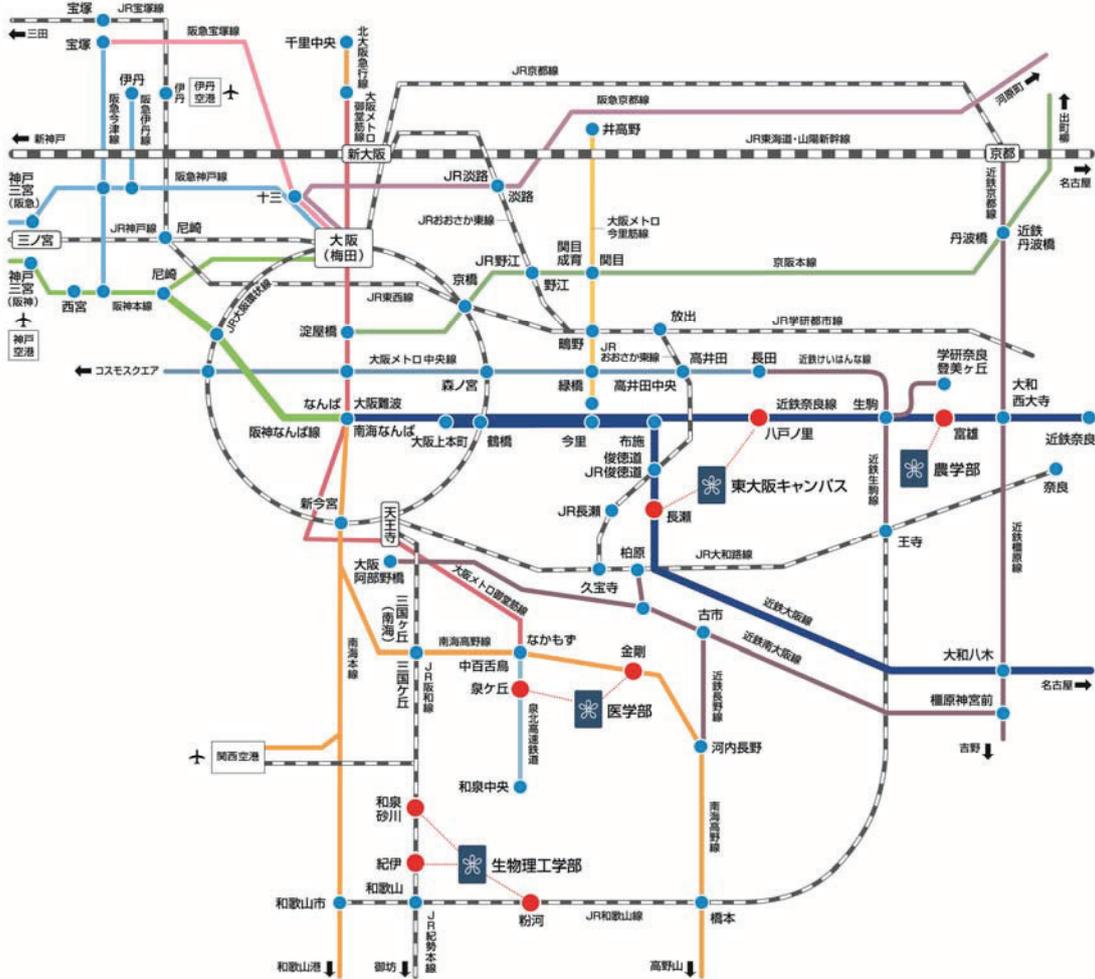
#### 各主要駅からの経路・所要時間(目安)



# 大阪狭山キャンパス（医学部）

## 交通アクセス

路線図



## 各主要駅からの経路・所要時間(目安)

※乗り換え時間を含みません。

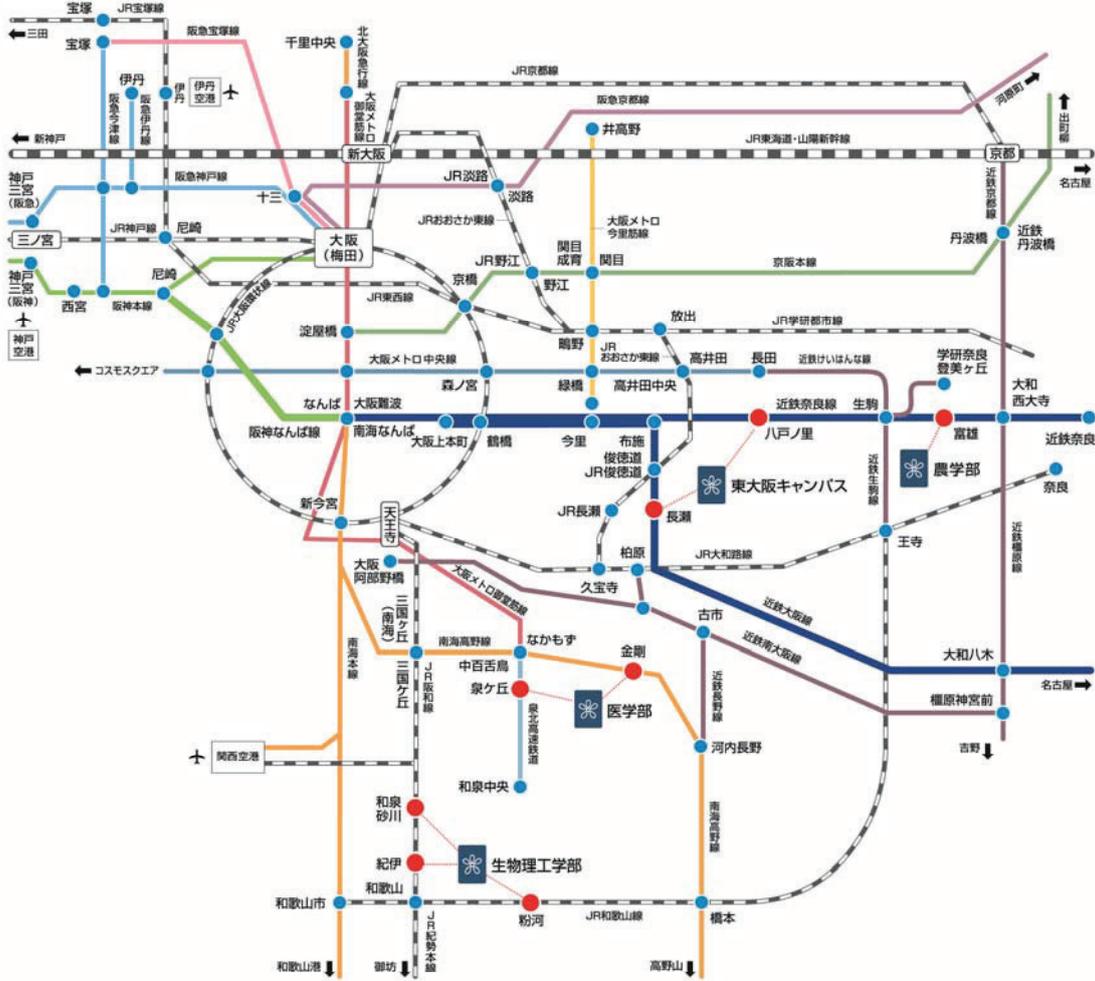


※1:南海コミュニティバス1番乗場「狭山ニュータウン・金剛」行  
 ※2:南海コミュニティバス4番乗場「狭山ニュータウン・泉ヶ丘」行

# 奈良キャンパス（農学部）

## 交通アクセス

### 路線図



### 各主要駅からの経路・所要時間(目安)

※乗り換え時間を含みません。

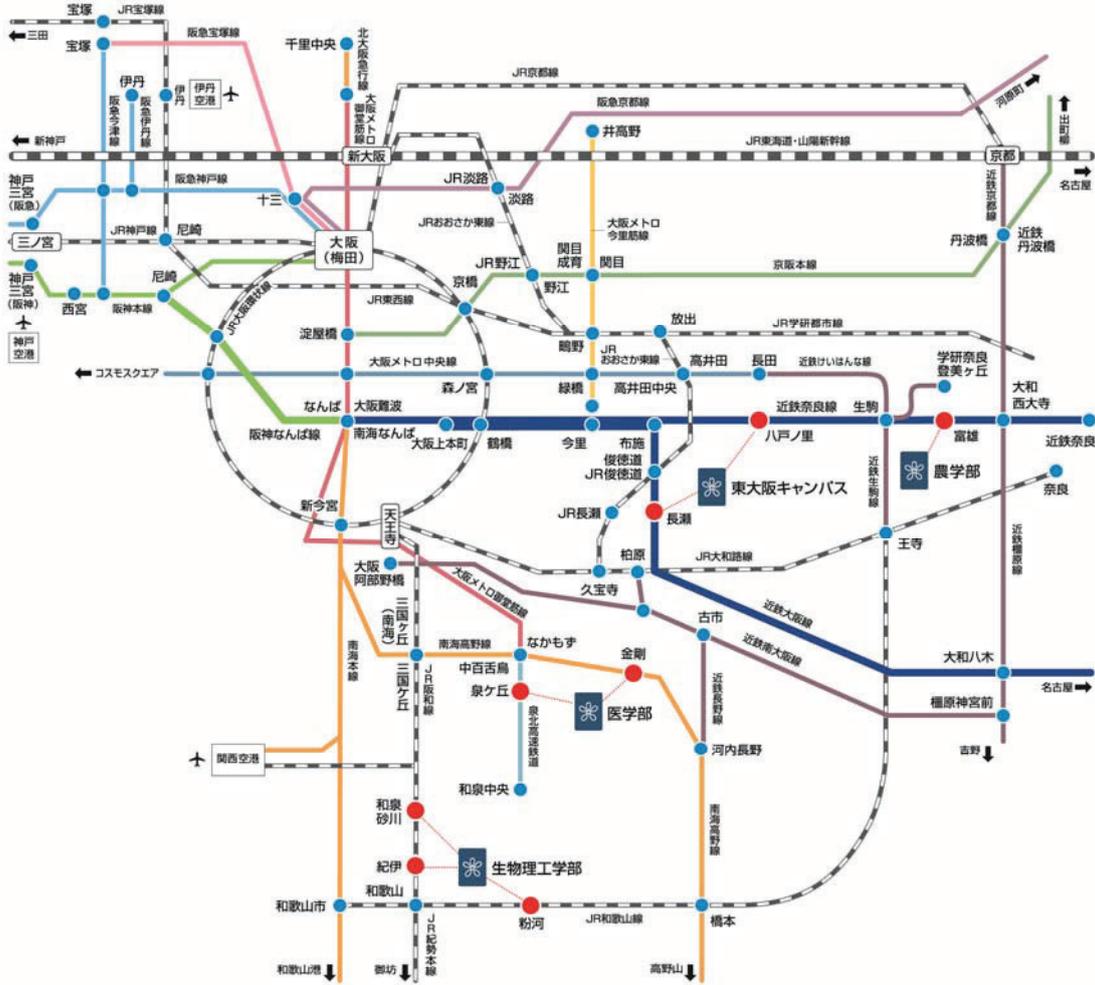


※富雄駅(西出口)を出て富雄川沿いを南に「新富雄橋」をわたってください。

# 和歌山キャンパス (生物理工学部)

## 交通アクセス

### 路線図

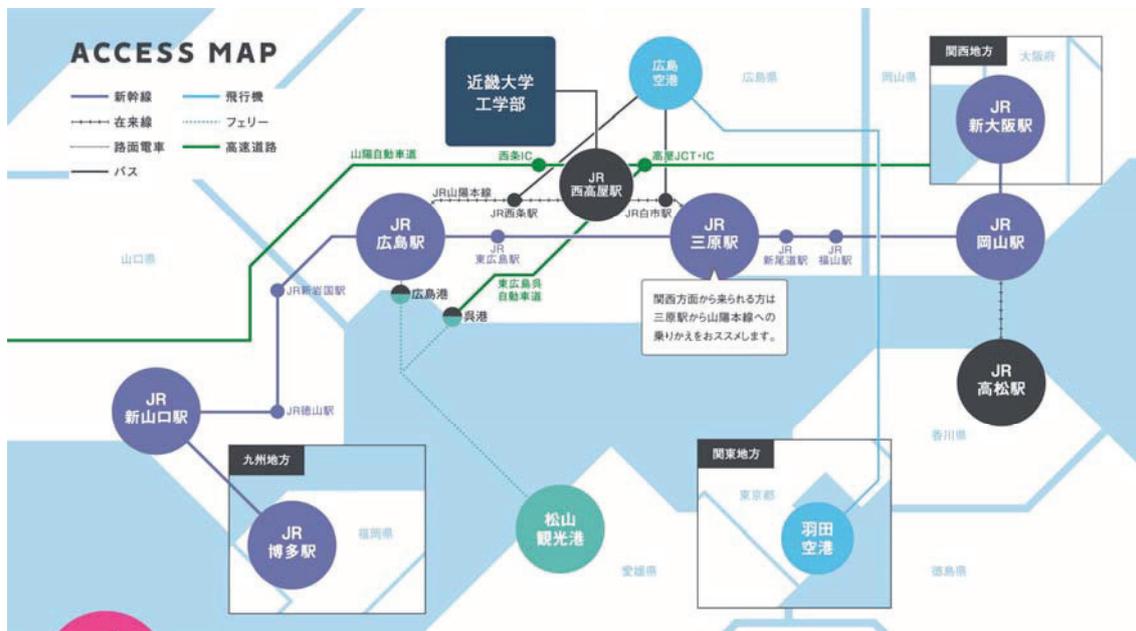


### ■各主要駅からの経路・所要時間(目安)

※乗り換え時間を含みません。



# 広島キャンパス（工学部）



遠方にお住まいの方はコチラをチェック!

## 各主要駅からの経路・所要時間(目安)

※乗り換え時間を含みません。

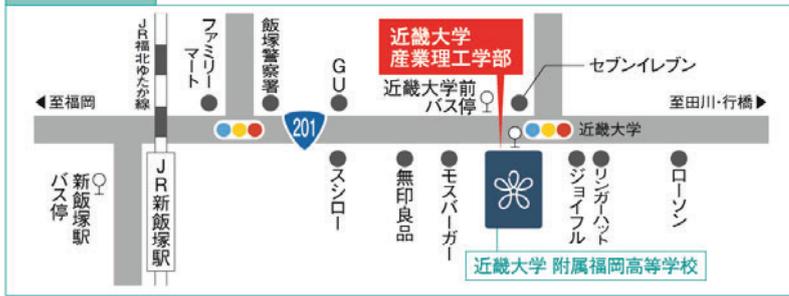
出発地	所要時間	乗り換え	所要時間	乗り換え	所要時間	近畿大学工学部
電車	大阪府 約150分	JR新大阪駅	新幹線で約110分	JR三原駅	電車で約36分	JR西高屋 徒歩で約20分
岡山県 約90分	JR岡山駅	新幹線で約46分	JR三原駅	電車で約36分	JR西高屋 バスで約5分	
香川県 約140分	JR高松駅	電車で約53分	JR岡山駅	新幹線で約46分	JR三原駅	バスで約40分
福岡県 約120分	JR博多駅	新幹線で約70分	JR岡山駅	新幹線で約46分	JR三原駅	JR西高屋 徒歩で約20分
山口県 約80分	JR新山口駅	新幹線で約30分	JR岡山駅	新幹線で約46分	JR三原駅	JR西高屋 バスで約5分
航空	愛媛県 約160分	松山観光港	スーパーフェリーで約70分	広島港	鉄道電車で約33分	JR西高屋 徒歩で約20分
愛媛県 約250分	松山観光港	フェリーで約160分	広島港	鉄道電車で約33分	JR西高屋 徒歩で約20分	
飛行機	東京都 約115分	羽田空港	飛行機で約90分	広島空港	バスで約25分	JR西高屋 徒歩で約20分
					バスで約15分	JR西高屋 バスで約5分

福岡キャンパス（産業理工学部）

【路線図】

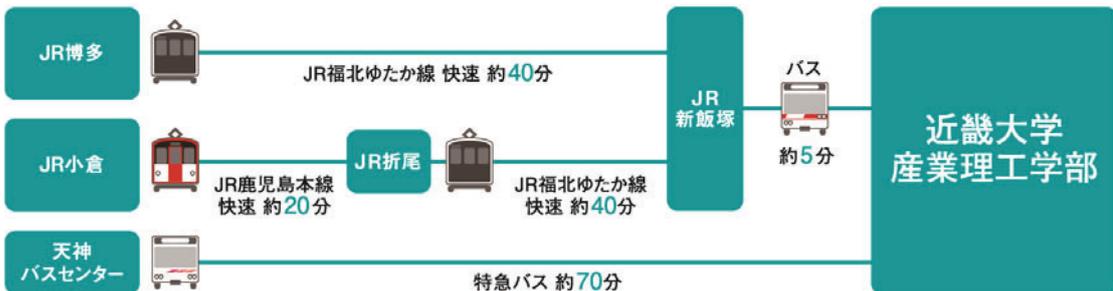


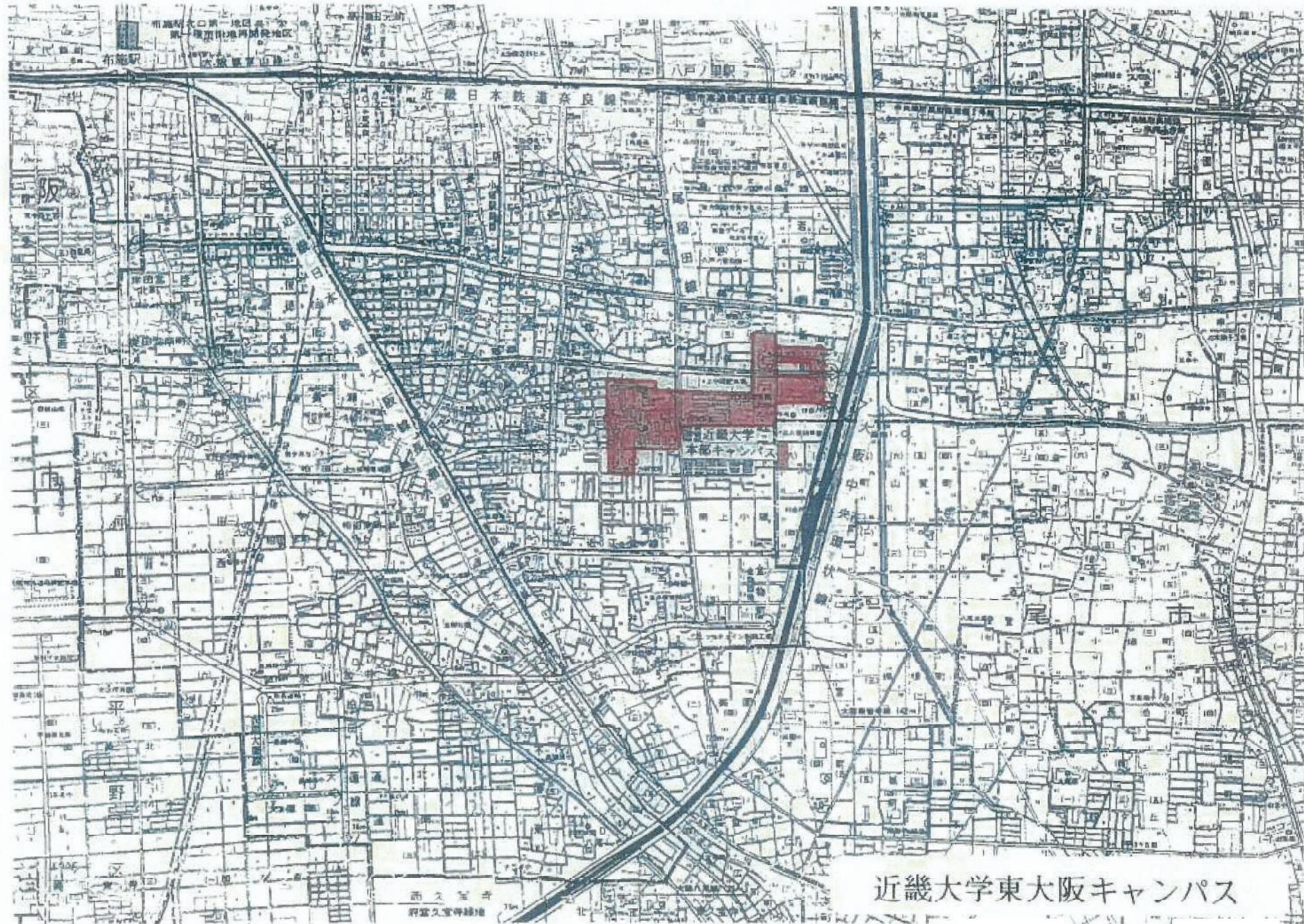
大学周辺図



【交通アクセス】

※各主要駅からの経路・所要時間(目安)。乗り換え時間を含みません。

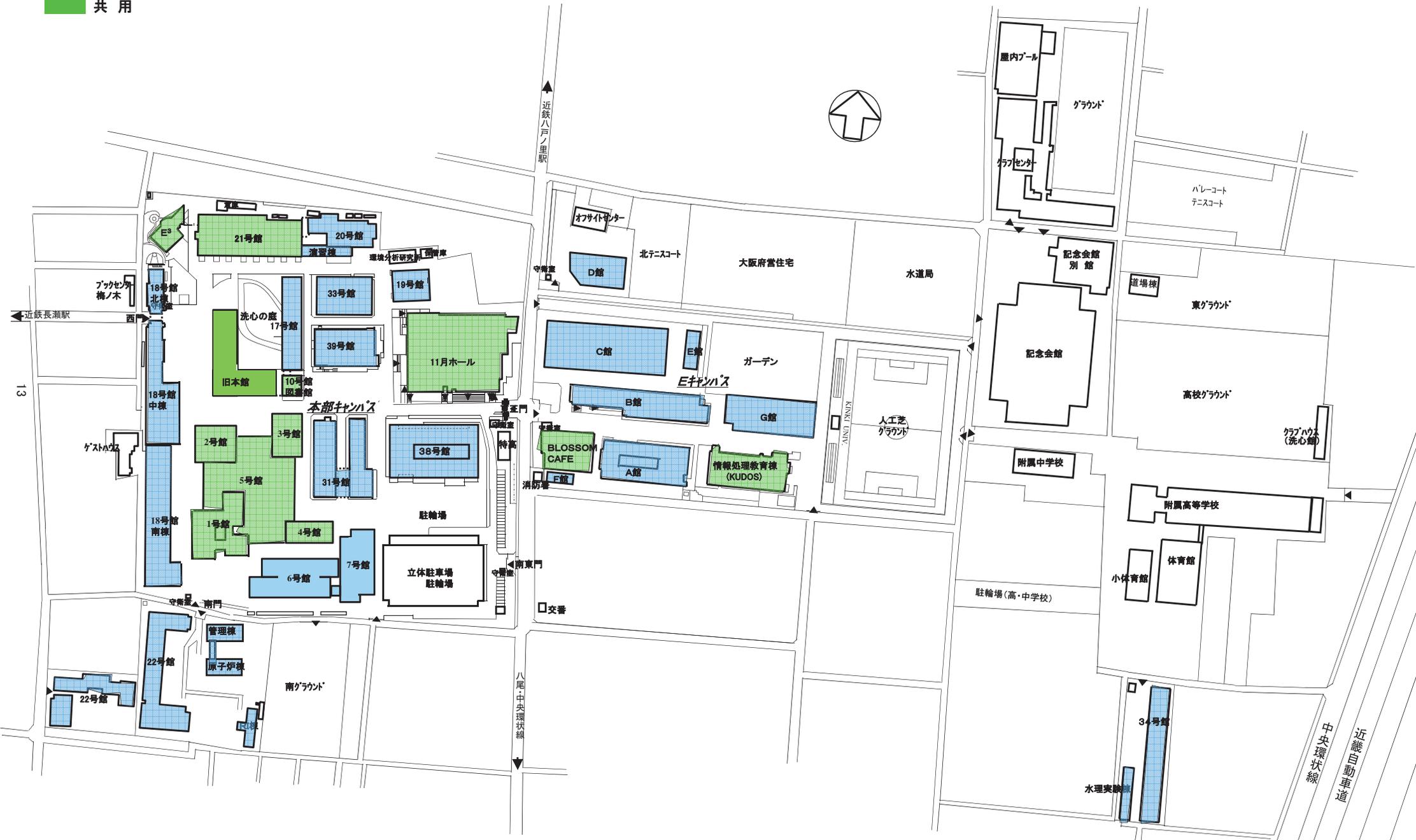




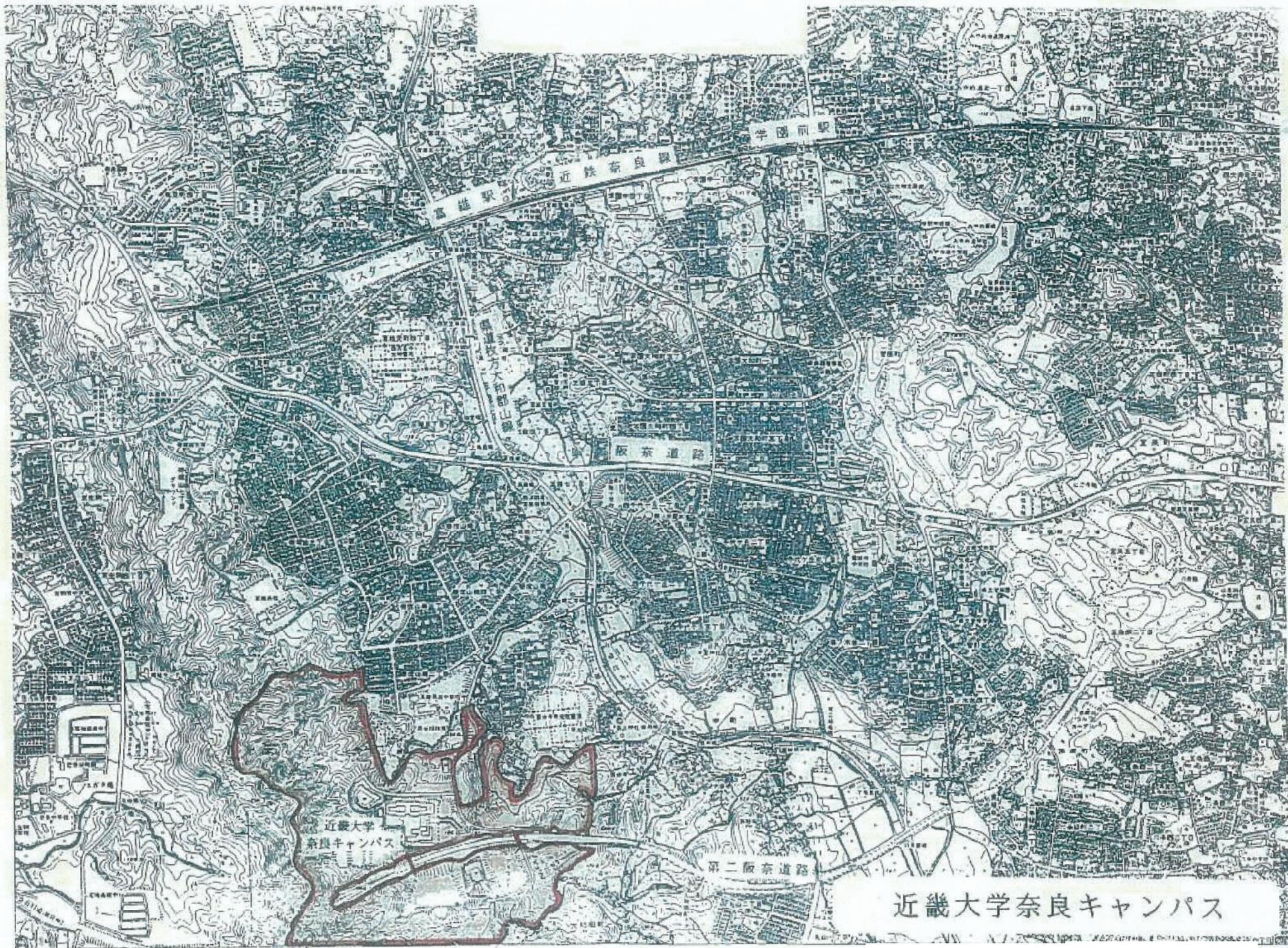
近畿大学東大阪キャンパス

校地面積 472,403㎡ 校舎面積 252,437㎡

- 専用
- 共用



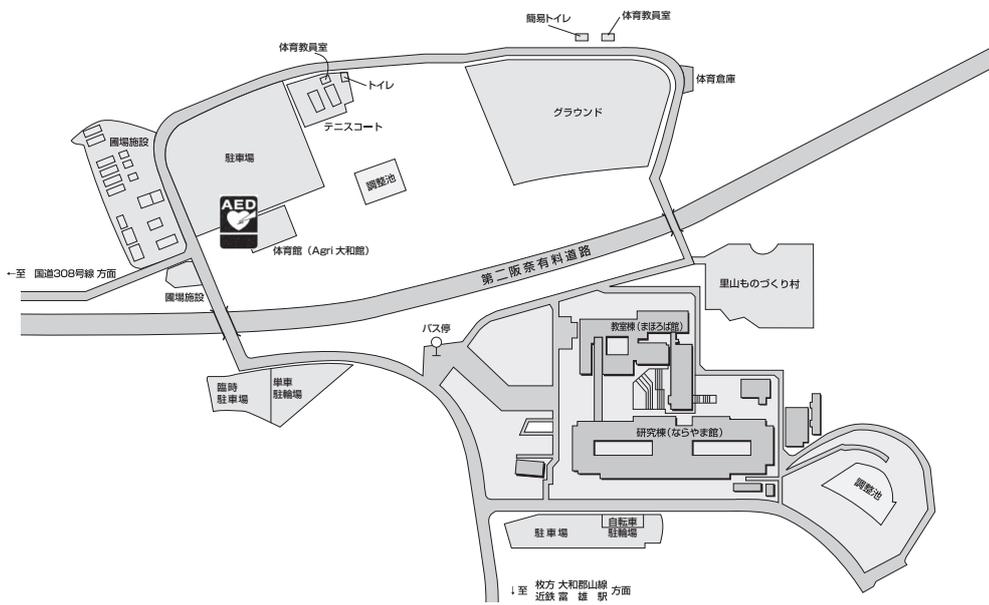
13



近畿大学奈良キャンパス

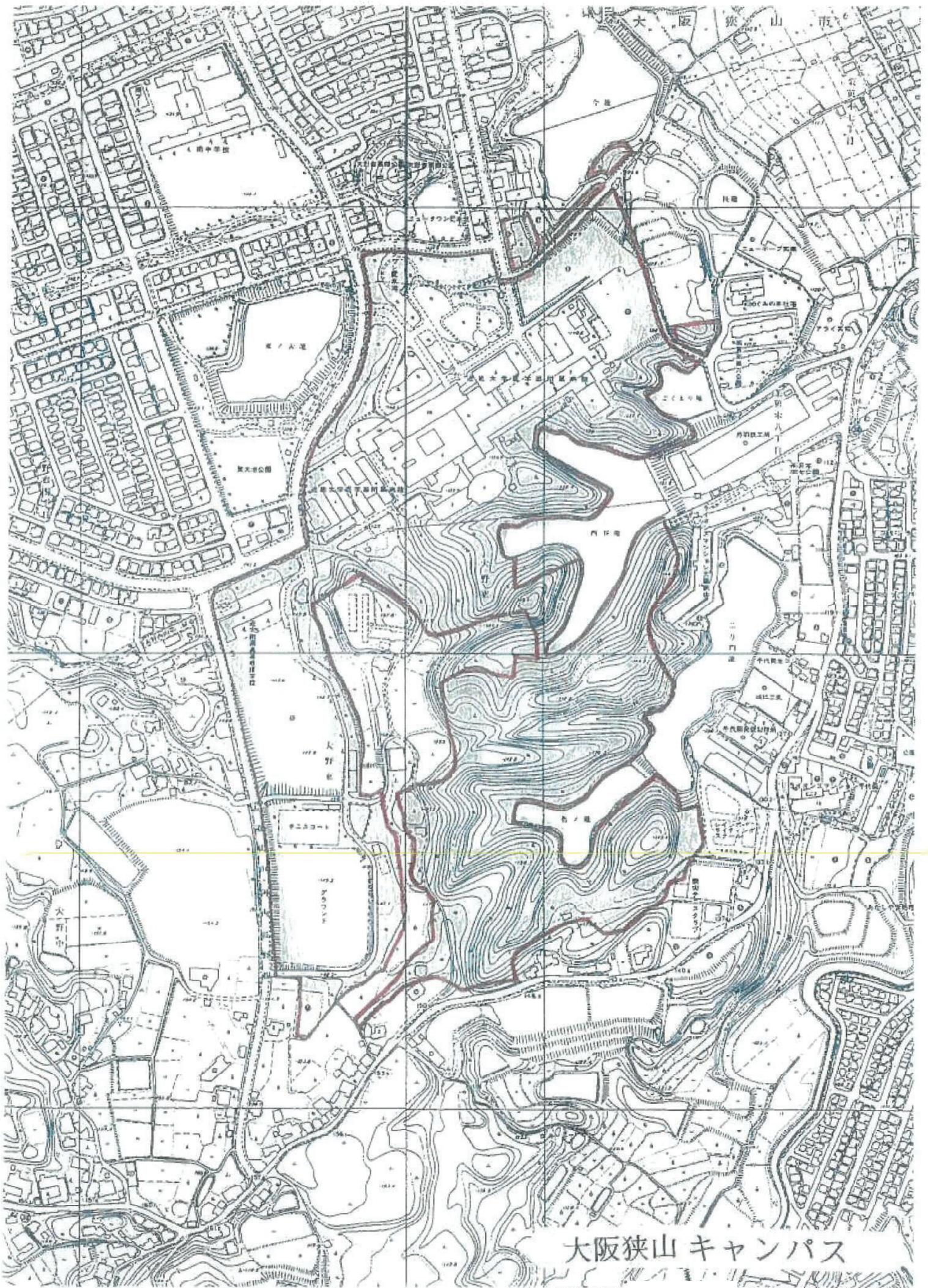
校地面積 100,839㎡ 校舎面積 36,331㎡

# 校舎案内図



- 事務部 ..... 教室棟 1F  
     庶務課、学生支援課 (教務・学生、就職)
- 医務室、守衛室 ..... 教室棟 1F
- 図書館、学術情報課 ..... 研究棟 2F
- ブックセンター (紀伊國屋書店) ..... 研究棟 1F
- コンビニエンスストア (ファミリーマート) ..... 研究棟 1F
- ATMコーナー (三菱UFJ銀行) ..... 教室棟 1F
- 食堂 (Agrie) ..... 食堂棟 (桜月館)

喫煙指定場所以外での喫煙は禁止です



大阪狭山キャンパス  
校地面積 215,134㎡ 校舎面積 37,934㎡



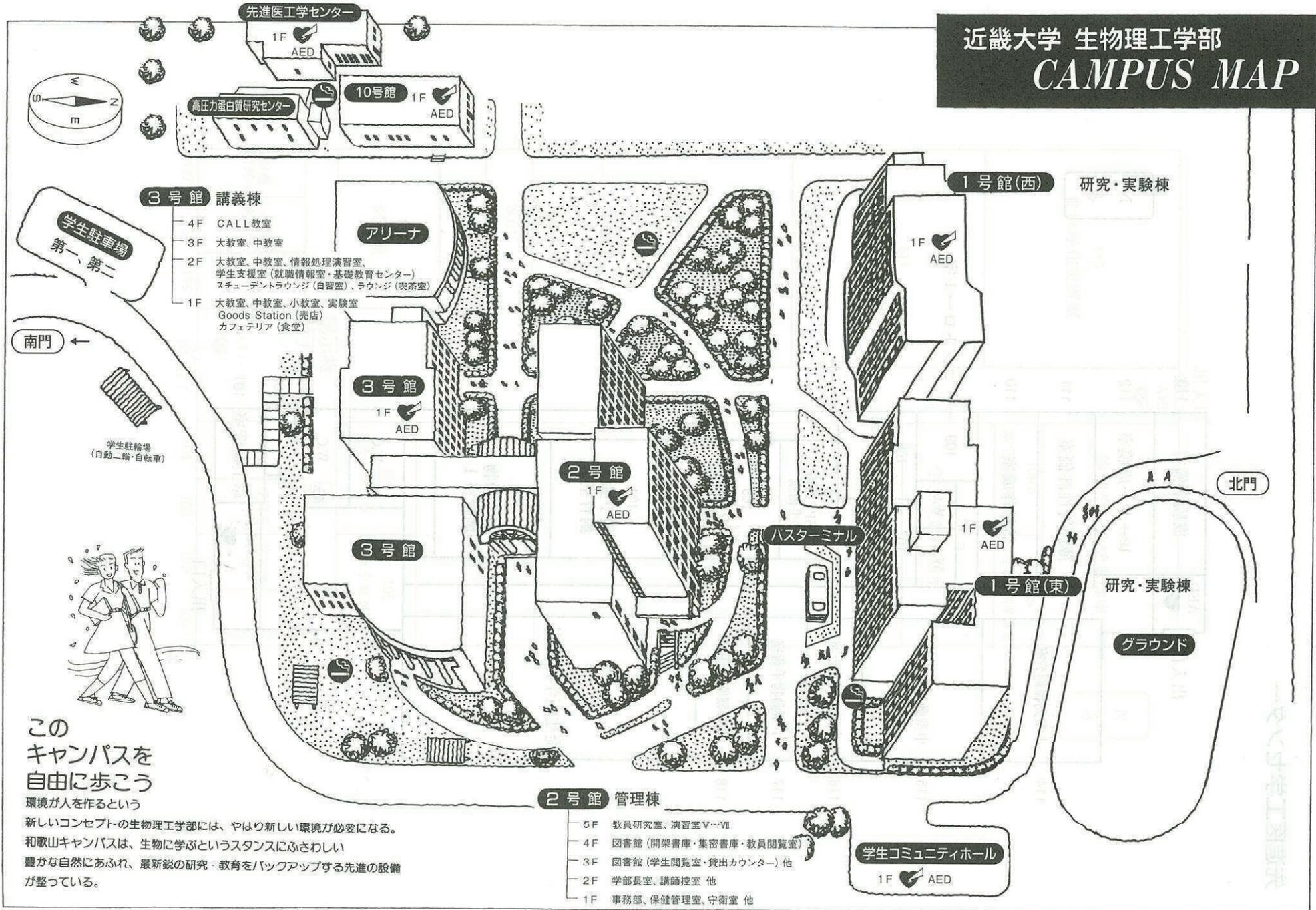
建物名	竣工年	構造	階数	延床面積 (㎡)
<b>医学部</b>				
① 進学棟	S49	RC	0+4+PH	3,325.580
② 図書館棟	S49	RC	-1+2+PH	2,423.880
④ 研究棟 I・専門棟	S50	地下SRC上部S	-3+7+PH	22,442.740
④-2 研究棟 I 増築		地下SRC上部S	-1+7+PH	233.320
⑤ ガバナー棟	S50	SRC	0+1	165.000
⑦ 道場 (武道館)	S50	S一部OB	0+1	156.650
⑧ 危険物倉庫	S51	CB一部S	0+1	36.440
⑬ 研究棟 II (新研究棟)	S56	SRC	-1+11+PH	9,774.268
⑲ 群星ハウス	H6	S	0+2	559.240
⑳ 医学資料倉庫 1		S	0+1	161.130
㉓ 医学資料倉庫 2		S	0+1	161.130
㉔ クラブ棟		S	0+1	129.600
㉕ クラブ棟更衣室		S	0+1	64.800
㉖ 薬学研究室		S	0+2	105.720
<b>病院</b>				
③ 看護宿舎 A・B 棟	S50	RC	0+3+PH	3,650.860
⑥ 病院棟	S50	SRC	-1+11+PH2	39,717.510
⑥-2 病院棟 増築	S57	SRC	-1+11+PH2	2,049.910
⑪ 円形棟 (一般病棟・食堂)	S52	RC	0+5	6,766.820
⑫ 看護宿舎 C・D 棟	S52	RC	0+7+PH2	5,224.724
⑭ 廃棄物保管庫・機械室	S56	RC	0+2	174.778
⑮ 病院 増築棟	S58	SRC	-1+11+PH2	11,178.520
⑯ 看護宿舎 E 棟	S60	RC一部SRC	-1+9+PH1	4,038.500
⑰ 手術棟	S60	S	-1+4	1,089.400
⑱ MRI 棟-1	S62	W	0+1	83.640
⑳ MRI 棟-2	H6	S	0+1	55.750
㉑ MRI 棟-3	H15	S	0+1	116.580
㉒ 高度先端総合医療センター	H17	RC	0+3	1,996.880
㉔ 駐輪場・屋外通路上屋	H21	S	0+1	451.790
㉓ カルテ庫	H22	S	0+1	164.700
㉖ 救急災害センター (附属舎含む)	H25	RC一部SRC	0+5+PH	10,235.220

近畿大学和歌山キャンパス配置図



校地面積 109,504㎡  
校舎面積 25,264㎡

# 近畿大学 生物理工学部 CAMPUS MAP



### 3号館 講義棟

- 4F CALL教室
- 3F 大教室、中教室
- 2F 大教室、中教室、情報処理演習室、学生支援室(就職情報室・基礎教育センター) スチューデントラウンジ(自習室)、ラウンジ(喫茶室)
- 1F 大教室、中教室、小教室、実験室 Goods Station(売店) カフェテリア(食堂)

学生駐車場  
第一、第二

南門

学生駐輪場  
(自動二輪・自転車)



この  
キャンパスを  
自由に歩こう

環境が人を作るという

新しいコンセプトの生物理工学部には、やはり新しい環境が必要になる。

和歌山キャンパスは、生物に学ぶというスタンスにふさわしい

豊かな自然にあふれ、最新鋭の研究・教育をバックアップする先進の設備  
が整っている。

### 2号館 管理棟

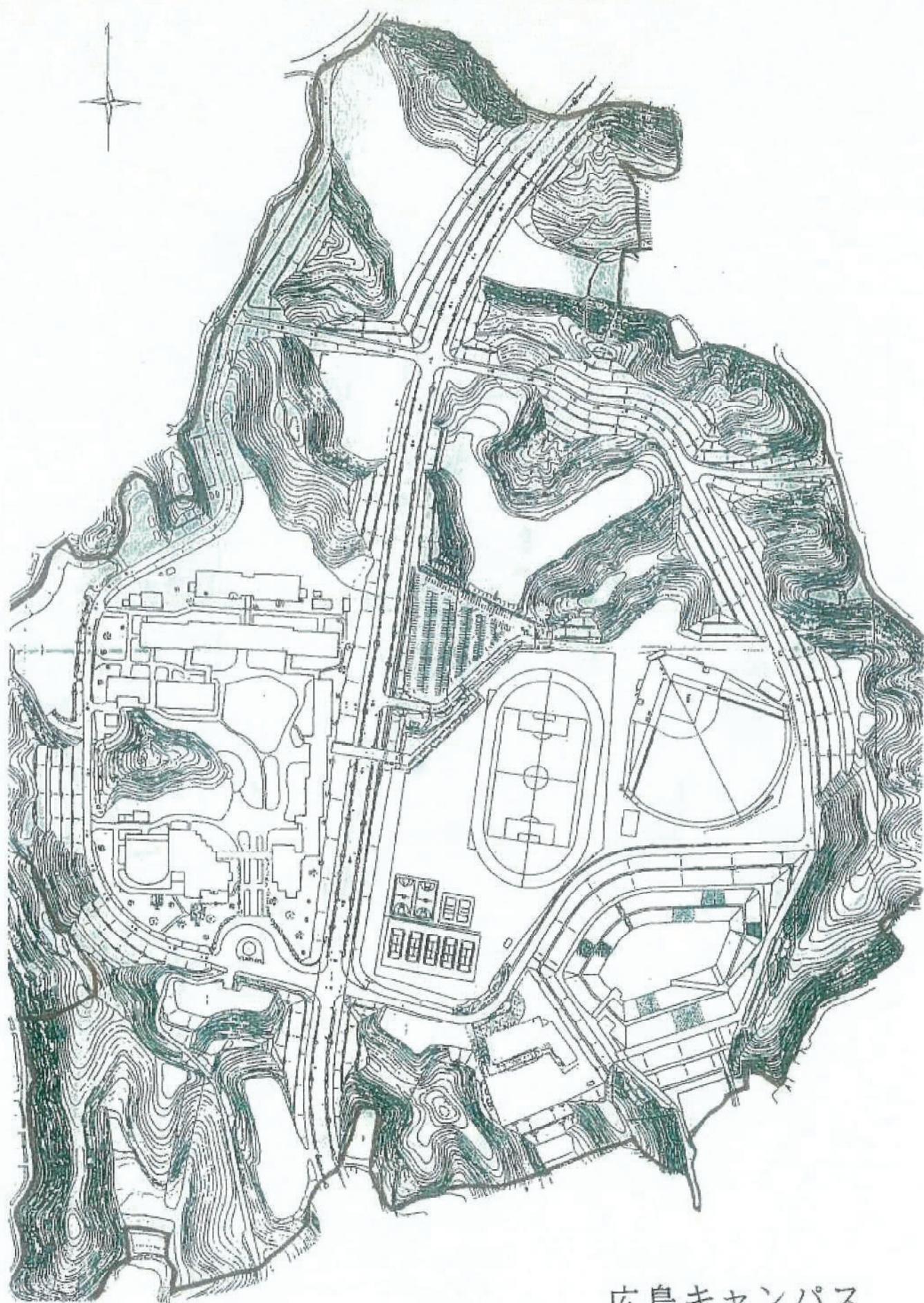
- 5F 教員研究室、演習室V~VII
- 4F 図書館(開架書庫・集密書庫・教員閲覧室)
- 3F 図書館(学生閲覧室・貸出カウンター) 他
- 2F 学部長室、講師控室 他
- 1F 事務部、保健管理室、守衛室 他

学生コミュニティホール

1F AED

…喫煙所

…AED(自動体外式除細動器)設置場所



## 広島キャンパス

校地面積 136,939㎡

校舎面積 36,377㎡

# 工学部キャンパスマップ





## 福岡キャンパス

校地面積 166,312㎡ 校舎面積 31,107㎡



番号	名称	番号	名称
1	1号館	23	第3クラブハウス
2	2号館	24	倉庫
3	3号館	25	弓道場(射場)
4	4号館	26	弓道場(的場)
5	5号館	27	温室
6	体育館	28	G棟
7	トレーニングセンター	29	
8	塗装実習室	30	第2クラブハウス
9	高電圧実験室	31	清掃業者控室
10	旧分子工学研究室(B棟)	32	環境実験室
11	構造実験室	33	
12	有害物質処理室	34	
13	建築材料実験室	35	
14	守衛室	36	
15	旧分子工学研究室(A棟)	37	
16	第1クラブハウス	38	多目的ホール・ロボット工作工房
17	柔道場	39	ログハウス(バーカリー)
18	倉庫	40	食堂・売店
19	剣道場		
20	陶器研究会部室		
21	クラブハウストイレ		まごころ駐車場(6ヶ所)
22	クラブ浴室		AED設置箇所(6ヶ所)

近畿大学産業理工学部 配置図

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学は、教育基本法の本旨に則り、法律学、経済学、商学、理学、工学、薬学、農学、水産学、文学、社会学、国際学及び医学に関する学術の理論及び応用を深く研究教授し、人格を陶冶することを目的とする。

2 本大学は建学の精神に沿った教育理念を実践するため、近畿大学教育方針を別記(1)に定め、学部、学科又は課程ごとに人材の育成に関する目的及びその他教育・研究上の具体的な目的を別記(2)に定めるものとする。

(自己点検及び評価等)

第1条の2 本大学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 点検及び評価等に関することは、別に定める。

(情報の積極的な提供)

第1条の3 本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

(学部学科の構成及び定員)

第2条 本大学には、次の学部及び学科を置き、その学生定員を次のとおりとする。

学部・学科名	コース名	入学定員	編入学定員	収容定員
法学部				
法律学科		500名		2,000名
経済学部				
経済学科		420名		1,680名
総合経済政策学科		170名		680名
国際経済学科		170名		680名
経営学部				
経営学科	昼間主コース	425名		1,700名
	夜間主コース	160名		640名
商学科		405名		1,620名
会計学科		175名		700名
キャリア・マネジメント学科		175名		700名
理工学部				
理学科		225名		900名
生命科学科		95名		380名
応用化学科		130名		520名
機械工学科		200名		800名
電気電子工学科		190名		760名
社会環境工学科		100名		400名
情報学科		190名		760名
建築学部				
建築学科		280名		1,120名
薬学部				
医療薬学科		150名		900名
創薬科学科		40名		160名
文芸学部				
文学科				
日本文学専攻		120名		480名

英語英米文学専攻	60名	240名
芸術学科		
舞台芸術専攻	50名	200名
造形芸術専攻	65名	260名
文化・歴史学科	140名	560名
文化デザイン学科	80名	320名
総合社会学部		
総合社会学科	510名	2,040名
国際学部		
国際学科	500名	2,000名
農学部		
農業生産科学科	120名	480名
水産学科	120名	480名
応用生命化学科	120名	480名
食品栄養学科	80名	320名
環境管理学科	120名	480名
生物機能科学科	120名	480名
医学部		
医学科	95名	570名
生物理工学部		
生物工学科	90名	360名
食品安全工学科	90名	360名
遺伝子工学科	90名	360名
生命情報工学科	80名	320名
人間環境デザイン工学科	80名	320名
医用工学科	55名	220名
工学部		
化学生命工学科	85名	340名
機械工学科	100名	400名
情報学科	90名	360名
建築学科	100名	400名
電子情報工学科	90名	360名
ロボティクス学科	80名	320名
産業理工学部		
生物環境化学科	75名	300名
電気電子工学科	65名	260名
建築・デザイン学科	90名	360名
情報学科	70名	280名
経営ビジネス学科	120名	480名

(修業年限)

第3条 本大学の修業年限は、各学部4年とする。在学年数8年を超えることはできない。

2 薬学部医療薬学科、医学部の修業年限は6年とし、在学年数12年を超えることはできない。

第4条 (削除)

(大学院)

第5条 本大学に大学院及び法科大学院を置く。

2 大学院及び法科大学院の学則は、別に定める。

第6条 (削除)

(図書館、研究所、附属施設)

第7条 本大学に図書館、研究所、病院、その他附属施設を置く。

## 第2章 学年・学期及び休業日

### (学年・学期)

第8条 本大学の学年は、4月1日から始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年は、これを2期に分け、4月1日から9月20日までを前期とし、9月21日から翌年3月31日までを後期とする。

3 学長は、前項の後期開始日を変更することができる。なお、後期開始日を変更した場合は、その前日をもって前期の終了とする。

### (休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日、本学創立記念日（11月5日）

(2) 春期休暇 3月20日から4月9日まで

(3) 夏期休暇 7月21日から9月20日まで

(4) 冬期休暇 12月21日から翌年1月9日まで

2 学長は、前項各号に規定する休業日を変更し、又は臨時休業の日を定めることができる。

## 第3章 教育課程

### (授業科目の区別)

第10条 本大学の授業科目は、全学共通科目（共通教養科目、外国語科目）及び専門科目に分ける。ただし、工学部については、総合科目、外国語科目、専門科目及び特修プログラム、産業理工学部については、人間形成科目、リテラシー科目、専門科目とする。

2 前項のほか、学部によっては全学共通科目の中に学部基礎科目を設けることができる。

### (授業科目及び単位数)

第11条 前条に規定する授業科目及びその単位数は、別表(1)のとおりとする。

### (授業の方法)

第12条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 学部教授会は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。なお、これにより修得する単位数は60単位を超えないものとする。

### (授業内容等の改善のための組織的な研修等)

第12条の2 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

### (履修単位)

第13条 各学部の学生は、次に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

#### (1) 法学部

全学共通科目は共通教養科目16単位以上、外国語科目18単位以上の計34単位以上、専門科目は94単位以上、総計128単位以上

#### (2) 経済学部

全学共通科目は共通教育科目16単位以上、外国語科目20単位以上の計36単位以上、専門科目は92単位以上、総計128単位以上

#### (3) 経営学部

全学共通科目は共通教養科目20単位以上、外国語科目18単位以上の計38単位以上、専門科目は86単位以上、総計124単位以上

#### (4) 理工学部

全学共通科目は共通教養科目15単位以上、外国語科目14単位以上、学部基礎科目11単位以上、専門科目は84単位以上、総計124単位以上

#### (5) 建築学部

全学共通科目は共通教養科目14単位以上、外国語科目14単位以上の計28単位以上、専門科目は96単位以上、総計124単位以上

#### (6) 薬学部

医療薬学科の全学共通科目は共通教養科目12単位以上、基礎ゼミ 2 単位、専門基礎科目 6 単位以上、外国語科目12単位以上、計32単位以上

創薬科学科の全学共通科目は共通教養科目10単位以上、基礎ゼミ 2 単位、専門基礎科目12単位以上、外国語科目14単位以上、計38単位以上

医療薬学科の専門科目は156単位以上、総計188単位以上

創薬科学科の専門科目は93.5単位以上、総計131.5単位以上

(7) 文芸学部

全学共通科目は共通教養科目20単位以上、外国語科目14単位以上、計32単位以上、専門科目は90単位以上、総計124単位以上

ただし、英語英米文学専攻は、共通教養科目20単位以上、第二外国語科目 4 単位以上の計24単位以上、専門科目は100単位以上、総計124単位以上

(8) 総合社会学部

全学共通科目は、共通教養科目から24単位以上、外国語科目18単位以上の計42単位以上、学部共通コア科目 6 単位以上、専門科目は78単位以上、総計126単位以上

(9) 国際学部

全学共通科目は、共通教養科目及び外国語科目から計30単位以上、専門科目は100単位以上、総計130単位以上

(10) 農学部

全学共通科目は共通教養科目14単位以上、専門基礎科目 4 単位以上、共通教養科目及び専門基礎科目から 2 単位以上、外国語科目14単位以上の計34単位以上、専門科目90単位以上、総計124単位以上

ただし、食品栄養学科は、専門科目100単位以上、総計124単位以上

(11) 医学部

共通教養科目及び外国語科目から30単位以上、学部基礎科目615時間以上、専門科目は4,735時間以上

(12) 生物理工学部

共通教養科目から16単位以上、外国語科目から14単位以上（うち第一外国語10単位以上）、学部基礎科目から 6 単位以上、及び専門科目から88単位以上、合計124単位以上（コンソーシアム科目は 4 単位を上限に共通教養科目として認め、また、学際領域選択科目は10単位を上限に専門科目として認める）

(13) 工学部

総合科目は16単位以上、外国語科目 8 単位以上、専門科目84単位以上、総合科目、外国語科目、専門科目、特修プログラムのうちから16単位以上、総計124単位以上

(14) 産業理工学部

教養・基礎教育部門の全科目群から28単位、専門科目70単位以上、さらに教養・基礎教育部門、専門科目から26単位以上、総計124単位以上

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第14条 本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学を含む。）との協議に基づき学生に当該大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により修得した単位は、教授会の定めるところにより、本大学において修得したものとみなすことができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第14条の2 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

（入学前の既修得単位等の認定）

第14条の3 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が第1学年次に入学する前に大学又は短期大学において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を教授会の定めるところにより入学した後の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が第1学年次に入学する前に行った前条に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

3 第14条第2項から本条第2項の定めにより修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

(教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程)

第15条 本大学に教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程を置く。

2 教員免許状を取得しようとする者は、所定の教職に関する科目を履修しなければならない。その授業科目及び単位数は、別表(2)―1のとおりとする。

3 前項の履修により本学において取得できる免許状の種類及び教科は、別表(2)―2のとおりとする。

(司書課程)

第15条の2 本大学に司書課程を置く。

2 司書の資格を得ようとする者は、別表(3)に掲げる単位を修得しなければならない。

(博物館学課程)

第15条の3 本大学に博物館学課程を置く。

2 学芸員の資格を得ようとする者は、別表(4)に掲げる単位を修得しなければならない。

(日本語教員養成課程)

第15条の4 本大学に日本語教員養成課程を置く。

2 日本語教員の資格を得ようとする者は、別表(5)に掲げる単位を修得しなければならない。

第15条の5 削除

(通信教育)

第16条 本大学に通信教育の課程を置く。

2 通信教育課程の実施は、通信教育部がこれに当る。

3 通信教育に関する規程は、別に定める。

(留学生別科)

第16条の2 本大学に留学生別科の課程を置く。

2 留学生別科規程は、別に定める。

#### 第4章 試験・卒業及び学位記

(試験)

第17条 履修した授業科目については、試験その他適当な方法により、学業成績を評価する。

2 試験の実施に関する事項は、教授会においてこれを定める。

(成績の評価)

第18条 学業成績は、秀・優・良・可及び不可に分け、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とする。また、前記にかかわらず単位を認定する場合は、認定とする。

(追・再試験)

第19条 病気その他正当な理由により受験できなかった科目及び不合格になった科目については、教授会で審議のうえ、追・再試験を行うことができる。

(単位)

第20条 合格した授業科目については、所定の単位を与える。ただし、医学部の専門科目については、単位制によらず時間制を採用する。

2 授業科目の単位は、1単位を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の計算基準によるものとする。

(1) 講義及び演習については、内容に応じて15時間から30時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、内容に応じて30時間から45時間までの範囲で定め

る時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、内容に応じて定める時間の授業をもって1単位とする。

- (3) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業製作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(卒業の認定)

第21条 本大学に4年以上在学し、また薬学部医療薬学科については6年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得して、卒業資格を得た者には卒業証書・学位記を授与する。

2 医学部については6年以上在学し、所定の授業科目を履修し、卒業試験及び総合試験に合格して、卒業資格を得た者に卒業証書・学位記を授与する。

(学士の学位)

第22条 本大学を卒業した者は、次の区分に従って学士の学位を授与する。

学士（法学）	近畿大学	法学部	（法律学科）
学士（経済学）	近畿大学	経済学部	（経済学科）
学士（経済政策学）	近畿大学	経済学部	（総合経済政策学科）
学士（国際経済学）	近畿大学	経済学部	（国際経済学科）
学士（経営学）	近畿大学	経営学部	（経営学科）
学士（商学）	近畿大学	経営学部	（商学科）
学士（会計学）	近畿大学	経営学部	（会計学科）
学士（キャリア・マネジメント学）	近畿大学	経営学部	（キャリア・マネジメント学科）
学士（理学）	近畿大学	理工学部	（理学科、生命科学科）
学士（工学）	近畿大学	理工学部	（応用化学科、機械工学科、電気電子工学科、社会環境工学科、情報学科）
		生物理工学部	（生物工学科、食品安全工学科、遺伝子工学科、生命情報工学科、人間環境デザイン工学科、医用工学科）
		工学部	（化学生命工学科、機械工学科、情報学科、建築学科、電子情報工学科、ロボティクス学科）
		産業理工学部	（生物環境化学科、電気電子工学科、建築・デザイン学科、情報学科）
学士（建築学）	近畿大学	建築学部	（建築学科）
学士（経営ビジネス学）	近畿大学	産業理工学部	（経営ビジネス学科）
学士（薬学）	近畿大学	薬学部	（医療薬学科）
学士（薬科学）	近畿大学	薬学部	（創薬科学科）
学士（農学）	近畿大学	農学部	（農業生産科学科、水産学科、応用生命化学科、食品栄養学科、環境管理学科、生物機能科学科）
学士（文学）	近畿大学	文芸学部	（文学科、文化・歴史学科）
学士（文芸学）	近畿大学	文芸学部	（芸術学科・文化デザイン学科）

学士（総合社会学）	近畿大学	総合社会学部	（総合社会学科）
学士（国際学）	近畿大学	国際学部	（国際学科）
学士（医学）	近畿大学	医学部	（医学科）

第5章 入学・編入学・転学・外国留学・休学・退学・除籍・復学・再入学及び復籍  
（入学の時期）

第23条 入学の時期は、毎学年の始めとする。

（入学資格）

第24条 本大学の各学部に入학을志願することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- （1） 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- （2） 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- （3） 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- （4） 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- （5） 文部科学大臣の指定した者
- （6） 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- （7） その他本大学において、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（入学選考）

第25条 入学を志願する者は、所定の手続と同時に別表（7）に定める入学検定料を納め、本学が行う選考により、合格した者について入学を許可する。

（入学手続）

第26条 入学を許可された者は、指定された期日までに別表（7）に定める入学金、授業料、その他の学費を納入するとともに、学生規程に定める手続に従い入学手続を完了しなければならない。

（編入学）

第27条 本大学の医学部を除く各学部の第3学年次又は第2学年次において欠員がある場合、次の各号のいずれかに該当する編入学志願者について選考のうえ、編入学を許可することがある。

- （1） 学士の学位を有する者
- （2） 大学第2学年修了者、短期大学卒業生又は高等専門学校卒業生その他同等以上の学力を有する者
- （3） 大学第1学年修了者その他同等以上の学力を有する者
- （4） 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者
- （5） 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であること、その他文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

第27条の2 医学部に欠員がある場合は、他の大学の医学進学課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者について選考のうえ、編入学を許可することがある。

第27条の3 編入学者の修業年限は、別に定める。

（転学）

第28条 本大学から他の大学に転学しようとする者は所定の手続をとらなければならない。

2 転学に関する取扱は、別に定める。

（転部・転学部・転学科）

第29条 本大学の学生で、他の部又は学部・学科・専攻に転籍を志願する者については、関係学部における選考のうえ、これを許可することがある。

(外国留学)

第29条の2 本大学は、本大学の協定又は認定する外国の大学へ留学を希望する学生を、教授会並びに国際交流委員会で審議のうえ、留学させることができる。

2 前項の留学期間は、学長の承認を得て第3条に規定する修業年限に算入することができる。

3 留学に関する規定は、別に定める。

(休学)

第30条 病気その他やむを得ない理由で3ヵ月以上就学できないときは、その事実を証明する書類を添えて、保証人連署のうえ願い出て、その許可を得て休学することができる。

2 休学期間は、休学を許可された日から当該学期末又は当該年度末までとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することができる。

3 休学できる期間は、連続して2年以内、通算して修業年限以内とする。

4 休学中の期間は、在学年数に算入しない。

5 休学中は、別に定める在籍料を納入しなければならない。

(復学)

第31条 休学者が休学の理由がやんだときは、保証人連署のうえ、復学を願い出てその許可を得て復学することができる。

(退学)

第32条 退学しようとする者は、その理由を記し、保証人連署のうえ願い出なければならない。ただし、やむを得ない事情のある場合はこの限りでない。

(除籍)

第32条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍とする。

(1) 第3条及び第27条の3に定める在学年数を超えた者

(2) 第30条第2項に定める休学を許可された期間を超えてなお復学又は退学しない者

(3) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

(4) 新入生で学生証の交付手続を行わない者、その他本学において修学する意思がないと認められる者

(5) 1年間以上にわたり行方不明の者

(再入学)

第33条 正当な理由で退学した者が、再入学を願い出たときは学年の始めに限り審査のうえ、許可することがある。

(復籍)

第33条の2 学費未納による除籍者については、別に定めるところにより審査のうえ、復籍を許可することがある。

(二重在籍)

第34条 本大学の学生は、同時に他の大学に在籍することを許さない。

(強制休学)

第35条 校医が健康上の理由により修学が不相当と認めた学生に対しては、休学を命ずることがある。

(学生規程)

第36条 学生が遵守しなければならない事項は、本学則に定めるほか、別に定める学生規程による。

## 第6章 学費

(学費)

第37条 入学金、授業料、教育充実費等学費の額は、別表(7)のとおりである。

(学費の納付)

第38条 学費は、毎学期始め所定の期日までに納付しなければならない。ただし、事情によって別に定めるところによりこれを分納することができる。

2 学期の途中で退学した者又は除籍された者も、当該期分の学費を納入しなければならない。

(学費納入要項)

第39条 学費については、この学則に定めるほか、別に定める学費納入要項による。

## 第7章 賞罰

(表彰)

第40条 学力優秀、品行方正な者その他格別の功績があった者は、これを表彰する。

(懲戒)

第41条 学則、学生規程その他諸規則に違反し、本学の秩序を乱し、又は性行不良その他学生の本分にもとる行為のあった者に対しては、懲戒として情状により譴責、停学又は退学の処分を行う。

2 次の各号の一に該当する者には退学を命ずる。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- (2) 学業を怠り成業の見込がないと認められる者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第42条 前2条の表彰及び懲戒は、必要に応じ賞罰委員会又は大学協議会で審議するものとする。

2 賞罰委員会に関する事項は、別に定める。

## 第8章 科目等履修生・委託生及び外国人留学生

(科目等履修生)

第43条 本大学の一又は複数の科目を履修し、単位の修得を希望する者があるときは、選考のうえ、科目等履修生としてこれを許可することができる。

2 科目等履修生が履修した授業科目について、試験を受け合格したときは、所定の単位を与える。

(委託生)

第44条 公共団体又はその他の機関から本大学の特定授業科目について修学を委託されたときは、選考のうえ、委託生としてこれを許可する。

第45条 (削除)

(証明書)

第46条 委託生は、履修した授業科目について試験を受けることができる。

2 試験に合格したときは、本人の請求によって証明を与えることができる。

(学則適用除外)

第47条 科目等履修生及び委託生には、第21条及び第22条は適用しない。

(外国人留学生)

第48条 第24条に規定する入学資格を有する者で、本大学に入学を希望する外国人留学生は、外国公館から推薦又は証明ある者に限って選考のうえ、これを許可する。

(学則の準用)

第49条 特別の規定のない限りこの学則の規定は、科目等履修生・委託生及び外国人留学生にも準用する。

(科目等履修生・委託生及び外国人留学生の別定規定)

第50条 科目等履修生・委託生及び外国人留学生については、この学則に定めるもののほか、別に定める。

## 第9章 教職員組織

(教職員)

第51条 本大学には、学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他の職員を置く。

(学長等)

第51条の2 学長は、本大学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(職制)

第51条の3 職位、職務その他の職員に関する詳細は、学校法人近畿大学職制に規定するほか、必要に応じ別に定める。

(教授会)

第52条 本大学各学部に、教育研究に関する専門的な審議を行う機関として、教授会を置く。

2 教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。

3 学部長は、前項にかかわらず学長の承認を得て、議題の内容に応じその都度、専任教授以外の教職員を教授会の審議に加えることができる。

4 前項に基づく教授会においては、教員の選考その他人事に関する事項について審議することができない。

(教授会審議事項)

第53条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、次の各号に掲げる事項並びに学長及び学部長(以下「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(1) 教育課程及びその担任に関する事項

(2) 休学、退学、転学及び復学に関する事項

(3) 学生の試験に関する事項

(4) 学生の補導に関する事項

(5) 教育及び研究に関する事項

(6) 教授、准教授、講師、助教及び助手の選考に関する事項

(7) その他教学に関する事項

(議事運営)

第54条 教授会は、学部長が招集して、その議長となる。

2 学部長に支障があるときは、予め学部長の指名した者が議長となってその職務を代行する。

第55条 教授会は、学部長が必要と認めたとき又は3分の1以上の構成員の要求があったときこれを開催する。

第56条 教授会は、構成員の半数以上の出席によって成立し、その議事は、出席者の過半数で決し教授会の意見とする。可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、人事その他学部長が重要と認めた事項については、構成員の3分の2以上の出席を要し、出席者の3分の2以上の同意をもって決し教授会の意見とする。

第57条 教授会の運営に関する細則は、別に定める。

第58条 学長が必要と認めたときは、全学部又は各学部の教授会を招集することができる。

(大学協議会)

第59条 本大学に大学全般の重要事項について審議するため大学協議会を置く。

(大学協議会の構成)

第60条 大学協議会は学長、各学部長、各事務部長、図書館長及び教授若干名をもって構成する。

(大学協議会審議事項)

第61条 大学協議会は、次の事項を審議する。

(1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項

(2) 学生の定員又は募集に関する事項

(3) 学生の表彰及び厚生補導に関する事項

(4) 学部その他の機関との連絡調整に関する事項

(5) 学長の諮問した事項

(6) その他大学の運営に関する重要事項

(議事)

第62条 大学協議会は、学長が招集し、その議長となる。

第63条 大学協議会の運営に関する規定は、別に定める。

#### 第10章 奨学生

(奨学生)

第64条 学力優秀、品行方正で学生の模範と認められた学生を選んで奨学生とすることがある。

2 奨学生に対しては、学費の全部又は一部を貸与する。

3 奨学生に関する事項は、別に定める。

#### 第11章 寄宿舍

(寄宿舍)

第65条 本大学に寄宿舍を設ける。

2 寄宿舍に関する事項は、別に定める寄宿舍規則による。

附 則

この学則は、昭和41年12月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則の改正は、平成元年4月1日から施行する。

2 この学則のうち第35条は平成元年入学生から適用する。

附 則

1 この学則の改正は、平成2年4月1日から施行する。

2 この学則のうち別表(2)-5については、平成元年度入学生から適用する。

附 則

この学則の改正は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則の改正は、平成4年4月1日から施行する。

2 第2条第1項に規定する入学定員は、平成4年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

#### 第1部 (昼間)

学部・学科名	入学定員
商経学部	
商学科	550名
経済学科	550名
経営学科	600名
理工学部	
化学科	80名
応用化学科	80名

機械工学科	140名
土木工学科	110名
電気工学科	100名
金属工学科	100名
建築学科	180名
電子工学科	100名
経営工学科	200名
文芸学部	
文学科	
英米文学専攻	80名
国文学専攻	50名
文化学科	100名
農学部	
農学科	100名
水産学科	100名
農芸化学科	100名
食品栄養学科	100名
工学部	
工業化学科	80名
機械工学科	100名
経営工学科	100名
建築学科	100名
九州工学部	
工業化学科	90名
建築学科	90名
電気工学科	100名
産業デザイン学科	70名
経営工学科	100名

第2部（夜間）

商経学部	
商学科	150名
経済学科	150名
経営学科	150名
理工学部	
機械工学科	60名

附 則

- 1 この学則の改正は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項に規定する入学定員は、平成5年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

第1部（昼間）

学部・学科名	入学定員
理工学部	
機械工学科	120名
電気工学科	90名
電子工学科	90名

附 則

この学則の改正は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則の改正は、平成9年4月1日から施行する。

ただし、文芸学部文学科日本文学専攻の名称は、平成9年度当該専攻卒業生から適用する。

2 第2条第1項に規定する入学定員は、平成9年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

第1部（昼間）

学部・学科名	入学定員
文芸学部	
文学科	
英米文学専攻	60名
日本文学専攻	70名

附 則

（施行期日）

1 この学則の改正は、平成10年4月1日から施行する。

2 工学部経営工学科の経営システム工学科への名称変更に伴う第2条及び第22条の改正は平成10年4月1日から施行し、工学部経営システム工学科の名称は、平成10年度当該学科卒業生から適用する。

ただし、第12条別表(2)―9については平成10年度入学生から適用する。

3 農学部食品栄養学科食品科学専攻、管理栄養士専攻設置に伴う第2条、第12条別表(2)―6及び第13条の改正は、平成10年度入学生から適用する。

4 第2条第1項に規定する入学定員は、平成10年度から平成11年度までの間は次のとおりとする。

第1部（昼間）

学部・学科名	入学定員
農学部	
食品栄養学科	
食品科学専攻	70名
工学部	
経営システム工学科	100名

附 則

1 この学則の改正は、平成11年4月1日から施行する。

2 工学部工業化学科の化学環境工学科への名称変更に伴う第2条及び第22条の改正は、平成11年4月1日から施行し、工学部化学環境工学科の名称は、施行日現在当該学科に在籍する者全員について適用する。

3 九州工学部電気工学科の電気情報工学科への名称変更に伴う第2条及び第22条の改正は、平成11年度第1年次入学生から適用する。

（経過措置）

九州工学部電気工学科は、改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず、平成11年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

4 第2条に規定する入学定員は、平成11年度は次のとおりとする。

第1部（昼間）

学部・学科名	入学定員
工学部	

化学環境工学科	80名
九州工学部	
電気情報工学科	100名

附 則

- この学則の改正は、平成12年4月1日から施行する。
- 九州工学部工業化学科の生物環境化学科への名称変更及び九州工学部経営工学科の経営情報学科への名称変更に伴う第2条及び第22条の改正は、平成12年4月1日から施行し、九州工学部生物環境化学科及び経営情報学科の名称は、施行日現在に当該学科に在籍する者全員に適用する。
- 第2条の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

第1部（昼間）

学部・学科	入学定員					備考
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部						
商学科	515	490	465	440	415	
経済学科	515	490	465	440	415	
経営学科	555	530	505	480	455	
理工学部						
化学科	79	78	77	76	75	
応用化学科	79	78	77	76	75	
機械工学科	120	120	120	120	120	
土木工学科	107	104	101	98	90	
電気工学科	88	86	84	82	80	
金属工学科	89	83	77	71	70	
建築学科	178	176	174	172	170	
電子工学科	88	86	84	82	80	
経営工学科	187	179	171	163	155	
文芸学部						
文学科						
英米文学専攻	68	66	64	62	60	
日本文学専攻	89	88	87	86	85	
文化学科	108	106	104	102	100	
農学部						
農学科	112	109	106	103	100	
水産学科	102	99	96	93	90	
農芸化学科	112	109	106	103	100	
食品栄養学科						
食品科学専攻	82	79	76	73	70	
工学部						
化学環境工学科	77	74	71	68	65	
機械工学科	82	79	76	73	70	
経営システム工学科	87	84	81	78	75	
建築学科	92	89	86	83	80	
九州工学部						
生物環境化学科	86	82	78	74	70	
建築学科	90	90	90	90	90	

電気情報工学科	98	96	94	92	90
産業デザイン学科	69	68	67	66	65
経営情報学科	98	96	94	92	90

第2部（夜間）

学部・学科	入学定員					備考
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部						
商学科	148	141	134	127	120	
経済学科	148	141	134	127	120	
経営学科	148	141	134	127	120	
理工学部						
機械工学科	58	56	54	52	50	

附 則

- この学則の改正は、平成13年4月1日から施行する。
- 法学部2部、商経学部2部、理工学部2部は平成13年度入学生から学生募集停止とし、法学部1部、商経学部1部、理工学部1部の法学部、商経学部、理工学部への名称変更に伴う第2条の改正は、平成13年4月1日から施行する。

（経過措置）

法学部2部、商経学部2部、理工学部2部は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成13年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 第2条の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員				備考
	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部					
商学科	昼間主コース	490	465	440	415
	夜間主コース	141	134	127	120
経済学科	昼間主コース	490	465	440	415
	夜間主コース	141	134	127	120
経営学科	昼間主コース	530	505	480	455
	夜間主コース	141	134	127	120
理工学部					
化学科		78	77	76	75
応用化学科		78	77	76	75
機械工学科	昼間主コース	120	120	120	120
	夜間主コース	56	54	52	50
土木工学科		104	101	98	90
電気工学科	昼間主コース	86	84	82	80
金属工学科		83	77	71	70
建築学科		176	174	172	170
電子工学科		86	84	82	80
経営工学科		179	171	163	155
文芸学部					
文学科					

英米文学専攻	96	94	92	90
日本文学専攻	108	107	106	105
文化学科	136	134	132	130
農学部				
農学科	109	106	103	100
水産学科	99	96	93	90
農芸化学科	109	106	103	100
食品栄養学科				
食品科学専攻	64	61	58	55
工学部				
化学環境工学科	74	71	68	65
機械工学科	79	76	73	70
経営システム工 学科	84	81	78	75
建築学科	89	86	83	80
九州工学部				
生物環境化学科	82	78	74	70
建築学科	90	90	90	90
電気情報工学科	96	94	92	90
産業デザイン学 科	68	67	66	65
経営情報学科	96	94	92	90

#### 附 則

- この学則の改正は、平成14年4月1日から施行する。
- 理工学部数学物理学科、化学科、応用化学科、機械工学科昼間主コース、機械工学科夜間主コース、土木工学科、電気工学科昼間主コース、電気工学科夜間主コース、原子炉工学科、金属工学科、建築学科、電子工学科及び経営工学科は、平成14年4月1日から学生募集停止とする。  
(経過措置)  
理工学部数学物理学科、化学科、応用化学科、機械工学科昼間主コース、機械工学科夜間主コース、土木工学科、電気工学科昼間主コース、電気工学科夜間主コース、原子炉工学科、金属工学科、建築学科、電子工学科及び経営工学科は、改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず、平成14年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
- (経過措置)  
工学部経営システム工学科及び機械システム工学科の情報システム工学科及びシステムデザイン工学科への名称変更に伴う第2条及び第22条の改正は、平成14年4月1日から施行し、経営システム工学科及び機械システム工学科は、改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず平成14年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 第2条の規定にかかわらず、平成14年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員			備考
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部				
商学科	昼間主コース	455	430	405
	夜間主コース	134	127	120
経済学科	昼間主コース	455	430	405

経営学科	夜間主コース	134	127	120	
	昼間主コース	495	470	445	
	夜間主コース	134	127	120	
理工学部					平成14年 度学科改 組
理学科		132	131	130	
応用化学科		112	111	110	
機械工学科	昼間主コース	157	151	150	
	夜間主コース	39	37	35	
電気電子工学科	昼間主コース	168	164	160	
社会環境工学科		111	108	100	
建築学科		174	172	170	
情報学科		181	173	165	
文芸学部					
文学科					
英米文学専攻		94	92	90	
日本文学専攻		107	106	105	
文化学科		134	132	130	
農学部					
農学科		106	103	100	
水産学科		96	93	90	
農芸化学科		106	103	100	
食品栄養学科 食品科学専攻		61	58	55	
工学部					
化学環境工学科		71	68	65	
機械工学科		76	73	70	
情報システム工 学科		81	78	75	
建築学科		86	83	80	
九州工学部					
生物環境化学科		78	74	70	
建築学科		90	90	90	
電気情報工学科		94	92	90	
産業デザイン学 科		67	66	65	
経営情報学科		94	92	90	

附 則

この学則の改正は、平成14年10月1日から施行する。

附 則

- この学則の改正は、平成15年4月1日から施行する。
- 商経学部商学科昼間主コース、商学科夜間主コース、経済学科昼間主コース、経済学科夜間主コース、経営学科昼間主コース及び経営学科夜間主コースは、平成15年度4月1日から学生募集停止とする。  
(経過措置)  
商経学部商学科昼間主コース、商学科夜間主コース、経済学科昼間主コース、経済学科夜間主コース、経営学科昼間主コース及び経営学科夜間主コースは、改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず平成15年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 生物理工学部機械制御工学科、基礎機械工学科、工学部化学環境工学科及び文芸学部文

学科英米文学専攻は、平成15年4月1日から学生募集停止する。

(経過措置)

生物理工学部機械制御工学科、基礎機械工学科、工学部化学環境工学科及び文芸学部文学部英米文学専攻は、改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず、平成15年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍なくなるまでの間、存続するものとする。

- 4 第2条の規定にかかわらず、平成15年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員		備考	
	平成15年度	平成16年度		
経済学部			平成15年度 学部改組	
経済学科	525	500		
経営学部				
経営学科	昼間主コース	375		350
	夜間主コース	187		180
商学科	昼間主コース	375		350
	夜間主コース	194	180	
理工学部				
理学科		131	130	
応用化学科		111	110	
機械工学科	昼間主コース	151	150	
	夜間主コース	37	35	
電気電子工学科	昼間主コース	164	160	
社会環境工学科		108	100	
建築学科		172	170	
情報学科	昼間主コース	173	165	
文芸学部				
文学科				
英語英米文学専攻	92	90		
日本文学専攻	106	105		
文化学科	132	130		
農学部				
農学科	103	100		
水産学科	93	90		
農芸化学科	103	100		
食品栄養学科				
食品科学専攻	58	55		
工学部				
生物化学工学科	68	65		
機械工学科	73	70		
情報システム工学科	78	75		
建築学科	83	80		
九州工学部				
生物環境化学科	74	70		
建築学科	90	90		
電気情報工学科	92	90		
産業デザイン学科	66	65		
経営情報学科	92	90		

- 5 生物理工学部学部基礎科目の「初級シミュレーション技術論」は、平成14年度入学生か

ら適用する。

附 則

- 1 この学則の改正は、平成16年4月1日から施行する。なお、第15条の5（秘書課程）については平成15年度入学生から適用する。
- 2 九州工学部の産業理工学部への名称変更に伴う第2条及び第22条の改正は、平成16年4月1日から施行し、産業理工学部の名称は、施行日現在に当該学部在籍する者全員に適用する。
- 3 法学部経営法学科の政策法学科への名称変更に伴う第2条及び第22条の改正は、平成16年4月1日から施行し、法学部経営法学科は、改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず平成16年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 4 九州工学部生物環境化学科、建築学科、電気情報学科、産業デザイン学科、経営情報学科は平成16年4月1日から学生募集停止とする。

（経過措置）

九州工学部生物環境化学科、建築学科、電気情報学科、産業デザイン学科、経営情報学科は改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず、平成16年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 5 理工学部機械工学科夜間主コース、電気電子工学科夜間主コース及び情報学科夜間主コースは平成16年4月1日から学生募集停止とする。

（経過措置）

理工学部機械工学科夜間主コース、電気電子工学科夜間主コース及び情報学科夜間主コースは、改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず平成16年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 6 文芸学部芸術学科造形美術専攻は、平成16年4月1日から学生募集停止とする。

（経過措置）

文芸学部芸術学科造形美術専攻は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成16年3月31日現在に当該専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

- 1 この学則の改正は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 農学部農学科、農芸化学科、国際資源管理学科は平成17年4月1日から学生募集停止する。

（経過措置）

農学部農学科、農芸化学科、国際資源管理学科は改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず、平成17年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 3 第2条の規定のうち、農学部食品栄養学科については、1学年2学級とする。

附 則

この学則の改正は平成18年1月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則の改正は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 薬学部薬学科、工学部システムデザイン工学科は平成18年4月1日から学生募集停止とする。

（経過措置）

薬学部薬学科、工学部システムデザイン工学科は改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず、平成18年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 3 文芸学部芸術学科演劇・芸能専攻は、平成18年4月1日から学生募集停止とする。

（経過措置）

文芸学部芸術学科演劇・芸能専攻は改正後の第2条の規定にかかわらず、平成18年3月31日現在に当該専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則の改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則の改正は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 産業理工学部経営コミュニケーション学科は、平成20年4月1日から学生募集停止とする。

(経過措置)

産業理工学部経営コミュニケーション学科は改正後の学則第2条及び第22条の規定にかかわらず平成20年3月31日に、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間存続するものとする。

- 3 法学部法律学科夜間コース並びに政策法学科夜間主コースは、平成20年4月1日から学生募集停止とする。

(経過措置)

法学部法律学科夜間主コース並びに政策法学科夜間主コースは、改正後の学則第2条及び第22条の規定にかかわらず平成20年3月31日に、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 4 文芸学部文学科英語英米文学専攻は、平成20年4月1日から学生募集停止とする。

(経過措置)

文芸学部文学科英語英米文学専攻は、改正後の学則第2条及び第22条の規定にかかわらず平成20年3月31日に、当該専攻に在籍する者が、当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則の改正は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則の改正は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 生物理工学部電子システム情報工学科、知能システム工学科、生体機械工学科は、平成22年4月1日から学生募集停止とする。

(経過措置)

生物理工学部電子システム情報工学科、知能システム工学科、生体機械工学科は改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず平成22年3月31日に、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間存続するものとする。

附 則

この学則の改正は、平成22年6月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則の改正は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 理工学部建築学科は、平成23年4月1日から学生募集停止とする。

(経過措置)

理工学部建築学科は、改正後の第2条及び第22条の規定にかかわらず、平成23年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則の改正は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

文芸学部文化学科、英語多文化コミュニケーション学科は、改正後の第2条、第13条及び第22条の規定にかかわらず、平成24年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則の改正は、平成24年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則の改正は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この学則のうち別表(1)―6については、平成24年度入学生から適用する。

3 次の科目は薬学部創薬科学科の平成23年度入学生に適用する。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【自由選択科目】			
臨床検査学			1.5
疾患と薬物治療法 1			1.5
生体成分分析実習			1
放射化学			1.5
疾患と薬物治療法 2			1.5
病態検査学			1.5
臨床検査学総論 1			2
臨床生理学			1.5
臨床検査学総論実習			3
臨床化学実習			5
臨床検査学総論 2			2
臨床生理学実習			6

(経過措置)

工学部生物化学工学科、情報システム工学科、知能機械工学科は、改正後の第2条、第13条及び第22条の規定にかかわらず、平成25年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則の改正は、平成25年8月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、平成26年4月1日から施行する。

(経過措置)

第18条の規定にかかわらず、平成25年度以前の入学生の成績の評価は、次のとおりとする。

学業成績は、優・良・可及び不可に分け、優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とする。また、前記にかかわらず単位を認定する場合は、認定とする。

附 則

この学則の改正は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、平成28年4月1日から施行する。

(経過措置)

法学部政策法学科、文芸学部文学科外国語外国文学専攻、文芸学部英語コミュニケーション学科、産業理工学部電気通信工学科は、改正後の第2条、第13条及び第22条の規定にかかわらず、平成28年3月31日現在に当該学科又は専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則の改正は、平成29年4月1日から施行する。

(経過措置)

生物理工学部システム生命科学科、人間工学科は、改正後の学則第2条、第22条の規定にかかわらず、平成29年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則の改正は、平成29年6月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この学則の改正は、平成30年5月24日から施行する。

附 則

この学則の改正は、平成31年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 1 農学部バイオサイエンス学科は、改正後の学則第2条、第22条の規定にかかわらず、平成31年3月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 2 秘書課程の適用は、改正後の学則第15条の5の規定にかかわらず、平成31年3月31日現在に在籍する者に対しては、平成34年3月31日までの間、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則の改正は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条の規定にかかわらず、令和2年度から令和8年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入学定員	107	107	95	95
収容定員	682	674	654	634

年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	95	95	95
収容定員	614	594	582

- 3 別表(7)の改正は、令和2年度以降の入学生を対象とする。

別表(1)―1

法学部授業科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
(共通教養科目)		
(人間性・社会性科目群)		
人権と社会1		2
人権と社会2		2
現代社会と倫理		2
心理と行動		2
現代の社会論		2
芸術鑑賞入門		2
哲学と人間・社会		2
住みよい社会と福祉		2
現代経済の課題		2
マスメディアの基本構造		2
自校学習		1
教養特殊講義A		2
(地域性・国際性科目群)		
地域と環境の地理学		2
国際化と異文化理解		2
日本近現代史		2
世界近現代史		2
教養特殊講義B		2

(課題設定・問題解決科目群)		
基礎ゼミ	2	
日本語の技法		2
生命の科学		2
環境科学		2
思考の技術		2
基礎数学		2
科学技術の発展と現代社会		2
情報処理実習		2
キャリア・デザイン1		2
教養特殊講義C		2
(スポーツ・表現活動科目群)		
生涯スポーツ1		1
生涯スポーツ2		1
(専門基礎科目群)		
法学入門		2
(第一外国語科目)		
(基幹科目)		
英語1A	2	
英語1B	2	
英語2A	1	
英語2B		1
ベーシック・ライティングA	1	
ベーシック・ライティングB		1
Communicative English1A	1	
Communicative English1B	1	
Communicative English2A	1	
Communicative English2B		1
(発展科目)		
英語3A	1	
英語3B	1	
アカデミック・ライティングA		1
アカデミック・ライティングB		1
TOEIC A		1
TOEIC B		1
専門英語A		1
専門英語B		1
Advanced Communicative English A		1
Advanced Communicative English B		1
海外語学研修(英語)		2
(LPC留学プログラム科目)		
留学セミナー		1
General English I		2
General English II		2
General English III		2
General English IV		2
(第二外国語科目)		
(基幹科目)		
ドイツ語総合1		1
ドイツ語総合2		1

ドイツ語総合3	1
ドイツ語総合4	1
フランス語総合1	1
フランス語総合2	1
フランス語総合3	1
フランス語総合4	1
中国語総合1	1
中国語総合2	1
中国語総合3	1
中国語総合4	1
韓国語総合1	1
韓国語総合2	1
韓国語総合3	1
韓国語総合4	1
スペイン語総合1	1
スペイン語総合2	1
スペイン語総合3	1
スペイン語総合4	1
イタリア語総合1	1
イタリア語総合2	1
イタリア語総合3	1
イタリア語総合4	1
(発展科目)	
ドイツ語コミュニケーション1	1
ドイツ語コミュニケーション2	1
ドイツ語コミュニケーション3	1
ドイツ語コミュニケーション4	1
ドイツ語カルチャーセミナーA	1
ドイツ語カルチャーセミナーB	1
フランス語コミュニケーション1	1
フランス語コミュニケーション2	1
フランス語コミュニケーション3	1
フランス語コミュニケーション4	1
フランス語カルチャーセミナーA	1
フランス語カルチャーセミナーB	1
中国語コミュニケーション1	1
中国語コミュニケーション2	1
中国語コミュニケーション3	1
中国語コミュニケーション4	1
中国語カルチャーセミナーA	1
中国語カルチャーセミナーB	1
海外語学研修(中国語)	1
韓国語コミュニケーション1	1
韓国語コミュニケーション2	1
韓国語コミュニケーション3	1
韓国語コミュニケーション4	1
韓国語カルチャーセミナーA	1
韓国語カルチャーセミナーB	1
海外語学研修(韓国語)	1
スペイン語コミュニケーション1	1

スペイン語コミュニケーション2		1
イタリア語コミュニケーション1		1
イタリア語コミュニケーション2		1

<履修方法>

共通教養科目から必修科目を含み16単位以上、外国語科目から英語（必修科目を含む）14単位を含み18単位以上、合計34単位以上取得すること。

共通教養科目は「人間性・社会性科目群」「スポーツ・表現活動科目群」「専門基礎科目群」から4単位以上、「地域性・国際性科目群」から2単位以上、「課題設定・問題解決科目群」から4単位以上を取得すること。

法律学科 司法コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
1 基幹科目			
憲法A（統治）		2	
憲法B（人権）		2	
憲法C（憲法理論）		2	
憲法D（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法A（行政作用法）		2	
行政法B（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法A（総論）		2	
刑法B（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為A（商法総則）		2	
会社法A（総則・設立・機関）		2	
会社法B（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法		2	
国際法入門		2	
政治学原論A		2	
政治学原論B		2	
国際政治学A		2	
行政学A		2	
行政学B		2	
公共政策		2	
2 展開科目 （コース科目）			
法哲学A（法哲学総論）		2	
法哲学B（法哲学各論）		2	
法社会学A		2	
法社会学B		2	
日本法制史A		2	
日本法制史B		2	

西洋法制史 A		2	
西洋法制史 B		2	
憲法事例研究 A		2	
憲法事例研究 B		2	
民法（相続）		2	
民法（不法行為）		2	
民法（担保）		2	
犯罪学		2	
少年法		2	
刑法特論 A		2	
刑法特論 B		2	
刑事法特論		2	
刑事訴訟法特論		2	
商法総則・商行為 B（商行為）		2	
会社法 C（計算・組織再編）		2	
支払決済法		2	
経済法		2	
知的財産法 A（知財の基礎）		2	
知的財産法 B（知財の保護・活用）		2	
民事執行・保全法		2	
破産法		2	
民事再生・会社更生法		2	
労働法 A（労働法のしくみ）		2	
労働法 B（採用から退職まで）		2	
環境法 A（環境法概説）		2	
環境法 B（環境法の現代的展開）		2	
数的処理 A		2	
数的処理 B		2	
コース演習（公法 A）		2	
コース演習（公法 B）		2	
コース演習（民事法 A）		2	
コース演習（民事法 B）		2	
コース演習（刑事法 A）		2	
コース演習（刑事法 B）		2	
コース演習（商事法 A）		2	
コース演習（商事法 B）		2	
コース演習（法学 A）		2	
コース演習（法学 B）		2	
コース演習（基礎 A）		2	
コース演習（基礎 B）		2	
コース演習（発展 A）		2	
コース演習（発展 B）		2	
コース演習（民事訴訟法）		2	
コース演習（異文化理解 A）		2	
コース演習（異文化理解 B）		2	
3 その他の専門科目 （演習科目）			
専門演習 I	4		
専門演習 II	4		
法情報処理演習		2	

海外法事情演習	2
外国法政演習 A	2
外国法政演習 B	2
(キャリア・プランニング教育科目)	
キャリア・デザイン 2	2
インターンシップ A	2
インターンシップ B	2
(自由選択科目)	
政治過程論	2
人権法 A	2
人権法 B	2
経済原論 A	2
経済原論 B	2
政治思想史 A	2
政治思想史 B	2
国際政治学 B	2
日本外交史	2
国際政治史	2
政治史 A	2
政治史 B	2
比較政治学 A	2
比較政治学 B	2
裁判法	2
国際法 A (総論)	2
国際法 B (各論)	2
英米法 A (総論・アメリカ憲法)	2
英米法 B (アメリカ法制度)	2
租税法 A	2
租税法 B	2
保険法	2
海商法	2
不動産登記法	2
借地借家法	2
国際私法 A (家族法関係)	2
国際私法 B (財産法関係)	2
国際取引法	2
国際経済法	2
社会保障法 A (総論・社会保険関係法)	2
社会保障法 B (社会福祉関係法)	2
経営学 A	2
経営学 B	2
初級簿記	2
中級簿記	2
消費者法	2
国際人権法	2
国際環境法	2
土地家屋調査	2
不動産鑑定	2
金融商品と法	2
信託法	2

会計学		2	
法学の基礎		2	
特別講義A		2	
特別講義B		2	
特別講義I		2	
特別講義II		2	

<履修方法>

- ①上記「1 基幹科目」から32単位以上を取得すること。
- ②上記「2 展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。
- ③上記「1 基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「2 展開科目（コース科目）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「3 その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科 行政コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
1 基幹科目			
憲法A（統治）		2	
憲法B（人権）		2	
憲法C（憲法理論）		2	
憲法D（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法A（行政作用法）		2	
行政法B（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法A（総論）		2	
刑法B（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為A（商法総則）		2	
会社法A（総則・設立・機関）		2	
会社法B（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法		2	
国際法入門		2	
政治学原論A		2	
政治学原論B		2	
国際政治学A		2	
行政学A		2	
行政学B		2	
公共政策		2	
2 展開科目 （コース科目）			
民法（相続）		2	
民法（不法行為）		2	
民法（担保）		2	

政治史A		2	
政治史B		2	
政治思想史A		2	
政治思想史B		2	
NPO論A		2	
NPO論B		2	
租税法A		2	
租税法B		2	
地方自治法		2	
地方自治論A		2	
地方自治論B		2	
経済原論A		2	
経済原論B		2	
経済政策A		2	
経済政策B		2	
社会政策A		2	
社会政策B		2	
財政学A		2	
財政学B		2	
環境法A（環境法概説）		2	
環境法B（環境法の現代的展開）		2	
労働法A（労働法のしくみ）		2	
労働法B（採用から退職まで）		2	
社会保障法A（総論・社会保険関係法）		2	
社会保障法B（社会福祉関係法）		2	
都市計画論A		2	
都市計画論B		2	
政策法務演習		4	
数的処理A		2	
数的処理B		2	
コース演習（公法A）		2	
コース演習（公法B）		2	
コース演習（民法A）		2	
コース演習（民法B）		2	
コース演習（社会法A）		2	
コース演習（社会法B）		2	
コース演習（政治学A）		2	
コース演習（政治学B）		2	
コース演習（行政学A）		2	
コース演習（行政学B）		2	
コース演習（異文化理解A）		2	
コース演習（異文化理解B）		2	
3 その他の専門科目 （演習科目）			
専門演習Ⅰ	4		
専門演習Ⅱ	4		
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習A		2	
外国法政演習B		2	

(キャリア・プランニング教育科目)		
キャリア・デザイン2		2
インターンシップA		2
インターンシップB		2
(自由選択科目)		
政治過程論		2
人権法A		2
人権法B		2
国際組織法		2
国際政治学B		2
日本外交史		2
国際政治史		2
比較政治学A		2
比較政治学B		2
法哲学A (法哲学総論)		2
法哲学B (法哲学各論)		2
法社会学A		2
法社会学B		2
日本法制史A		2
日本法制史B		2
西洋法制史A		2
西洋法制史B		2
英米法A (総論・アメリカ憲法)		2
英米法B (アメリカ法制度)		2
裁判法		2
犯罪学		2
少年法		2
刑法特論A		2
刑法特論B		2
刑事法特論		2
刑事訴訟法特論		2
商法総則・商行為B (商行為)		2
会社法C (計算・組織再編)		2
支払決済法		2
保険法		2
海商法		2
経済法		2
知的財産法A (知財の基礎)		2
知的財産法B (知財の保護・活用)		2
信託法		2
金融商品と法		2
民事執行・保全法		2
破産法		2
消費者法		2
不動産登記法		2
借地借家法		2
民事再生・会社更生法		2
土地家屋調査		2
不動産鑑定		2
国際法A (総論)		2

国際法B（各論）	2
国際法C（紛争解決）	2
国際私法A（家族法関係）	2
国際私法B（財産法関係）	2
国際人権法	2
国際環境法	2
国際取引法	2
国際経済法	2
ジェンダー法A	2
ジェンダー法B	2
初級簿記	2
中級簿記	2
会計学	2
経営学A	2
経営学B	2
法学の基礎	2
特別講義A	2
特別講義B	2
特別講義I	2
特別講義II	2

<履修方法>

- ①上記「1 基幹科目」から32単位以上を取得すること。
- ②上記「2 展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。
- ③上記「1 基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「2 展開科目（コース科目）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「3 その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科 国際コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
1 基幹科目			
憲法A（統治）		2	
憲法B（人権）		2	
憲法C（憲法理論）		2	
憲法D（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法A（行政作用法）		2	
行政法B（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法A（総論）		2	
刑法B（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為A（商法総則）		2	
会社法A（総則・設立・機関）		2	

会社法B（株式・資金調達）	2
民事訴訟法	2
国際法入門	2
政治学原論A	2
政治学原論B	2
国際政治学A	2
行政学A	2
行政学B	2
公共政策	2
2 展開科目 （コース科目）	
西洋法制史A	2
西洋法制史B	2
NPO論A	2
NPO論B	2
民法（不法行為）	2
国際法A（総論）	2
国際法B（各論）	2
国際法C（紛争解決）	2
国際組織法	2
国際人権法	2
国際環境法	2
国際経済法	2
国際私法A（家族法関係）	2
国際私法B（財産法関係）	2
国際取引法	2
国際政治学B	2
国際政治史	2
日本外交史	2
比較政治学A	2
比較政治学B	2
英米法A（総論・アメリカ憲法）	2
英米法B（アメリカ法制度）	2
政治思想史A	2
政治思想史B	2
環境法A（環境法概説）	2
環境法B（環境法の現代的展開）	2
海商法	2
保険法	2
知的財産法A（知財の基礎）	2
知的財産法B（知財の保護・活用）	2
外国法政演習A	2
外国法政演習B	2
海外法事情演習	2
国際経済学I	2
国際経済学II	2
開発経済学I	2
開発経済学II	2
国際協力論	2
数的処理A	2

数的処理 B		2
コース演習 (外国法 A)		2
コース演習 (外国法 B)		2
コース演習 (国際政治学 A)		2
コース演習 (国際政治学 B)		2
コース演習 (国際関係法 A)		2
コース演習 (国際関係法 B)		2
コース演習 (言語と文化 A)		2
コース演習 (言語と文化 B)		2
コース演習 (異文化と理解 A)		2
コース演習 (異文化と理解 B)		2
国際教育演習 A		2
国際教育演習 B		2
3 その他の専門科目 (演習科目)		
専門演習 I	4	
専門演習 II	4	
法情報処理演習 (キャリア・プランニング教育科目)		2
キャリア・デザイン 2		2
インターンシップ A		2
インターンシップ B (自由選択科目)		2
人権法 A		2
人権法 B		2
日本法制史 A		2
日本法制史 B		2
労働法 A (労働法のしくみ)		2
労働法 B (採用から退職まで)		2
経済原論 A		2
経済原論 B		2
政治史 A		2
政治史 B		2
裁判法		2
法哲学 A (法哲学総論)		2
法哲学 B (法哲学各論)		2
法社会学 A		2
法社会学 B		2
商法総則・商行為 B (商行為)		2
会社法 C (計算・組織再編)		2
支払決済法		2
経済法		2
租税法 A		2
租税法 B		2
破産法		2
民事執行・保全法		2
民法 (相続)		2
消費者法		2
信託法		2
社会保障法 A (総論・社会保険関係法)		2

社会保障法B（社会福祉関係法）		2	
法学の基礎		2	
特別講義A		2	
特別講義B		2	
特別講義I		2	
特別講義II		2	

<履修方法>

- ①上記「1 基幹科目」から32単位以上を取得すること。
- ②上記「2 展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。
- ③上記「1 基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「2 展開科目（コース科目）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「3 その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科 専攻プログラム（犯罪・非行と法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
1 基幹科目			
憲法A（統治）		2	
憲法B（人権）		2	
憲法C（憲法理論）		2	
憲法D（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法A（行政作用法）		2	
行政法B（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法A（総論）		2	
刑法B（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為A（商法総則）		2	
会社法A（総則・設立・機関）		2	
会社法B（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法		2	
国際法入門		2	
政治学原論A		2	
政治学原論B		2	
国際政治学A		2	
行政学A		2	
行政学B		2	
公共政策		2	
2 展開科目 （専攻プログラム科目）			
裁判法		2	
人権法A		2	
人権法B		2	

国際人権法	2
法哲学A（法哲学総論）	2
法哲学B（法哲学各論）	2
法社会学A	2
法社会学B	2
日本法制史A	2
日本法制史B	2
西洋法制史A	2
西洋法制史B	2
民法（相続）	2
民法（不法行為）	2
民法（担保）	2
犯罪学	2
少年法	2
刑法特論A	2
刑法特論B	2
刑事法特論	2
刑事訴訟法特論	2
社会保障法B（社会福祉関係法）	2
社会心理学A	2
社会心理学B	2
発達臨床心理学	2
国際法A（総論）	2
政治思想史A	2
政治思想史B	2
政治過程論	2
政治史A	2
政治史B	2
3 展開科目	
（専攻プログラム科目を除く）	
英米法A（総論・アメリカ憲法）	2
英米法B（アメリカ法制度）	2
租税法A	2
租税法B	2
商法総則・商行為B（商行為）	2
会社法C（計算・組織再編）	2
支払決済法	2
保険法	2
海商法	2
経済法	2
信託法	2
知的財産法A（知財の基礎）	2
知的財産法B（知財の保護・活用）	2
金融商品と法	2
消費者法	2
不動産登記法	2
借地借家法	2
民事執行・保全法	2
破産法	2
民事再生・会社更生法	2

労働法A（労働法のしくみ）	2
労働法B（採用から退職まで）	2
国際環境法	2
国際私法A（家族法関係）	2
国際私法B（財産法関係）	2
国際取引法	2
国際経済法	2
国際組織法	2
経済原論A	2
経済原論B	2
初級簿記	2
中級簿記	2
会計学	2
経営学A	2
経営学B	2
環境法A（環境法概説）	2
環境法B（環境法の現代的展開）	2
社会保障法A（総論・社会保険関係法）	2
国際法B（各論）	2
国際政治学B	2
日本外交史	2
国際政治史	2
比較政治学A	2
比較政治学B	2
土地家屋調査	2
不動産鑑定	2
地方自治法	2
地方自治論A	2
地方自治論B	2
都市計画論A	2
都市計画論B	2
NPO論A	2
NPO論B	2
ジェンダー法A	2
ジェンダー法B	2
国際法C（紛争解決）	2
経済政策A	2
経済政策B	2
社会政策A	2
社会政策B	2
財政学A	2
財政学B	2
法学の基礎	2
特別講義A	2
特別講義B	2
特別講義I	2
特別講義II	2
4 その他の専門科目 （演習科目）	
一般演習A	2

一般演習 B		2	
専門演習 I	4		
専門演習 II	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習 A		2	
外国法政演習 B		2	
(キャリア・プランニング教育科目)			
キャリア・デザイン 2		2	
インターンシップ A		2	
インターンシップ B		2	

<履修方法>

- ①上記「1 基幹科目」から32単位以上を取得すること。
- ②上記「2 展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。
- ③上記「2 展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「3 展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。
- ④上記「1 基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「2 展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「3 展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「4 その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科 専攻プログラム（経済生活と法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
1 基幹科目			
憲法 A（統治）		2	
憲法 B（人権）		2	
憲法 C（憲法理論）		2	
憲法 D（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法 A（行政作用法）		2	
行政法 B（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法 A（総論）		2	
刑法 B（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為 A（商法総則）		2	
会社法 A（総則・設立・機関）		2	
会社法 B（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法		2	
国際法入門		2	
政治学原論 A		2	

政治学原論 B	2
国際政治学 A	2
行政学 A	2
行政学 B	2
公共政策	2
2 展開科目 (専攻プログラム科目)	
裁判法	2
人権法 A	2
人権法 B	2
国際人権法	2
法哲学 A (法哲学総論)	2
法哲学 B (法哲学各論)	2
法社会学 A	2
法社会学 B	2
日本法制史 A	2
日本法制史 B	2
西洋法制史 A	2
西洋法制史 B	2
民法 (相続)	2
民法 (不法行為)	2
民法 (担保)	2
商法総則・商行為 B (商行為)	2
会社法 C (計算・組織再編)	2
支払決済法	2
保険法	2
海商法	2
経済法	2
信託法	2
知的財産法 A (知財の基礎)	2
知的財産法 B (知財の保護・活用)	2
金融商品と法	2
消費者法	2
不動産登記法	2
借地借家法	2
民事執行・保全法	2
破産法	2
民事再生・会社更生法	2
労働法 A (労働法のしくみ)	2
労働法 B (採用から退職まで)	2
国際法 A (総論)	2
政治思想史 A	2
政治思想史 B	2
政治過程論	2
政治史 A	2
政治史 B	2
3 展開科目 (専攻プログラム科目を除く)	
英米法 A (総論・アメリカ憲法)	2
英米法 B (アメリカ法制度)	2

租税法A	2
租税法B	2
犯罪学	2
少年法	2
刑法特論A	2
刑法特論B	2
刑事法特論	2
刑事訴訟法特論	2
国際環境法	2
国際私法A（家族法関係）	2
国際私法B（財産法関係）	2
国際取引法	2
国際経済法	2
国際組織法	2
経済原論A	2
経済原論B	2
初級簿記	2
中級簿記	2
会計学	2
経営学A	2
経営学B	2
環境法A（環境法概説）	2
環境法B（環境法の現代的展開）	2
社会保障法A（総論・社会保険関係法）	2
社会保障法B（社会福祉関係法）	2
国際法B（各論）	2
国際政治学B	2
日本外交史	2
国際政治史	2
比較政治学A	2
比較政治学B	2
土地家屋調査	2
不動産鑑定	2
地方自治法	2
地方自治論A	2
地方自治論B	2
都市計画論A	2
都市計画論B	2
NPO論A	2
NPO論B	2
ジェンダー法A	2
ジェンダー法B	2
国際法C（紛争解決）	2
経済政策A	2
経済政策B	2
社会政策A	2
社会政策B	2
財政学A	2
財政学B	2
法学の基礎	2

特別講義A		2	
特別講義B		2	
特別講義I		2	
特別講義II		2	
4 その他の専門科目			
(演習科目)			
一般演習A		2	
一般演習B		2	
専門演習I	4		
専門演習II	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習A		2	
外国法政演習B		2	
(キャリア・プランニング教育科目)			
キャリア・デザイン2		2	
インターンシップA		2	
インターンシップB		2	

<履修方法>

- ①上記「1 基幹科目」から32単位以上を取得すること。
- ②上記「2 展開科目(専攻プログラム科目)」から20単位以上を取得すること。
- ③上記「2 展開科目(専攻プログラム科目)」で20単位を超えて取得した単位数と上記「3 展開科目(専攻プログラム科目を除く)」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。
- ④上記「1 基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「2 展開科目(専攻プログラム科目)」・上記「3 展開科目(専攻プログラム科目を除く)」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「4 その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科 専攻プログラム(会計・税務と法)

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
1 基幹科目			
憲法A(統治)		2	
憲法B(人権)		2	
憲法C(憲法理論)		2	
憲法D(憲法訴訟)		2	
行政法入門		2	
行政法A(行政作用法)		2	
行政法B(行政救済法)		2	
刑事法入門		2	
刑法A(総論)		2	
刑法B(各論)		2	
刑事訴訟法		2	
民法(総則)		2	
民法(契約)		2	
民法(物権)		2	
民法(債権総論)		2	

民法（親族）	2
商法総則・商行為A（商法総則）	2
会社法A（総則・設立・機関）	2
会社法B（株式・資金調達）	2
民事訴訟法	2
国際法入門	2
政治学原論A	2
政治学原論B	2
国際政治学A	2
行政学A	2
行政学B	2
公共政策	2
2 展開科目 （専攻プログラム科目）	
裁判法	2
人権法A	2
人権法B	2
国際人権法	2
法哲学A（法哲学総論）	2
法哲学B（法哲学各論）	2
法社会学A	2
法社会学B	2
日本法制史A	2
日本法制史B	2
西洋法制史A	2
西洋法制史B	2
民法（相続）	2
民法（不法行為）	2
民法（担保）	2
租税法A	2
租税法B	2
商法総則・商行為B（商行為）	2
会社法C（計算・組織再編）	2
支払決済法	2
保険法	2
海商法	2
信託法	2
金融商品と法	2
破産法	2
民事再生・会社更生法	2
初級簿記	2
中級簿記	2
会計学	2
経営学A	2
経営学B	2
国際法A（総論）	2
政治思想史A	2
政治思想史B	2
政治過程論	2
政治史A	2

政治史 B	2
3 展開科目 (専攻プログラム科目を除く)	
英米法 A (総論・アメリカ憲法)	2
英米法 B (アメリカ法制度)	2
犯罪学	2
少年法	2
刑法特論 A	2
刑法特論 B	2
刑事法特論	2
刑事訴訟法特論	2
経済法	2
知的財産法 A (知財の基礎)	2
知的財産法 B (知財の保護・活用)	2
消費者法	2
不動産登記法	2
借地借家法	2
民事執行・保全法	2
労働法 A (労働法のしくみ)	2
労働法 B (採用から退職まで)	2
国際環境法	2
国際私法 A (家族法関係)	2
国際私法 B (財産法関係)	2
国際取引法	2
国際経済法	2
国際組織法	2
経済原論 A	2
経済原論 B	2
環境法 A (環境法概説)	2
環境法 B (環境法の現代的展開)	2
社会保険法 A (総論・社会保険関係法)	2
社会保険法 B (社会福祉関係法)	2
国際法 B (各論)	2
国際政治学 B	2
日本外交史	2
国際政治史	2
比較政治学 A	2
比較政治学 B	2
土地家屋調査	2
不動産鑑定	2
地方自治法	2
地方自治論 A	2
地方自治論 B	2
都市計画論 A	2
都市計画論 B	2
NPO論 A	2
NPO論 B	2
ジェンダー法 A	2
ジェンダー法 B	2
国際法 C (紛争解決)	2

経済政策 A		2	
経済政策 B		2	
社会政策 A		2	
社会政策 B		2	
財政学 A		2	
財政学 B		2	
法学の基礎		2	
特別講義 A		2	
特別講義 B		2	
特別講義 I		2	
特別講義 II		2	
4 その他の専門科目 (演習科目)			
一般演習 A		2	
一般演習 B		2	
専門演習 I	4		
専門演習 II	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習 A		2	
外国法政演習 B		2	
(キャリア・プランニング教育科目)			
キャリア・デザイン 2		2	
インターンシップ A		2	
インターンシップ B		2	

<履修方法>

- ①上記「1 基幹科目」から32単位以上を取得すること。
- ②上記「2 展開科目(専攻プログラム科目)」から20単位以上を取得すること。
- ③上記「2 展開科目(専攻プログラム科目)」で20単位を超えて取得した単位数と上記「3 展開科目(専攻プログラム科目を除く)」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。
- ④上記「1 基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「2 展開科目(専攻プログラム科目)」・上記「3 展開科目(専攻プログラム科目を除く)」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「4 その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科 専攻プログラム(まちづくりと法)

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
1 基幹科目			
憲法 A (統治)		2	
憲法 B (人権)		2	
憲法 C (憲法理論)		2	
憲法 D (憲法訴訟)		2	
行政法入門		2	
行政法 A (行政作用法)		2	
行政法 B (行政救済法)		2	
刑事法入門		2	

刑法A（総論）	2
刑法B（各論）	2
刑事訴訟法	2
民法（総則）	2
民法（契約）	2
民法（物権）	2
民法（債権総論）	2
民法（親族）	2
商法総則・商行為A（商法総則）	2
会社法A（総則・設立・機関）	2
会社法B（株式・資金調達）	2
民事訴訟法	2
国際法入門	2
政治学原論A	2
政治学原論B	2
国際政治学A	2
行政学A	2
行政学B	2
公共政策	2
2 展開科目	
（専攻プログラム科目）	
裁判法	2
人権法A	2
人権法B	2
国際人権法	2
法哲学A（法哲学総論）	2
法哲学B（法哲学各論）	2
法社会学A	2
法社会学B	2
日本法制史A	2
日本法制史B	2
西洋法制史A	2
西洋法制史B	2
民法（相続）	2
民法（不法行為）	2
民法（担保）	2
国際法A（総論）	2
政治思想史A	2
政治思想史B	2
政治過程論	2
政治史A	2
政治史B	2
環境法A（環境法概説）	2
環境法B（環境法の現代的展開）	2
地方自治法	2
国際環境法	2
地方自治論A	2
地方自治論B	2
都市計画論A	2
都市計画論B	2

NPO論A	2
NPO論B	2
財政学A	2
財政学B	2
3 展開科目	
(専攻プログラム科目を除く)	
英米法A (総論・アメリカ憲法)	2
英米法B (アメリカ法制度)	2
犯罪学	2
労働法A (労働法のしくみ)	2
労働法B (採用から退職まで)	2
国際組織法	2
国際政治学B	2
比較政治学A	2
比較政治学B	2
租税法A	2
租税法B	2
社会保障法A (総論・社会保険関係法)	2
社会保障法B (社会福祉関係法)	2
ジェンダー法A	2
ジェンダー法B	2
国際法B (各論)	2
国際法C (紛争解決)	2
経済政策A	2
経済政策B	2
社会政策A	2
社会政策B	2
少年法	2
刑法特論A	2
刑法特論B	2
刑事法特論	2
刑事訴訟法特論	2
商法総則・商行為B (商行為)	2
会社法C (計算・組織再編)	2
支払決済法	2
保険法	2
海商法	2
経済法	2
信託法	2
知的財産法A (知財の基礎)	2
知的財産法B (知財の保護・活用)	2
金融商品と法	2
消費者法	2
不動産登記法	2
借地借家法	2
民事再生・会社更生法	2
破産法	2
民事執行・保全法	2
日本外交史	2
国際政治史	2

国際私法A（家族法関係）		2	
国際私法B（財産法関係）		2	
国際取引法		2	
国際経済法		2	
初級簿記		2	
中級簿記		2	
会計学		2	
経営学A		2	
経営学B		2	
経済原論A		2	
経済原論B		2	
土地家屋調査		2	
不動産鑑定		2	
法学の基礎		2	
特別講義A		2	
特別講義B		2	
特別講義I		2	
特別講義II		2	
4 その他の専門科目 （演習科目）			
一般演習A		2	
一般演習B		2	
専門演習I	4		
専門演習II	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習A		2	
外国法政演習B		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン2		2	
インターンシップA		2	
インターンシップB		2	

<履修方法>

- ①上記「1 基幹科目」から32単位以上を取得すること。
- ②上記「2 展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。
- ③上記「2 展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「3 展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。
- ④上記「1 基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「2 展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「3 展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「4 その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科 教育副専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
1 基幹科目 憲法A（統治）		2	

憲法B（人權）	2
憲法C（憲法理論）	2
憲法D（憲法訴訟）	2
行政法入門	2
行政法A（行政作用法）	2
行政法B（行政救濟法）	2
刑事法入門	2
刑法A（總論）	2
刑法B（各論）	2
刑事訴訟法	2
民法（總則）	2
民法（契約）	2
民法（物權）	2
民法（債權總論）	2
民法（親族）	2
商法總則・商行為A（商法總則）	2
会社法A（總則・設立・機關）	2
会社法B（株式・資金調達）	2
民事訴訟法	2
國際法入門	2
政治学原論A	2
政治学原論B	2
國際政治学A	2
行政学A	2
行政学B	2
公共政策	2
2 展開科目 （教育副專攻科目）	
裁判法	2
人權法A	2
人權法B	2
國際人權法	2
法哲学A（法哲学總論）	2
法哲学B（法哲学各論）	2
法社会学A	2
法社会学B	2
日本法制史A	2
日本法制史B	2
西洋法制史A	2
西洋法制史B	2
民法（相続）	2
民法（不法行為）	2
民法（担保）	2
國際法A（總論）	2
政治思想史A	2
政治思想史B	2
政治過程論	2
政治史A	2
政治史B	2
日本史概論I	2

日本史概論Ⅱ	2
外国史概論Ⅰ	2
外国史概論Ⅱ	2
地理学概論Ⅰ	2
地理学概論Ⅱ	2
地誌学概論Ⅰ	2
地誌学概論Ⅱ	2
自然地理学概論Ⅰ	2
自然地理学概論Ⅱ	2
哲学概論Ⅰ	2
哲学概論Ⅱ	2
倫理学概論Ⅰ	2
倫理学概論Ⅱ	2
英語学概論Ⅰ	2
英語学概論Ⅱ	2
学校英文法A	1
学校英文法B	1
英語音声学A	1
英語音声学B	1
英文法演習A	1
英文法演習B	1
英語文学概論Ⅰ	2
英語文学概論Ⅱ	2
英語文学講読A	1
英語文学講読B	1
実践英語会話A	1
実践英語会話B	1
表現英作文A	1
表現英作文B	1
英語実習（LL）A	1
英語実習（LL）B	1
英語文化概論Ⅰ	2
英語文化概論Ⅱ	2
3 展開科目 （教育副専攻科目を除く）	
英米法A（総論・アメリカ憲法）	2
英米法B（アメリカ法制度）	2
租税法A	2
租税法B	2
犯罪学	2
少年法	2
刑法特論A	2
刑法特論B	2
刑事法特論	2
刑事訴訟法特論	2
商法総則・商行為B（商行為）	2
会社法C（計算・組織再編）	2
支払決済法	2
保険法	2
海商法	2

経済法	2		
信託法	2		
知的財産法 A (知財の基礎)	2		
知的財産法 B (知財の保護・活用)	2		
金融商品と法	2		
消費者法	2		
不動産登記法	2		
借地借家法	2		
民事執行・保全法	2		
破産法	2		
民事再生・会社更生法	2		
労働法 A (労働法のしくみ)	2		
労働法 B (採用から退職まで)	2		
国際環境法	2		
国際私法 A (家族法関係)	2		
国際私法 B (財産法関係)	2		
国際取引法	2		
国際経済法	2		
国際組織法	2		
経済原論 A	2		
経済原論 B	2		
初級簿記	2		
中級簿記	2		
会計学	2		
経営学 A	2		
経営学 B	2		
環境法 A (環境法概説)	2		
環境法 B (環境法の現代的展開)	2		
社会保険法 A (総論・社会保険関係法)	2		
社会保険法 B (社会福祉関係法)	2		
国際法 B (各論)	2		
国際政治学 B	2		
日本外交史	2		
国際政治史	2		
比較政治学 A	2		
比較政治学 B	2		
土地家屋調査	2		
不動産鑑定	2		
地方自治法	2		
地方自治論 A	2		
地方自治論 B	2		
都市計画論 A	2		
都市計画論 B	2		
NPO論 A	2		
NPO論 B	2		
ジェンダー法 A	2		
ジェンダー法 B	2		
国際法 C (紛争解決)	2		
経済政策 A	2		
経済政策 B	2		

社会政策A		2	
社会政策B		2	
財政学A		2	
財政学B		2	
法学の基礎		2	
特別講義A		2	
特別講義B		2	
特別講義I		2	
特別講義II		2	
4 その他の専門科目 (演習科目)			
一般演習A		2	
一般演習B		2	
専門演習I	4		
専門演習II	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習A		2	
外国法政演習B (キャリア・プランニング教育科目)		2	
キャリア・デザイン2		2	
インターンシップA		2	
インターンシップB		2	

<履修方法>

- ①上記「1 基幹科目」から32単位以上を取得すること。
- ②上記「2 展開科目(教育副専攻科目)」から20単位以上を取得すること。
- ③上記「2 展開科目(教育副専攻科目)」で20単位を超えて取得した単位数と上記「3 展開科目(教育副専攻科目を除く)」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。
- ④上記「1 基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「2 展開科目(教育副専攻科目)」・上記「3 展開科目(教育副専攻科目を除く)」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「4 その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科 スポーツ副専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
1 基幹科目			
憲法A(統治)		2	
憲法B(人権)		2	
憲法C(憲法理論)		2	
憲法D(憲法訴訟)		2	
行政法入門		2	
行政法A(行政作用法)		2	
行政法B(行政救済法)		2	
刑事法入門		2	
刑法A(総論)		2	
刑法B(各論)		2	

刑事訴訟法	2
民法（総則）	2
民法（契約）	2
民法（物権）	2
民法（債権総論）	2
民法（親族）	2
商法総則・商行為A（商法総則）	2
会社法A（総則・設立・機関）	2
会社法B（株式・資金調達）	2
民事訴訟法	2
国際法入門	2
政治学原論A	2
政治学原論B	2
国際政治学A	2
行政学A	2
行政学B	2
公共政策	2
2 展開科目	
（スポーツ副専攻科目）	
裁判法	2
人権法A	2
人権法B	2
国際人権法	2
法哲学A（法哲学総論）	2
法哲学B（法哲学各論）	2
法社会学A	2
法社会学B	2
日本法制史A	2
日本法制史B	2
西洋法制史A	2
西洋法制史B	2
民法（相続）	2
民法（不法行為）	2
民法（担保）	2
国際法A（総論）	2
政治思想史A	2
政治思想史B	2
政治過程論	2
政治史A	2
政治史B	2
エージェント理論	2
トップ・アスリート論	2
コミュニケーション・イングリッシュ・SPORTS I	2
コミュニケーション・イングリッシュ・SPORTS II	2
パフォーマンスと栄養学	2
人材育成とリーダーシップ	2
スポーツと知的財産	2
イベント[競技会]運営論	2
キャリア形成と自己分析	2
スポーツと法 I	2

スポーツと法Ⅱ	2
メディアと法	2
法学実用英語A	2
法学実用英語B	2
社会の中の数学	2
教育とスポーツ	2
囲碁から学ぶスポーツ戦略	2
3 展開科目 (スポーツ副専攻科目を除く)	
英米法A (総論・アメリカ憲法)	2
英米法B (アメリカ法制度)	2
租税法A	2
租税法B	2
犯罪学	2
少年法	2
刑法特論A	2
刑法特論B	2
刑事法特論	2
刑事訴訟法特論	2
商法総則・商行為B (商行為)	2
会社法C (計算・組織再編)	2
支払決済法	2
保険法	2
海商法	2
経済法	2
信託法	2
知的財産法A (知財の基礎)	2
知的財産法B (知財の保護・活用)	2
金融商品と法	2
消費者法	2
不動産登記法	2
借地借家法	2
民事執行・保全法	2
破産法	2
民事再生・会社更生法	2
労働法A (労働法のしくみ)	2
労働法B (採用から退職まで)	2
国際環境法	2
国際私法A (家族法関係)	2
国際私法B (財産法関係)	2
国際取引法	2
国際経済法	2
国際組織法	2
経済原論A	2
経済原論B	2
初級簿記	2
中級簿記	2
会計学	2
経営学A	2
経営学B	2

環境法A（環境法概説）		2	
環境法B（環境法の現代的展開）		2	
社会保障法A（総論・社会保険関係法）		2	
社会保障法B（社会福祉関係法）		2	
国際法B（各論）		2	
国際政治学B		2	
日本外交史		2	
国際政治史		2	
比較政治学A		2	
比較政治学B		2	
土地家屋調査		2	
不動産鑑定		2	
地方自治法		2	
地方自治論A		2	
地方自治論B		2	
都市計画論A		2	
都市計画論B		2	
NPO論A		2	
NPO論B		2	
ジェンダー法A		2	
ジェンダー法B		2	
国際法C（紛争解決）		2	
経済政策A		2	
経済政策B		2	
社会政策A		2	
社会政策B		2	
財政学A		2	
財政学B		2	
法学の基礎		2	
特別講義A		2	
特別講義B		2	
特別講義I		2	
特別講義II		2	
4 その他の専門科目			
（演習科目）			
一般演習A		2	
一般演習B		2	
専門演習I	4		
専門演習II	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習A		2	
外国法政演習B		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン2		2	
インターンシップA		2	
インターンシップB		2	

<履修方法>

①上記「1 基幹科目」から32単位以上を取得すること。

- ②上記「2 展開科目（スポーツ副専攻科目）」から20単位以上を取得すること。
- ③上記「2 展開科目（スポーツ副専攻科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「3 展開科目（スポーツ副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。
- ④上記「1 基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「2 展開科目（スポーツ副専攻科目）」・上記「3 展開科目（スポーツ副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「4 その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定に基づき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注) 8単位までその他の専門科目に加算することができる。

法学部	
教職課程 教科に関する科目(1)	単位数
暮らしのなかの憲法	2
教職課程 教科に関する科目(2)	単位数
日本史概論 I	2
日本史概論 II	2
外国史概論 I	2
外国史概論 II	2
地理学概論 I	2
地理学概論 II	2
地誌学概論 I	2
地誌学概論 II	2
自然地理学概論 I	2
自然地理学概論 II	2
哲学概論 I	2
哲学概論 II	2
倫理学概論 I	2
倫理学概論 II	2
英語学概論 I	2
英語学概論 II	2
学校英文法 A	1
学校英文法 B	1
英語音声学 A	1
英語音声学 B	1
英文法演習 A	1
英文法演習 B	1
英語文学概論 I	2
英語文学概論 II	2
英語文学講読 A	1
英語文学講読 B	1
実践英語会話 A	1
実践英語会話 B	1
表現英作文 A	1

表現英作文 B	1
英語実習 (L L) A	1
英語実習 (L L) B	1
英語文化概論 I	2
英語文化概論 II	2

別表(1)ー2

経済学部授業科目表

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
<b>【共通教養科目】 (全学科共通)</b>			
(人間性・社会性科目群)			
人権と社会 1		2	
人権と社会 2		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
現代の社会論		2	
芸術鑑賞入門		2	
哲学と人間・社会		2	
現代社会と法		2	
現代社会と政治		2	
現代社会と人間		2	
自校学習		1	
教養特殊講義 A		2	
(地域性・国際性科目群)			
地域と環境の地理学		2	
国際化と異文化理解		2	
日本近現代史		2	
世界近現代史		2	
現代世界と民族・宗教		2	
教養特殊講義 B		2	
(課題設定・問題解決科目群)			
日本語の技法		2	
基礎ゼミ	2		
生命の科学		2	
環境科学		2	
基礎数学		2	
キャリアデザイン		2	
教養特殊講義 C		2	
(スポーツ・表現活動科目群)			
生涯スポーツ 1		1	
生涯スポーツ 2		1	
食生活と健康		2	
心と体の健康		2	
<b>【外国語科目】 (全学科共通)</b>			
(第一外国語科目) (英語)			
(基幹科目)			
英語 1 L		1	
英語 1 R		1	

英語 2 L		1	
英語 2 R		1	
英語 3 T		1	
英語 3 R		1	
英語 4 T		1	
英語 4 R		1	
オーラルイングリッシュ 1		1	
オーラルイングリッシュ 2		1	
オーラルイングリッシュ 3		1	
オーラルイングリッシュ 4		1	
(発展科目)			
総合英語 1		1	
総合英語 2		1	
自己表現の英作文 1		1	
自己表現の英作文 2		1	
TOE I C 1		1	
TOE I C 2		1	
スーパー英語 (TOE I C) 1		1	
スーパー英語 (SK I L L S) 1		1	
スーパー英語 (TOE I C) 2		1	
スーパー英語 (SK I L L S) 2		1	
ニュース英語 1		1	
ニュース英語 2		1	
カルチャー英語 1		1	
カルチャー英語 2		1	
アドバンストオーラルイングリッシュ 1		1	
アドバンストオーラルイングリッシュ 2		1	
【第二外国語】			
(基幹科目)			
ドイツ語総合 1		1	
ドイツ語総合 2		1	
ドイツ語総合 3		1	
ドイツ語総合 4		1	
フランス語総合 1		1	
フランス語総合 2		1	
フランス語総合 3		1	
フランス語総合 4		1	
中国語総合 1		1	
中国語総合 2		1	
中国語総合 3		1	
中国語総合 4		1	
韓国語総合 1		1	
韓国語総合 2		1	
韓国語総合 3		1	
韓国語総合 4		1	
(発展科目)			
ドイツ語コミュニケーション 1		1	
ドイツ語コミュニケーション 2		1	
ドイツ語コミュニケーション 3		1	
ドイツ語コミュニケーション 4		1	

ドイツ語カルチャーセミナーA		1	
ドイツ語カルチャーセミナーB		1	
フランス語コミュニケーション1		1	
フランス語コミュニケーション2		1	
フランス語コミュニケーション3		1	
フランス語コミュニケーション4		1	
フランス語カルチャーセミナーA		1	
フランス語カルチャーセミナーB		1	
中国語コミュニケーション1		1	
中国語コミュニケーション2		1	
中国語コミュニケーション3		1	
中国語コミュニケーション4		1	
中国語カルチャーセミナーA		1	
中国語カルチャーセミナーB		1	
韓国語コミュニケーション1		1	
韓国語コミュニケーション2		1	
韓国語コミュニケーション3		1	
韓国語コミュニケーション4		1	
韓国語カルチャーセミナーA		1	
韓国語カルチャーセミナーB		1	

経済学科

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【専門基礎科目】 (学部共通科目)			
統計学Ⅰ		2	
統計学Ⅱ		2	
ミクロ経済学Ⅰ		2	
マクロ経済学Ⅰ		2	
コンピュータ実習Ⅰ		1	
コンピュータ実習Ⅱ		1	
コンピュータ実習Ⅲ		1	
コンピュータ実習Ⅳ		1	
経済統計学Ⅰ		2	
経済統計学Ⅱ		2	
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
(学科共通科目)			
日本経済入門		2	
*日本の経済事情		2	
ミクロ経済学Ⅱ		2	
マクロ経済学Ⅱ		2	
経済史Ⅰ		2	
経済史Ⅱ		2	
経済政策論Ⅰ		2	
計量経済学Ⅰ		2	
基礎経済心理学		2	
(分野専門科目)			

〈経済学コース科目〉			
経済数学Ⅰ		2	
経済数学Ⅱ		2	
貨幣論		2	
公共経済学		2	
現代産業論		2	
日本経済史Ⅰ		2	
日本経済史Ⅱ		2	
応用ミクロ経済学		2	
応用マクロ経済学		2	
計量経済学Ⅱ		2	
経済政策論Ⅱ		2	
産業連関論		2	
〈経済心理学コース科目〉			
経済数学Ⅰ		2	
経済数学Ⅱ		2	
経済心理学		2	
実験経済学Ⅰ		2	
行動経済学Ⅰ		2	
実験データ分析		2	
計量経済学Ⅱ		2	
応用ミクロ経済学		2	
応用マクロ経済学		2	
労働経済学Ⅰ		2	
組織と情報の経済学		2	
【専門基幹科目A】			
(学科共通科目)			
財政学Ⅰ		2	
財政学Ⅱ		2	
金融論Ⅰ		2	
金融論Ⅱ		2	
商法Ⅰ		2	
国際経済学		2	
経済法		2	
日本経済論Ⅰ		2	
日本経済論Ⅱ		2	
(分野専門科目)			
〈経済学コース科目〉			
公共経済学		2	
経済心理学		2	
実験経済学Ⅰ		2	
行動経済学Ⅰ		2	
経済学史		2	
経済数学Ⅲ		2	
経済数学Ⅳ		2	
行動ファイナンス		2	
ゲーム理論		2	
数理経済学Ⅰ		2	
数理経済学Ⅱ		2	
経済変動論Ⅰ		2	

経済変動論Ⅱ	2
近代経済学史Ⅰ	2
近代経済学史Ⅱ	2
商法Ⅱ	2
財政政策論Ⅰ	2
財政政策論Ⅱ	2
地方財政学Ⅰ	2
地方財政学Ⅱ	2
社会政策論Ⅰ	2
社会政策論Ⅱ	2
国際金融論Ⅰ	2
国際金融論Ⅱ	2
企業金融論	2
デリバティブ論	2
金融政策論	2
情報システム論Ⅰ	2
情報システム論Ⅱ	2
交通経済学Ⅰ	2
交通経済学Ⅱ	2
労働経済学Ⅰ	2
労働経済学Ⅱ	2
産業組織論Ⅰ	2
産業組織論Ⅱ	2
知的財産法	2
環境経済学	2
経済社会学Ⅰ	2
経済社会学Ⅱ	2
西洋経済史Ⅰ	2
西洋経済史Ⅱ	2
経済地理学	2
西洋経済思想史Ⅰ	2
西洋経済思想史Ⅱ	2
日本経済思想史	2
〈経済心理学コース科目〉	
行動ファイナンス	2
ゲーム理論	2
認知心理学	2
社会心理学	2
実験経済学Ⅱ	2
行動経済学Ⅱ	2
健康経済学	2
経済倫理学	2
マーケティング	2
応用行動経済学Ⅰ	2
応用行動経済学Ⅱ	2
神経経済学	2
経済社会学Ⅰ	2
数理経済学Ⅰ	2
数理経済学Ⅱ	2
労働経済学Ⅱ	2

産業組織論 I	2
環境経済学	2
【専門基幹科目 B】	
(学科共通科目 (情報専門科目))	
プログラミング論 I	2
プログラミング論 II	2
コンピュータ概論 I	2
コンピュータ概論 II	2
コンピュータ特修実習 I	2
コンピュータ特修実習 II	2
情報処理論 I	2
情報処理論 II	2
コンピュータ特修実習 III	2
コンピュータ特修実習 IV	2
プログラミング特論 I	2
プログラミング特論 II	2
応用情報処理論 I	2
応用情報処理論 II	2
コンピュータ会計 I	2
コンピュータ会計 II	2
(学科共通科目)	
特殊講義 I A	1
特殊講義 I B	1
簿記論 I	2
簿記論 II	2
民法 I	2
民法 II	2
特殊講義 II	2
Economics in English I	2
簿記論 III	2
簿記論 IV	2
会計学	2
特殊講義 III	2
特殊講義 IV	2
インターンシップ	2
外国語演習 I	4
外国語演習 II	4
商学	2
経営学	2
外国文献研究	2
憲法 I	2
憲法 II	2
行政法 I	2
行政法 II	2
国際法	2
*日本語文献講読	2
卒業論文	4
Economics in English II	2
(分野専門科目)	
〈経済学コース科目〉	

実験経済学Ⅱ	2
行動経済学Ⅱ	2
企業金融論	2
産業組織論Ⅰ	2
産業組織論Ⅱ	2
西洋経済思想史Ⅰ	2
西洋経済思想史Ⅱ	2
産業連関論	2
経済心理学	2
実験経済学Ⅰ	2
行動経済学Ⅰ	2
経済変動論Ⅰ	2
経済変動論Ⅱ	2
NPO論	2
国際税制	2
保険論	2
経済社会学Ⅰ	2
経済社会学Ⅱ	2
地域経済学	2
地域開発論	2
ロジスティクス論	2
コーポレートガバナンス論	2
多国籍企業論Ⅰ	2
多国籍企業論Ⅱ	2
社会保障論Ⅰ	2
社会保障論Ⅱ	2
協同組合論Ⅰ	2
協同組合論Ⅱ	2
アジア経済史Ⅰ	2
アジア経済史Ⅱ	2
近代日本経済史	2
外国総合演習Ⅰ	2
外国総合演習Ⅱ	2
外国総合演習Ⅲ	2
異文化演習Ⅰ	2
異文化演習Ⅱ	2
異文化演習Ⅲ	2
〈経済心理学コース科目〉	
経済政策論Ⅱ	2
企業金融論	2
デリバティブ論	2
情報システム論Ⅰ	2
情報システム論Ⅱ	2
コーポレートガバナンス論	2
外国総合演習Ⅰ	2
外国総合演習Ⅱ	2
外国総合演習Ⅲ	2
異文化演習Ⅰ	2
異文化演習Ⅱ	2
異文化演習Ⅲ	2

<b>【専門基幹科目C】</b>			
(学科共通科目 (教育専門科目))			
日本史概論 I	2		
日本史概論 II	2		
外国史概論 I	2		
外国史概論 II	2		
地理学概論 I	2		
地理学概論 II	2		
地誌学概論 I	2		
地誌学概論 II	2		
哲学概論 I	2		
哲学概論 II	2		
倫理学概論 I	2		
倫理学概論 II	2		
自然地理学概論 I	2		
自然地理学概論 II	2		
職業指導 I			2
職業指導 II			2
英語学概論 I	2		
英語学概論 II	2		
学校英文法 A	1		
学校英文法 B	1		
英語音声学 A	1		
英語音声学 B	1		
英文法演習 A	1		
英文法演習 B	1		
英語文学概論 I	2		
英語文学概論 II	2		
英語文学講読 A	1		
英語文学講読 B	1		
実践英語会話 A	1		
実践英語会話 B	1		
表現英作文 A	1		
表現英作文 B	1		
英語実習 (LL) A	1		
英語実習 (LL) B	1		
英語文化概論 I	2		
英語文化概論 II	2		
<b>【他学部単位互換科目】</b>			
(経営学部)			
国際経営論	2		
証券投資論	2		
外国為替論	2		
マーケティング	2		
会社法	2		
経営史 I	2		
経営史 II	2		
商業史 I	2		
商業史 II	2		
(法学部)			

租税法A		2	
租税法B		2	
手形小切手法A		2	
手形小切手法B		2	
保険法		2	
海商法		2	
社会保障法A		2	
社会保障法B		2	
国際組織法A		2	
国際組織法B		2	
国際取引法 (文芸学部)		2	
宗教学A		2	
宗教学B		2	
西洋史A		2	
西洋史B		2	
日本文化論A		2	
日本文化論B		2	
【自由科目】 (実学特修課程科目) (特修課程固有科目)			
食と風土の経済学			2
コミュニケーションセミナーⅠ			2
コミュニケーションセミナーⅡ (学部専門科目)			2
特殊講義ⅠA			1
特殊講義ⅠB			1
日本経済入門			2
Economics in EnglishⅠ			2
Economics in EnglishⅡ			2
インターンシップ (共通教養科目)			2
暮らしのなかの憲法			2
芸術鑑賞入門			2
国際化と異文化理解			2
キャリアデザイン			2
教養特殊講義A			2
教養特殊講義B			2
教養特殊講義C			2
食生活と健康			2
心と体の健康			2
自校学習			1

#### <履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目の各科目群からそれぞれ1単位以上を修得し、必修2単位を含む16単位以上、外国語科目(英語14単位を含む)20単位以上、合計36単位以上、また、専門科目において、学部共通科目(必修科目8単位を含む)14単位以上、学科共通科目(情報専門科目8単位を含む)28単位以上、とは別に学部共通科目・学科共通科目・コース科目・他学部単位互換科目(8単位まで)50単位以上、合計92単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位として認め、

卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

大学コンソーシアム大阪単位互換科目は他学部単位互換科目と合わせて8単位まで加算することができる。

総合経済政策学科

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
<b>【専門基礎科目】</b>			
(学部共通科目)			
統計学Ⅰ		2	
統計学Ⅱ		2	
ミクロ経済学Ⅰ		2	
マクロ経済学Ⅰ		2	
コンピュータ実習Ⅰ		1	
コンピュータ実習Ⅱ		1	
コンピュータ実習Ⅲ		1	
コンピュータ実習Ⅳ		1	
経済統計学Ⅰ		2	
経済統計学Ⅱ		2	
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
(学科共通科目)			
日本経済入門		2	
*日本の経済事情		2	
ミクロ経済学Ⅱ		2	
マクロ経済学Ⅱ		2	
公共経済学		2	
金融論Ⅰ		2	
財政学Ⅰ		2	
産業組織論Ⅰ		2	
経済政策論Ⅰ		2	
計量経済学Ⅰ		2	
(分野専門科目)			
日本経済論Ⅰ		2	
日本経済論Ⅱ		2	
産業組織論Ⅱ		2	
財政学Ⅱ		2	
経済地理学		2	
中小企業論Ⅰ		2	
中小企業論Ⅱ		2	
金融論Ⅱ		2	

応用マクロ経済学	2
経済政策論Ⅱ	2
計量経済学Ⅱ	2
公共政策論	2
経済社会学	2
応用ミクロ経済学	2
企業金融論	2
国際金融論	2
【専門基幹科目A】 (学科共通科目)	
政治学原理Ⅰ	2
政治学原理Ⅱ	2
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
簿記論Ⅰ	2
簿記論Ⅱ	2
Economics in EnglishⅠ	2
簿記論Ⅲ	2
簿記論Ⅳ	2
財政政策論Ⅰ	2
社会保障論Ⅰ	2
環境経済学	2
国際経済学 (分野専門科目)	2
社会政策論Ⅰ	2
社会政策論Ⅱ	2
福祉政策論	2
都市政策論Ⅰ	2
都市政策論Ⅱ	2
地域経済学Ⅰ	2
地域経済学Ⅱ	2
労働経済学	2
Economics in EnglishⅡ	2
商法Ⅰ	2
商法Ⅱ	2
経済法	2
観光資源論	2
NPO論	2
財政政策論Ⅱ	2
社会保障論Ⅱ	2
金融政策論	2
過疎地域政策論	2
交通経済学Ⅰ	2
交通経済学Ⅱ	2
環境政策論	2
地方財政学Ⅰ	2
地方財政学Ⅱ	2
デリバティブ論	2
国際税制	2
国際投資論	2

財務会計論	2
関西経済論	2
【専門基幹科目B】	
(学科共通科目(情報専門科目))	
コンピュータ概論Ⅰ	2
コンピュータ概論Ⅱ	2
コンピュータ特修実習Ⅰ	2
コンピュータ特修実習Ⅱ	2
情報処理論Ⅰ	2
情報処理論Ⅱ	2
コンピュータ特修実習Ⅲ	2
コンピュータ特修実習Ⅳ	2
(学科共通科目)	
特殊講義ⅠA	1
特殊講義ⅠB	1
民法Ⅰ	2
社会調査論	2
フィールドワークⅠ	4
特殊講義Ⅱ	2
インターンシップ	2
外国語演習Ⅰ	4
外国語演習Ⅱ	4
外国文献研究	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
*日本語文献講読	2
卒業論文	4
(分野専門科目)	
フィールドワークⅡ	4
地方自治論	2
経済変動論	2
民法Ⅱ	2
プログラミング論Ⅰ	2
プログラミング論Ⅱ	2
情報システム論Ⅰ	2
情報システム論Ⅱ	2
組織と情報の経済学	2
地方自治法	2
行政法Ⅰ	2
行政法Ⅱ	2
国際法Ⅰ	2
国際法Ⅱ	2
会社法Ⅰ	2
会社法Ⅱ	2
知的財産法	2
プログラミング特論Ⅰ	2
プログラミング特論Ⅱ	2
応用情報処理論Ⅰ	2
応用情報処理論Ⅱ	2
コンピュータ会計Ⅰ	2

コンピュータ会計Ⅱ	2	
外国総合演習Ⅰ	2	
外国総合演習Ⅱ	2	
外国総合演習Ⅲ	2	
異文化演習Ⅰ	2	
異文化演習Ⅱ	2	
異文化演習Ⅲ	2	
【専門基幹科目C】		
(学科共通科目(教育専門科目))		
日本史概論Ⅰ	2	
日本史概論Ⅱ	2	
外国史概論Ⅰ	2	
外国史概論Ⅱ	2	
地理学概論Ⅰ	2	
地理学概論Ⅱ	2	
地誌学概論Ⅰ	2	
地誌学概論Ⅱ	2	
哲学概論Ⅰ	2	
哲学概論Ⅱ	2	
倫理学概論Ⅰ	2	
倫理学概論Ⅱ	2	
職業指導Ⅰ		2
職業指導Ⅱ		2
英語学概論Ⅰ	2	
英語学概論Ⅱ	2	
学校英文法A	1	
学校英文法B	1	
英語音声学A	1	
英語音声学B	1	
英文法演習A	1	
英文法演習B	1	
英語文学概論Ⅰ	2	
英語文学概論Ⅱ	2	
英語文学講読A	1	
英語文学講読B	1	
実践英語会話A	1	
実践英語会話B	1	
表現英作文A	1	
表現英作文B	1	
英語実習(L L) A	1	
英語実習(L L) B	1	
英語文化概論Ⅰ	2	
英語文化概論Ⅱ	2	
【他学部単位互換科目】		
(経営学部)		
国際経営論	2	
保険論Ⅰ	2	
保険論Ⅱ	2	
証券投資論	2	
外国為替論	2	

マーケティング		2	
経営史Ⅰ		2	
経営史Ⅱ		2	
商業史Ⅰ		2	
商業史Ⅱ		2	
(法学部)			
租税法A		2	
租税法B		2	
手形小切手法A		2	
手形小切手法B		2	
保険法		2	
海商法		2	
社会保障法A		2	
社会保障法B		2	
国際組織法A		2	
国際組織法B		2	
国際取引法		2	
(文芸学部)			
宗教学A		2	
宗教学B		2	
西洋史A		2	
西洋史B		2	
日本文化論A		2	
日本文化論B		2	
【自由科目】			
(実学特修課程科目)			
(特修課程固有科目)			
食と風土の経済学			2
コミュニケーションセミナーⅠ			2
コミュニケーションセミナーⅡ			2
(学部専門科目)			
特殊講義ⅠA			1
特殊講義ⅠB			1
日本経済入門			2
Economics in EnglishⅠ			2
Economics in EnglishⅡ			2
インターンシップ			2
(共通教養科目)			
暮らしのなかの憲法			2
芸術鑑賞入門			2
国際化と異文化理解			2
キャリアデザイン			2
教養特殊講義A			2
教養特殊講義B			2
教養特殊講義C			2
食生活と健康			2
心と体の健康			2
自校学習			1

<履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目の各科目群からそれぞれ1単位以上を修得し、必

修2単位を含む16単位以上、外国語科目（英語14単位を含む）20単位以上、合計36単位以上、また、専門科目において、学部共通科目（必修科目8単位を含む）14単位以上、学科共通科目（情報専門科目8単位を含む）28単位以上、とは別に学部共通科目・学科共通科目・分野科目・他分野科目・他学部単位互換科目（8単位まで）50単位以上、合計92単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位として認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

大学コンソーシアム大阪単位互換科目は他学部単位互換科目と合わせて8単位まで加算することができる。

国際経済学科

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【専門基礎科目】 (学部共通科目)			
統計学Ⅰ		2	
統計学Ⅱ		2	
ミクロ経済学Ⅰ		2	
マクロ経済学Ⅰ		2	
コンピュータ実習Ⅰ		1	
コンピュータ実習Ⅱ		1	
コンピュータ実習Ⅲ		1	
コンピュータ実習Ⅳ		1	
経済統計学Ⅰ		2	
経済統計学Ⅱ		2	
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
(学科共通科目)			
基礎国際経済学		2	
日本経済入門		2	
*日本の経済事情		2	
ミクロ経済学Ⅱ		2	
マクロ経済学Ⅱ		2	
国際経済学Ⅰ		2	
開発経済学Ⅰ		2	
貿易論		2	
多国籍企業論Ⅰ		2	
国際金融論Ⅰ		2	
(分野専門科目)			
国際投資論Ⅰ		2	
国際投資論Ⅱ		2	
労働移動論		2	

多国籍企業論Ⅱ	2
国際経済学Ⅱ	2
開発経済学Ⅱ	2
国際協力論	2
地域統合論	2
応用ミクロ経済学	2
応用マクロ経済学	2
国際金融論Ⅱ	2
【専門基幹科目A】 (学科共通科目)	
専修英語Ⅰ	1
専修英語Ⅱ	1
基礎中国語Ⅰ	1
基礎中国語Ⅱ	1
金融論Ⅰ	2
専修英語Ⅲ	1
専修英語Ⅳ	1
会話中国語Ⅰ	1
会話中国語Ⅱ	1
検定中国語Ⅰ	1
検定中国語Ⅱ	1
Economics in EnglishⅠ	2
ヨーロッパ経済論Ⅰ	2
アジア経済論	2
アメリカ経済論Ⅰ	2
国際法Ⅰ	2
労働経済学Ⅰ (分野専門科目)	2
金融論Ⅱ	2
Economics in EnglishⅡ	2
日本経済論Ⅰ	2
日本経済論Ⅱ	2
ヨーロッパ経済論Ⅱ	2
アメリカ経済論Ⅱ	2
国際法Ⅱ	2
損害保険論	2
国際マーケティング論	2
国際取引法	2
労働経済学Ⅱ	2
中国経済論Ⅰ	2
中国経済論Ⅱ	2
韓国経済論	2
東南アジア経済論	2
関西経済論	2
【専門基幹科目B】 (学科共通科目(情報専門科目))	
コンピュータ概論Ⅰ	2
コンピュータ概論Ⅱ	2
情報データ解析入門	2
コンピュータ特修実習Ⅰ	2

コンピュータ特修実習Ⅱ	2
情報処理論Ⅰ	2
情報処理論Ⅱ	2
コンピュータ特修実習Ⅲ	2
コンピュータ特修実習Ⅳ	2
応用情報処理論Ⅰ	2
応用情報処理論Ⅱ	2
コンピュータ会計Ⅰ	2
コンピュータ会計Ⅱ	2
(学科共通科目)	
特殊講義ⅠA	1
特殊講義ⅠB	1
簿記論Ⅰ	2
簿記論Ⅱ	2
特殊講義Ⅱ	2
国際政治学	2
民法Ⅰ	2
簿記論Ⅲ	2
簿記論Ⅳ	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
専修英語Ⅴ	1
専修英語Ⅵ	1
専修英語Ⅶ	1
専修英語Ⅷ	1
ビジネス中国語Ⅰ	1
ビジネス中国語Ⅱ	1
検定中国語Ⅲ	1
検定中国語Ⅳ	1
ビジネス中国語Ⅲ	1
ビジネス中国語Ⅳ	1
外国文献研究	2
インターンシップ	2
外国語演習Ⅰ	4
外国語演習Ⅱ	4
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
行政法Ⅰ	2
行政法Ⅱ	2
*日本語文献講読	2
卒業論文	4
(分野専門科目)	
国際会計学	2
民法Ⅱ	2
西洋経済史Ⅰ	2
西洋経済史Ⅱ	2
アジア経済史Ⅰ	2
アジア経済史Ⅱ	2
近代日本経済史	2
経済地理学	2

環境経済学	2	
国際観光論	2	
外国総合演習Ⅰ	2	
外国総合演習Ⅱ	2	
外国総合演習Ⅲ	2	
異文化演習Ⅰ	2	
異文化演習Ⅱ	2	
異文化演習Ⅲ	2	
【専門基幹科目C】		
(学科共通科目(教育専門科目))		
日本史概論Ⅰ	2	
日本史概論Ⅱ	2	
外国史概論Ⅰ	2	
外国史概論Ⅱ	2	
地理学概論Ⅰ	2	
地理学概論Ⅱ	2	
地誌学概論Ⅰ	2	
地誌学概論Ⅱ	2	
哲学概論Ⅰ	2	
哲学概論Ⅱ	2	
倫理学概論Ⅰ	2	
倫理学概論Ⅱ	2	
職業指導Ⅰ		2
職業指導Ⅱ		2
英語学概論Ⅰ	2	
英語学概論Ⅱ	2	
学校英文法A	1	
学校英文法B	1	
英語音声学A	1	
英語音声学B	1	
英文法演習A	1	
英文法演習B	1	
英語文学概論Ⅰ	2	
英語文学概論Ⅱ	2	
英語文学講読A	1	
英語文学講読B	1	
実践英語会話A	1	
実践英語会話B	1	
表現英作文A	1	
表現英作文B	1	
英語実習(L L) A	1	
英語実習(L L) B	1	
英語文化概論Ⅰ	2	
英語文化概論Ⅱ	2	
【他学部単位互換科目】		
(経営学部)		
国際経営論	2	
保険論Ⅰ	2	
保険論Ⅱ	2	
証券投資論	2	

外国為替論	2	
マーケティング	2	
会社法	2	
経営史Ⅰ	2	
経営史Ⅱ	2	
商業史Ⅰ	2	
商業史Ⅱ	2	
(法学部)		
租税法A	2	
租税法B	2	
手形小切手法A	2	
手形小切手法B	2	
保険法	2	
海商法	2	
社会保障法A	2	
社会保障法B	2	
国際組織法A	2	
国際組織法B	2	
(文芸学部)		
宗教学A	2	
宗教学B	2	
西洋史A	2	
西洋史B	2	
日本文化論A	2	
日本文化論B	2	
【自由科目】		
(実学特修課程科目)		
(特修課程固有科目)		
食と風土の経済学		2
コミュニケーションセミナーⅠ		2
コミュニケーションセミナーⅡ		2
(学部専門科目)		
特殊講義ⅠA		1
特殊講義ⅠB		1
日本経済入門		2
Economics in EnglishⅠ		2
Economics in EnglishⅡ		2
インターンシップ		2
(共通教養科目)		
暮らしのなかの憲法		2
芸術鑑賞入門		2
国際化と異文化理解		2
キャリアデザイン		2
教養特殊講義A		2
教養特殊講義B		2
教養特殊講義C		2
食生活と健康		2
心と体の健康		2
自校学習		1

<履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目の各科目群からそれぞれ1単位以上を修得し、必修2単位を含む16単位以上、外国語科目（英語14単位を含む）20単位以上、合計36単位以上、また、専門科目において、学部共通科目（必修科目8単位を含む）14単位以上、学科共通科目（情報専門科目8単位を含む）28単位以上、とは別に学部共通科目・学科共通科目・分野科目・他分野科目・他学部単位互換科目（8単位まで）50単位以上、合計92単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位として認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

大学コンソーシアム大阪単位互換科目は他学部単位互換科目と合わせて8単位まで加算することができる。

別表(1)ー3

経営学部授業科目表

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[共通教養科目]				
基礎ゼミⅠ	1	2		
人権と社会1	1		2	
人権と社会2	1		2	
暮らしのなかの憲法	1		2	
現代社会と倫理	1		2	
心理と行動	1		2	
現代の社会論	1		2	
芸術鑑賞入門	1		2	
哲学と人間・社会	1		2	
現代社会と法	1		2	
現代社会と政治	1		2	
基礎ゼミⅡ	1		2	
情報処理基礎	1		2	
キャリアデザイン	1		2	
日本語の技法	1		2	
生命の科学	1		2	
環境科学	1		2	
思考の技術	1		2	
経営・経済のための数学	1		2	
ビジネス実務講座	1		2	
教養特殊講義	1		2	
生涯スポーツ1	1		1	
生涯スポーツ2	1		1	
健康とスポーツの科学	1		2	
地域と環境の地理学	1		2	
国際化と異文化理解	1		2	

日本近現代史	1		2
世界近現代史	1		2
日本文化論	1		2
教養特殊講義A	1		2
教養特殊講義B	1		2
教養特殊講義C	1		2
[第一外国語科目] (英語) (基幹科目)			
英語1 A	1	2	
英語1 B	1	2	
英語2 A	2	1	
英語2 B	2	1	
英語3 A	3	1	
英語3 B	3	1	
オーラルイングリッシュ1 A	1	1	
オーラルイングリッシュ1 B	1	1	
オーラルイングリッシュ2 A	2		1
オーラルイングリッシュ2 B	2		1
オーラルイングリッシュ3 A	3		1
オーラルイングリッシュ3 B	3		1
(発展科目)			
TOEIC A	2		1
TOEIC B	2		1
TOEIC 上級A	2		1
TOEIC 上級B	2		1
TOEFL A	2		1
TOEFL B	2		1
カレッジ・グラマーA	2		1
カレッジ・グラマーB	2		1
ライティングA	2		1
ライティングB	2		1
ライティング上級A	2		1
ライティング上級B	2		1
ディスカッションA	2		1
ディスカッションB	2		1
イングリッシュカルチャーA	3		1
イングリッシュカルチャーB	3		1
スポーツ英語A	2		1
スポーツ英語B	2		1
海外語学研修 (英語)	1～4		2
[第二外国語] (基幹科目)			
ドイツ語総合1	1		1
ドイツ語総合2	1		1
ドイツ語総合3	2		1
ドイツ語総合4	2		1
フランス語総合1	1		1
フランス語総合2	1		1
フランス語総合3	2		1
フランス語総合4	2		1

スペイン語総合1	1		1
スペイン語総合2	1		1
スペイン語総合3	2		1
スペイン語総合4	2		1
中国語総合1	1		1
中国語総合2	1		1
中国語総合3	2		1
中国語総合4	2		1
韓国語総合1	1		1
韓国語総合2	1		1
韓国語総合3	2		1
韓国語総合4	2		1
(発展科目)			
ドイツ語コミュニケーション1	2		1
ドイツ語コミュニケーション2	2		1
ドイツ語コミュニケーション3	3		1
ドイツ語コミュニケーション4	3		1
フランス語コミュニケーション1	2		1
フランス語コミュニケーション2	2		1
フランス語コミュニケーション3	3		1
フランス語コミュニケーション4	3		1
スペイン語コミュニケーション1	2		1
スペイン語コミュニケーション2	2		1
中国語コミュニケーション1	2		1
中国語コミュニケーション2	2		1
中国語コミュニケーション3	3		1
中国語コミュニケーション4	3		1
韓国語コミュニケーション1	2		1
韓国語コミュニケーション2	2		1
韓国語コミュニケーション3	3		1
韓国語コミュニケーション4	3		1
ドイツ語カルチャーセミナーA	3		1
ドイツ語カルチャーセミナーB	3		1
フランス語カルチャーセミナーA	3		1
フランス語カルチャーセミナーB	3		1
中国語カルチャーセミナーA	3		1
中国語カルチャーセミナーB	3		1
韓国語カルチャーセミナーA	3		1
韓国語カルチャーセミナーB	3		1
海外語学研修(ドイツ語)	1～4		1
海外語学研修(フランス語)	1～4		1
海外語学研修(スペイン語)	1～4		1
海外語学研修(中国語)	1～4		1
海外語学研修(韓国語)	1～4		1

経営学科 企業経営コース

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[基礎科目]				

経営学A	1	2
経営学B	1	2
商学A	1	2
商学B	1	2
簿記論A	1	2
簿記論B	1	2
統計学	1	2
マーケティング	1	2
コミュニケーション基礎	1	2
会計学基礎論	1	2
ミクロ経済学	1	2
マクロ経済学	1	2
ITビジネス入門	1	2
[情報科目]		
コンピュータ概論	1	2
情報倫理	1	2
コンピュータ実習	1	2
経営情報論	2	2
情報管理論	2	2
データ分析論	2	2
情報分析論	2	2
コンピュータ特修実習A	2	2
コンピュータ特修実習B	2	2
[基幹科目]		
経営管理論	2	2
経営組織論	2	2
組織行動論	2	2
人的資源管理論	2	2
ダイバーシティ経営論	2	2
生産管理論	2	2
経営史	2	2
現代日本経営史	2	2
経営数学A	2	2
経営数学B	2	2
企業行動論	2	2
企業発展論	2	2
マネジメント・コントロール	2	2
意思決定論	2	2
企業形態論	2	2
経営統計論A	2	2
経営統計論B	2	2
コーポレートガバナンス論	2	2
国際経営論	2	2
経営科学	2	2
財務管理論	2	2
投資決定論	2	2
マーケティング戦略論	2	2
中国ビジネス論	2	2
多国籍企業論	2	2
公共経営論	2	2

ビジネス・エシックス	2		2
消費者行動論	2		2
比較経営論	2		2
サービス経営論	2		2
ネットビジネス論	2		2
経営戦略論	2		2
事業システム論	2		2
財務分析	3		2
企業分析	3		2
非営利組織経営論	3		2
公企業経営論	3		2
ベンチャービジネス論	3		2
中小企業経営論	3		2
地域経営論	3		2
環境経営論	3		2
企業論	3		2
イノベーション論	3		2
ネットワーク産業論	3		2
技術経営論	3		2
西洋経営史	3		2
新興国ビジネス論	3		2
サービスサイエンス	3		2
コンテンツビジネス論	3		2
ビジネス実践A	3		2
ビジネス実践B	3		2
[関連科目]			
日本史概論Ⅰ	1		2
日本史概論Ⅱ	1		2
外国史概論Ⅰ	1		2
外国史概論Ⅱ	1		2
地理学概論Ⅰ	1		2
地理学概論Ⅱ	1		2
地誌学概論Ⅰ	1		2
地誌学概論Ⅱ	1		2
哲学概論Ⅰ	1		2
哲学概論Ⅱ	1		2
倫理学概論Ⅰ	1		2
倫理学概論Ⅱ	1		2
財務会計Ⅰ	2		2
原価計算Ⅰ	2		2
ビジネスエコノミクス	2		2
日本経済論	2		2
民法Ⅰ	2		2
民法Ⅱ	2		2
秘書学Ⅰ	2		2
秘書学Ⅱ	2		2
国際政治学Ⅰ	2		2
国際政治学Ⅱ	2		2
商法総則・商行為	3		2
会社法	3		2

外国文献研究 A	3		2	
外国文献研究 B	3		2	
国際経済論	3		2	
地域経済論	3		2	
特殊講義 A	1		2	
特殊講義 B	1		2	
特殊講義 C	1		2	
特殊講義 D	1		2	
特殊講義 E	1		2	
特殊講義 F	1		2	
特殊講義 G	2		2	
特殊講義 H	2		2	
特殊講義 I	2		2	
特殊講義 J	2		2	
特殊講義 K	2		2	
特殊講義 L	2		2	
特殊講義 M	3		2	
特殊講義 N	3		2	
特殊講義 O	3		2	
特殊講義 P	3		2	
特殊講義 Q	3		2	
特殊講義 R	3		2	
[総合科目]				
演習 I	3	4		
演習 II	4	4		
[自由科目]				
秘書実務 I	3			2
秘書実務 II	3			2
インターンシップ	1			2
旅行事業人材育成プログラム	3			2

<履修方法>

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

- ・ 共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ I の 2 単位を含む）
- ・ 外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語 2 単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
- ・ 基礎科目（16単位以上）
- ・ 情報科目（10単位以上）
- ・ 基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
- ・ 総合科目（8単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	配当年次	単位数
職業指導Ⅰ	2	2
職業指導Ⅱ	2	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

[第一外国語科目]（英語）

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
※English Seminar 1 A	1	1		
※English Seminar 1 B	1	1		
※English Seminar 2 A	2	1		
※English Seminar 2 B	2	1		
※Business English 1 A	1	2		
※Business English 1 B	1	2		
※Business English 2 A	2	2		
※Business English 2 B	2	2		
※Business Skills A	3	1		
※Business Skills B	3	1		
※TOEFL Preparation 1	1		1	
※TOEFL Preparation 2	1		1	
※TOEFL Preparation 3	2		1	
※TOEFL Preparation 4	2		1	
※TOEIC Preparation 1	2		1	
※TOEIC Preparation 2	2		1	
※TOEIC Preparation 3	3		1	
※TOEIC Preparation 4	3		1	
※Study Abroad Preparation	2		1	
※English Culture A	3		1	
※English Culture B	3		1	
海外語学研修（英語）	1～4		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[関連科目]				
※Management in English	3		2	
※Tourism in English	3		2	
※Marketing in English	3		2	
※International Business in English	3		2	
※Information Technology in Business in	3		2	

English				
※Basic Accounting in English	3		2	
※Advanced Accounting in English	3		2	
※Information and Communication Theory in English	3		2	
※Business Ethics in English	3		2	
※Economics in English	3		2	

I I Pの履修について

- (1) I I Pは「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」から構成される。
- (2) I I Pの科目のうち、「I I P一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。I I Pの科目のうち、「I I P専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。
- (3) I I Pの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「I I P一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、English Seminar 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Communication 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Skills A、Bを必ず修得しなければならない。また、「I I P専門科目」については8単位以上修得しなければならない。
- (4) 本学主催の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の2単位を認定する。
- (5) I I Pに登録した学生はI I Pプログラム以外の第一外国語を履修することはできない（「I I P一般英語科目」が第一外国語科目となる）。I I Pに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。
- (6) I I Pに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「I I P一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「I I P一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「I I P専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

経営学科 I Tビジネスコース

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[基礎科目]				
経営学A	1		2	
経営学B	1		2	
商学A	1		2	
商学B	1		2	
簿記論A	1		2	
簿記論B	1		2	
統計学	1		2	
マーケティング	1		2	
コミュニケーション基礎	1		2	
会計学基礎論	1		2	
ミクロ経済学	1		2	
マクロ経済学	1		2	
I Tビジネス入門	1		2	
[情報科目]				
コンピュータ概論	1		2	
情報倫理	1		2	
コンピュータ実習	1		2	

経営情報論	2	2
情報管理論	2	2
データ分析論	2	2
情報分析論	2	2
コンピュータ特修実習 A	2	2
コンピュータ特修実習 B	2	2
[基幹科目]		
I Tビジネス論	2	2
ネットビジネス論	2	2
ネットビジネス基礎	2	2
B 2 Bビジネス基礎	2	2
ビジネス・シミュレーション	2	2
情報戦略論	2	2
企業と情報戦略	2	2
システム企画論	2	2
システム運用論	2	2
システム設計論基礎	2	2
システム設計論応用	2	2
プログラム設計論 I	2	2
プログラム設計論 II	2	2
プログラミング論基礎	2	2
プログラミング論応用	2	2
コンピュータ特修実習 C	2	2
コンピュータ特修実習 D	2	2
情報システム入門	2	2
経営科学	2	2
I Tビジネス・プランニング論 I	3	2
I Tビジネス・プランニング論 II	3	2
B 2 Bビジネス応用	3	2
情報セキュリティ論	3	2
電子商取引法	3	2
会計情報論	3	2
コンテンツビジネス論	3	2
プロジェクト管理論	3	2
プロジェクト管理実践	3	2
データベース設計論	3	2
データベース構築論	3	2
アプリケーション構築論 I	3	2
アプリケーション構築論 II	3	2
I Tビジネス特修実習 A	3	2
I Tビジネス特修実習 B	3	2
I Tビジネス特修実習 C	3	2
I Tビジネス特修実習 D	3	2
情報ネットワーク論	3	2
情報システム論	3	2
[関連科目]		
日本史概論 I	1	2
日本史概論 II	1	2
外国史概論 I	1	2
外国史概論 II	1	2

地理学概論Ⅰ	1		2	
地理学概論Ⅱ	1		2	
地誌学概論Ⅰ	1		2	
地誌学概論Ⅱ	1		2	
哲学概論Ⅰ	1		2	
哲学概論Ⅱ	1		2	
倫理学概論Ⅰ	1		2	
倫理学概論Ⅱ	1		2	
財務会計Ⅰ	2		2	
原価計算Ⅰ	2		2	
ビジネスエコノミクス	2		2	
日本経済論	2		2	
民法Ⅰ	2		2	
民法Ⅱ	2		2	
秘書学Ⅰ	2		2	
秘書学Ⅱ	2		2	
国際政治学Ⅰ	2		2	
国際政治学Ⅱ	2		2	
商法総則・商行為	3		2	
会社法	3		2	
外国文献研究A	3		2	
外国文献研究B	3		2	
国際経済論	3		2	
地域経済論	3		2	
特殊講義A	1		2	
特殊講義B	1		2	
特殊講義C	1		2	
特殊講義D	1		2	
特殊講義E	1		2	
特殊講義F	1		2	
特殊講義G	2		2	
特殊講義H	2		2	
特殊講義I	2		2	
特殊講義J	2		2	
特殊講義K	2		2	
特殊講義L	2		2	
特殊講義M	3		2	
特殊講義N	3		2	
特殊講義O	3		2	
特殊講義P	3		2	
特殊講義Q	3		2	
特殊講義R	3		2	
[総合科目]				
演習Ⅰ	3	4		
演習Ⅱ	4	4		
[自由科目]				
秘書実務Ⅰ	3			2
秘書実務Ⅱ	3			2
インターンシップ	1			2
旅行事業人材育成プログラム	3			2

<履修方法>

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

- ・ 共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの2単位を含む）
- ・ 外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語2単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
- ・ 基礎科目（16単位以上）
- ・ 情報科目（10単位以上）
- ・ 基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
- ・ 総合科目（8単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	配当年次	単位数
職業指導Ⅰ	2	2
職業指導Ⅱ	2	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

[第一外国語科目]（英語）

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
※English Seminar 1 A	1	1		
※English Seminar 1 B	1	1		
※English Seminar 2 A	2	1		
※English Seminar 2 B	2	1		
※Business English 1 A	1	2		
※Business English 1 B	1	2		
※Business English 2 A	2	2		
※Business English 2 B	2	2		
※Business Skills A	3	1		
※Business Skills B	3	1		
※TOEFL Preparation 1	1		1	
※TOEFL Preparation 2	1		1	
※TOEFL Preparation 3	2		1	

※TOEFL Preparation 4	2		1	
※TOEIC Preparation 1	2		1	
※TOEIC Preparation 2	2		1	
※TOEIC Preparation 3	3		1	
※TOEIC Preparation 4	3		1	
※Study Abroad Preparation	2		1	
※English Culture A	3		1	
※English Culture B	3		1	
海外語学研修（英語）	1～4		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[関連科目]				
※Management in English	3		2	
※Tourism in English	3		2	
※Marketing in English	3		2	
※International Business in English	3		2	
※Information Technology in Business in English	3		2	
※Basic Accounting in English	3		2	
※Advanced Accounting in English	3		2	
※Information and Communication Theory in English	3		2	
※Business Ethics in English	3		2	
※Economics in English	3		2	

I I Pの履修について

- (1) I I Pは「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」から構成される。
- (2) I I Pの科目のうち、「I I P一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。I I Pの科目のうち、「I I P専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。
- (3) I I Pの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「I I P一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、English Seminar 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Communication 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Skills A、Bを必ず修得しなければならない。また、「I I P専門科目」については8単位以上修得しなければならない。
- (4) 本学主催の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の2単位を認定する。
- (5) I I Pに登録した学生はI I Pプログラム以外の第一外国語を履修することはできない（「I I P一般英語科目」が第一外国語科目となる）。I I Pに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。
- (6) I I Pに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「I I P一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「I I P一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「I I P専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

経営学科 スポーツマネジメントコース

授業科目	配当年次	単位数
------	------	-----

		必修	選択	自由
[基礎科目]				
経営学A	1		2	
経営学B	1		2	
商学A	1		2	
商学B	1		2	
簿記論A	1		2	
簿記論B	1		2	
統計学	1		2	
マーケティング	1		2	
コミュニケーション基礎	1		2	
会計学基礎論	1		2	
ミクロ経済学	1		2	
マクロ経済学	1		2	
I Tビジネス入門	1		2	
[情報科目]				
コンピュータ概論	1		2	
情報倫理	1		2	
コンピュータ実習	1		2	
経営情報論	2		2	
情報管理論	2		2	
データ分析論	2		2	
情報分析論	2		2	
コンピュータ特修実習A	2		2	
コンピュータ特修実習B	2		2	
[基幹科目]				
スポーツ科学概論	1		2	
スポーツ心理学	1		2	
スポーツ指導論	1		2	
スポーツ医学	1		2	
キャリア形成論	1		2	
スポーツコミュニケーション論	1		2	
スポーツビジネス論	1		2	
囲碁で学ぶ経営科学入門	1		2	
トレーニング科学	2		2	
トレーニング実習	2		1	
健康管理概論	2		2	
機能解剖学	2		2	
スポーツ生理学	2		2	
水泳・水中運動実習	2		1	
エアロビックダンス実習	2		1	
体力測定評価(理論)	2		2	
体力測定評価(実習)	2		1	
発育発達学	2		2	
救急処置実習	2		2	
スポーツと情報	2		2	
経営管理論	2		2	
経営組織論	2		2	
組織行動論	2		2	
経営史	2		2	

現代日本経営史	2	2
マーケティング戦略論 I	2	2
マーケティング戦略論 II	2	2
流通システム論 I	2	2
流通システム論 II	2	2
商業史 I	2	2
商業史 II	2	2
原価計算 I	2	2
原価計算 II	2	2
財務会計 I	2	2
財務会計 II	2	2
リーダーシップ論	2	2
健康づくりと運動プログラム	3	2
スポーツ経営論	3	2
スポーツ社会学	3	2
スポーツ行政論	3	2
スポーツ栄養学	3	2
人的資源管理論	3	2
ダイバーシティ経営論	3	2
財務管理論	3	2
投資決定論	3	2
ファイナンス論 I	3	2
ファイナンス論 II	3	2
保険論 I	3	2
保険論 II	3	2
交通論 I	3	2
交通論 II	3	2
国際経営論	3	2
コーチング	3	2
[関連科目]		
日本史概論 I	1	2
日本史概論 II	1	2
外国史概論 I	1	2
外国史概論 II	1	2
地理学概論 I	1	2
地理学概論 II	1	2
地誌学概論 I	1	2
地誌学概論 II	1	2
哲学概論 I	1	2
哲学概論 II	1	2
倫理学概論 I	1	2
倫理学概論 II	1	2
ビジネスエコノミクス	2	2
日本経済論	2	2
民法 I	2	2
民法 II	2	2
秘書学 I	2	2
秘書学 II	2	2
国際政治学 I	2	2
国際政治学 II	2	2

商法総則・商行為	3		2	
会社法	3		2	
外国文献研究A	3		2	
外国文献研究B	3		2	
国際経済論	3		2	
地域経済論	3		2	
特殊講義A	1		2	
特殊講義B	1		2	
特殊講義C	1		2	
特殊講義D	1		2	
特殊講義E	1		2	
特殊講義F	1		2	
特殊講義G	2		2	
特殊講義H	2		2	
特殊講義I	2		2	
特殊講義J	2		2	
特殊講義K	2		2	
特殊講義L	2		2	
特殊講義M	3		2	
特殊講義N	3		2	
特殊講義O	3		2	
特殊講義P	3		2	
特殊講義Q	3		2	
特殊講義R	3		2	
[総合科目]				
演習I	3	4		
演習II	4	4		
[自由科目]				
秘書実務I	3			2
秘書実務II	3			2
インターンシップ	1			2
旅行事業人材育成プログラム	3			2

#### <履修方法>

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

- ・ 共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ I の 2 単位を含む）
- ・ 外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語 2 単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
- ・ 基礎科目（16単位以上）
- ・ 情報科目（10単位以上）
- ・ 基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
- ・ 総合科目（8単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	配当年次	単位数
職業指導Ⅰ	2	2
職業指導Ⅱ	2	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

[第一外国語科目]（英語）

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
※English Seminar 1 A	1	1		
※English Seminar 1 B	1	1		
※English Seminar 2 A	2	1		
※English Seminar 2 B	2	1		
※Business English 1 A	1	2		
※Business English 1 B	1	2		
※Business English 2 A	2	2		
※Business English 2 B	2	2		
※Business Skills A	3	1		
※Business Skills B	3	1		
※TOEFL Preparation 1	1		1	
※TOEFL Preparation 2	1		1	
※TOEFL Preparation 3	2		1	
※TOEFL Preparation 4	2		1	
※TOEIC Preparation 1	2		1	
※TOEIC Preparation 2	2		1	
※TOEIC Preparation 3	3		1	
※TOEIC Preparation 4	3		1	
※Study Abroad Preparation	2		1	
※English Culture A	3		1	
※English Culture B	3		1	
海外語学研修（英語）	1～4		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[関連科目]				
※Management in English	3		2	
※Tourism in English	3		2	
※Marketing in English	3		2	

※International Business in English	3		2	
※Information Technology in Business in English	3		2	
※Basic Accounting in English	3		2	
※Advanced Accounting in English	3		2	
※Information and Communication Theory in English	3		2	
※Business Ethics in English	3		2	
※Economics in English	3		2	

#### I I Pの履修について

- (1) I I Pは「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」から構成される。
- (2) I I Pの科目のうち、「I I P一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。I I Pの科目のうち、「I I P専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。
- (3) I I Pの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「I I P一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、English Seminar 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Communication 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Skills A、Bを必ず修得しなければならない。また、「I I P専門科目」については8単位以上修得しなければならない。
- (4) 本学主催の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の2単位を認定する。
- (5) I I Pに登録した学生はI I Pプログラム以外の第一外国語を履修することはできない（「I I P一般英語科目」が第一外国語科目となる）。I I Pに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。
- (6) I I Pに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「I I P一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「I I P一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「I I P専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

#### 商学科 マーケティング戦略コース

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[基礎科目]				
経営学A	1		2	
経営学B	1		2	
商学A	1		2	
商学B	1		2	
簿記論A	1		2	
簿記論B	1		2	
統計学	1		2	
マーケティング	1		2	
コミュニケーション基礎	1		2	
会計学基礎論	1		2	
ミクロ経済学	1		2	
マクロ経済学	1		2	
[情報科目]				
コンピュータ概論	1		2	
情報倫理	1		2	

コンピュータ実習	1	2
経営情報論	2	2
情報管理論	2	2
データ分析論	2	2
情報分析論	2	2
コンピュータ特修実習 A	2	2
コンピュータ特修実習 B	2	2
[基幹科目]		
マーケティング戦略論 I	2	2
マーケティング戦略論 II	2	2
消費者行動論 I	2	2
消費者行動論 II	2	2
流通システム論 I	2	2
流通システム論 II	2	2
商業史 I	2	2
商業史 II	2	2
貿易論 I	2	2
貿易論 II	2	2
ファイナンス論 I	2	2
ファイナンス論 II	2	2
保険論 I	2	2
保険論 II	2	2
交通論 I	2	2
交通論 II	2	2
サービスマネジメント論 I	2	2
サービスマネジメント論 II	2	2
観光事業論 I	2	2
観光事業論 II	2	2
貿易実務論 I	2	2
貿易実務論 II	2	2
ロジスティクス戦略論	3	2
流通企業戦略論	3	2
流通政策論	3	2
チャネル戦略論	3	2
製品戦略論	3	2
価格戦略論	3	2
ブランド論	3	2
広告論	3	2
マーケティングリサーチ論	3	2
マーケティングゲーム	3	2
Webマーケティング	3	2
E-リテイリング	3	2
サービス・マーケティング	3	2
デザインマーケティング	3	2
生産財マーケティング	3	2
サービス産業論	3	2
マーケティング・ケーススタディ	3	2
リレーションシップマーケティング	3	2
国際マーケティング I	3	2
国際マーケティング II	3	2

[関連科目]				
日本史概論 I	1		2	
日本史概論 II	1		2	
外国史概論 I	1		2	
外国史概論 II	1		2	
地理学概論 I	1		2	
地理学概論 II	1		2	
地誌学概論 I	1		2	
地誌学概論 II	1		2	
哲学概論 I	1		2	
哲学概論 II	1		2	
倫理学概 I	1		2	
倫理学概論 II	1		2	
ビジネスエコノミクス	2		2	
日本経済論	2		2	
民法 I	2		2	
民法 II	2		2	
秘書学 I	2		2	
秘書学 II	2		2	
財務会計 I	2		2	
財務会計 II	2		2	
上級簿記 I	2		2	
上級簿記 II	2		2	
国際政治学 I	2		2	
国際政治学 II	2		2	
商法総則・商行為	3		2	
会社法	3		2	
外国文献研究 A	3		2	
外国文献研究 B	3		2	
国際経済論	3		2	
地域経済論	3		2	
特殊講義 A	1		2	
特殊講義 B	1		2	
特殊講義 C	1		2	
特殊講義 D	1		2	
特殊講義 E	1		2	
特殊講義 F	1		2	
特殊講義 G	2		2	
特殊講義 H	2		2	
特殊講義 I	2		2	
特殊講義 J	2		2	
特殊講義 K	2		2	
特殊講義 L	2		2	
特殊講義 M	3		2	
特殊講義 N	3		2	
特殊講義 O	3		2	
特殊講義 P	3		2	
特殊講義 Q	3		2	
特殊講義 R	3		2	
[総合科目]				

演習Ⅰ	3	4		
演習Ⅱ	4	4		
[自由科目]				
秘書実務Ⅰ	3			2
秘書実務Ⅱ	3			2
インターンシップ	1			2
旅行事業人材育成プログラム	3			2

<履修方法>

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

- ・ 共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの2単位を含む）
- ・ 外国語科目（18単位以上英語12単位以上、第二外国語2単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
- ・ 基礎科目（16単位以上）
- ・ 情報科目（10単位以上）
- ・ 基幹科目・関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
- ・ 総合科目（8単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	配当年次	単位数
職業指導Ⅰ	2	2
職業指導Ⅱ	2	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

[第一外国語科目]（英語）

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
※English Seminar 1 A	1	1		
※English Seminar 1 B	1	1		
※English Seminar 2 A	2	1		
※English Seminar 2 B	2	1		
※Business English 1 A	1	2		
※Business English 1 B	1	2		

※Business English 2 A	2	2		
※Business English 2 B	2	2		
※Business Skills A	3	1		
※Business Skills B	3	1		
※TOEFL Preparation 1	1		1	
※TOEFL Preparation 2	1		1	
※TOEFL Preparation 3	2		1	
※TOEFL Preparation 4	2		1	
※TOEIC Preparation 1	2		1	
※TOEIC Preparation 2	2		1	
※TOEIC Preparation 3	3		1	
※TOEIC Preparation 4	3		1	
※Study Abroad Preparation	2		1	
※English Culture A	3		1	
※English Culture B	3		1	
海外語学研修（英語）	1～4		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[関連科目]				
※Management in English	3		2	
※Tourism in English	3		2	
※Marketing in English	3		2	
※International Business in English	3		2	
※Information Technology in Business in English	3		2	
※Basic Accounting in English	3		2	
※Advanced Accounting in English	3		2	
※Information and Communication Theory in English	3		2	
※Business Ethics in English	3		2	
※Economics in English	3		2	

#### IIIPの履修について

- (1) IIIPは「IIIP一般英語科目」と「IIIP専門科目」から構成される。
- (2) IIIPの科目のうち、「IIIP一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。IIIPの科目のうち、「IIIP専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。
- (3) IIIPの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「IIIP一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、English Seminar 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Communication 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Skills A、Bを必ず修得しなければならない。また、「IIIP専門科目」については8単位以上修得しなければならない。
- (4) 本学主催の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の2単位を認定する。
- (5) IIIPに登録した学生はIIIPプログラム以外の第一外国語を履修することはできない（「IIIP一般英語科目」が第一外国語科目となる）。IIIPに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。
- (6) IIIPに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「I

「I P一般英語科目」と「I I P専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「I I P一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「I I P一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとす。また、修得した「I I P専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

商学科 観光・サービスコース

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[基礎科目]				
経営学A	1		2	
経営学B	1		2	
商学A	1		2	
商学B	1		2	
簿記論A	1		2	
簿記論B	1		2	
統計学	1		2	
マーケティング	1		2	
コミュニケーション基礎	1		2	
会計学基礎論	1		2	
ミクロ経済学	1		2	
マクロ経済学	1		2	
[情報科目]				
コンピュータ概論	1		2	
情報倫理	1		2	
コンピュータ実習	1		2	
経営情報論	2		2	
情報管理論	2		2	
データ分析論	2		2	
情報分析論	2		2	
コンピュータ特修実習A	2		2	
コンピュータ特修実習B	2		2	
[基幹科目]				
マーケティング戦略論Ⅰ	2		2	
マーケティング戦略論Ⅱ	2		2	
消費者行動論Ⅰ	2		2	
消費者行動論Ⅱ	2		2	
サービスマネジメント論Ⅰ	2		2	
サービスマネジメント論Ⅱ	2		2	
観光事業論Ⅰ	2		2	
観光事業論Ⅱ	2		2	
交通論Ⅰ	2		2	
交通論Ⅱ	2		2	
保険論Ⅰ	2		2	
保険論Ⅱ	2		2	
ファイナンス論Ⅰ	2		2	
ファイナンス論Ⅱ	2		2	
流通システム論Ⅰ	2		2	
流通システム論Ⅱ	2		2	
商業史Ⅰ	2		2	

商業史Ⅱ	2	2
貿易論Ⅰ	2	2
貿易論Ⅱ	2	2
貿易実務論Ⅰ	2	2
貿易実務論Ⅱ	2	2
サービス産業論	3	2
サービス・マーケティング	3	2
サービスサイエンス	3	2
ロジスティクスサービス論	3	2
旅行産業論	3	2
旅行業務論	3	2
ホテルマネジメント論	3	2
ホテル戦略論	3	2
レジャー産業論	3	2
フードビジネス論	3	2
航空交通論	3	2
観光産業分析	3	2
観光資源論	3	2
国際観光論	3	2
地域観光論	3	2
観光マーケティング	3	2
外国為替論	3	2
リレーションシップマーケティング	3	2
デザインマーケティング	3	2
観光・サービス各論A	3	2
観光・サービス各論B	3	2
[関連科目]		
日本史概論Ⅰ	1	2
日本史概論Ⅱ	1	2
外国史概論Ⅰ	1	2
外国史概論Ⅱ	1	2
地理学概論Ⅰ	1	2
地理学概論Ⅱ	1	2
地誌学概論Ⅰ	1	2
地誌学概論Ⅱ	1	2
哲学概論Ⅰ	1	2
哲学概論Ⅱ	1	2
倫理学概論Ⅰ	1	2
倫理学概論Ⅱ	1	2
ビジネスエコノミクス	2	2
日本経済論	2	2
民法Ⅰ	2	2
民法Ⅱ	2	2
秘書学Ⅰ	2	2
秘書学Ⅱ	2	2
財務会計Ⅰ	2	2
財務会計Ⅱ	2	2
上級簿記Ⅰ	2	2
上級簿記Ⅱ	2	2
国際政治学Ⅰ	2	2

国際政治学Ⅱ	2		2	
商法総則・商行為	3		2	
会社法	3		2	
外国文献研究A	3		2	
外国文献研究B	3		2	
国際経済論	3		2	
地域経済論	3		2	
特殊講義A	1		2	
特殊講義B	1		2	
特殊講義C	1		2	
特殊講義D	1		2	
特殊講義E	1		2	
特殊講義F	1		2	
特殊講義G	2		2	
特殊講義H	2		2	
特殊講義I	2		2	
特殊講義J	2		2	
特殊講義K	2		2	
特殊講義L	2		2	
特殊講義M	3		2	
特殊講義N	3		2	
特殊講義O	3		2	
特殊講義P	3		2	
特殊講義Q	3		2	
特殊講義R	3		2	
[総合科目]				
演習Ⅰ	3	4		
演習Ⅱ	4	4		
[自由科目]				
秘書実務Ⅰ	3			2
秘書実務Ⅱ	3			2
インターンシップ	1			2
旅行事業人材育成プログラム	3			2

#### <履修方法>

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

- ・ 共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの2単位を含む）
- ・ 外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語2単位以上を含む。ただし、インターンシップ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
- ・ 基礎科目（16単位以上）
- ・ 情報科目（10単位以上）
- ・ 基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース・他分野基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）

※印科目はインターンシップ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

- ・ 総合科目（8単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	配当年次	単位数
職業指導Ⅰ	2	2
職業指導Ⅱ	2	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

[第一外国語科目]（英語）

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
※English Seminar 1 A	1	1		
※English Seminar 1 B	1	1		
※English Seminar 2 A	2	1		
※English Seminar 2 B	2	1		
※Business English 1 A	1	2		
※Business English 1 B	1	2		
※Business English 2 A	2	2		
※Business English 2 B	2	2		
※Business Skills A	3	1		
※Business Skills B	3	1		
※TOEFL Preparation 1	1		1	
※TOEFL Preparation 2	1		1	
※TOEFL Preparation 3	2		1	
※TOEFL Preparation 4	2		1	
※TOEIC Preparation 1	2		1	
※TOEIC Preparation 2	2		1	
※TOEIC Preparation 3	3		1	
※TOEIC Preparation 4	3		1	
※Study Abroad Preparation	2		1	
※English Culture A	3		1	
※English Culture B	3		1	
海外語学研修（英語）	1～4		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[関連科目]				
※Management in English	3		2	
※Tourism in English	3		2	
※Marketing in English	3		2	

※International Business in English	3		2	
※Information Technology in Business in English	3		2	
※Basic Accounting in English	3		2	
※Advanced Accounting in English	3		2	
※Information and Communication Theory in English	3		2	
※Business Ethics in English	3		2	
※Economics in English	3		2	

#### I I Pの履修について

- (1) I I Pは「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」から構成される。
- (2) I I Pの科目のうち、「I I P一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。I I Pの科目のうち、「I I P専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。
- (3) I I Pの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「I I P一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、English Seminar 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Communication 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Skills A、Bを必ず修得しなければならない。また、「I I P専門科目」については8単位以上修得しなければならない。
- (4) 本学主催の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の2単位を認定する。
- (5) I I Pに登録した学生はI I Pプログラム以外の第一外国語を履修することはできない（「I I P一般英語科目」が第一外国語科目となる）。I I Pに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。
- (6) I I Pに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「I I P一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「I I P一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「I I P専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

商学科 貿易・ファイナンスコース

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[基礎科目]				
経営学A	1		2	
経営学B	1		2	
商学A	1		2	
商学B	1		2	
簿記論A	1		2	
簿記論B	1		2	
統計学	1		2	
マーケティング	1		2	
コミュニケーション基礎	1		2	
会計学基礎論	1		2	
ミクロ経済学	1		2	
マクロ経済学	1		2	
[情報科目]				
コンピュータ概論	1		2	
情報倫理	1		2	

コンピュータ実習	1	2
経営情報論	2	2
情報管理論	2	2
データ分析論	2	2
情報分析論	2	2
コンピュータ特修実習 A	2	2
コンピュータ特修実習 B	2	2
[基幹科目]		
貿易論 I	2	2
貿易論 II	2	2
ファイナンス論 I	2	2
ファイナンス論 II	2	2
保険論 I	2	2
保険論 II	2	2
交通論 I	2	2
交通論 II	2	2
流通システム論 I	2	2
流通システム論 II	2	2
マーケティング戦略論 I	2	2
マーケティング戦略論 II	2	2
消費者行動論 I	2	2
消費者行動論 II	2	2
商業史 I	2	2
商業史 II	2	2
サービスマネジメント論 I	2	2
サービスマネジメント論 II	2	2
観光事業論 I	2	2
観光事業論 II	2	2
貿易実務論 I	2	2
貿易実務論 II	2	2
多国籍企業論	3	2
総合商社論	3	2
国際経営論	3	2
国際ロジスティクス論	3	2
貿易英語	3	2
上級貿易英語	3	2
外国為替論	3	2
海外経済事情 A	3	2
海外経済事情 B	3	2
証券市場論	3	2
証券投資論	3	2
生命保険論	3	2
損害保険論	3	2
銀行論	3	2
コーポレートファイナンス論	3	2
ファイナンシャルプランニング論	3	2
タックスプランニング論	3	2
リスクマネジメント論	3	2
国際マーケティング I	3	2
国際マーケティング II	3	2

[関連科目]				
日本史概論Ⅰ	1		2	
日本史概論Ⅱ	1		2	
外国史概論Ⅰ	1		2	
外国史概論Ⅱ	1		2	
地理学概論Ⅰ	1		2	
地理学概論Ⅱ	1		2	
地誌学概論Ⅰ	1		2	
地誌学概論Ⅱ	1		2	
哲学概論Ⅰ	1		2	
哲学概論Ⅱ	1		2	
倫理学概論Ⅰ	1		2	
倫理学概論Ⅱ	1		2	
ビジネスエコノミクス	2		2	
日本経済論	2		2	
民法Ⅰ	2		2	
民法Ⅱ	2		2	
秘書学Ⅰ	2		2	
秘書学Ⅱ	2		2	
財務会計Ⅰ	2		2	
財務会計Ⅱ	2		2	
上級簿記Ⅰ	2		2	
上級簿記Ⅱ	2		2	
国際政治学Ⅰ	2		2	
国際政治学Ⅱ	2		2	
商法総則・商行為	3		2	
会社法	3		2	
外国文献研究A	3		2	
外国文献研究B	3		2	
国際経済論	3		2	
地域経済論	3		2	
特殊講義A	1		2	
特殊講義B	1		2	
特殊講義C	1		2	
特殊講義D	1		2	
特殊講義E	1		2	
特殊講義F	1		2	
特殊講義G	2		2	
特殊講義H	2		2	
特殊講義I	2		2	
特殊講義J	2		2	
特殊講義K	2		2	
特殊講義L	2		2	
特殊講義M	3		2	
特殊講義N	3		2	
特殊講義O	3		2	
特殊講義P	3		2	
特殊講義Q	3		2	
特殊講義R	3		2	
[総合科目]				

演習Ⅰ	3	4		
演習Ⅱ	4	4		
[自由科目]				
秘書実務Ⅰ	3			2
秘書実務Ⅱ	3			2
インターンシップ	1			2
旅行事業人材育成プログラム	3			2

<履修方法>

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

- ・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ2単位を含む。）
- ・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語2単位以上を含む。ただし、インターンシップ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
- ・基礎科目（16単位以上）
- ・情報科目（10単位以上）
- ・基幹科目・関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）

※印科目はインターンシップ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

- ・総合科目（8単位）

ただし自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	配当年次	単位数
職業指導Ⅰ	2	2
職業指導Ⅱ	2	2

インターンシップ・インタナショナル・プログラム科目

[第一外国語科目]（英語）

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
※English Seminar 1 A	1	1		
※English Seminar 1 B	1	1		
※English Seminar 2 A	2	1		
※English Seminar 2 B	2	1		
※Business English 1 A	1	2		
※Business English 1 B	1	2		

※Business English 2 A	2	2		
※Business English 2 B	2	2		
※Business Skills A	3	1		
※Business Skills B	3	1		
※TOEFL Preparation 1	1		1	
※TOEFL Preparation 2	1		1	
※TOEFL Preparation 3	2		1	
※TOEFL Preparation 4	2		1	
※TOEIC Preparation 1	2		1	
※TOEIC Preparation 2	2		1	
※TOEIC Preparation 3	3		1	
※TOEIC Preparation 4	3		1	
※Study Abroad Preparation	2		1	
※English Culture A	3		1	
※English Culture B	3		1	
海外語学研修（英語）	1～4		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[関連科目]				
※Management in English	3		2	
※Tourism in English	3		2	
※Marketing in English	3		2	
※International Business in English	3		2	
※Information Technology in Business in English	3		2	
※Basic Accounting in English	3		2	
※Advanced Accounting in English	3		2	
※Information and Communication Theory in English	3		2	
※Business Ethics in English	3		2	
※Economics in English	3		2	

#### IIIPの履修について

- (1) IIIPは「IIIP一般英語科目」と「IIIP専門科目」から構成される。
- (2) IIIPの科目のうち、「IIIP一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。IIIPの科目のうち、「IIIP専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。
- (3) IIIPの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「IIIP一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、English Seminar 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Communication 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Skills A、Bを必ず修得しなければならない。また、「IIIP専門科目」については8単位以上修得しなければならない。
- (4) 本学主催の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の2単位を認定する。
- (5) IIIPに登録した学生はIIIPプログラム以外の第一外国語を履修することはできない（「IIIP一般英語科目」が第一外国語科目となる）。IIIPに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。
- (6) IIIPに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「I

「IIP一般英語科目」と「IIP専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「IIP一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「IIP一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとす。また、修得した「IIP専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

会計学科

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[基礎科目]				
簿記論A	1		2	
簿記論B	1		2	
会計学基礎論	1		2	
工業簿記	1		2	
経営学A	1		2	
経営学B	1		2	
商学A	1		2	
商学B	1		2	
統計学	1		2	
マーケティング	1		2	
ミクロ経済学	1		2	
マクロ経済学	1		2	
コミュニケーション基礎	1		2	
[情報科目]				
コンピュータ概論	1		2	
情報倫理	1		2	
コンピュータ実習	1		2	
経営情報論	2		2	
情報管理論	2		2	
データ分析論	2		2	
情報分析論	2		2	
コンピュータ特修実習A	2		2	
コンピュータ特修実習B	2		2	
[基幹科目]				
商業簿記I	2		2	
商業簿記II	2		2	
財務会計I	2		2	
財務会計II	2		2	
会計学I	2		2	
会計学II	2		2	
原価計算I	2		2	
原価計算II	2		2	
上級工業簿記I	2		2	
上級工業簿記II	2		2	
英文会計I	2		2	
英文会計II	2		2	
監査基準論	2		2	
監査報告書論	2		2	
会計史	2		2	
会計学説史	2		2	

経営管理論Ⅰ	2	2
経営管理論Ⅱ	2	2
マーケティング戦略論Ⅰ	2	2
マーケティング戦略論Ⅱ	2	2
株式会社会計	3	2
連結会計	3	2
意思決定会計	3	2
業績管理会計	3	2
会計職業倫理	3	2
経営内部統制論	3	2
税務会計Ⅰ	3	2
税務会計Ⅱ	3	2
財務分析	3	2
企業分析	3	2
キャッシュフロー会計	3	2
国際会計Ⅰ	3	2
国際会計Ⅱ	3	2
会計情報システム論A	3	2
会計情報システム論B	3	2
租税法	3	2
経営戦略論	3	2
事業システム論	3	2
ファイナンス論Ⅰ	3	2
ファイナンス論Ⅱ	3	2
ビジネス・エシックス	3	2
[関連科目]		
日本史概論Ⅰ	1	2
日本史概論Ⅱ	1	2
外国史概論Ⅰ	1	2
外国史概論Ⅱ	1	2
地理学概論Ⅰ	1	2
地理学概論Ⅱ	1	2
地誌学概論Ⅰ	1	2
地誌学概論Ⅱ	1	2
哲学概論Ⅰ	1	2
哲学概論Ⅱ	1	2
倫理学概論Ⅰ	1	2
倫理学概論Ⅱ	1	2
ビジネスエコノミクス	2	2
日本経済論	2	2
民法Ⅰ	2	2
民法Ⅱ	2	2
秘書学Ⅰ	2	2
秘書学Ⅱ	2	2
国際政治学Ⅰ	2	2
国際政治学Ⅱ	2	2
商法総則・商行為	3	2
会社法	3	2
外国文献研究A	3	2
外国文献研究B	3	2

国際経済論	3		2	
地域経済論	3		2	
特殊講義A	1		2	
特殊講義B	1		2	
特殊講義C	1		2	
特殊講義D	1		2	
特殊講義E	1		2	
特殊講義F	1		2	
特殊講義G	2		2	
特殊講義H	2		2	
特殊講義I	2		2	
特殊講義J	2		2	
特殊講義K	2		2	
特殊講義L	2		2	
特殊講義M	3		2	
特殊講義N	3		2	
特殊講義O	3		2	
特殊講義P	3		2	
特殊講義Q	3		2	
特殊講義R	3		2	
[総合科目]				
演習Ⅰ	3	4		
演習Ⅱ	4	4		
[自由科目]				
秘書実務Ⅰ	3			2
秘書実務Ⅱ	3			2
インターンシップ	1			2
旅行事業人材育成プログラム	3			2

<履修方法>

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

- ・ 共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの2単位を含む）
- ・ 外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語2単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
- ・ 基礎科目（16単位以上）
- ・ 情報科目（10単位以上）
- ・ 基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
- ・ 総合科目（8単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履

修することができる。

(注)

他学科、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	配当年次	単位数
職業指導Ⅰ	2	2
職業指導Ⅱ	2	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

[第一外国語科目]（英語）

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
※English Seminar 1 A	1	1		
※English Seminar 1 B	1	1		
※English Seminar 2 A	2	1		
※English Seminar 2 B	2	1		
※Business English 1 A	1	2		
※Business English 1 B	1	2		
※Business English 2 A	2	2		
※Business English 2 B	2	2		
※Business Skills A	3	1		
※Business Skills B	3	1		
※TOEFL Preparation 1	1		1	
※TOEFL Preparation 2	1		1	
※TOEFL Preparation 3	2		1	
※TOEFL Preparation 4	2		1	
※TOEIC Preparation 1	2		1	
※TOEIC Preparation 2	2		1	
※TOEIC Preparation 3	3		1	
※TOEIC Preparation 4	3		1	
※Study Abroad Preparation	2		1	
※English Culture A	3		1	
※English Culture B	3		1	
海外語学研修（英語）	1～4		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[関連科目]				
※Management in English	3		2	
※Tourism in English	3		2	
※Marketing in English	3		2	
※International Business in English	3		2	
※Information Technology in Business in English	3		2	
※Basic Accounting in English	3		2	

※Advanced Accounting in English	3		2	
※Information and Communication Theory in English	3		2	
※Business Ethics in English	3		2	
※Economics in English	3		2	

#### I I Pの履修について

- (1) I I Pは「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」から構成される。
- (2) I I Pの科目のうち、「I I P一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。I I Pの科目のうち、「I I P専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。
- (3) I I Pの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「I I P一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、English Seminar 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Communication 1 A、1 B、2 A、2 B、Business Skills A、Bを必ず修得しなければならない。また、「I I P専門科目」については8単位以上修得しなければならない。
- (4) 本学主催の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の2単位を認定する。
- (5) I I Pに登録した学生はI I Pプログラム以外の第一外国語を履修することはできない（「I I P一般英語科目」が第一外国語科目となる）。I I Pに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。
- (6) I I Pに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「I I P一般英語科目」と「I I P専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「I I P一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「I I P一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとす。また、修得した「I I P専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

#### キャリア・マネジメント学科

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[基礎科目]				
経営学A	1		2	
経営学B	1		2	
商学A	1		2	
商学B	1		2	
簿記論A	1		2	
簿記論B	1		2	
統計学	1		2	
マーケティング	1		2	
コミュニケーション基礎	1		2	
会計学基礎論	1		2	
ミクロ経済学	1		2	
マクロ経済学	1		2	
[情報科目]				
コンピュータ概論	1		2	
情報倫理	1		2	
コンピュータ実習	1		2	
経営情報論	2		2	
情報管理論	2		2	
データ分析論	2		2	

情報分析論	2	2
コンピュータ特修実習 A	2	2
コンピュータ特修実習 B	2	2
[基幹科目]		
キャリア形成論	1	2
コミュニケーション論	1	2
ビジネス・インターンシップ I	1	2
ビジネス・インターンシップ II	1	2
職業・職種分析	1	2
キャリア心理学	2	2
リーダーシップ論	2	2
フォロワーシップ論	2	2
モチベーション論	2	2
組織設計論 A	2	2
組織設計論 B	2	2
経営戦略論 A	2	2
経営戦略論 B	2	2
組織調査論 A	2	2
組織調査論 B	2	2
データ分析	2	2
ビジネス・プラクティス	2	2
業界発展分析	2	2
財務会計 I	2	2
財務会計 II	2	2
経営組織心理学	2	2
チームビルディング	2	2
アドバンスト・インターンシップ	2	2
コーチング	2	2
キャリア・カウンセリング論 A	3	2
キャリア・カウンセリング論 B	3	2
職業選択理論	3	2
ファシリテーション	3	2
人材形成史	3	2
キャリア形成関連法	3	2
ダイバーシティ・マネジメント	3	2
ターンアラウンド・マネジメント	3	2
キャリア・マネジメント論 A	3	2
キャリア・マネジメント論 B	3	2
ベンチャービジネス論	3	2
ビジネス・エシックス	3	2
報酬システム分析 A	3	2
報酬システム分析 B	3	2
戦略的人的資源管理論 A	3	2
戦略的人的資源管理論 B	3	2
雇用政策論	3	2
健康心理学	3	2
[関連科目]		
日本史概論 I	1	2
日本史概論 II	1	2
外国史概論 I	1	2

外国史概論Ⅱ	1		2	
地理学概論Ⅰ	1		2	
地理学概論Ⅱ	1		2	
地誌学概論Ⅰ	1		2	
地誌学概論Ⅱ	1		2	
哲学概論Ⅰ	1		2	
哲学概論Ⅱ	1		2	
倫理学概論Ⅰ	1		2	
倫理学概論Ⅱ	1		2	
ビジネスエコノミクス	2		2	
日本経済論	2		2	
民法Ⅰ	2		2	
民法Ⅱ	2		2	
秘書学Ⅰ	2		2	
秘書学Ⅱ	2		2	
国際政治学Ⅰ	2		2	
国際政治学Ⅱ	2		2	
商法総則・商行為	3		2	
会社法	3		2	
外国文献研究A	3		2	
外国文献研究B	3		2	
国際経済論	3		2	
地域経済論	3		2	
特殊講義A	1		2	
特殊講義B	1		2	
特殊講義C	1		2	
特殊講義D	1		2	
特殊講義E	1		2	
特殊講義F	1		2	
特殊講義G	2		2	
特殊講義H	2		2	
特殊講義I	2		2	
特殊講義J	2		2	
特殊講義K	2		2	
特殊講義L	2		2	
特殊講義M	3		2	
特殊講義N	3		2	
特殊講義O	3		2	
特殊講義P	3		2	
特殊講義Q	3		2	
特殊講義R	3		2	
[総合科目]				
演習Ⅰ	3	4		
演習Ⅱ	4	4		
[自由科目]				
秘書実務Ⅰ	3			2
秘書実務Ⅱ	3			2
インターンシップ	1			2
旅行事業人材育成プログラム	3			2

<履修方法>

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

- ・ 共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの2単位を含む）
- ・ 外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語2単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
- ・ 基礎科目（16単位以上）
- ・ 情報科目（10単位以上）
- ・ 基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
- ・ 総合科目（8単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注)

他学科、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	配当年次	単位数
職業指導Ⅰ	2	2
職業指導Ⅱ	2	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

[第一外国語科目]（英語）

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
※English Seminar 1 A	1	1		
※English Seminar 1 B	1	1		
※English Seminar 2 A	2	1		
※English Seminar 2 B	2	1		
※Business English 1 A	1	2		
※Business English 1 B	1	2		
※Business English 2 A	2	2		
※Business English 2 B	2	2		
※Business Skills A	3	1		
※Business Skills B	3	1		
※TOEFL Preparation 1	1		1	
※TOEFL Preparation 2	1		1	
※TOEFL Preparation 3	2		1	
※TOEFL Preparation 4	2		1	

※TOEIC Preparation 1	2	1	
※TOEIC Preparation 2	2	1	
※TOEIC Preparation 3	3	1	
※TOEIC Preparation 4	3	1	
※Study Abroad Preparation	2	1	
※English Culture A	3	1	
※English Culture B	3	1	
海外語学研修（英語）	1～4	2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由
[関連科目]				
※Management in English	3		2	
※Tourism in English	3		2	
※Marketing in English	3		2	
※International Business in English	3		2	
※Information Technology in Business in English	3		2	
※Basic Accounting in English	3		2	
※Advanced Accounting in English	3		2	
※Information and Communication Theory in English	3		2	
※Business Ethics in English	3		2	
※Economics in English	3		2	

IIIPの履修について

- (1) IIIPは「IIIP一般英語科目」と「IIIP専門科目」から構成される。
- (2) IIIPの科目のうち、「IIIP一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。IIIPの科目のうち、「IIIP専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。
- (3) IIIPの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「IIIP一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、English Seminar 1A、1B、2A、2B、Business Communication 1A、1B、2A、2B、Business Skills A、Bを必ず修得しなければならない。また、「IIIP専門科目」については8単位以上修得しなければならない。
- (4) 本学主催の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の2単位を認定する。
- (5) IIIPに登録した学生はIIIPプログラム以外の第一外国語を履修することはできない（「IIIP一般英語科目」が第一外国語科目となる）。IIIPに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。
- (6) IIIPに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「IIIP一般英語科目」と「IIIP専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「IIIP一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「IIIP一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとす。また、修得した「IIIP専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

別表(1)ー4

理工学部授業科目表

△印は選択必修科目。\*印の科目は別欄の修得内訳表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
[共通教養科目]			
(人間性・社会性科目群)			
自校学習		1	
人権と社会 1		* 2	
人権と社会 2		* 2	
暮らしのなかの憲法		* 2	
住みよい社会と福祉		* 2	
現代社会と法		* 2	
環境と社会		* 2	
資源とエネルギー		* 2	
技術と倫理		* 2	
企業倫理と知的財産		* 2	
教養特殊講義 A		2	
(地域性・国際性科目群)			
国際経済と企業の国際化		* 2	
国際化と異文化理解		* 2	
国際社会と日本		* 2	
ビジネスモデルとマネジメント		* 2	
メディアの読み方		* 2	
教養特殊講義 B		2	
(課題設定・問題解決科目群)			
日本語の技法		* 2	
基礎ゼミ 1	2		
基礎ゼミ 2	2		
キャリアデザイン		* 2	
科学的問題解決法		* 2	
プレゼンテーション技術		* 2	
情報処理基礎	1		
教養特殊講義 C		2	
(スポーツ・表現活動科目群)			
生涯スポーツ 1		1	
生涯スポーツ 2		1	
健康とスポーツの科学		2	
食生活と健康		* 2	
[外国語科目] (第一)			
英語演習 1	2		
英語演習 2	2		
TOEIC 1	1		
TOEIC 2	1		
ライティング 1		1	
ライティング 2		1	
科学技術英語 1		1	
科学技術英語 2		1	
オーラルイングリッシュ 1	1		
オーラルイングリッシュ 2	1		
オーラルイングリッシュ 3		1	
オーラルイングリッシュ 4		1	

アカデミックリーディング 1	1	
アカデミックリーディング 2	1	
海外語学研修 (英語)	2	
[外国語科目] (第二)		
ドイツ語総合 1	1	
ドイツ語総合 2	1	
ドイツ語総合 3	1	
ドイツ語総合 4	1	
フランス語総合 1	1	
フランス語総合 2	1	
フランス語総合 3	1	
フランス語総合 4	1	
中国語総合 1	1	
中国語総合 2	1	
中国語総合 3	1	
中国語総合 4	1	
海外語学研修 (中国語)	2	
韓国語総合 1	1	
韓国語総合 2	1	
韓国語総合 3	1	
韓国語総合 4	1	
海外語学研修 (韓国語)	2	
ロシア語 1		1
ロシア語 2		1

[英語科目修得内訳表]

選択必修科目名 (単位)	履修条件
ライティング 1、ライティング 2、科学技術英語 1、科学技術英語 2、オーラルイングリッシュ 3、オーラルイングリッシュ 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 単位以上を修得</li> <li>・ オーラルイングリッシュ 3、オーラルイングリッシュ 4のうちから 1 単位以上修得。</li> <li>・ ライティング 1、ライティング 2、科学技術英語 1、科学技術英語 2のうちから 1 単位以上修得。</li> </ul>

[応用化学科科目修得内訳表]

必修科目名 (単位)
日本語の技法 (2)、科学技術英語 1 (1)、科学技術英語 2 (1)

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
国際経済と企業の国際化 (2)、国際化と異文化理解 (2)、国際社会と日本 (2)、メディアの読み方 (2)	2 単位以上
人権と社会 1 (2)、暮らしのなかの憲法 (2)、住みよい社会と福祉 (2)、現代社会と法 (2)、環境と社会 (2)	2 単位以上
企業倫理と知的財産 (2)、ビジネスモデルとマネジメント (2)	2 単位以上
資源とエネルギー (2)、科学的問題解決法 (2)	2 単位以上

[電気電子工学科科目修得内訳表]

必修科目名 (単位)
------------

技術と倫理(2)
----------

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
国際経済と企業の国際化(2)、国際化と異文化理解(2)、国際社会と日本(2)、ビジネスモデルとマネジメント(2)、メディアの読み方(2)	4 単位以上

[情報学科科目修得内訳表]

必修科目名 (単位)
技術と倫理(2)

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
自校学習(2)、人権と社会1(2)、人権と社会2(2)、暮らしの中の憲法(2)、住みよい社会と福祉(2)、現代社会と法(2)、環境と社会(2)、国際経済と企業の国際化(2)、国際化と異文化理解(2)、国際社会と日本(2)、ビジネスモデルとマネジメント(2)、メディアの読み方(2)、日本語の技法(2)、プレゼンテーション技術(2)、生涯スポーツ1(1)、生涯スポーツ2(1)、健康とスポーツの科学(2)、食生活と健康(2)	6 単位以上

[社会環境工学科科目修得内訳表]

必修科目名 (単位)
技術と倫理(2)

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
人権と社会1(2)、人権と社会2(2)、暮らしの中の憲法(2)、住みよい社会と福祉(2)、現代社会と法(2)、環境と社会(2)、資源とエネルギー(2)、企業倫理と知的財産(2)、国際経済と企業の国際化(2)、国際化と異文化理解(2)、国際社会と日本(2)、ビジネスモデルとマネジメント(2)、メディアの読み方(2)	2 単位以上

理学科

\*印はコースごとの必修科目を、△印はコースごとの選択必修科目を、□印はコースごとの自由選択科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
[基礎科目]			
基礎物理学および演習		△ 3	
物理学および演習		△ 3	
物理学概論および演習 I		△ 3	
物理学概論および演習 II		△ 3	
基礎化学および演習		□ 3	
化学		□ 2	
基礎生物学		△ 2	
生物学		△ 2	
微分積分学 I		*△ 2	
微分積分学 II		*△ 2	
線形代数学 I		*△ 2	
線形代数学 II		*△ 2	
情報処理演習		1	
情報処理実習 I		1	
情報処理実習 II		1	

インターンシップ	2	
社会奉仕実習	1	
情報システム基礎		2
情報システム応用		2
[専門科目]		
数学講究(1)	*2	
基礎幾何学	2	
線形数学(1)	*4	
基礎解析学(1)	*4	
数学講究(2)	*2	
プログラミング基礎	1	
力学Ⅰ	*2	
力学Ⅱ	2	
基礎物理学実験Ⅰ	*△2	
力学解法Ⅰ	2	
化学のための数学演習	△1	
基礎無機化学	*2	
基礎有機化学	*2	
基礎物理化学	*2	
化学実験Ⅰ	*3	
基礎分析化学	△2	
基礎有機化学演習	*2	
数学講究(3)	*2	
線形数学(2)	2	
基礎解析学(2)	2	
集合と位相(1)	2	
集合と位相(2)	2	
計算機実習(1)	2	
数学講究(5)	*2	
群論(1)	2	
群論(2)	2	
複素解析学(1)	2	
微分方程式論(1)	2	
微分方程式論(2)	2	
計算機実習(2)	1	
基礎物理学実験Ⅱ	*2	
電磁気学Ⅰ	*2	
電磁気学Ⅱ	2	
物理数学Ⅰ	2	
物理数学Ⅱ	2	
物理学実験Ⅰ	3	
計算物理学Ⅰ	2	
計算物理学Ⅱ	2	
データ解析	2	
エレクトロニクス	2	
解析力学	2	
電磁気学解法Ⅰ	2	
電磁気学解法Ⅱ	2	
化学実験Ⅱ	*3	
化学情報処理	△2	

基礎無機化学演習	*2
基礎物理化学演習	*2
反応有機化学Ⅱ	△2
基礎分析化学演習	△1
化学実験Ⅲ	*3
典型元素の化学	△2
環境化学	△2
機器分析化学	△2
反応有機化学Ⅰ	△2
基礎生化学	△2
化学熱力学および演習	△3
数学講究(7)	*2
代数学(1)	4
幾何学(1)	4
実解析学(1)	4
複素解析学(2)	4
数理統計学(1)	2
数学講究(8)	*2
代数学(2)	4
幾何学(2)	4
実解析学(2)	4
数理統計学(2)	2
実験数理解析	1
物理学実験Ⅱ	3
放射線物理学	2
相対論	2
卒業研究ゼミナール	*1
化学実験Ⅳ	*3
遷移元素の化学	2
応用機器分析化学	2
電子移動の化学	2
高分子化学	2
反応物理化学	△2
物性物理化学	2
量子化学および演習	△3
錯体化学	2
化学実験Ⅴ	*3
生物無機化学	2
構造物理化学	2
生物有機化学	2
合成有機化学	2
化学教科教育演習	1
生物物理化学	2
超分子化学	△2
グリーンケミストリー	△2
現代数学(1)	△2
現代数学(2)	△2
応用数学(1)	△2
応用数学(2)	△2
現代数学(3)	△2

現代数学(4)		△ 2	
現代数学(5)		△ 2	
物性物理学		2	
素粒子物理学		2	
宇宙物理学		2	
卒業研究	8		
特別講義		△ 1	
教科教育演習		1	
環境分析化学		2	
分光物性化学		2	
分子生物化学		△ 2	
情報と社会		2	
情報と職業		2	
生物学実験		1	
地学概論 I		2	
地学概論 II		2	
地学実験		1	
情報理論		2	
言語理論とオートマトン		2	
オペレーティングシステム		2	
データ構造とアルゴリズム I		2	
データ構造とアルゴリズム II		2	
データベース論 I		2	
コンピュータグラフィックス		2	
画像処理		2	
通信方式		2	
ネットワーク工学		2	
数学講究(4)		* 2	
数学講究(6)		* 2	
物理学最前線		2	
科学論文		2	
熱力学		2	
振動と波動		* 2	
振動と波動解法		2	
ミクロの物理学		* 2	
ミクロの物理学解法		2	
物理数学 III		2	
物理数学 IV		2	
現代物理学 I		2	
現代物理学 II		2	
現代物理学 III		2	
現代物理学 IV		2	
現代物理学 V		2	
量子力学 I		* 2	
量子力学 II		2	
量子力学解法 I		2	
量子力学解法 II		2	
統計力学 I		* 2	
統計力学 II		2	
統計力学解法 I		2	

統計力学解法Ⅱ		2	
化学実験		1	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
〔大学コンソーシアム大阪単位互換科目〕 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、6単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔理学科コース別必修科目修得内訳表〕

数学コース

必修科目名〔単位〕
〔基礎科目〕 微分積分学Ⅰ〔2〕、微分積分学Ⅱ〔2〕、線形代数学Ⅰ〔2〕、線形代数学Ⅱ〔2〕
〔専門科目〕 数学講究(1)〔2〕、数学講究(2)〔2〕、線形数学(1)〔4〕、基礎解析学(1)〔4〕、 数学講究(3)〔2〕、数学講究(4)〔2〕、数学講究(5)〔2〕、数学講究(6)〔2〕、 数学講究(7)〔2〕、数学講究(8)〔2〕

物理学コース

必修科目名〔単位〕
〔専門科目〕 基礎物理学実験Ⅰ〔2〕、力学Ⅰ〔2〕、電磁気学Ⅰ〔2〕、振動と波動〔2〕、基礎物理学実験Ⅱ〔2〕、ミクロの物理学〔2〕、量子力学Ⅰ〔2〕、統計力学Ⅰ〔2〕、卒業研究ゼミナール〔1〕

化学コース

必修科目名〔単位〕
〔専門科目〕 基礎無機化学〔2〕、基礎有機化学〔2〕、基礎物理化学〔2〕、化学実験Ⅰ〔3〕、基礎有機化学演習〔2〕、化学実験Ⅱ〔3〕、基礎無機化学演習〔2〕、基礎物理化学演習〔2〕、化学実験Ⅲ〔3〕、卒業研究ゼミナール〔1〕、化学実験Ⅳ〔3〕、化学実験Ⅴ〔3〕

〔理学科コース別選択必修科目修得内訳表〕

数学コース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
〔専門科目〕 現代数学(1)〔2〕、現代数学(2)〔2〕、現代数学(3)〔2〕、現代数学(4)〔2〕、現代数学(5)〔2〕、応用数学(1)〔2〕、応用数学(2)〔2〕	2単位以上

物理学コース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
-------------	-------

〔基礎科目〕 基礎物理学および演習〔3〕、物理学および演習〔3〕、物理学概論および演習Ⅰ〔3〕、物理学概論および演習Ⅱ〔3〕	6単位以上
---	-------

化学コース

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
〔基礎科目〕 基礎物理学および演習〔3〕、物理学および演習〔3〕、物理学概論および演習Ⅰ〔3〕、物理学概論および演習Ⅱ〔3〕、基礎生物学〔2〕、生物学〔2〕、微分積分学Ⅰ〔2〕、微分積分学Ⅱ〔2〕、線形代数学Ⅰ〔2〕、線形代数学Ⅱ〔2〕	8単位以上
〔専門科目〕 化学のための数学演習〔1〕、典型元素の化学〔2〕、基礎分析化学〔2〕、反応有機化学Ⅰ〔2〕、化学熱力学および演習〔3〕、化学情報処理〔2〕、基礎分析化学演習〔1〕、反応有機化学Ⅱ〔2〕、基礎生化学〔2〕、反応物理化学〔2〕、量子化学および演習〔3〕、機器分析化学〔2〕、環境化学〔2〕、分子生物化学〔2〕、基礎物理学実験Ⅰ〔2〕、超分子化学〔2〕、グリーンケミストリー〔2〕、特別講義〔1〕	22単位以上

〔理学科コース別自由選択科目修得内訳表〕

化学コース

自由選択科目名 (単位)
〔基礎科目〕 基礎化学および演習〔3〕、化学〔2〕

生命科学科

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
〔基礎科目〕			
基礎物理学および演習		3	
物理学および演習		3	
物理学概論および演習Ⅰ		3	
物理学概論および演習Ⅱ		3	
基礎化学および演習		3	
化学		2	
基礎生物学		2	
生物学		2	
微分積分学Ⅰ		2	
微分積分学Ⅱ		2	
線形代数学Ⅰ		2	
線形代数学Ⅱ		2	
情報処理演習		1	
情報処理実習Ⅰ		1	
情報処理実習Ⅱ		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	
情報システム基礎			2
情報システム応用			2
〔専門科目〕			

生命科学数理演習		2	
生命科学序論	2		
化学実験	3		
生物学実験	3		
一般化学		2	
代謝生化学		2	
生物有機化学		2	
生命科学実験	3		
環境科学実験	3		
物理学実験		2	
細胞生物学		2	
分子生物学		2	
薬理学		2	
生物物理化学		2	
機器分析化学		2	
微生物学		2	
医学概論		2	
生命科学英語		1	
分子生物学実験	3		
細胞生物学実験	3		
卒業研究ゼミナール	1		
発生生物学		2	
ゲノム解析		2	
解剖生理学		2	
食品化学		2	
食品衛生学		2	
免疫生物学		2	
神経科学		2	
公衆衛生学		2	
生命倫理		2	
卒業研究	8		
病理学		2	
栄養学		2	
教科教育演習			1
情報と社会			2
情報と職業			2
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
有機化学		2	
生化学		2	
遺伝子工学		2	
内分泌学		2	
バイオ・環境計測技術演習		1	
アドバンストリサーチ		1	
分析化学		2	
生命科学演習	1		
生物統計学		2	
バイオインフォマティクス		2	
分子遺伝病態学		2	

医療情報学		2	
生命科学ゼミナールⅠ		1	
生命科学ゼミナールⅡ		1	
生命科学コミュニケーション		1	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
[大学コンソーシアム大阪単位互換科目]			
包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、6単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

応用化学科

△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙修得内訳表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
[基礎科目]			
基礎物理学および演習		△ 3	
物理学および演習		△ 3	
物理学概論および演習Ⅰ		△ 3	
物理学概論および演習Ⅱ		△ 3	
基礎化学および演習		3	
化学		2	
基礎生物学		△ 2	
生物学		△ 2	
微分積分学Ⅰ	2		
微分積分学Ⅱ	2		
線形代数学Ⅰ	2		
線形代数学Ⅱ		△ 2	
情報処理演習		1	
情報処理実習Ⅰ		△ 1	
情報処理実習Ⅱ		△ 1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	
情報システム基礎			2
情報システム応用			2
[専門科目]			
応用化学実験Ⅰ	3		
応用化学実験Ⅱ	3		
基礎化学結合論	2		
化学技術者倫理	2		
物理化学Ⅰ	2		
無機化学Ⅰ	2		
有機化学Ⅰ	2		
物理化学Ⅱ	2		

無機化学Ⅱ	2		
有機化学Ⅱ	2		
分析化学	2		
物理学実験	2		
応用化学実験Ⅲ	3		
化学数学	2		
応用化学実験Ⅳ	3		
化学熱力学	2		
環境工学		△ 2	
界面化学		2	
高分子化学		2	
有機構造化学		2	
錯体化学	2		
応用化学実験Ⅴ	3		
応用化学実験Ⅵ	3		
量子化学	2		
化学平衡論	2		
安全工学	2		
エネルギー工学		△ 2	
化学速度論		2	
応用化学セミナー	2		
卒業研究ゼミナール		1	
有機化学反応論	2		
無機合成化学		2	
有機合成化学		2	
有機金属化学		2	
有機構造解析	2		
化学工学Ⅰ	2		
化学工学Ⅱ	2		
化学情報処理基礎	1		
卒業研究	8		
教科教育演習		1	
分光学Ⅰ		2	
分光学Ⅱ		2	
バイオテクノロジー		2	
酵素反応論		2	
アドバンスト有機化学		2	
アドバンスト無機化学		2	
アドバンスト物理化学		2	
生物学実験		1	
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
実験デザインⅠ	1		
実験デザインⅡ	1		
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
[大学コンソーシアム大阪単位互換科目]			
包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、6単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔応用化学科選択必修科目修得内訳表〕

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎生物学（2）、生物学（2）、線形代数学Ⅱ（2）、情報処理実習Ⅰ（1）、情報処理実習Ⅱ（1）	2単位以上
基礎物理学および演習（3）、物理学および演習（3）、物理学概論および演習Ⅰ（3）、物理学概論および演習Ⅱ（3）	3単位以上
環境工学（2）、エネルギー工学（2）	2単位以上

機械工学科

\*印はコースごとの必修科目を、△印はコースごとの選択必修科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
[基礎科目]			
基礎物理学および演習		△ 3	
物理学および演習		△ 3	
物理学概論および演習Ⅰ		△ 3	
物理学概論および演習Ⅱ		△ 3	
基礎化学および演習		3	
化学		2	
基礎生物学		2	
生物学		2	
微分積分学Ⅰ		△ 2	
微分積分学Ⅱ		△ 2	
線形代数学Ⅰ		△ 2	
線形代数学Ⅱ		△ 2	
情報処理演習		△ 1	
情報処理実習Ⅰ		△ 1	
情報処理実習Ⅱ		△ 1	
インターンシップ		△ 2	
社会奉仕実習		1	
情報システム基礎			2
情報システム応用			2
[専門科目]			
図学および機械製図	1		
工業材料		2	
機械工作法		2	
機械製図基礎演習	1		
流れ学の基礎	2		
材料力学の基礎	2		

機械加工実習	1		
金属加工実習		1	
工業力学		2	
電気電子回路		2	
物理学実験	1		
流れ学演習実験	1		
材料力学演習実験	1		
機械製図演習	1		
機械要素設計		2	
制御工学の基礎		*2	
機械力学の基礎		*2	
微分方程式		△2	
機構学		2	
計測工学		2	
材料工学演習実験		*1	
メカトロニクス		2	
デジタル回路		2	
応用解析		△2	
設計製図の基礎	1		
熱力学の基礎		*2	
機械力学		*2	
機械設計		2	
制御工学		*2	
機械工学実験	1		
流体工学		*2	
材料力学		*2	
機械加工学		2	
プログラミング実習		*△1	
材料組織学		2	
数理計画法		△2	
数学解析		△2	
熱力学演習実験	1		
機械力学演習実験	1		
設計製図	1		
数値計算法		△1	
制御工学演習実験	1		
構造力学		2	
精密加工学		2	
流体力学		2	
鑄造工学		2	
センシング学		2	
ロボット工学		2	
線形システム制御論		2	
卒業研究ゼミナール	1		
熱力学		2	
CAE実習		△1	
確率・統計		*2	
応用機械製図		*1	
伝熱工学		*2	
自動車工学		2	

バーチャルリアリティ		2	
品質管理		△ 2	
生体医工学		2	
卒業研究	8		
電気工学実験		1	
基礎幾何学		2	
幾何学 (1)		4	
幾何学 (2)		4	
木材加工		4	
園芸学 (実習を含む)		4	
化学実験		1	
生物学実験		1	
地学概論 I		2	
地学概論 II		2	
地学実験		1	
職業指導			4
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8

<履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、6単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔機械工学科コース別必修科目修得内訳表〕

機械工学コース

必修科目名 (単位)
材料工学演習実験(1)、確率・統計(2)、応用機械製図(1)、機械力学の基礎(2)、制御工学の基礎(2)、熱力学の基礎(2)、機械力学(2)、制御工学(2)、流体工学(2)、材料力学(2)、伝熱工学(2)

知能機械システムコース

必修科目名 (単位)
プログラミング実習(1)

〔機械工学科コース別選択必修科目修得内訳表〕

機械工学コース

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
〔基礎科目〕 基礎物理学および演習(3)、物理学および演習(3)、物理学概論および演習 I (3)、物理学概論および演習 II (3)、微分積分学 I (2)、微分積分学 II (2)、線形代数学 I (2)、線形代数学 II (2)、情報処理実習 I (1)、情報処理実習 II (1)、情報処理演習(1)、インターンシップ(2)	7 単位以上
〔専門科目〕 微分方程式(2)、応用解析(2)、プログラミング実習(1)、数理計画法(2)、数学解析(2)、数値計算法(1)、CAE実習(1)、品質管理(2)	5 単位以上

知能機械システムコース

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
[基礎科目] 基礎物理学および演習(3)、物理学および演習(3)、物理学概論および演習Ⅰ(3)、物理学概論および演習Ⅱ(3)、微分積分学Ⅰ(2)、微分積分学Ⅱ(2)、線形代数学Ⅰ(2)、線形代数学Ⅱ(2)、情報処理実習Ⅰ(1)、情報処理実習Ⅱ(1)、情報処理演習(1)、インターンシップ(2)	7 単位以上

電気電子工学科

\*印はコースごとの必修科目を表す。△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
[基礎科目]			
基礎物理学および演習		△ 3	
物理学および演習		△ 3	
物理学概論および演習Ⅰ		△ 3	
物理学概論および演習Ⅱ		△ 3	
基礎化学および演習		3	
化学		2	
基礎生物学		2	
生物学		2	
微分積分学Ⅰ		△ 2	
微分積分学Ⅱ		△ 2	
線形代数学Ⅰ		△ 2	
線形代数学Ⅱ		△ 2	
情報処理演習		1	
情報処理実習Ⅰ		1	
情報処理実習Ⅱ		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	
情報システム基礎			2
情報システム応用			2
[専門科目]			
微分方程式		△ 2	
ベクトル解析		△ 2	
電気回路Ⅰ		2	
電気回路Ⅱ	2		
確率統計		△ 2	
コンピュータ概論		2	
電気法規・施設管理		2	
論理回路		2	
電気計測		2	
基礎電子回路	2		
プログラミング実習Ⅰ	2		
バイオエネルギー工学		2	
電気物性概論		2	
電気電子工学実験	2		
順序回路理論		2	
制御工学基礎		2	

プログラミング実習Ⅱ		1	
アナログ電子回路		2	
電磁気学Ⅰ	2		
熱力学		2	
電気電子材料		2	
電磁気学Ⅱ	2		
エネルギー変換工学		2	
発電工学		2	
エネルギー物質科学		2	
エレクトロニクス・情報通信実験		*3	
卒業研究ゼミナール	1		
通信方式		2	
電磁波工学		2	
電磁気学Ⅲ		2	
アルゴリズムとデータ構造		2	
制御工学		2	
画像・映像工学		2	
ネットワーク工学		2	
光・レーザー工学		2	
半導体工学		2	
デジタル電子回路		2	
量子線工学		2	
原子核工学		2	
エネルギー・環境実験		*3	
熱流体工学		2	
原子エネルギー工学		2	
水素エネルギー工学		2	
エレクトロニクス関連機器		2	
シミュレーション工学		2	
光通信工学		2	
環境計測		2	
エンジニアリングデザイン実験	2		
卒業研究	8		
移動体通信工学		2	
電波関係法規		2	
CAD実習		2	
パワーエレクトロニクス		2	
太陽エネルギー工学		2	
複素関数論		△2	
ものづくり実習		2	
ものづくり概論		2	
電気回路Ⅲ		2	
電気回路Ⅳ		2	
フーリエ・ラプラス変換論		△2	
エネルギー伝送工学		2	
高電圧・プラズマ工学		2	
情報理論		2	
環境生体科学		2	
環境マネジメント		2	
環境分析化学		2	

電気電子工学概論	1	2	
電気電子工学実習			
環境安全技術		2	
組み込みシステム		2	
制御工学概論		2	
回路設計実習		2	
木材加工		4	
金属加工		4	
機械工学実験		1	
園芸学（実習を含む）		4	
職業指導		4	
情報と社会		2	
情報と職業		2	
線形数学（1）		4	
線形代数（2）		2	
群論（1）		2	
群論（2）		2	
基礎幾何学		2	
幾何学（1）		4	
幾何学（2）		4	
数学解析		2	
基礎解析学（1）		4	
基礎解析学（2）		2	
数値計算法		1	
情報数学		2	
数理論理学		2	
計算論		2	
物理学実験		1	
化学実験		1	
生物学実験		1	
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
エンジニアリングデザイン実習		12	
国際プロジェクトマネジメント実習		12	
理工学国際ゼミナール		8	
[大学コンソーシアム大阪単位互換科目] 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、6単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

[電気電子工学科コース別必修科目修得内訳表]

エレクトロニクス・情報通信コース

必修科目名（単位）
エレクトロニクス・情報通信実験（3）

エネルギー・環境コース

必修科目名 (単位)
エネルギー・環境実験(3)

[選択必修科目一覧表]

基礎科目

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
基礎物理学および演習(3)、物理学および演習(3)、物理学概論および演習Ⅰ(3)、物理学概論および演習Ⅱ(3)	3 単位以上
微分積分学Ⅰ(2)、微分積分学Ⅱ(2)、線形代数学Ⅰ(2)、線形代数学Ⅱ(2)	4 単位以上

専門科目

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
微分方程式(2)、複素関数論(2)、ベクトル解析(2)、確率統計(2)、フーリエ・ラプラス変換論(2)	6 単位以上

情報学科

\*印はコースごとの必修科目を表す。△印は選択必修科目を表す。□印はコースごとの選択必修科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
[基礎科目]			
基礎物理学および演習		△ 3	
物理学および演習		△ 3	
物理学概論および演習Ⅰ		△ 3	
物理学概論および演習Ⅱ		△ 3	
基礎化学および演習		△ 3	
化学		△ 2	
基礎生物学		△ 2	
生物学		△ 2	
微分積分学Ⅰ	2		
微分積分学Ⅱ	2		
線形代数学Ⅰ	2		
線形代数学Ⅱ	2		
情報処理演習		1	
情報処理実習Ⅰ		1	
情報処理実習Ⅱ		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	
情報システム基礎			2
情報システム応用			2
[専門科目]			
コンピュータ基礎Ⅰ	2		
コンピュータ基礎Ⅱ	2		
情報実習Ⅰ	2		
情報実習Ⅱ	2		
オブジェクト指向設計	2		

プログラミング実習 I	3		
プログラミング実習 II	3		
数値計算法		□ 2	
確率統計 I	2		
確率統計 II		* 2	
情報数学	2		
論理回路		2	
データ構造とアルゴリズム I	2		
データ構造とアルゴリズム II		2	
コンピュータアーキテクチャ		* 2	
オペレーティングシステム		* 2	
ネットワーク技術 I	2		
数理論理学		□ 2	
言語理論とオートマトン		□ 2	
画像システム		2	
情報システムプロジェクト I		* 2	
情報システムプロジェクト II		* 2	
卒業研究ゼミナール	1		
プログラミング言語学		2	
ネットワーク技術 II		2	
画像処理		□ 2	
コンピュータグラフィックス		□ 2	
コンパイラ		2	
通信工学		2	
人工知能		□ 2	
データベース論 I		□ 2	
データベース論 II		□ 2	
計算論		2	
分散システム		2	
パターン認識		* □ 2	
自然言語処理		△ 2	
エージェント工学		□ 2	
符号理論		2	
情報メディアプロジェクト I		* 2	
情報メディアプロジェクト II		* 2	
情報理論		2	
デジタル信号処理		2	
センサシステム		2	
リアルタイムシステム		2	
暗号と情報セキュリティ	2		
卒業研究	8		
情報と社会		□ 2	
情報と職業		□ 2	
教科教育演習			1
ネットワーク演習 I			2
ネットワーク演習 II			2
ネットワーク演習 III			2
機械工学 I			2
機械工学 II			2
電気工学 I			2

電気工学Ⅱ			2
木材加工			4
金属加工			4
園芸学（実習含む）			4
電気工学実験			1
機械工学実験			1
職業指導			4
数理計画法		<input type="checkbox"/> 2	
コミュニケーション論		<input type="checkbox"/> 2	
認知科学		2	
感性工学		2	
色彩工学		2	
H C I		2	
社会心理学		2	
W e bアプリケーション		2	
音声認識		<input type="checkbox"/> 2	
知能ロボット		2	
画像認識		<input type="checkbox"/> 2	
ソフトウェアプロセス		2	
機械学習		<input type="checkbox"/> 2	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
[大学コンソーシアム大阪単位互換科目]			
包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、6単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

[情報学科必修科目修得内訳表]

情報システムコース

必修科目名（単位）
コンピュータアーキテクチャ（2）、オペレーティングシステム（2）、情報システムプロジェクトⅠ（2）、情報システムプロジェクトⅡ（2）

情報メディアコース

必修科目名（単位）
確率統計Ⅱ（2）、パターン認識（2）、情報メディアプロジェクトⅠ（2）、情報メディアプロジェクトⅡ（2）

[選択必修科目一覧表]

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習（3）、物理学および演習（3）、物理学概論および演習Ⅰ（3）、物理学概論および演習Ⅱ（3）、基礎化学および演習（3）、化学（2）、基礎生物学（2）、生物学（2）	2単位以上

情報システムコース・専門科目

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
データベース論Ⅰ(2)、データベース論Ⅱ(2)	2単位以上
人工知能(2)、自然言語処理(2)、エージェント工学(2)	2単位以上
画像処理(2)、コンピュータグラフィックス(2)、パターン認識(2)	2単位以上
情報と社会(2)、情報と職業(2)	2単位以上

情報メディアコース・専門科目

選択必修科目名 (単位)	修得単位数
数値計算法(2)、数理論理学(2)、数理計画法(2)	2単位以上
言語理論とオートマン(2)、自然言語処理(2)、コミュニケーション論(2)	2単位以上
音声認識(2)、画像認識(2)、機械学習(2)	2単位以上

社会環境工学科

△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙修得内訳表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
[基礎科目]			
基礎物理学および演習		△ 3	
物理学および演習		3	
物理学概論および演習Ⅰ		△ 3	
物理学概論および演習Ⅱ		3	
基礎化学および演習		△ 3	
化学		2	
基礎生物学		△ 2	
生物学		2	
微分積分学Ⅰ		△ 2	
微分積分学Ⅱ		△ 2	
線形代数学Ⅰ		△ 2	
線形代数学Ⅱ		△ 2	
情報処理演習		1	
情報処理実習Ⅰ		1	
情報処理実習Ⅱ		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	
情報システム基礎			2
情報システム応用			2
[専門科目]			
構造力学Ⅰ	2		
構造力学Ⅰ演習	1		
基礎水理学	2		
基礎水理学演習	1		
数値計算法		2	
応用水理学	2		
応用水理学演習	1		
社会環境工学概論	2		
建設材料学	2		
測量学		△ 2	

測量学実習		△ 1	
土質力学	2		
土質力学演習	1		
地盤工学	2		
地盤工学演習	1		
製図基礎		2	
建設施工法		2	
構造力学Ⅱ	2		
構造力学Ⅱ演習	1		
都市環境デザイン論		2	
CAD演習		1	
社会基盤計画学	2		
社会基礎計画学演習	1		
まちづくり調査法	2		
道路工学		2	
衛生工学	2		
土木製図		2	
応用物理学		2	
建設工学実験		△ 2	
環境工学実験		△ 2	
卒業研究ゼミナール	1		
建設リサイクル工学		2	
河川工学		2	
防災工学		2	
ユニバーサルデザイン		2	
メンテナンス工学		2	
交通システム学		2	
総合演習Ⅱ		2	
コンクリート構造学		2	
総合演習Ⅰ	2		
景観工学		2	
都市計画		2	
土木史		2	
環境計測・分析学		2	
生態学		2	
環境システム		2	
環境工学		2	
卒業研究	8		
内外セミナー		1	
教科教育演習		1	
構造力学Ⅲ		2	
鉄筋コンクリート工学		2	
鋼構造学		2	
耐震工学		2	
地盤調査・施行学		2	
海岸工学		2	
機械工学Ⅰ		2	
機械工学Ⅱ		2	
電気工学Ⅰ		2	
電気工学Ⅱ		2	

木材加工		4	
金属加工		4	
機械工学実験		1	
電気工学実験		1	
園芸学（実習を含む）		4	
職業指導			4
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
〔大学コンソーシアム大阪単位互換科目〕			
包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、6単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔選択必修科目一覧表〕

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習（3）、物理学概論および演習Ⅰ（3）、基礎化学および演習（3）、基礎生物学（2）	2単位以上
微分積分学Ⅰ（2）、微分積分学Ⅱ（2）、線形代数学Ⅰ（2）、線形代数学Ⅱ（2）	2単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
測量学（2）、測量学実習（2）、建設工学実験（2）、環境工学実験（2）	5単位以上

別表（1）—5

建築学部授業科目表

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
〔共通教養科目〕			
自校学習		1	
教養特殊講義A		2	
現代社会と法		2	
環境と社会		2	
技術と倫理		2	
人権と社会1		2	
住みよい社会と福祉		2	
人権と社会2		2	
暮らしのなかの憲法		2	
資源とエネルギー		2	
企業倫理と知的財産		2	
国際化と異文化理解		2	
ビジネスモデルとマネジメント		2	
教養特殊講義B		2	

国際社会と日本		2	
国際経済と企業の国際化		2	
メディアの読み方		2	
基礎ゼミ 1	2		
基礎ゼミ 2	2		
教養特殊講義 C		2	
日本語の技法		2	
キャリアデザイン		2	
プレゼンテーション技術		2	
健康とスポーツの科学		2	
生涯スポーツ 1		1	
生涯スポーツ 2		1	
[外国語科目] (第一)			
英語演習 1	1		
英語演習 2	1		
英語演習 3	1		
英語演習 4	1		
英語演習 5		1	
英語演習 6		1	
イングリッシュ・スキルズ A 1	1		
イングリッシュ・スキルズ A 2	1		
イングリッシュ・スキルズ A 3	1		
イングリッシュ・スキルズ A 4	1		
イングリッシュ・スキルズ B 1		1	
イングリッシュ・スキルズ B 2		1	
イングリッシュ・スキルズ B 3		1	
イングリッシュ・スキルズ B 4		1	
留学英語		1	
[外国語科目] (第二)			
ドイツ語総合 1		1	
ドイツ語総合 2		1	
ドイツ語総合 3		1	
ドイツ語総合 4		1	
フランス語総合 1		1	
フランス語総合 2		1	
フランス語総合 3		1	
フランス語総合 4		1	
中国語総合 1		1	
中国語総合 2		1	
中国語総合 3		1	
中国語総合 4		1	
韓国語総合 1		1	
韓国語総合 2		1	
韓国語総合 3		1	
韓国語総合 4		1	
[基礎科目]			
情報処理基礎	1		
建築概論	2		
基礎製図	3		
スケッチ表現		2	

基礎数学	2		
物理学及び演習	3		
情報処理実習 1		1	
建築基礎演習	3		
3D・CAD演習	2		
建築構法	2		
数学概論		2	
情報処理実習 2		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	

建築工学専攻

[専門科目]			
静定構造力学 1	2		
静定構造力学演習 1		1	
静定構造力学 2	2		
静定構造力学演習 2		1	
不静定構造力学	2		
コンクリート構造	2		
鋼構造	2		
不静定構造力学演習		1	
建築材料	2		
木質構造		2	
建築施工	2		
建築地盤・基礎構造		2	
コンクリート構造演習		1	
鋼構造演習		1	
建築構造実験		2	
耐震耐風工学	2		
環境工学概論	2		
音・光環境	2		
熱・空気環境	2		
建築設備概論	2		
環境演習		2	
建築設備各論		2	
建築環境実験		2	
環境設備計画		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
建築設計論	2		
設計演習 I	3		
2D・CAD演習		2	
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
近代建築史	2		
設計演習 II	3		
建築計画各論	2		
現代都市計画		2	
日本建築史		2	
設計演習 III	2		

建築行政	2		
西洋建築史		2	
設計演習Ⅳ		2	
建築再生論		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

建築デザイン専攻

[専門科目]			
静定構造力学 1	2		
静定構造力学演習 1		1	
静定構造力学 2	2		
静定構造力学演習 2		1	
不静定構造力学	2		
コンクリート構造	2		
鋼構造	2		
不静定構造力学演習		1	
建築材料	2		
建築施工	2		
構造設計総論		2	
環境工学概論	2		
音・光環境	2		
熱・空気環境	2		
建築設備概論	2		
建築設備各論		2	
環境設備計画		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
建築設計論	2		
設計演習Ⅰ	3		
2D・CAD演習		2	
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
近代建築史	2		
設計演習Ⅱ	3		
設計演習Ⅲ	2		
建築デザイン論	2		
建築計画各論		2	
現代都市計画		2	
日本建築史		2	
建築デザイン演習Ⅰ		2	
建築行政	2		
スタジオ設計Ⅰ	2		
ランドスケープデザイン論		2	
インテリアデザイン論		2	
西洋建築史		2	
建築プロジェクトデザイン論		2	
建築デザイン演習Ⅱ		2	
設計演習Ⅳ		2	

スタジオ設計Ⅱ		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

住宅建築専攻

[専門科目]			
静定構造力学 1	2		
静定構造力学演習 1		1	
構造力学演習		2	
構造概論	2		
建築材料	2		
住宅構造学	2		
建築施工	2		
環境工学概論	2		
音・光環境		2	
熱・空気環境		2	
建築設備概論	2		
住宅環境性能論		2	
住宅設備	2		
環境都市・建築論		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
設計演習Ⅰ	3		
建築設計論		2	
2D・CAD演習		2	
建築史概論	2		
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
企画マネジメント総論	2		
設計演習Ⅱ	3		
現代ハウジング	2		
住文化論		2	
近代建築史		2	
居住管理論	2		
住宅都市計画演習	2		
建築デザイン論		2	
現代都市計画		2	
建築行政	2		
住宅実務設計演習	2		
ランドスケープデザイン論		2	
インテリアデザイン論		2	
福祉住居論	2		
土地建物調査法		2	
建築再生論		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

企画マネジメント専攻

[専門科目]			
静定構造力学 1	2		
静定構造力学演習 1		1	
構造力学演習		2	
構造概論	2		
建築材料	2		
住宅構造学		2	
建築施工		2	
環境工学概論	2		
音・光環境		2	
熱・空気環境		2	
建築設備概論	2		
環境都市・建築論		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
設計演習 I	3		
建築設計論		2	
2D・CAD演習		2	
建築史概論	2		
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
企画マネジメント総論	2		
設計演習 II	3		
現代ハウジング	2		
近代建築史		2	
建築計画各論		2	
建築生産論	2		
現代都市計画	2		
建築企画演習 I	2		
建築デザイン論		2	
居住管理論	2		
建築行政	2		
まちづくり論	2		
建築マネジメント I	2		
建築企画演習 II	2		
保存修景計画		2	
建築マネジメント II		2	
土地建物調査法		2	
建築再生論		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

#### 卒業要件及び履修方法

共通教養科目から14単位以上（必修科目4単位）、外国語科目から14単位以上（必修科目8単位）及び専門科目から96単位以上（必修科目 建築工学専攻・建築デザイン専攻78単位、住宅建築専攻・企画マネジメント専攻76単位）修得し、124単位以上修得すること。

#### 別表(1)ー6

#### 薬学部授業科目表

#### 医療薬学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
<b>【共通教養科目】</b>			
人権と社会 1		2	
人権と社会 2		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
住みよい社会と福祉		2	
現代経済の課題		2	
自校学習		2	
教養特殊講義 A		2	
生活環境科学		2	
日本語の技法		2	
国際化と異文化理解		2	
教養特殊講義 B		2	
基礎ゼミ	2		
基礎数学		2	
情報科学入門		2	
物理学概論		2	
教養特殊講義 C		2	
生涯スポーツ 1		1	
生涯スポーツ 2		1	
<b>【専門基礎科目】</b>			
基礎化学		2	
基礎生物学		2	
化学入門		2	
生物学入門		2	
<b>【外国語科目】</b>			
[英語]			
英語演習 1	2		
英語演習 2	2		
英語演習 3	1		
英語演習 4	1		
オーラルイングリッシュ 1		1	
オーラルイングリッシュ 2		1	
オーラルイングリッシュ 3		1	
オーラルイングリッシュ 4		1	
TOE I C A		1	
TOE I C B		1	
TOE F L A		1	
TOE F L B		1	
ライティング A		1	
ライティング B		1	
[初修外国語]			
ドイツ語総合 1		1	
ドイツ語総合 2		1	
ドイツ語総合 3		1	

ドイツ語総合4	1	
ドイツ語コミュニケーション1	1	
ドイツ語コミュニケーション2	1	
ドイツ語コミュニケーション3	1	
ドイツ語コミュニケーション4	1	
フランス語総合1	1	
フランス語総合2	1	
フランス語総合3	1	
フランス語総合4	1	
フランス語コミュニケーション1	1	
フランス語コミュニケーション2	1	
フランス語コミュニケーション3	1	
フランス語コミュニケーション4	1	
中国語総合1	1	
中国語総合2	1	
中国語総合3	1	
中国語総合4	1	
中国語コミュニケーション1	1	
中国語コミュニケーション2	1	
中国語コミュニケーション3	1	
中国語コミュニケーション4	1	

<履修方法>

共通教養科目から基礎ゼミ（必修）2単位を含んで14単位以上、専門基礎科目から6単位以上、外国語科目から英語8単位（必修6単位含む）を含んで12単位以上、合計32単位以上修得しなければならない。

医療薬学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
<b>【専門科目】</b>			
[ I 群 ]			
(化学系)			
基礎有機化学		1.5	
有機化学1		1.5	
基礎分析化学		1.5	
薬用資源学		1.5	
基礎物理化学		1.5	
物理化学		1.5	
有機化学2		1.5	
機器分析学		1.5	
天然物薬化学		1.5	
生物有機化学		1.5	
物理薬剤学		1	
構造分析化学		1.5	
製剤学		1.5	
食品衛生学		1.5	
医薬品化学		1.5	
合成化学		1.5	
(生物系)			

解剖組織学		1.5	
基礎生化学		1.5	
人体生理学 1		1.5	
分子薬理学		1.5	
人体生理学 2		1.5	
生化学		1.5	
細胞生物学		1.5	
微生物学		1.5	
衛生化学		1.5	
免疫学		1.5	
分子ゲノム薬科学		1.5	
先端ゲノム医療		1.5	
環境衛生学		1.5	
保健衛生学		1.5	
[Ⅱ群]			
薬学概論	1.5		
生命倫理	1.5		
薬理学 1	1.5		
病理学	1.5		
病態生理学 1	1.5		
患者と薬物治療法 1	1.5		
基礎医療薬学	1.5		
医薬品情報学	1.5		
薬物動態学 1	1.5		
医薬連携学習	1		
調剤学	1.5		
ファーマシューティカルケア	1.5		
医療・薬事関係法規 1	1.5		
臨床医学概論	1.5		
医療薬学総論	1.5		
実践病態と治療	1.5		
臨床薬物動態学	1.5		
地域医療	1.5		
薬効薬理処方解析	1.5		
放射化学		1	
薬理学 2		1.5	
薬学統計学		1.5	
病態生理学 2		1.5	
漢方薬学		1.5	
日本薬局方		1.5	
化学療法学		1.5	
病態検査学		1.5	
薬物速度論		1.5	
薬物動態学 2		1.5	
疾患と薬物治療法 2		1.5	
疾患と薬物治療法 3		1.5	
薬と経済		1.5	
治験		1.5	
医療・薬事関係法規 2		1.5	
がん治療学医薬看連携講義		1.5	

<b>【専門英語】</b>			
基礎生物学英語		1.5	
基礎化学英語		1.5	
生物学英語		1.5	
臨床薬学英語		1.5	
<b>【自由選択科目】</b>			
応用物理学			1.5
物理学実習			1.5
化粧品学			1.5
<b>【実習・演習】</b>			
情報科学実習 1	1		
情報科学実習 2	1		
基礎薬科学実習	2		
早期体験学習	2		
医薬品物性・製剤学実習	2		
免疫・分子生物学実習	2		
有機化学・生薬学実習	2		
衛生化学・放射化学実習	2		
薬効薬物動態解析実習	2		
総合薬学研究 1	2		
総合薬学研究 2	2		
フィジカルアセスメント	1		
実務実習事前学習	7		
総合演習 1	4		
臨床薬学実務実習	20		
総合薬学研究 3	4		
総合薬学演習	4		
総合演習 2	6		

<履修方法>

専門科目は必修科目28単位以上、Ⅰ群選択必修科目から37単位以上、Ⅱ群選択必修科目から20.5単位以上、専門英語から4.5単位以上、実習・演習科目から66単位以上、合計156単位以上修得しなければならない。

創薬科学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
<b>【共通教養科目】</b>			
人権と社会 1		2	
人権と社会 2		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
住みよい社会と福祉		2	
現代経済の課題		2	
自校学習		2	
教養特殊講義 A		2	
生活環境科学		2	
日本語の技法		2	
国際化と異文化理解		2	

教養特殊講義B		2	
基礎ゼミ	2		
基礎数学		2	
情報科学入門		2	
キャリアデザイン I	1		
教養特殊講義C		2	
生涯スポーツ 1	1		
生涯スポーツ 2	1		
【専門基礎科目】			
基礎化学	2		
基礎生物学	2		
化学入門	2		
生物学入門	2		
化学熱力学	2		
基礎分析化学	2		
【外国語科目】			
[英語]			
英語演習 1	2		
英語演習 2	2		
英語演習 3	2		
英語演習 4	2		
オーラルイングリッシュ 1	1		
オーラルイングリッシュ 2	1		
オーラルイングリッシュ 3	1		
オーラルイングリッシュ 4	1		
TOE I C A		1	
TOE I C B		1	
TOE F L A		1	
TOE F L B		1	
ライティングA		1	
ライティングB		1	
[初修外国語]			
ドイツ語総合 1		1	
ドイツ語総合 2		1	
ドイツ語総合 3		1	
ドイツ語総合 4		1	
ドイツ語コミュニケーション 1		1	
ドイツ語コミュニケーション 2		1	
ドイツ語コミュニケーション 3		1	
ドイツ語コミュニケーション 4		1	
フランス語総合 1		1	
フランス語総合 2		1	
フランス語総合 3		1	
フランス語総合 4		1	
フランス語コミュニケーション 1		1	
フランス語コミュニケーション 2		1	
フランス語コミュニケーション 3		1	
フランス語コミュニケーション 4		1	
中国語総合 1		1	
中国語総合 2		1	

中国語総合 3		1	
中国語総合 4		1	
中国語コミュニケーション 1		1	
中国語コミュニケーション 2		1	
中国語コミュニケーション 3		1	
中国語コミュニケーション 4		1	

<履修方法>

共通教養科目から基礎ゼミ、生涯スポーツ 1・2、キャリアデザイン I（必修）5 単位を含んで12単位以上、専門基礎科目から12単位以上、外国語科目から英語演習 1・2・3・4、オーラルイングリッシュ 1・2・3・4（必修）英語12単位を含んで14単位以上、合計38単位以上修得しなければならない。

創薬科学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
<b>【専門科目】</b>			
[必修科目]			
薬学概論	1.5		
基礎有機化学	1.5		
解剖組織学	1.5		
薬用資源学	1.5		
有機化学 1	1.5		
基礎生化学	1.5		
人体生理学 1	1.5		
化学演習	1		
生物学演習	1		
分子薬理学	1.5		
創薬インフォマティクス演習	1		
薬物動態学	1.5		
製剤学	1.5		
グローバル創薬科学演習	1		
創薬プレゼン実践演習初級	1		
専門科学英語演習	1		
創薬プレゼン実践演習上級	1		
[選択必修科目（創薬化学系）]			
有機化学 2		1.5	
薬学物理化学		1.5	
分析化学		1.5	
構造分析化学		1.5	
創薬物理化学		1.5	
有機反応化学		1.5	
メディシナルケミストリー		1.5	
生物有機化学		1.5	
製剤工学		1.5	
構造活性相関		1.5	
[選択必修科目（生命薬科学系）]			
微生物学		1.5	
細胞生物学		1.5	
バイオ・ゲノム薬科学		1.5	

免疫学	1.5	
生化学	1.5	
ゲノム創薬と再生医療	1.5	
薬理学1	1.5	
薬理学2	1.5	
化学療法学	1.5	
〔選択Ⅰ〕		
物理学概論	1.5	
薬学統計学	1.5	
天然物薬化学	1.5	
食品薬学	1.5	
食品衛生学	1.5	
環境衛生学	1.5	
漢方薬学	1.5	
日本薬局方	1.5	
衛生化学	1.5	
〔選択Ⅱ〕		
人体生理学2	1.5	
病態生理学1	1.5	
放射化学	1.5	
病理学	1.5	
病態生理学2	1.5	
生体成分分析化学	1.5	
病態検査学	1.5	
〔選択Ⅲ〕		
新創薬科学研究コース1	1.5	
新創薬科学研究コース2	1.5	
インターンシップ	1.5	
海外研修グローバル創薬コース	1.5	
化粧品学	1.5	
医薬品開発産学連携講座	1.5	
実践科学英語演習	1	
【専門英語】		
基礎生物学英語	1.5	
基礎化学英語	1.5	
生物学英語	1.5	
化学英語	1.5	
科学英語	1.5	
プレゼンテーション英語	1.5	
【自由選択科目】		
応用物理学		1.5
生命倫理		1.5
物理学実習		1.5
疾患と薬物治療法1		1.5
疾患と薬物治療法2		1.5
臨床検査学		1.5
創薬科学実習4		2
臨床検査学総論1		2
臨床生理学		1.5
臨床検査学総論2		2

臨床検査学総論実習			4
臨床化学実習			3
臨床生理学実習			4
【実習・研究】			
情報科学実習 1	1		
情報科学実習 2	1		
基礎薬科学実習	2		
創薬科学実習 1	2		
創薬科学実習 2	3		
創薬科学実習 3	5		
卒業研究	12		

<履修方法>

専門科目は必修科目から22単位、選択必修科目のうち創薬化学系から12単位・生命薬科学系から10.5単位、選択科目Ⅰから4.5単位以上、選択科目Ⅱから3単位以上、選択科目Ⅲから4単位以上、専門英語から7.5単位以上、実習・研究科目から30単位以上、合計93.5単位以上修得しなければならない。

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程

教科に関する科目

授業科目	単位数
地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2
地学実験	1

別表(1)ー7

文芸学部授業科目表

共通教養科目

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【共通教養科目】			
(人間性・社会性科目群)			
人権と社会 1		2	
人権と社会 2		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
現代の社会論		2	
哲学と人間・社会		2	
住みよい社会と福祉		2	
自校学習		2	
教養特殊講義 A		2	
(地域性・国際性科目群)			
地域と環境の地理学		2	
国際経済入門		2	
国際社会と日本		2	
国際化と異文化理解		2	
日本文学論		2	
教養特殊講義 B		2	
(課題設定・問題解決科目群)			

基礎ゼミ	2		
生命の科学		2	
思考の技術		2	
キャリアデザイン1		2	
キャリアデザイン2		2	
科学・技術と社会		2	
数的リテラシー基礎1		2	
数的リテラシー基礎2		2	
コンピュータ実習1	2		
コンピュータ実習2		2	
教養特殊講義C (スポーツ・表現活動科目群)		2	
生涯スポーツ1		1	
生涯スポーツ2		1	
日本語の表現		2	
心と体の健康		2	
身体論		2	
芸術と表現		2	
【第一外国語科目(英語)】			
英語1A	1		
英語1B	1		
英語2A	1		
英語2B	1		
オーラルイングリッシュ1	1		
オーラルイングリッシュ2	1		
英語3	1		
英語4	1		
オーラルイングリッシュ3		1	
オーラルイングリッシュ4		1	
留学英語1		1	
留学英語2		1	
TOEIC 1		1	
TOEIC 2		1	
TOEIC 3		1	
TOEIC 4		1	
TOEFL 1		1	
TOEFL 2		1	
インターネット英語1		1	
インターネット英語2		1	
スポーツ英語基礎1		1	
スポーツ英語基礎2		1	
ESP 1		1	
ESP 2		1	
[第二外国語科目]			
ドイツ語総合1		1	
ドイツ語総合2		1	
ドイツ語総合3		1	
ドイツ語総合4		1	
ドイツ語コミュニケーション1		1	
ドイツ語コミュニケーション2		1	

ドイツ語コミュニケーション3	1
ドイツ語コミュニケーション4	1
フランス語総合1	1
フランス語総合2	1
フランス語総合3	1
フランス語総合4	1
フランス語コミュニケーション1	1
フランス語コミュニケーション2	1
フランス語コミュニケーション3	1
フランス語コミュニケーション4	1
中国語総合1	1
中国語総合2	1
中国語総合3	1
中国語総合4	1
中国語コミュニケーション1	1
中国語コミュニケーション2	1
中国語コミュニケーション3	1
中国語コミュニケーション4	1
韓国語総合1	1
韓国語総合2	1
韓国語総合3	1
韓国語総合4	1
韓国語コミュニケーション1	1
韓国語コミュニケーション2	1
韓国語コミュニケーション3	1
韓国語コミュニケーション4	1
イタリア語総合1	1
イタリア語総合2	1
イタリア語総合3	1
イタリア語総合4	1
イタリア語コミュニケーション1	1
イタリア語コミュニケーション2	1
イタリア語コミュニケーション3	1
イタリア語コミュニケーション4	1
スペイン語総合1	1
スペイン語総合2	1
スペイン語総合3	1
スペイン語総合4	1
スペイン語コミュニケーション1	1
スペイン語コミュニケーション2	1
スペイン語コミュニケーション3	1
スペイン語コミュニケーション4	1

<履修方法>

共通教養科目から必修科目を含み20単位以上、外国語科目から英語（必修科目を含む）10単位を含み14単位以上、合計34単位以上修得すること。ただし、「スポーツ英語基礎1」、「スポーツ英語基礎2」は、スポーツ学生のみ履修することができる。

また、文学科英語英米文学専攻については英語10単位を除外し、合計24単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文学科 日本文学専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
<b>【必修科目】</b>			
(コース共通)			
専門基礎研究	2		
文学概論 1	2		
文学概論 2	2		
日本文学史 1	2		
日本文学史 2	2		
卒業論文・卒業制作	4		
[コース必修]			
(言語・文学コース)			
フィールド・ワーク	1		
アカデミック・ライティング	1		
[演習]			
(言語・文学コース)			
言語・文学演習 1 A	1		
言語・文学演習 1 B	1		
言語・文学演習 2 A	1		
言語・文学演習 2 B	1		
[コース必修]			
(創作・評論コース)			
クリエイティブ・ライティング 1	1		
クリエイティブ・ライティング 2	1		
[演習]			
(創作・評論コース)			
創作・評論演習 1 A	1		
創作・評論演習 1 B	1		
創作・評論演習 2 A	1		
創作・評論演習 2 B	1		
<b>【選択必修科目】</b>			
[選択必修科目 I (コース共通)]			
[言語・文学系 (A群)]			
※文学のジャンル 1		2	
※文学のスタイル 1		2	
※古典への招待 1		2	
※古典への招待 2		2	
※作家論		2	
※作品論		2	
※翻訳文学		2	
※日本語学概論		2	
※日本語文法		2	
[選択必修科目 II]			
(言語・文学コース)			
※文学のジャンル 2		2	
※文学のスタイル 2		2	
※上代・中世作品講読		2	
※中世・近世作品講読		2	

※近代文学講読	2
※現代文学講読	2
※上代の思想と表現	2
※中古の思想と表現	2
※中世の思想と表現	2
※近世の思想と表現	2
※近代表現史論	2
※現代表現史論	2
※日本語史論 1	2
※日本語史論 2	2
※言語学 1	2
※言語学 2	2
※テキストクリティーク	2
言語理論 1	2
言語理論 2	2
文学テキストの読み方 1	2
文学テキストの読み方 2	2
[選択必修科目 I (コース共通)]	
[創作・評論系 (B群)]	
※創作基礎 1	2
※創作基礎 2	2
※批評理論 1	2
※批評理論 2	2
※世界文学	2
※映画史	2
※メディア論	2
※翻訳基礎	2
※編集基礎	2
[選択必修科目 II]	
(創作・評論コース)	
※創作技法 1	2
※創作技法 2	2
※創作技法 3	2
※文芸批評 1	2
※文芸批評 2	2
※現代思想 1	2
※現代思想 2	2
※外国文学 1	2
※外国文学 2	2
※映像と文学 1	2
※映像と文学 2	2
※比較文学	2
※推理小説論	2
※マスメディア論	2
※ジャーナリズム論	2
※編集技法	2
※編集・出版論	2
創作研究 1	2
創作研究 2	2
評論研究	2

編集研究		2	
【自由選択科目】（コース共通）			
※映像・芸術基礎 1		2	
※映像・芸術基礎 2		2	
※古典と現代 1		2	
※古典と現代 2		2	
※文芸特殊講義 1		2	
※文芸特殊講義 2		2	
※日本語教授法基礎 1		2	
※日本語教授法基礎 2		2	
※日本語教授法 1		2	
※日本語教授法 2		2	
※映像・芸術論 1		2	
※映像・芸術論 2		2	
※演劇・芸能論 1		2	
※演劇・芸能論 2		2	
※文芸特殊講義 3		2	
※文芸特殊講義 4		2	
※書誌学 1		2	
※書誌学 2		2	
※書道		2	
※日本語特殊講義 1		2	
※日本語特殊講義 2		2	
※手話学 1		2	
※手話学 2		2	
※日本語教授法 3		2	
※日本語教授法 4		2	
※文芸特殊講義 5		2	
※文芸特殊講義 6		2	
※漢文学 1		2	
※漢文学 2		2	
※文芸特殊講義 7		2	
※文芸特殊講義 8		2	
※関西文化研究		2	
※大阪文芸研究		2	
留学プログラム I		2	
留学プログラム II		2	
インターンシップ		2	
他学科・他専攻・他コースの開放科目（※）			

<履修方法>

言語・文学コースは、必修科目20単位、選択必修科目 I から12単位以上、選択必修科目 II から26単位以上、自由選択科目から32単位以上、合計90単位以上修得すること。

創作・評論コースは、必修科目20単位、選択必修科目 I から12単位以上、選択必修科目 II から26単位以上、自由選択科目から32単位以上、合計90単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文学科 英語英米文学専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由

【必修科目】			
(英語英米文学コース)			
Speaking I A	2		
Speaking I B	2		
Listening I A	2		
Listening I B	2		
Reading A	2		
Reading B	2		
Tutorial I	2		
Practical English (L) I A	1		
Practical English (L) I B	1		
Practical English (R) I A	1		
Practical English (R) I B	1		
American Literary History	2		
Presentation Skills A	1		
Presentation Skills B	1		
Speaking II A	2		
Speaking II B	2		
Listening II A	2		
Listening II B	2		
Tutorial II A	2		
Tutorial II B	2		
English Literary History	2		
English Communication I A	2		
English Communication I B	2		
Academic Writing A	2		
Academic Writing B	2		
Seminar I A	2		
Seminar I B	2		
Reading Academic English I A	2		
Reading Academic English I B	2		
Seminar II A	2		
Seminar II B	2		
Reading Academic English II A	2		
Reading Academic English II B	2		
English Communication II	2		
Graduate Study	4		
【選択必修科目】			
[Basic]			
※Children's Literature A		2	
※Children's Literature B		2	
※Anglo Fiction Studies A		2	
※Anglo Fiction Studies B		2	
※American Fiction Studies A		2	
※American Fiction Studies B		2	
※Literary Translation I A		2	
※Literary Translation I B		2	
※Comparative Literature A		2	
※Comparative Literature B		2	
※Medieval English Literature A		2	

※Medieval English Literature B	2	
English Education A	2	
English Education B	2	
Literary TranslationⅡ A	2	
Literary TranslationⅡ B	2	
[Advanced]		
※Drama Studies A	2	
※Drama Studies B	2	
※Poetry Studies A	2	
※Poetry Studies B	2	
※Culture and Literature A	2	
※Culture and Literature B	2	
Early Childhood English Education A	2	
Early Childhood English Education B	2	
【自由選択科目】		
※English Linguistics A	2	
※English Linguistics B	2	
※Global Issues Literature A	2	
※Global Issues Literature B	2	
※Film and Literature A	2	
※Film and Literature B	2	
TOEIC Advanced A	2	
TOEIC Advanced B	2	
※Practical English (L) Ⅱ	2	
※Practical English (R) Ⅱ	2	
※TOEFL Writing	2	
Study Abroad Programme	2	
インターンシップ	2	
他学科・他専攻の開放科目 (※)		

<履修方法>

必修科目66単位、選択必修科目Basicから16単位以上、選択必修科目Advanceから8単位以上、自由選択科目10単位以上、計100単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

芸術学科 舞台芸術専攻

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
※演劇概論	2		
【指定必修科目Ⅰ】 (基礎科目Ⅰ)			
※身体と発声A		1	
※身体と発声B		1	
舞台表現基礎実習A		1	
舞台表現基礎実習B		1	
舞踊表現基礎実習A		1	
舞踊表現基礎実習B		1	
(基礎科目Ⅱ)			
※日本作家作品論A		2	
※日本作家作品論B		2	

※日本芸能概論 A	2	
※日本芸能概論 B	2	
※戯曲の読み方	2	
※戯曲創作研究 1	2	
【指定必修科目Ⅱ】		
演劇創作実習 1 A	1	
演劇創作実習 1 B	1	
演劇創作実習 2 A	1	
演劇創作実習 2 B	1	
舞踊創作実習 1 A	1	
舞踊創作実習 1 B	1	
舞踊創作実習 2 A	1	
舞踊創作実習 2 B	1	
※戯曲創作研究 2 A	2	
※戯曲創作研究 2 B	2	
パフォーマンス研究 A	2	
パフォーマンス研究 B	2	
※伝統芸能作品研究 A	2	
※伝統芸能作品研究 B	2	
【指定必修科目Ⅲ】		
演劇創作演習 1 A	2	
演劇創作演習 1 B	2	
演劇創作演習 2 A	2	
演劇創作演習 2 B	2	
舞踊創作演習 1 A	2	
舞踊創作演習 1 B	2	
舞踊創作演習 2 A	2	
舞踊創作演習 2 B	2	
※戯曲創作研究 3 A	2	
※戯曲創作研究 3 B	2	
※演劇芸能研究 A	2	
※演劇芸能研究 B	2	
T O P 研究 A	2	
T O P 研究 B	2	
【指定必修科目Ⅳ】		
[卒業研究①]		
卒業研究 1 A	2	
卒業研究 1 B	2	
演劇卒業公演	4	
[卒業研究②]		
卒業研究 2 A	2	
卒業研究 2 B	2	
舞踊卒業公演	4	
[卒業研究③]		
卒業研究 3 A	2	
卒業研究 3 B	2	
卒業戯曲創作	4	
[卒業研究④]		
卒業研究 4 A	2	
卒業研究 4 B	2	

卒業論文	4
【選択必修科目】	
文章表現	2
文章創作	2
※アートマネジメント論A	2
※アートマネジメント論B	2
※舞台技術基礎実習Ⅰ 1	2
※舞台技術基礎実習Ⅰ 2	2
※舞台技術基礎実習Ⅱ 1	2
※舞台技術基礎実習Ⅱ 2	2
舞台芸術特別実習Ⅰ	1
舞台芸術特別演習Ⅰ	2
※舞台芸術特論Ⅰ	2
舞踊表現実習A	1
舞踊表現実習B	1
舞踊発表実習A	1
舞踊発表実習B	1
※戯曲論A	2
※戯曲論B	2
※演出・演技論A	2
※演出・演技論B	2
※舞台照明実習1	1
※舞台照明実習2	1
※音響効果実習1	1
※音響効果実習2	1
※舞台美術実習1	1
※舞台美術実習2	1
※映像表現実習A	1
※映像表現実習B	1
※伝統芸能実習ⅠA	1
※伝統芸能実習ⅠB	1
※伝統芸能実習ⅡA	1
※伝統芸能実習ⅡB	1
※音楽実習Ⅰ	1
※世界舞踊史A	2
※世界舞踊史B	2
※世界映画史A	2
※世界映画史B	2
※演劇批評論A	2
※演劇批評論B	2
舞台芸術特別実習Ⅱ	1
舞台芸術特別演習Ⅱ	2
※舞台芸術特論Ⅱ	2
※舞台芸術論A	2
※舞台芸術論B	2
※音楽実習Ⅱ	1
※映像表現演習	2
舞台美術実習3	1
舞台美術実習4	1
※日本演劇史A	2

※日本演劇史 B		2	
※演劇教育演習 A		2	
※演劇教育演習 B		2	
※世界演劇史 A		2	
※世界演劇史 B		2	
舞台芸術特別実習Ⅲ		1	
舞台芸術特別演習Ⅲ		2	
※舞台芸術特論Ⅲ		2	
【自由選択科目】			
日本語学概論		2	
日本語史論 1		2	
日本語史論 2		2	
書道		2	
留学プログラム I		2	
留学プログラム II		2	
インターンシップ		2	
他学科・他専攻の開放科目 (※)			

<履修方法>

必修科目から2単位、指定必修科目Ⅰの基礎科目Ⅰから2単位以上、基礎科目Ⅱから4単位以上、指定必修科目Ⅱから8単位以上、指定必修科目Ⅲから4単位以上、指定必修科目Ⅳから8単位以上を含む計60単位以上、合計90単位以上を修得すること。

文芸学部授業科目表

芸術学科 造形芸術専攻

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
※日本美術史 A	2		
※日本美術史 B	2		
※西洋美術史 A	2		
※西洋美術史 B	2		
卒業制作・卒業論文	4		
ゼミナールⅠ A	4		
ゼミナールⅠ B	4		
ゼミナールⅡ A	4		
ゼミナールⅡ B	4		
ゼミナールⅢ A	4		
ゼミナールⅢ B	4		
ゼミナールⅣ A	4		
ゼミナールⅣ B	4		
【選択必修科目Ⅰ】			
デッサン基礎演習Ⅰ		2	
デッサン基礎演習Ⅱ		2	
平面基礎演習 A		2	
平面基礎演習 B		2	
立体基礎演習 A		2	
立体基礎演習 B		2	
【選択必修科目Ⅱ】			
※デザイン概論 A		2	
※デザイン概論 B		2	

※絵画論	2
※立体造形論	2
※陶芸論	2
※染織論	2
※ガラス造形論	2
※版画論	2
※グラフィックアート論	2
※工芸史A	2
※工芸史B	2
※材料学A	2
※材料学B	2
デザイン製図	2
※タイポグラフィ論	2
色彩学	2
【選択必修科目Ⅲ】	
彫塑	2
造形プロジェクト演習ⅠA	2
造形プロジェクト演習ⅠB	2
造形プロジェクト演習ⅡA	2
造形プロジェクト演習ⅡB	2
造形特別プログラムⅠA	2
造形特別プログラムⅠB	2
造形特別プログラムⅡA	2
造形特別プログラムⅡB	2
コンピュータグラフィックス演習ⅠA	2
コンピュータグラフィックス演習ⅠB	2
コンピュータグラフィックス演習ⅡA	2
コンピュータグラフィックス演習ⅡB	2
芸術学演習A	2
芸術学演習B	2
【選択必修科目Ⅳ】	
※芸術学概論A	2
※芸術学概論B	2
※日本美術史特論A	2
※日本美術史特論B	2
※西洋美術史特論A	2
※西洋美術史特論B	2
※現代美術論A	2
※現代美術論B	2
※現代写真論	2
※芸術学研究ⅠA	2
※芸術学研究ⅠB	2
※芸術学研究ⅡA	2
※芸術学研究ⅡB	2
アートマーケティング論A	2
アートマーケティング論B	2
【自由選択科目】	
※留学プログラムⅠ	2
※留学プログラムⅡ	2
インターンシップ	2

他学科・他専攻の開放科目 (※)			
------------------	--	--	--

<履修方法>

必修科目44単位、選択必修科目Ⅰから4単位以上、Ⅱ、ⅢⅣからそれぞれ10単位以上（ただしⅡ又はⅣは12単位以上であること）を含む80単位以上、合計90単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文化・歴史学科

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
基礎研究	2		
演習ⅠA	1		
演習ⅠB	1		
演習ⅡA	1		
演習ⅡB	1		
卒業論文	8		
【選択必修科目】			
〔基礎科目〕			
※日本史概説A		2	
※日本史概説B		2	
※世界史概説A		2	
※世界史概説B		2	
※現代学入門A		2	
※現代学入門B		2	
※文化資源学概説A		2	
※文化資源学概説B		2	
〔講読〕			
※日本古代史講読A		2	
※日本古代史講読B		2	
※日本中世史講読A		2	
※日本中世史講読B		2	
※日本近世史講読A		2	
※日本近世史講読B		2	
※日本近現代史講読A		2	
※日本近現代史講読B		2	
※西洋史講読ⅠA		2	
※西洋史講読ⅠB		2	
※西洋史講読ⅡA		2	
※西洋史講読ⅡB		2	
※中国史講読A		2	
※中国史講読B		2	
※古代エジプト史講読A		2	
※古代エジプト史講読B		2	
※現代文化講読ⅠA		2	
※現代文化講読ⅠB		2	
※現代文化講読ⅡA		2	
※現代文化講読ⅡB		2	
※現代倫理講読ⅠA		2	
※現代倫理講読ⅠB		2	
※現代倫理講読ⅡA		2	

※現代倫理講読Ⅱ B	2
※考古学講読 A	2
※考古学講読 B	2
※民俗学講読 A	2
※民俗学講読 B	2
※文化資源学講読 A	2
※文化資源学講読 B	2
[発展科目]	
※歴史考古学 A	2
※歴史考古学 B	2
※日本古代史 A	2
※日本古代史 B	2
※日本中世史 A	2
※日本中世史 B	2
※日本近世史 A	2
※日本近世史 B	2
※日本近現代史 A	2
※日本近現代史 B	2
※日本思想史 A	2
※日本思想史 B	2
※人文地理学 A	2
※人文地理学 B	2
※地誌学 A	2
※地誌学 B	2
※西洋史 A	2
※西洋史 B	2
※西洋文化史Ⅰ A	2
※西洋文化史Ⅰ B	2
※西洋文化史Ⅱ A	2
※西洋文化史Ⅱ B	2
※東洋文化史Ⅰ A	2
※東洋文化史Ⅰ B	2
※東洋文化史Ⅱ A	2
※東洋文化史Ⅱ B	2
※東洋史 A	2
※東洋史 B	2
※古代エジプト史 A	2
※古代エジプト史 B	2
※宗教学 A	2
※宗教学 B	2
※文化人類学 A	2
※文化人類学 B	2
※環境倫理学	2
※生命倫理学	2
※文化社会学 A	2
※文化社会学 B	2
※現代人間学 A	2
※現代人間学 B	2
※ライフスタイル論	2
※ファッション文化論	2

※サブカルチャー論	2
※メディア論A	2
※メディア論B	2
※女性学・男性学A	2
※女性学・男性学B	2
※音楽文化論A	2
※音楽文化論B	2
考古学実習A	1
考古学実習B	1
民俗学実習A	1
民俗学実習B	1
※日本民俗学	2
※環境民俗論	2
※日本考古学A	2
※日本考古学B	2
※近畿現代文化探索	2
※近畿歴史文化探索	2
※世界の文化遺産A	2
※世界の文化遺産B	2
※近畿文化論A	2
※近畿文化論B	2
文化探索実習	1
文化活用・発信実習	1
文化資源学自由研究	2
【自由選択科目】	
※自然地理学A	2
※自然地理学B	2
※政治学原論A	2
※政治学原論B	2
※文化学特講ⅠA	2
※文化学特講ⅠB	2
※文化学特講ⅡA	2
※文化学特講ⅡB	2
※文化学特講ⅢA	2
※文化学特講ⅢB	2
※言語文化セミナー初級	2
※言語文化セミナーA	2
※言語文化セミナーB	2
コンピュータ実習A	2
コンピュータ実習B	2
留学プログラムⅠ	2
留学プログラムⅡ	2
インターンシップ	2
他学科の開放科目（※）	

<履修方法>

必修科目10単位、選択必修科目（基礎科目4単位、講読4単位以上、発展科目32単位以上を含む）及び自由選択科目（4単位以上）から82単位以上、合計90単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文化デザイン学科

授業科目	必修	選択	自由
<b>【必修科目】</b>			
感性学概論	2		
デザイン学概論	2		
プロデュース学概論	2		
ゼミナールⅠA	4		
ゼミナールⅠB	4		
ゼミナールⅡA	4		
ゼミナールⅡB	4		
ゼミナールⅢA	4		
ゼミナールⅢB	4		
ゼミナールⅣA	4		
ゼミナールⅣB	4		
卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクト	4		
<b>【感性学系】</b>			
西洋芸術文化史A		2	
西洋芸術文化史B		2	
日本芸術文化史A		2	
日本芸術文化史B		2	
感性文化論		2	
視覚文化論		2	
表象文化論		2	
近畿風土論		2	
感性学特論Ⅰ		2	
感性学特論Ⅱ		2	
感性学特論Ⅲ		2	
<b>【デザイン系】</b>			
デザイン感覚基礎A		2	
デザイン感覚基礎B		2	
デザイン史A		2	
デザイン史B		2	
空間デザイン論		2	
視覚デザイン論		2	
プロダクトデザイン論		2	
ソーシャルデザイン論		2	
デザイン学特論Ⅰ		2	
デザイン学特論Ⅱ		2	
デザイン学特論Ⅲ		2	
<b>【プロデュース系】</b>			
アートコミュニケーション論A		2	
アートコミュニケーション論B		2	
プロデューサー論A		2	
プロデューサー論B		2	
文化政策論		2	
劇場文化論		2	
地方創生論		2	
ソーシャルメディア論		2	
プロデュース学特論Ⅰ		2	
プロデュース学特論Ⅱ		2	
プロデュース学特論Ⅲ		2	

【共通選択必修科目】			
芸術文化講読A		2	
芸術文化講読B		2	
プロジェクト演習A		2	
プロジェクト演習B		2	
CAD・CG演習A		2	
CAD・CG演習B		2	
プレゼンテーション演習		2	
広告コミュニケーション論		2	
知的財産論		2	
インターンシップ		2	

<履修方法>

必修科目42単位、感性学系、デザイン系、プロデュース系の3つの系からそれぞれ10単位以上を含む、合計90単位以上修得すること。

文芸学部（全学科共通）

授業科目	単位数
【他学部開講単位互換科目】	
（法学部開講科目）	
国際法A	2
社会保障法A	2
社会保障法B	2
民法E	2
民法F	2
ジェンダー法A	2
ジェンダー法B	2
環境法A	2
環境法B	2
（経済学部開講科目）	
協同組合論Ⅰ	2
協同組合論Ⅱ	2
アメリカ経済論Ⅰ	2
アメリカ経済論Ⅱ	2
中国経済論Ⅰ	2
中国経済論Ⅱ	2
（経営学部開講科目）	
経営学A	2
経営学B	2
マーケティング論	2
公企業経営論	2
広告論	2
非営利組織経営論	2
ブランド論	2
ファッションマーケティング	2
サービス・マーケティング論Ⅰ	2
サービス・マーケティング論Ⅱ	2

<履修方法>

他学部開講単位互換科目は8単位まで自由選択科目の単位数に加算することができる。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

<履修方法>

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注) 他学部開講単位互換科目の修得と合わせて、10単位まで自由選択科目の単位数に加算することができる。履修配当学年については2学年生以上とする。

別表(1)ー8

総合社会学部授業科目表

総合社会学科

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
[共通教養科目]			
(人間性・社会性科目群)			
いのちの尊厳		2	
ボランティア論		2	
ボランティア実習		2	
人権と社会1		2	
人権と社会2		2	
暮らしのなかの憲法		2	
住みよい社会と福祉		2	
芸術鑑賞入門		2	
教養特殊講義A		2	
(地域性・国際性科目群)			
国際化と異文化理解		2	
ことばと文化		2	
国際社会と日本		2	
世界の貧困と格差		2	
グローバル化と経済		2	
地域と環境の地理学		2	
時事教養		2	
教養特殊講義B		2	
(課題設定・問題解決科目群)			
基礎ゼミ	2		
日本語の技法		2	
思考の技術		2	
情報処理		2	
基礎数学		2	
キャリアデザインⅠ		2	
キャリアデザインⅡ		2	
教養特殊講義C		2	
(スポーツ・表現活動科目群)			
生涯スポーツ1		1	
生涯スポーツ2		1	
健康とスポーツの科学		2	
食生活と健康		2	
(学部基礎科目群)			
日本史概論1		2	

日本史概論 2		2	
外国史概論 1		2	
外国史概論 2		2	
地誌学概論 1		2	
地誌学概論 2		2	
社会学概論		2	
政治学概論		2	
国際政治学概論		2	
法律学概論		2	
倫理学概論		2	
哲学概論		2	
[外国語科目 (第一外国語)]			
(英語)			
(基幹科目)			
英語演習 1	2		
英語演習 2	2		
英語演習 3		1	
英語演習 4		1	
オーラルイングリッシュ 1	1		
オーラルイングリッシュ 2	1		
オーラルイングリッシュ 3		1	
オーラルイングリッシュ 4		1	
(発展科目)			
英語演習 5		1	
英語演習 6		1	
イングリッシュスペシャルスタディーズ 1		1	
イングリッシュスペシャルスタディーズ 2		1	
イングリッシュスペシャルスタディーズ 3		1	
イングリッシュスペシャルスタディーズ 4		1	
資格英語 1		1	
資格英語 2		1	
資格英語 3		1	
資格英語 4		1	
アカデミックイングリッシュスキルズ 1		1	
アカデミックイングリッシュスキルズ 2		1	
アカデミックイングリッシュスキルズ 3		1	
アカデミックイングリッシュスキルズ 4		1	
アカデミックイングリッシュスキルズ 5		1	
アカデミックイングリッシュスキルズ 6		1	
海外語学研修 (英語)		1	
[外国語科目 (第二外国語)]			
(中国語)			
中国語総合 1		1	
中国語総合 2		1	
中国語総合 3		1	
中国語総合 4		1	
中国語コミュニケーション 1		1	
中国語コミュニケーション 2		1	
中国語カルチャーセミナー A		1	
中国語カルチャーセミナー B		1	

中国語コミュニケーション3		1	
中国語コミュニケーション4		1	
海外語学研修（中国語）		1	
〔外国語科目（第二外国語）〕			
（韓国語）			
韓国語総合1		1	
韓国語総合2		1	
韓国語総合3		1	
韓国語総合4		1	
韓国語コミュニケーション1		1	
韓国語コミュニケーション2		1	
韓国語カルチャーセミナーA		1	
韓国語カルチャーセミナーB		1	
韓国語コミュニケーション3		1	
韓国語コミュニケーション4		1	
海外語学研修（韓国語）		1	
〔外国語科目（第二外国語）〕			
（ドイツ語）			
ドイツ語総合1		1	
ドイツ語総合2		1	
ドイツ語総合3		1	
ドイツ語総合4		1	
ドイツ語コミュニケーション1		1	
ドイツ語コミュニケーション2		1	
ドイツ語カルチャーセミナーA		1	
ドイツ語カルチャーセミナーB		1	
ドイツ語コミュニケーション3		1	
ドイツ語コミュニケーション4		1	
〔外国語科目（第二外国語）〕			
（フランス語）			
フランス語総合1		1	
フランス語総合2		1	
フランス語総合3		1	
フランス語総合4		1	
フランス語コミュニケーション1		1	
フランス語コミュニケーション2		1	
フランス語カルチャーセミナーA		1	
フランス語カルチャーセミナーB		1	
フランス語コミュニケーション3		1	
フランス語コミュニケーション4		1	
〔学部共通コア科目〕			
総合社会学演習	2		
総合社会学概論A	2		
総合社会学概論B	2		
〔社会・マスメディア系専攻領域〕			
（専門基礎科目）			
日本語文章力養成A		2	
日本語文章力養成B		2	
社会調査法A		2	
社会調査法B		2	

フィールドワーク A		2	
フィールドワーク B		2	
社会システム論 A		2	
社会システム論 B		2	
国際社会学		2	
メディア概論 A		2	
メディア概論 B		2	
現場からの放送論		2	
現場からの新聞論		2	
社会学総論 A		2	
社会学総論 B		2	
グローバルヒストリー		2	
地理学概論		2	
現代政治概論		2	
経済学概論		2	
国際開発協力論		2	
科学的思考法		2	
時事総論 A		2	
時事総論 B		2	
基礎講読 (鑑賞) A	2		
基礎講読 (鑑賞) B	2		
(専門発展科目 I)			
NPO論/NGO論		2	
多文化共生論		2	
環境民俗論		2	
地域社会論		2	
社会学史		2	
現代文化論		2	
現代社会論 A		2	
現代社会論 B		2	
国際関係論		2	
国際理解教育		2	
文化人類学		2	
情報と社会		2	
ネットワーク論		2	
リスクアセスメント		2	
広告論		2	
広報論		2	
映像制作演習		2	
映像表現論 A		2	
映像表現論 B		2	
ジャーナリズム論 A		2	
ジャーナリズム論 B		2	
出版論		2	
日本語文章力養成 C		2	
日本語文章力養成 D		2	
量的解析法		2	
質的分析法		2	
社会統計学 A		2	
社会統計学 B		2	

社会調査実習 A		1	
社会調査実習 B		1	
(専門発展科目Ⅱ)			
(現代社会コース)			
コミュニケーション論		2	
社会ネットワーク分析		2	
ドキュメンタリー制作		2	
地域・コミュニティ開発論		2	
経済と社会		2	
天文学と文明		2	
都市論		2	
国際標準化論		2	
(マスメディアコース)			
芸術メディア論 A		2	
芸術メディア論 B		2	
メディア・コンテンツ論		2	
映像表現論 C		2	
映像表現論 D		2	
マスメディア特講 A		2	
マスメディア特講 B		2	
(卒業論文・卒業制作科目群)			
演習 1 A	1		
演習 1 B	1		
演習 2 A	2		
演習 2 B	2		
卒業論文・卒業制作	6		
(インターンシップ科目)			
インターンシップ I		2	
インターンシップ II		2	
インターンシップ III		2	
[心理系専攻領域]			
(専門基礎科目)			
心理学概論 A	2		
心理学概論 B	2		
心理学研究法	2		
心理学入門		2	
自然科学と心理学		2	
社会科学と心理学		2	
心理学史		2	
心理学統計法 1	2		
心理学統計法 2		2	
心理学統計法 3		2	
心理測定法		2	
実験プログラミング演習		1	
コミュニケーション心理学実習		1	
心理学実験 A		2	
心理学実験 B		2	
(専門発展科目Ⅰ)			
知覚心理学		2	
認知心理学		2	

学習行動論		2	
行動発達学		2	
発達心理学		2	
社会心理学		2	
家族心理学		2	
犯罪心理学		2	
健康心理学		2	
産業心理学		2	
臨床心理学概論		2	
(専門発展科目Ⅱ)			
知覚・認知心理学		2	
神経・生理心理学		2	
情報処理心理学		2	
比較行動学		2	
進化心理学		2	
学習・言語心理学		2	
行動・発達心理学		2	
社会・集団・家族心理学		2	
感情・人格心理学		2	
司法・犯罪心理学		2	
教育・学校心理学		2	
障害者・障害児心理学		2	
福祉心理学		2	
健康・医療心理学		2	
産業・組織心理学		2	
人体の構造と機能及び疾病		2	
精神疾患とその治療		2	
心理学的支援法		2	
心理的アセスメント		2	
関係行政論		2	
心理学研究基礎	2		
心理学講読	2		
演習 1 A	1		
演習 1 B	1		
演習 2 A	2		
演習 2 B	2		
卒業論文	6		
(専門特別科目)			
公認心理師の職責		2	
心理演習		2	
心理実習		2	
[環境・まちづくり系専攻領域]			
(専門基礎科目)			
環境・まちづくり概論A	2		
環境・まちづくり概論B	2		
ポスト近代社会論 1		2	
ポスト近代社会論 2		2	
都市・地域計画論 1		2	
まちづくり論 1		2	
地域経済論 1		2	

環境政策学 1		2	
環境計画論 1		2	
自然地理学 1		2	
自然環境論 1		2	
地球環境論 1		2	
地理情報システム 1		2	
統計学の基礎		2	
情報リテラシー演習	2		
演習 1	2		
演習 2	2		
演習 3		2	
演習 4		2	
卒業研究ゼミナール 1	1		
卒業研究ゼミナール 2	1		
卒業研究ゼミナール 3	2		
卒業研究ゼミナール 4	2		
卒業論文	6		
(専門発展科目)			
都市・地域計画論 2		2	
都市・地域計画論 3		2	
まちづくり論 2		2	
まちづくり論 3		2	
地域経済論 2		2	
地域経済論 3		2	
環境政策学 2		2	
環境政策学 3		2	
資源循環論		2	
環境計画論 2		2	
環境計画論 3		2	
エネルギー論		2	
環境教育論		2	
自然地理学 2		2	
自然地理学 3		2	
自然環境論 2		2	
地球環境論 2		2	
情報と環境・社会		2	
地理情報システム論 2		2	
地理情報システム論 3		2	
空間情報処理論		2	
デジタル処理演習		2	
地球・環境統計学		2	
地球・環境調査論		2	
数理的思考		2	
ファシリテーション		2	
特別講義 1		2	
特別講義 2		2	
特別講義 3		2	
特別講義 4		2	
(インターンシップ科目)			
インターンシップ I		2	

インターンシップⅡ		2	
インターンシップⅢ		2	

<履修方法>

- ①卒業に要する単位数は、共通教養科目から24単位以上、外国語科目から18単位以上、学部共通コア科目から6単位以上、専門科目から78単位以上を修得し、共通教養科目、外国語科目、学部共通コア科目、専門科目とあわせて126単位以上を修得しなければならない。ただし、専門特別科目は卒業に要する単位数には加算できない。
- ②共通教養科目は「人間性・社会性科目群」から4単位以上、「地域性・国際性科目群」から4単位以上、「課題設定・問題解決科目群」から必修科目を含み4単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から2単位以上、学部基礎科目群から4単位以上、外国語科目は英語基幹科目から必修科目を含み8単位以上を修得しなければならない。
- ③専門科目は、専門基礎科目、専門発展科目又は専門発展科目Ⅰ及び専門発展科目Ⅱ、インターンシップ科目から計78単位以上を修得しなければならない。  
ただし、社会・マスメディア系専攻では、専門基礎科目から必修科目を含み20単位以上、専門発展科目Ⅰから24単位以上、専門発展科目Ⅱから必修科目12単位以上、現代社会コース又はマスメディアコースから6単位以上を含み22単位以上、心理系専攻では、専門基礎科目のうち「自然科学と心理学」又は「社会科学と心理学」のどちらか一方を修得し、さらに必修科目を含み20単位以上、専門発展科目Ⅰから10単位以上、専門発展科目Ⅱから必修科目を含み36単位以上、環境・まちづくり系専攻では、専門基礎科目から必修科目を含み38単位以上、専門発展科目から18単位以上を修得しなければならない。
- ④他専攻開講科目は、専門科目の選択科目として単位数に加算できる。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

(注) 修得した単位は、4単位まで共通教養科目の単位数に加算することができる。

別表(1)ー9

国際学部授業科目表

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
<b>【全学共通科目】</b>			
<共通教養科目>			
(人間性・社会性科目群)			
暮らしのなかの憲法		2	
哲学と人間・社会		2	
現代社会と倫理		2	
人権と社会1		2	
人権と社会2		2	
心理と行動		2	
現代の社会論		2	
芸術鑑賞入門		2	
住みよい社会と福祉		2	
現代社会と法		2	
現代社会と政治		2	
現代経済の課題		2	
教養特殊講義A		2	
(地域性・国際性科目群)			

日本近現代史		2	
世界近現代史		2	
地域と環境の地理学		2	
国際法入門		2	
国際政治学		2	
教養特殊講義B (課題設定・問題解決科目群)		2	
基礎ゼミ	2		
I C Tリタラシー 1		2	
日本語の技法		2	
キャリアデザイン 1		2	
キャリアデザイン 2		2	
I C Tリタラシー 2		2	
生命の科学		2	
環境科学		2	
思考の技術		2	
基礎数学 1		2	
基礎数学 2		2	
教養特殊講義C (スポーツ・表現活動科目群)		2	
生涯スポーツ 1		1	
生涯スポーツ 2		1	
健康とスポーツの科学		2	
<外国語科目>			
T O E I C		2	
フランス語入門		2	
スペイン語入門		2	
ドイツ語入門		2	
韓国語入門		2	
中国語入門		2	
タイ語入門		2	
ベトナム語入門		2	
フランス語基礎		2	
スペイン語基礎		2	
ドイツ語基礎		2	
韓国語基礎		2	
中国語基礎		2	
タイ語基礎		2	
ベトナム語基礎		2	
フランス語中級		2	
スペイン語中級		2	
ドイツ語中級		2	
韓国語中級		2	
中国語中級		2	
タイ語中級		2	
ベトナム語中級		2	
フランス語上級		2	
スペイン語上級		2	
ドイツ語上級		2	
韓国語上級		2	

中国語上級		2	
タイ語上級		2	
ベトナム語上級		2	
日本語文法入門Ⅰ		5	
日本語文法入門Ⅱ		5	
日本語文法入門Ⅲ		5	
日本語作文入門Ⅰ		3	
日本語作文入門Ⅱ		3	
日本語作文入門Ⅲ		3	
日本語会話入門Ⅰ		2	
日本語会話入門Ⅱ		2	
日本語会話入門Ⅲ		2	
日本事情Ⅰ		1	
日本事情Ⅱ		1	
異文化演習Ⅰ		1	
異文化演習Ⅱ		1	
漢字（漢字圏）Ⅰ		1	
漢字（漢字圏）Ⅱ		1	
漢字（非漢字圏）Ⅰ		1	
漢字（非漢字圏）Ⅱ		1	
【専門科目】			
<学部共通開講科目>			
留学セミナー	2		
グローバル化入門	2		
異文化理解	2		
IELTS		1	
日本語教授法1		2	
日本語教授法2		2	
日本語教育基礎実習		2	
日本語学		2	
国際ビジネスと貿易		2	
国際経済と金融		2	
グローバル時代の日本企業		2	
ビジネスマネジメントの基礎		2	
観光英語		2	
旅行ビジネス英語		2	
観光概論		2	
ビジネスライティング		1	
英語同時通訳演習		1	
英語逐次通訳演習		1	
日英翻訳演習		1	
英日翻訳演習		1	
日中翻訳1		1	
日中翻訳2		1	
日韓通・翻訳1		1	
日韓通・翻訳2		1	
体験プログラムA		2	
体験プログラムB		2	
インターンシップA		2	
インターンシップB		2	

英米文学研究		2	
英米文学史		2	
<セミナー科目>			
帰国後セミナー	1		
セミナー1	1		
セミナー2	1		
セミナー3	1		
卒業プロジェクト	4		
[専門科目 (グローバル専攻)]			
<言語科目>			
Structure & Speaking (文法とスピーキング)	3		
Vocabulary Enrichment (ボキャブラリー)	2		
Reading & Writing (リーディング・ライティング)	3		
Computer-assisted Learning (コンピュータ応用学習)	1		
Career English 1 (キャリア英語1)	1		
Discussion (ディスカッション)	1		
Reading and Writing Skills (リーディング・ライティングスキル)	1		
Career English 2 (キャリア英語2)	1		
Debating (ディベート)	1		
English for Academic Purposes (アカデミック英語)	1		
English for Academic Research (アカデミック研究英語)	1		
Advanced Presentation Skills (プレゼンテーションスキル上級)		1	
Negotiation Skills (交渉のスキル)		1	
<留学科目>			
Language Skills 1 (ランゲージスキル1)		2	
Structure 1 (ストラクチャー1)		2	
Reading 1 (リーディング1)		2	
Writing 1 (ライティング1)		2	
Language Skills 2 (ランゲージスキル2)		2	
Structure 2 (ストラクチャー2)		2	
Reading 2		2	

(リーディング 2)			
Writing 2		2	
(ライティング 2)			
Language Skills 3		2	
(ランゲージスキル 3)			
Structure 3		2	
(ストラクチャー 3)			
Reading 3		2	
(リーディング 3)			
Writing 3		2	
(ライティング 3)			
Language Skills 4		2	
(ランゲージスキル 4)			
Structure 4		2	
(ストラクチャー 4)			
Reading 4		2	
(リーディング 4)			
Writing 4		2	
(ライティング 4)			
Humanities A		4	
(人文学分野研究 A)			
Humanities B		4	
(人文学分野研究 B)			
Humanities C		4	
(人文学分野研究 C)			
Humanities D		4	
(人文学分野研究 D)			
Social Sciences A		4	
(社会学分野研究 A)			
Social Sciences B		4	
(社会学分野研究 B)			
Social Sciences C		4	
(社会学分野研究 C)			
Social Sciences D		4	
(社会学分野研究 D)			
Interdisciplinary Studies A		4	
(国際教養研究 A)			
Interdisciplinary Studies B		4	
(国際教養研究 B)			
Interdisciplinary Studies C		4	
(国際教養研究 C)			
Interdisciplinary Studies D		4	
(国際教養研究 D)			
Natural Sciences A		4	
(自然科学分野研究 A)			
Natural Sciences B		4	
(自然科学分野研究 B)			
< 専門基礎科目 >			
Introduction to Language		2	
(言語入門)			

Communication Studies (コミュニケーション学)		2	
Diversity and Global Perspectives (多様性と世界を理解する視点)		2	
Introduction to Global Issues (グローバル・イシュー入門)		2	
Introduction to Asia (アジア学入門)		2	
Introduction to Area Studies (地域研究入門) {グローバル・スタディーズ}		2	
<専門発展科目>			
Comparative Culture (比較文化論)	2		
Globalization and Japan (グローバル化と日本)	2		
International Relations (国際関係論)		2	
Topics in Global Issues (グローバル・イシューの諸課題)		2	
Environment and Society (環境と社会)		2	
Gender and a Globalized World (ジェンダーとグローバル化した世界)		2	
International Development and Cooperation (国際協力・開発論)		2	
Cultural Diversity in Contemporary Japan (現代日本の文化的多様性)		2	
Globalization and Cultural Interaction (グローバル化と文化接触)		2	
Model United Nations (模擬国連)		2	
International Human Rights (国際人権問題)		2	
Ethnic Issues in the Globalized World (グローバル化した世界の民族問題)		2	
Introduction to NPO/NGO (NPO・NGO論)		2	
Media in a Globalized World (グローバル化した世界のメディア論)		2	
Peace Studies (平和学)		2	
Roles of International Organizations (国際機関とその役割)		2	
Community Engagement (ボランティア論)		2	
History of International Conflicts (国際紛争史)		2	
World Religions (世界の宗教)		2	

North American Cultures and History (北アメリカの文化と歴史)		2	
Topics in North American Societies (北アメリカの現代社会事情)		2	
European Cultures and History (欧州の文化と歴史)		2	
Topics in European Societies (欧州の現代社会事情)		2	
Oceanian Cultures and History (オセアニアの文化と歴史)		2	
Topics in Oceanian Societies (オセアニアの現代社会事情)		2	
Middle-eastern and African Cultures and History (中近東とアフリカの文化と歴史)		2	
Topics in Middle-eastern and African Societies (中近東とアフリカの現代社会事情)		2	
Central/South American Cultures and History (中南米の文化と歴史)		2	
Topics in Central/South American Societies (中南米の現代社会事情)		2	
{コミュニケーション・スタディーズ}			
<専門発展科目>			
Intercultural Communication (異文化コミュニケーション論)	2		
Understanding the English Language (言語としての英語)	2		
History of English (英語の歴史)		2	
Literature in English (英語圏の文学)		2	
Introduction to Interpreting (通訳概論)		2	
Introduction to Practical Translation (実務翻訳概論)		2	
ESL Linguistics (ESL言語学)		2	
Interpersonal Communication (対人コミュニケーション論)		2	
Kansai Culture Promotion (関西文化の情報発信)		2	
Principles of Language Use (言語使用の原理)		2	
Principles of Conversation and Discourse (会話と談話の原理)		2	
Media Literacy (メディア・リテラシー)		2	
Communication in Journalism (報道のコミュニケーション)		2	
Multicultural Society and Language (多文化共生社会と言語)		2	

Language and Power (言語と権力)		2	
Early English Education (早期英語教育論)		2	
Internet and Communication (ネット社会とコミュニケーション)		2	
Phonetic Sounds and Pronunciation of English (英語の音声と発音)		2	
Case Studies in Communication (コミュニケーションの事例研究)		2	
Corporate Society and Communication (企業社会とコミュニケーション)		2	
Japanese Literature in English (日本文学を英語で読む)		2	
Language and Society (言語と社会)		2	
Language and Mind (言語と心)		2	
Structure and Meaning of Language (言語の構造と意味)		2	
Structure of the Japanese Language (日本語の構造)		2	
Communication in Japanese Society (日本社会のコミュニケーション)		2	
Non-verbal Communication (非言語コミュニケーション論)		2	
Applied Linguistics (応用言語学)		2	
Language Teaching Theories (言語教育理論)		2	
Second Language Acquisition (第二言語習得論) {アジアン・スタディーズ}		2	
<専門発展科目>			
Asian Cultures (アジアの文化)	2		
Asian History (アジアの歴史)	2		
Asian Geography (アジアの地理)	2		
Asian Religions and Thoughts (アジアの宗教と思想)		2	
Asian Societies (アジア社会論)		2	
Asian Cultural Heritages (アジアの文化遺産)		2	
East Asian Literatures (東アジア文学)		2	
Roles of ASEAN (ASEANの役割)		2	

Korean Politics and Economics (韓国政治と経済)		2	
Chinese Politics and Economics (中国政治と経済)		2	
Southeast Asian Politics and Economics (東南アジア政治と経済)		2	
Japan as an East Asian Country (東アジアの中の日本)		2	
Asian Ethnology (アジアの民族学)		2	
Contemporary South Asia (現代の南アジア)		2	
Japanese Culture and History (日本文化と歴史)		2	
History of Politics and Diplomacy in Asia and Japan (アジア政治・外交の歴史と日本) [専門科目(東アジア専攻)] {中国語コース} <言語科目>		2	
中国語入門(文法) 1	1		
中国語入門(文法) 2	1		
中国語入門(文法) 3	1		
中国語入門(会話) 1	1		
中国語入門(会話) 2	1		
中国語表現 1	1		
中国語表現 2	1		
英会話 1	1		
中国語会話上級	1		
中国語文法上級	1		
中国語表現技法 1		1	
ビジネス中国語 1		1	
英会話 2	1		
中国語プレゼンテーション 1	1		
中国語演習(読読作文) 1	1		
中国語表現技法 2		1	
ビジネス中国語 2		1	
英会話 3	1		
中国語プレゼンテーション 2	1		
中国語演習(読読作文) 2	1		
H S K・中検		1	
華語測驗		1	
<留学科目>			
中国語文法(初級) 1		2	
中国語文法(初級) 2		2	
中国語文法(初級) 3		2	
中国語会話(初級) 1		2	
中国語会話(初級) 2		2	
中国語会話(初級) 3		2	
中国語作文(初級)		2	

English GrammarA		1	
English ConversationA		1	
中国語文法（中級） 1		2	
中国語文法（中級） 2		2	
中国語文法（中級） 3		2	
中国語会話（中級） 1		2	
中国語会話（中級） 2		2	
中国語会話（中級） 3		2	
中国語作文（中級）		2	
English GrammarB		1	
English ConversationB		1	
<専門発展科目>			
中国学研究法	2		
中国近現代史 1		2	
中国映像文化論		2	
日中比較文学		2	
中国語学概論		2	
中国現代文学		2	
中国近現代史 2		2	
中国現代文化		2	
日中異文化コミュニケーション		2	
中国語方言学		2	
中国当代文学		2	
{韓国語コース}			
<言語科目>			
韓国語入門（文法） 1	1		
韓国語入門（文法） 2	1		
韓国語入門（文法） 3	1		
韓国語入門（会話） 1	1		
韓国語入門（会話） 2	1		
韓国語表現 1	1		
韓国語表現 2	1		
英会話 1	1		
韓国語会話上級	1		
韓国語文法上級	1		
韓国語表現技法 1		1	
ビジネス韓国語 1		1	
英会話 2	1		
韓国語プレゼンテーション 1	1		
韓国語演習 1	1		
韓国語表現技法 2		1	
ビジネス韓国語 2		1	
英会話 3	1		
韓国語プレゼンテーション 2	1		
韓国語演習 2	1		
ハングル能力検定		1	
TOPIK		1	
<留学科目>			
韓国語文法（初級） 1		2	
韓国語文法（初級） 2		2	

韓国語文法（初級） 3		2	
韓国語会話（初級） 1		2	
韓国語会話（初級） 2		2	
韓国語会話（初級） 3		2	
韓国語作文（初級）		2	
English GrammarA		1	
English ConversationA		1	
韓国語文法（中級） 1		2	
韓国語文法（中級） 2		2	
韓国語文法（中級） 3		2	
韓国語会話（中級） 1		2	
韓国語会話（中級） 2		2	
韓国語会話（中級） 3		2	
韓国語作文（中級）		2	
English GrammarB		1	
English ConversationB		1	
< 専門発展科目 >			
現代韓国の理解	2		
韓国近現代史 1		2	
韓国学概論 1		2	
日韓通・翻訳実践 1		2	
日韓比較研究 1		2	
異言語と文化 1		2	
韓国近現代史 2		2	
韓国学概論 2		2	
日韓通・翻訳実践 2		2	
日韓比較研究 2		2	
異言語と文化 2		2	

< 履修方法 >

①卒業に要する単位数は、

< グローバル専攻 >

全学共通科目からは、

・ 共通教養科目及び外国語科目から必修科目を含み、30単位以上、  
合計30単位以上、

専門科目からは、

- ・ 学部共通開講科目から必修科目を含み、6単位以上、
- ・ セミナー科目から8単位以上、
- ・ 言語科目から必修科目を含み、16単位以上、
- ・ 留学科目から2～32単位、
- ・ 専門基礎科目から6単位以上、
- ・ 専門発展科目（グローバル・スタディーズ）から必修科目を含み、20単位以上、又は  
専門発展科目（コミュニケーション・スタディーズ）から必修科目を含み、20単位以上、  
又は専門発展科目（アジアン・スタディーズ）から必修科目を含み、20単位以上、

合計100単位以上

修得し、必修科目、選択科目をあわせて130単位以上を修得しなければならない。

< 東アジア専攻・中国語コース >

全学共通科目からは、

・ 共通教養科目及び外国語科目から必修科目を含み、30単位以上、  
合計30単位以上、

専門科目からは、

- ・学部共通開講科目から必修科目を含み、6単位以上、
- ・セミナー科目から8単位以上、
- ・言語科目から必修科目を含み、19単位以上、
- ・留学科目から2～32単位、
- ・専門発展科目から必修科目を含み、18単位以上、

合計100単位以上

修得し、必修科目、選択科目をあわせて130単位以上を修得しなければならない。

<東アジア専攻・韓国語コース>

全学共通科目からは、

- ・共通教養科目及び外国語科目から必修科目を含み、30単位以上、

合計30単位以上、

専門科目からは、

- ・学部共通開講科目から必修科目を含み、6単位以上、
- ・セミナー科目から8単位以上、
- ・言語科目から必修科目を含み、19単位以上、
- ・留学科目から2～32単位、
- ・専門発展科目から必修科目を含み、18単位以上、

合計100単位以上

修得し、必修科目、選択科目をあわせて130単位以上を修得しなければならない。

②他学部、他専攻開講科目及び互換科目（他大学、他学部）は、専門科目の選択科目として単位数に加算できる。

別表(1)－10

農学部授業科目表

全学科

区分	授業科目	必修	選択
共通教養科目	<b>【人間性・社会性科目群】</b>		
	人権と社会 1		2
	人権と社会 2		2
	暮らしのなかの憲法		2
	住みよい社会と福祉		2
	現代社会と法		2
	環境と倫理		2
	生命と倫理		2
	ボランティア実習		1
	自校学習		1
	教養特殊講義 A		2
	<b>【地域性・国際性科目群】</b>		
	国際経済入門		2
	国際化と異文化理解		2
	農学と社会		2
	地球環境と気象		2
	教養特殊講義 B		2
	<b>【課題設定・問題解決科目群】</b>		
	基礎ゼミ	2	
	日本語の技法		2
	科学的問題解決法		2
統計と考え方		2	
情報基礎		2	
情報処理		2	



中国語総合 3	1
中国語総合 4	1
フランス語総合 1	1
フランス語総合 2	1
フランス語総合 3	1
フランス語総合 4	1

<履修方法>

全学共通科目は共通教養科目14単位以上（必修科目を含む）、専門基礎科目4単位以上、共通教養科目および専門基礎科目から2単位以上、外国語科目14単位以上（必修科目を含む）の合計34単位以上修得しなければならない。ただし、外国語科目の中に第二外国語4単位を含むことができる。共通教養科目は、人間性・社会性科目群から4単位以上、地域性・国際性科目群から2単位以上、課題設定・問題解決科目群から4単位以上を修得しなければならない。ただし、食品栄養学科は、人間性・社会性科目群から2単位以上、地域性・国際性科目群から2単位以上、課題設定・問題解決科目群から4単位以上を修得しなければならない。

農業生産科学科

区分	授業科目	必修	選択
専攻科目	環境保全栽培学		2
	環境植物学		2
	植物生理学		2
	生態系科学基礎		2
	昆虫学		2
	植物病理学		2
	細胞生物学		2
	植物遺伝育種学		2
	日本農業論		2
	環境化学基礎		2
	鳥獣害管理学		2
	植物・人間関係論		2
	工芸作物学		2
	食用作物学		2
	果樹園芸学		2
	野菜園芸学		2
	花卉園芸学		2
	害虫管理学		2
	植物病原微生物学		2
	応用きのこ学		2
	植物分子生物学		2
	農業経済学		2
	特別講義 I		2
	地域活性化論		2
	植物形態学		2
	園芸療法論		2
	栽培システム学		2
	フラワービジネス演習		2
	雑草管理学		2
	園芸植物学		2
昆虫生態学		2	

	化学生態学		2
	昆虫生理学		2
	植物感染制御工学		2
	植物病診断防除論		2
	植物育種学		2
	農業政策学		2
	アグリビジネス起業論		2
	農産物流通・マーケティング論		2
	アグリビジネスマネジメント論		2
	園芸学研究の方法		2
	園芸植物と遺伝子		2
	フラワービジネス論		2
	農学野外実習		2
	基礎生物学実験		1
	基礎化学実験		1
	基礎物理学実験		1
	農学専門実験Ⅰ	2	
	農学専門実験Ⅱ	2	
	附属農場実習		2
	農業実習		2
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究	8	
資格関連科目	アグリビジネス実習		2
関連科目	物理学		2
	化学		2
	生物学		2
	植物栄養生理学		2
	微生物学		2
	農薬化学		2
	食品機能学		2
	農産製造学		2
	生命有機化学		2
	生物多様性の科学		2
	里山生態学		2
	土壌医学		2
	環境ビジネス学		2
	植物生態学		2
	保全生態学		2
	持続可能な水産業		2
	有機化学Ⅰ		2
有機化学Ⅱ		2	
[大学コンソーシアム大阪単位互換科目]			
包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

①専攻科目及び関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。

ただし、関連科目については12単位を限度とする。

②外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、8単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。

③互換科目は4単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

④資格関連科目は卒業に必要な単位数に加算しない。

水産学科

区分	授業科目	必修	選択
	<b>【A群 I】</b>		
	魚類生態学		2
	生物学		2
	動物行動学		2
	水産動物学		2
	魚類環境生理学		2
	魚類繁殖生理学		2
	微生物海洋学		2
	海棲哺乳類学		2
	水族館学		2
	魚類発生生物学		2
	生体分子解析学		2
	魚類内分泌学		2
	<b>【A群 II】</b>		
	水産実用数学	2	
	物理学		2
	<b>【B群 I】</b>		
	水産学概論		2
	海水養殖学		2
	淡水増殖学		2
	栽培漁業論		2
	種苗生産学		2
	魚類育種学		2
	介類増殖学		2
	魚病学		2
	魚類栄養学		2
	<b>【B群 II】</b>		
	水産海洋学		2
	水産資源学		2
	漁業情報学		2
	漁業生産システム論		2
	<b>【C群】</b>		
	生態系科学基礎		2
	水圏微生物学		2
	海洋生態系科学		2
	陸水学		2
	水質学		2
	水族環境学		2
	海洋環境修復学		2
	<b>【D群 I】</b>		
	化学		2
	水産利用学		2

専攻科目	水産生物化学		2	
	水産食品保蔵学		2	
	食品微生物学		2	
	水産資源化学		2	
	食品製造管理学		2	
	食品衛生管理学		2	
		<b>【D群Ⅱ】</b>		
	水産経済学		2	
	水産物マーケティング論		2	
	水産法制度論		2	
	水産経営学		2	
		<b>【E群】</b>		
	水産学基礎実験Ⅰ	1		
	水産学基礎実験Ⅱ	1		
	養殖学基礎実習		1	
	水産増殖学実験		2	
	水産増殖学実習		2	
	水産生物学実習		2	
	生物学実験		2	
	化学実験		2	
	水産利用学実習		2	
	水産経済調査実習		2	
	水産経済学演習		2	
	水族環境学実験		2	
	水産微生物学実験		2	
	漁業情報学実習		2	
	物理学実験		2	
	海棲哺乳類学実習		2	
	海棲哺乳類学実験		2	
	潜水技術論		2	
	小型船舶操縦法		2	
		<b>【F群】</b>		
技術者倫理	2			
	<b>【G群】</b>			
専門英語Ⅰ	1			
専門英語Ⅱ	1			
専門演習Ⅰ	2			
専門演習Ⅱ	2			
	<b>【H群】</b>			
水産技術専門演習	1			
水産技術専門実験	1			
卒業研究	8			
[大学コンソーシアム大阪単位互換科目]				
包括協定にもとづいた提供科目および単位数				

<履修方法>

- ①専攻科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。
- ②専攻科目A群Ⅰから6科目12単位以上、A群Ⅱの水産実用数学は必修、B群Ⅰから4科目8単位以上、B群Ⅱから2科目4単位以上、C群から4科目8単位以上、D群Ⅰから4科目8単位以上、D群Ⅱから3科目6単位以上、E群のうち、各研究室の実験・実習等から2科目4単位以上を修得しなければならない。

③互換科目は4単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。  
 応用生命化学科

区分	授業科目	必修	選択
専攻科目 I	<b>【A群】</b>		
	化学		2
	分析化学		2
	無機化学		2
	基礎反応化学		2
	有機化学		2
	有機機器分析学		2
	有機反応化学		2
	<b>【B群】</b>		
	生物化学		2
	分子生物学		2
	食品化学		2
	発酵化学		2
	分子細胞生物学		2
	<b>【C群】</b>		
	微生物学		2
	食品微生物学		2
	応用微生物学		2
	食品微生物工学		2
	<b>【D群】</b>		
	食品衛生学		2
	公衆衛生学		2
	<b>【E群】</b>		
	生物学		2
	物理化学		2
	酵素化学		2
	薬理学概論		2
	植物栄養生理学		2
	農薬化学		2
	栄養化学		2
	生命工学		2
	遺伝子工学		2
生物統計学		2	
生命情報学		2	
天然物化学		2	
食品機能学		2	
農産製造学		2	
生命有機化学		2	
有機合成化学		2	
	物理学実験	1	
	生物学実験 I	1	
	化学実験 I	1	
	化学実験 II	1	
	生物学実験 II	1	
	生物学実験 III	1	

専攻科目 II	生命情報学実習	1	
	応用生命化学実験	1	
	専門英語 I	1	
	専門英語 II	1	
	専門英語 III	1	
	専門英語 IV	1	
	専門演習 I	2	
	専門演習 II	2	
	卒業研究	8	
専攻科目 III	数学 I		2
	数学 II		2
	生態系科学基礎		2
	生命科学基礎		2
	森林資源科学		2
	バイオビジネス論		2
	応用生命化学特別講義 I		2
	応用生命化学特別講義 II		2
	醸造・酒造学		2
関連科目	日本農業論		2
	物理学		2
	農業経済学		2
	昆虫学		2
	園芸植物学		2
	附属農場実習		2
	国際農業開発論		2
	土壌医学		2
	水環境学		2
	保全遺伝学		2
	動物発生工学		2
	植物バイオテクノロジー		2
	植物分子生物学		2
	実験動物学		2
植物免疫学		2	
[大学コンソーシアム大阪単位互換科目]			
包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

- ①専攻科目 I、専攻科目 II、専攻科目 III、関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。
- ②専攻科目 I の A 群から 2 単位以上、B 群から 2 単位以上、C 群から 2 単位以上、D 群から 2 単位以上、E 群から 18 単位以上、A～D 群から合計 22 単位以上を修得しなければならない。
- ③外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、8 単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。
- ④互換科目は 4 単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

食品栄養学科

区分	授業科目	必修	選択
	健康管理概論	2	
	公衆衛生学 I	2	

専門基礎 分野	公衆衛生学Ⅱ	2	
	人体の構造と機能	2	
	微生物学	2	
	生化学	2	
	病理学総論	2	
	疾患学各論	2	
	代謝栄養学	2	
	疾患学総論	2	
	化学実験	1	
	生物学実験	1	
	生化学実験	1	
	解剖学実習	1	
	微生物学実験	1	
	生理学実験	1	
	食品の調理と加工	2	
	食品学	2	
	食品機能化学	2	
	食品衛生学	2	
	食品分析学実験	1	
	調理学実習Ⅰ	1	
調理学実習Ⅱ	1		
食品衛生学実験	1		
専門分野 Ⅰ	基礎栄養学	2	
	栄養学実験	1	
	応用栄養学Ⅰ	2	
	応用栄養学Ⅱ	2	
	栄養マネジメント論	2	
	応用栄養学実習Ⅰ	1	
	応用栄養学実習Ⅱ	1	
	栄養教育論Ⅰ	2	
	栄養教育実習	1	
	栄養情報処理基礎	2	
	栄養教育論Ⅱ	2	
	臨床栄養学Ⅰ	2	
	臨床栄養学Ⅲ	2	
	臨床栄養学Ⅱ	2	
	臨床栄養管理	2	
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	
	臨床栄養学実習Ⅱ	1	
	公衆栄養学Ⅰ	2	
	公衆栄養学Ⅱ	2	
	公衆栄養学実習	1	
	給食管理論	2	
	給食経営論	2	
	給食経営管理実習	1	
	総合演習	2	
	臨地実習Ⅰ	1	
	臨地実習Ⅱ	1	
	臨地実習Ⅲ	1	
	臨地実習Ⅳ	1	

	臨地実習 V	1	
	臨地実習 VI	1	
専門分野 II	有機化学	2	
	分析化学	2	
	専門英語 I	1	
	専門英語 II	1	
	特別講義 I	2	
	特別講義 II	2	
	特別講義 III	2	
	特別講義 IV	2	
	専門演習 I	2	
	専門演習 II	2	
	卒業研究		8
専門分野 III	スポーツ医学		2
	発育発達学		2
	トレーニング科学		2
	トレーニング実習		1
	健康づくりと運動プログラム		2
	エアロビックスダンス実習		1
	水泳・水中運動実習		1
	体力測定評価（理論）		2
	体力測定評価（実習）		1
	救急処置実習		1
	環境スポーツ栄養学		2
スポーツ心理学		2	
関連科目	物理学		2
	物理学実験		1
	化学		2
	生物学		2
[大学コンソーシアム大阪単位互換科目]			
包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

- ①専門科目は専門基礎分野、専門分野 I から82単位以上、専門分野 II のうち、必修科目18単位以上、合計100単位以上修得しなければならない。
- ②専門分野 III は卒業に必要な単位数に加算しない。
- ③専門基礎分野の「人体の構造と機能」、「生化学」、「食品学」は専門基礎科目の単位として扱う。
- ④専門分野 II の「有機化学」、「分析化学」は共通教養科目課題設定・問題解決科目群の単位として扱う。
- ⑤関連科目で修得した単位は卒業単位として扱う。
- ⑥互換科目は4単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。
- ⑦臨地実習 IV、臨地実習 V、臨地実習 VI のうち1単位を選択必修とする。

環境管理学科

区分	授業科目	必修	選択
	環境管理学概論		2
	動物生態学		2
	生物多様性の科学		2
	外来生物の科学		2

	環境化学		2
	森林科学		2
	物理学		2
	化学		2
	生物学		2
	沿岸生態学		2
	水圏動物学		2
	環境分析学		2
	環境微生物学		2
	環境分子生物学		2
	土壌医学		2
	水利サイエンス		2
	持続可能な農業		2
	水環境学		2
	環境ビジネス学		2
	食料経済学		2
	緑地保全学		2
	植物生態学		2
	森林管理学		2
	環境関連法		2
	野生動物保護論		2
	フィールドワークの技法		2
	河川生態学		2
	環境統計学		2
	環境英語A		1
	環境英語B		1
	情報処理専門演習Ⅰ	1	
	情報処理専門演習Ⅱ	1	
	里山生態学		2
	沿岸保全論		2
	保全遺伝学		2
専攻科目	バイオマス利用論		2
	国際農業開発論		2
	環境政策学		2
	農業と環境		2
	持続可能な水産業		2
	造園計画論		2
	環境数理学		2
	環境リスク学		2
	自然保護論		2
	造林学		2
	森林保護学		2
	森林土壌学		2
	森林政策学		2
	特別演習Ⅰ		1
	特別演習Ⅱ		1
	海外調査・研修		2
	樹木学実習		1
	樹木医学実習		1
	造園学実習		1

	里山生物学実習		1
	環境管理学基礎実験・実習Ⅰ	2	
	環境管理学基礎実験・実習Ⅱ	2	
	環境管理学専門実験・実習Ⅰ	2	
	環境管理学専門実験・実習Ⅱ	2	
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	物理学実験		1
	化学実験		1
	生物学実験		1
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究	8	
関連科目	環境保全栽培学		2
	植物形態学		2
	昆虫生態学		2
	雑草管理学		2
	農業政策学		2
	物理化学		2
	基礎反応化学		2
	有機機器分析学		2
	天然物化学		2
	酵素化学		2
	森林資源科学		2
	有機化学Ⅰ		2
	有機反応化学		2
[大学コンソーシアム大阪単位互換科目]			
包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

<履修方法>

- ①専攻科目及び関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。  
ただし、関連科目については12単位を限度とする。
- ②外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、8単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。
- ③互換科目は4単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

生物機能科学科

区分	授業科目	必修	選択
	バイオサイエンス概論	2	
	資源科学基礎		2
	植物生理学		2
	生物学基礎		2
	化学基礎		2
	物理学		2
	発生生物学		2
	分子生物学Ⅰ		2
	細胞生物学Ⅰ		2
	生物化学Ⅰ		2
	有機化学Ⅰ		2
	分子生物学Ⅱ		2

	有機化学Ⅱ		2
	生物化学Ⅱ		2
	動物生産学		2
	微生物学		2
	基礎免疫学		2
	細胞生物学Ⅱ		2
	分子構造解析学		2
	生命情報学		2
	植物分子生物学		2
	動物発生工学		2
	酵素タンパク質工学		2
	植物バイオテクノロジー		2
	有機反応化学		2
専攻科目	Topics in Bioscience		2
	遺伝子工学		2
	動物遺伝学		2
	エピジェネティクス		2
	幹細胞生物学		2
	ゲノム編集学		2
	生体物理化学		2
	環境生物学		2
	微生物バイオテクノロジー		2
	実験動物学		2
	植物免疫学		2
	バイオビジネス論		2
	バイオインフォマティクス演習		2
	分子遺伝学		2
	アグリバイオ実習		2
	バイオビジネス実習		1
	特別講義Ⅰ		2
	特別講義Ⅱ		2
	特別講義Ⅲ		2
	特別講義Ⅳ		2
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	物理学実験	1	
	生物有機化学実験	1	
	細胞工学実験	1	
	遺伝子工学実験	1	
	バイオサイエンス専門実験Ⅰ	2	
	バイオサイエンス専門実験Ⅱ	1	
	バイオサイエンス専門実験Ⅲ	1	
	卒業研究	8	
	植物遺伝育種学		2
	工芸作物学		2
	果樹園芸学		2
	発酵化学		2
	栄養化学		2

関連科目	食品化学	2
	農薬化学	2
	森林資源科学	2
	土壌医学	2
	野生動物保護論	2
	環境政策学	2

[大学コンソーシアム大阪単位互換科目]

包括協定にもとづいた提供科目および単位数

<履修方法>

- ①専攻科目及び関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。
  - ②外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、8単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。
  - ③互換科目は4単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。
- 教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程  
教科に関する科目

授業科目	単位数
地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2
地学実験	1
職業指導	4

別表(1)―11

医学部授業科目表

医学科

区分	授業科目	単位数 (時間数)
共通教養 科目	環境と社会	2
	生死論	2
	医学からみた現代社会と倫理	2
	人権と社会	2
	心理と行動	2
	グローバルヘルス概論	2
	数理科学	2
	医療イノベーション学	2
	教養特殊講義	2
外国語 科目	英語	6
	医学英語	6
学部基礎 科目	生命科学	(60)
	医用化学	(60)
	医物理学	(60)
	医統計学	(30)
	学外施設実習／総合医学	(60)
	科学的思考演習	(30)
	プロフェッショナリズム／実習Ⅰ	(45)
	プロフェッショナリズム／実習Ⅱ	(60)
	プロフェッショナリズム／実習Ⅲ	(30)
	プロフェッショナリズム／実習Ⅳ	(30)

細胞・形態学	(90)
医学概論	(30)
医薬連携総論	(30)

<履修方法>

共通教養科目および外国語科目の中から30単位以上修得しなければならない。

学部基礎科目は615時間以上修得しなければならない。

医学科

授業科目	授業時間数
生化学	(75)
分子生物学	(75)
人体構造Ⅰ	(50)
人体構造Ⅱ	(75)
人体構造Ⅲ	(65)
人体構造Ⅳ	(35)
機能Ⅰ	(100)
機能Ⅱ	(100)
病因・病態Ⅰ	(90)
病因・病態Ⅱ	(120)
薬理学	(90)
臨床各論Ⅰ	(120)
臨床各論Ⅱ	(120)
臨床各論Ⅲ	(90)
臨床各論Ⅳ	(120)
臨床各論Ⅴ	(180)
臨床各論Ⅵ	(90)
臨床各論Ⅶ	(90)
臨床各論Ⅷ	(120)
臨床各論Ⅸ	(90)
社会医学Ⅰ	(90)
社会医学Ⅱ	(60)
病理集中コース	(30)
臨床総論Ⅰ／実習	(60)
臨床総論Ⅱ／実習	(90)
医療安全	(30)
臨床実習（C・C）	(2,450)
画像集中コース	(30)
合計	(4,735)

<履修方法>

専門科目については、合計4,735時間以上履修すること。

別表(1)－12

生物理工学部授業科目表

授業科目の名称				単位数	
				必修	選択
全学	共通	人間性・社会	人権と社会 1		2
共通	教養	性科目群	人権と社会 2		2
科目	科目		暮らしのなかの憲法		2

			芸術鑑賞入門		2
			現代社会と法		2
			現代社会と倫理		2
			現代経済の課題		2
			新しい政治学		2
			持続可能な社会論		2
			自己発見の心理学		2
			教養特殊講義A		2
	地域性・国際性科目群		国際経済入門		2
			国際化と異文化コミュニケーション		2
			国際社会と日本		2
			日本近現代史		2
			里山の環境学		2
			言語文化学入門		2
			教養特殊講義B		2
	課題設定・問題解決科目群		日本語の技法	2	2
			基礎ゼミ		
			思考の技術		2
			キャリアデザイン		2
			社会奉仕実習		1
			科学技術と人間・社会		2
			インターンシップ		2
			キャリアインターンシップ		1
			スクールインターンシップ		1
			教養特殊講義C	2	
	スポーツ・表現活動科目群		生涯スポーツ1		1
			生涯スポーツ2		1
			健康とスポーツの科学		2
			食生活と健康		2
外国語科目	第一外国語	基幹科目	総合英語1		2
			総合英語2		2
			理系英語1		1
			理系英語2		1
			オーラルスキル(英語)1		1
			オーラルスキル(英語)2		1
			オーラルスキル(英語)3		1
			オーラルスキル(英語)4		1
		応用科目A	海外研修(英語)		2
			言語演習(英語)1		1
			言語演習(英語)2		1
			TOEIC・A1		1
			TOEIC・A2		1
			英語スキル上級A		1
		応用科目B	理系英語3(エッセンシャル)		1
			理系英語4(エッセンシャル)		1
			理系英語3(コンプリヘンション)		1
			理系英語4(コンプリヘンション)		1
			理系英語3(プレゼンテーション)		1

		理系英語 4 (プレゼンテーション)		1
		発展理系英語 1		1
		発展理系英語 2		1
		TOE I C・B 1		1
		TOE I C・B 2		1
		英語スキル上級B		1
	第二外国語	ドイツ語総合 1		1
		ドイツ語総合 2		1
		ドイツ語総合 3		1
		ドイツ語総合 4		1
		中国語総合 1		1
		中国語総合 2		1
		中国語総合 3		1
		中国語総合 4		1
学部基礎科目		化学実験		2
		物理学実験		2
		基礎食品化学		2
		知的財産権		2
		Webデザイン		1
		バイオテクノロジー技術論		2
		科学倫理		2
		情報倫理		2
		生物と地球環境		2
		医療・科学・暮らし		2
		情報処理基礎 I	1	
		情報処理基礎 II	1	
		地学概論 I		2
		地学概論 II		2
		地学実験		1
		代数学概論 I		2
		代数学概論 II		2
		幾何学 I A		2
		幾何学 I B		2
		幾何学 II A		2
		幾何学 II B		2

<履修方法>

共通教養科目から16単位以上（うち必修2単位）、外国語科目から14単位以上（うち英語10単位以上）、学部基礎科目から6単位以上（うち必修2単位）を修得しなければならない。

コンソーシアム科目は4単位を上限に共通教養科目として認められる。

高等教育機関コンソーシアム和歌山単位互換及び南大阪地域大学コンソーシアム単位互換制度に関する包括協定にもとづく単位互換提供科目

授業科目	単位数
高等教育機関コンソーシアム和歌山及び南大阪地域大学コンソーシアムにおいて定められた提供科目および単位数	

<履修方法>

高等教育機関コンソーシアム和歌山単位互換及び南大阪地域大学コンソーシアム単位互換制度に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

生物工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	基礎数学		2
	数学		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学		2
	線形代数学		2
	学科基幹科目群	トピックスインバイオロジー	2
有機化学基礎		2	
基礎遺伝学		2	
生化学Ⅰ		2	
生化学Ⅱ		2	
細胞生物学Ⅰ		2	
分子生物学Ⅰ		2	
植物生理学		2	
基礎微生物学		2	
公衆衛生学			2
基礎植物学			2
細胞生物学Ⅱ			2
疫学論			2
細胞生物学Ⅲ			2
分子生物学Ⅱ			2
生物物理化学			2
酵素化学			2
生物機能物質化学			2
ゲノム機能科学			2
遺伝子発現制御学		2	
免疫・アレルギー学		2	
手法に関する科目群	計量生物学	2	
	遺伝子工学		2
	生物分析化学		2
	機器分析化学		2
	バイオインフォマティクス		2
	植物細胞工学		2
生物資源利用科目群	応用微生物学	2	
	植物生産工学Ⅰ		2
	植物生産工学Ⅱ		2
	植物育種学		2
	資源植物学		2
	植物栽培環境学		2
	バイオリクター工学		2
	生物プロセス工学		2

生物プロセス科目群	環境システム工学		2
	生体情報工学		2
	食品企業経営論		2
	環境科学		2
実験・実習・演習科目群	生物学基礎化学実験	3	
	生物学基礎生物学実験	3	
	生物学基礎生化学実験	3	
	専門ゼミ	1	
	専攻科目演習Ⅰ	2	
	専攻科目演習Ⅱ	2	
	専攻科目演習Ⅲ	2	
	専攻科目演習Ⅳ	2	
	生物学発展		2
卒業研究	6		
学際領域選択科目			
別表1に定める			

<履修方法>

必修科目44単位、選択科目44単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

遺伝子工学科

授業科目の名称	単位数	
	必修	選択
化学Ⅰ		2
化学Ⅱ		2
生物学Ⅰ		2
生物学Ⅱ		2
物理学Ⅰ		2
物理学Ⅱ		2
微分積分学		2
線形代数学		2
生命科学概論		2
動物生理学	2	2
生体構成分子	2	
微生物学	2	
細胞生物学Ⅰ	2	
細胞生物学Ⅱ	2	
分子生物学Ⅰ	2	
分子生物学Ⅱ	2	
生化学Ⅰ	2	
生化学Ⅱ	2	
統計学	2	

	生物物理化学		2
生命と情報科目群	動物学	2	
	進化遺伝学		2
	タンパク質機能学		2
	遺伝子機能解析学		2
	生命科学のための情報リテラシー		2
	遺伝子発現制御とエピジェネティクス		2
	生命倫理	2	
	生命科学のための分析化学		2
高次生命科目群	発生生物学Ⅰ	2	
	発生生物学Ⅱ	2	
	動物繁殖学	2	
	免疫学概論		2
	神経科学		2
	分子発生学		2
応用生命科目群	遺伝子工学概論	2	
	発生工学	2	
	公衆衛生学	2	
	遺伝子工学	2	
	実験動物学		2
	医用遺伝子工学概論		2
	生殖医療工学		2
	幹細胞・再生医工学		2
実験・実習・演習科目群	専門ゼミ	1	
	遺伝子基礎化学実験	3	
	遺伝子工学実験	3	
	生殖工学実験	3	
	専攻科目演習Ⅰ	2	
	専攻科目演習Ⅱ	2	
	専攻科目演習Ⅲ	2	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表1に定める			

<履修方法>

必修科目60単位、選択科目28単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

食品安全工学科

授業科目の名称	単位数	
	必修	選択
化学Ⅰ		2
化学Ⅱ		2

学科基礎科目群	基礎数学		2
	数学		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	生命科学概論		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学		2
	線形代数学		2
食品機能工学科目群	生化学Ⅰ	2	
	生化学Ⅱ	2	
	生体物質基礎	2	
	食品材料学		2
	食品機能統計学		2
	分子生物学Ⅰ	2	
	食品機能学	2	
	機能性食品開発	2	
食生産環境科目群	植物育種学		2
	世界の食生産事情		2
	疫学論		2
	植物生産工学Ⅰ		2
	動物生産学		2
	応用微生物工学	2	
	食品企業経営論		2
	食品システム論	2	
	食生産環境工学		2
	食品工業技術論		2
	遺伝資源学		2
食品管理評価科目群	食品安全工学概論	2	
	食品保全学	2	
	食品安全学	2	
	食品加工学	2	
	食品微生物学	2	
	食品衛生管理学	2	
	食品分析化学	2	
	HACCPシステム論		2
応用生命工学科目群	動物栄養学	2	
	細胞生物学Ⅰ	2	
	公衆衛生学		2
	細胞生物学Ⅱ		2
	免疫・アレルギー学		2
	分子生物学Ⅱ		2
	細胞培養工学		2
	実験動物学		2
	酵素化学		2
	バイオインフォマティクス		2
	食品化学実験	3	
	食品生物学実験	3	
	専門ゼミ	1	

実験・実習・演習科目群	専攻科目演習Ⅰ	2	
	専攻科目演習Ⅱ	2	
	専攻科目演習Ⅲ	2	
	専攻科目演習Ⅳ	2	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表1に定める			

<履修方法>

必修科目55単位、選択科目33単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

システム生命科学科

授業科目の名称	単位数		
	必修	選択	
学科基礎科目群	生命情報工学総論	2	
	数学	2	
	基礎数学		2
	微分積分学	2	
	線形代数学	2	
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	コンピュータ概論	2	
	情報ネットワーク		2
	応用数学Ⅰ		2
	応用数学Ⅱ		2
	情報基礎		2
	確率基礎		2
	生物統計		2
	電気回路Ⅰ		2
	電気回路Ⅱ		2
	電子回路		2
	制御基礎論		2
	生体とシステム制御		2
	生体分子の統計物理		2
	知的財産権法概論		2
		細胞生物学	
情報セキュリティ			2
分子生物学Ⅰ			2

生命情報科目群	プログラミング	2	
	データ構造とアルゴリズム	2	
	分子生物学Ⅱ		2
	バイオマテリアル		2
	バイオセンサー		2
	数値計算	2	
	データベース論	2	
	情報理論		2
	バイオインフォマティクス		2
生体システム科目群	脳・神経生理学		2
	生体・電子計測学		2
	生体情報工学		2
	デジタル回路		2
	情報通信工学		2
	生体信号解析		2
	画像処理		2
	システム工学		2
	機械学習		2
	脳と情報科学		2
先端専門科目群	生命情報工学講究Ⅰ	2	
	生命情報工学講究Ⅱ	2	
実験・実習・演習科目群	基礎数学演習Ⅰ	1	
	基礎数学演習Ⅱ	1	
	プログラミング基礎	1	
	専門ゼミ	1	
	プログラミング実習Ⅰ	1	
	プログラミング実習Ⅱ	1	
	生命情報工学演習Ⅰ	1	
	生命情報工学演習Ⅱ	2	
	システム情報処理実習Ⅰ	1	
	システム情報処理実習Ⅱ	1	
	情報基礎実験	2	
	生体情報工学実験	2	
	生命情報工学応用演習	1	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表1に定める			

<履修方法>

必修科目44単位、選択科目44単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
------------------	----

数学科教育法Ⅰ	2
数学科教育法Ⅱ	2
数学科教育法特講Ⅰ	2
数学科教育法特講Ⅱ	2
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2
情報科教育法Ⅰ	2
情報科教育法Ⅱ	2

人間環境デザイン工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	基礎数学		2
	数学		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学	2	
	線形代数学		2
	情報処理応用		2
	応用解析学Ⅰ		2
	応用解析学Ⅱ		2
	確率統計		2
	心理統計学		2
	システムデザインと倫理 シミュレーション工学	2	2
人間科学科目群	人間医工学概論		2
	生体機能・解剖学		2
	生理学		2
	カラーコーディネーションの心理学		2
	環境心理学		2
	医用生体工学		2
	スポーツ科学		2
	スポーツダイナミクス		2
	感性デザイン		2
機械科学科目群	暮らしの力学	4	
	材料力学Ⅰ		4
	材料力学Ⅱ		4
	熱力学		2
	生体計測学		2
	流れ学		2
	材料機能学		2
	生活支援ロボット		2
	住環境科学概論		2

住環境科学科目群	プロダクトデザイン	2	
	スケッチと製図	2	
	伝熱学		2
	温熱環境学		2
	振動と音響の科学		2
ユニバーサルデザイン科目群	ユニバーサルデザイン概論		2
	福祉情報デザイン		2
	人間工学		2
	建築と照明		2
	福祉機器デザイン		2
	ユニバーサルデザイン		2
実験・実習・演習科目群	ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅰ	2	
	ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅱ	2	
	ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅲ	2	
	3次元CADプロダクトデザイン	2	
	造形デザイン実習	1	
	専門ゼミ	1	
	人間環境デザイン工学実験Ⅰ	2	
	人間環境デザイン工学実験Ⅱ	2	
	人間環境デザイン工学演習Ⅰ	1	
	人間環境デザイン工学演習Ⅱ	1	
	人間環境デザイン工学講究	2	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表1に定める			

<履修方法>

必修科目34単位、選択科目54単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
数学科教育法Ⅰ	2
数学科教育法Ⅱ	2
数学科教育法特講Ⅰ	2
数学科教育法特講Ⅱ	2
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

医用工学科

授業科目の名称		単位数		
		必修	選択	自由
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	基礎数学		2	
	数学		2	
	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	

	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	微分積分学	2		
	線形代数学	2		
工学科目群	応用数学	2		
	コンピュータ工学	2		
	医用工学概論	2		
	電気工学Ⅰ	2		
	電気工学Ⅱ			2
	電気電子工学			2
	機械工学	2		
	電子工学Ⅰ	2		
	信号処理			2
	計測工学	2		
	バイオセンサー			2
	電子工学Ⅱ			2
	制御工学	2		
	材料工学	2		
	放射線工学概論	2		
バイオマテリアル	2			
生体物性工学	2			
基礎医学科目群	生命倫理	2		
	基礎医学総論（法規・衛生）	2		
	解剖学	2		
	生理学	2		
	病理学	2		
	臨床生化学	2		
	臨床免疫学	2		
	臨床生理学	2		
	臨床薬理学	2		
	看護学概論	2		
	医療社会学	2		
医用工学科目群	医用機器学概論	2		
	生体計測装置学			2
	臨床医学総論Ⅰ	2		
	生体機能代行装置学Ⅰ	4		
	医用治療機器学	2		
	臨床医学総論Ⅱ			2
	生体機能代行装置学Ⅱ			4
	臨床医学総論Ⅲ			2
	生体機能代行装置学Ⅲ			2
	医用機器安全管理学Ⅰ	2		
	医用機器安全管理学Ⅱ			2
実験・実習・演習科目	専門ゼミ	1		
	応用数学演習			1
	電気電子工学実習	2		
	基礎医学実習	2		
	プログラミング演習	1		
	システム工学実習	2		

群	医療治療機器学・生体計測装置学実習	3		
	生体機能代行装置学実習	3		
	医用機器安全管理学実習	2		
	臨床実習			4
	臨床工学特別演習Ⅰ			1
	臨床工学特別演習Ⅱ			1
	卒業研究	4		
学際領域選択科目				
別表1に定める				

<履修方法>

必修科目82単位、選択科目6単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

別表1 学際領域選択科目 (○印)

授業科目	単位数	生物工 学科	遺伝子工 学科	食品安全工 学科	システム生 命科学科	人間環境デ ザイン工学 科	医用工学 科
	選択						
生物物理化学	2			○	○	○	○
環境科学	2		○	○			
生物機能物質化学	2		○	○			
生命科学概論	2				○	○	○
遺伝子工学概論	2	○		○	○	○	○
医用遺伝子工学概論	2	○		○	○	○	○
免疫・アレルギー学	2		○		○	○	○
食品工業技術論	2	○	○		○	○	○
遺伝資源学	2	○	○		○	○	○
脳と情報科学	2	○	○	○		○	○
情報理論	2	○	○	○		○	○
バイオセンサー	2	○	○	○		○	
材料機能学	2	○	○	○	○		○
感性デザインの数理	2	○	○	○	○		○
スポーツダイナミクス	2	○	○	○	○		○

別表(1)ー13

工学部授業科目表  
基礎教育

区分	分野	授業科目	単位数	必選別
総合科目	人間性・社会性科目群	哲学	2	○
		心理学	2	○
		日本国憲法	2	○
		人権論	2	○
		経済学	2	○
		政治基礎論	2	○
		教養特殊講義A	2	○
		地域性・国際性科目群	ことばと文化	1
	日本語の技法		2	○
	人間と文化		2	○
	東広島学		2	○
	国際経営論		2	○
	グローバルキャリア論		2	○
	教養特殊講義B		2	○
	課題設定・問題解決科目群		キャリアデザイン	2
		職業の理解	2	○
		生活と倫理	2	○
		社会行動論	2	○
		エンジニアリング・デザイン	2	○
		インターンシップ研修	2	○
		教養ゼミナール	2	○
		教養特殊講義C	2	○
	表現・スポーツ・健康活動科目群	芸術論	2	○
		工業デザイン	2	○
		生涯スポーツ I	1	○
		生涯スポーツ II	1	○
		スポーツ概論	2	○
健康と安全		2	○	
メンタルヘルス		2	○	
余暇論		2	○	
専門基礎・自然科学科目群	工学倫理	2	◎	
	地球の科学	2	○	
	宇宙の科学	2	○	
	生命の科学	2	○	
	情報リテラシー	1	○	
	図学	2	○	
	物質の科学	2	○	
	工学特講	2	○	
	情報と社会	2	○	
		英語A I	1	◎
英語A II		1	○	
英語B I		1	◎	
英語B II		1	○	
英語C I		1	○	
英語C II		1	○	

外国語科目	英語	英語D I	1	○
		英語D II	1	○
		英語応用 I	1	○
		英語応用 II	1	○
		英会話基礎 I	1	○
		英会話基礎 II	1	○
		英会話応用 I	1	○
		英会話応用 II	1	○
	初修外国語	ドイツ語 I	1	○
		ドイツ語 II	1	○
		フランス語 I	1	○
		フランス語 II	1	○
		中国語 I	1	○
中国語 II	1	○		
外国語共通	海外語学研修	2	○	

<履修方法>

- ① 総合科目は、人間性・社会性科目群 2 単位以上、地域性・国際性科目群 1 単位以上、課題設定・問題解決科目群 2 単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群 1 単位以上、専門基礎・自然科学科目群 2 単位以上を含む16単位以上の修得を要する。
- ② 外国語科目は、英語 A I と英語 B I 各 1 単位、英語 A II、英語 B II、英語 C I、英語 C II、英語 D I、英語 D II、英語応用 I、英語応用 II の中から 4 単位を含む 6 単位の修得と、残りの英語科目、初修外国語科目、外国語共通科目の中から 2 単位以上の修得を要する。ただし、英語 D I と英語 D II については、履修を許可された者だけが受講できる。

[総合科目修得内訳表]

学科	総合科目の区分要件
化学生命工学科 機械工学科 情報学科 建築学科	人間性・社会性科目群 2 単位以上、地域性・国際性科目群 1 単位以上、課題設定・問題解決科目群 2 単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群 1 単位以上、専門基礎・自然科学科目群 2 単位以上を含む 16 単位以上
電子情報工学科	人間性・社会性科目群 2 単位以上、地域性・国際性科目群 1 単位以上（「日本語の技法」を含む）、課題設定・問題解決科目群 2 単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群 1 単位以上、専門基礎・自然科学科目群 2 単位以上を含む 16 単位以上
ロボティクス学科	人間性・社会性科目群 2 単位以上、地域性・国際性科目群 1 単位以上、課題設定・問題解決科目群 2 単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群 1 単位以上、専門基礎・自然科学科目群 2 単位以上（「情報リテラシー」を含む）を含む 16 単位以上

化学生命工学科

区分	授業科目	単位数	必選別		
			生物化学コース	環境化学コース	食品科学コース
工学	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎	◎
	電算機基礎演習 I	1	◎	◎	◎
	電算機基礎演習 II	1	◎	◎	◎
	物理学 I	2	◎	○	○

基礎	物理学Ⅱ	2	◎	○	○
	化学概論Ⅰ	2	◎	◎	◎
	化学概論Ⅱ	2	◎	◎	◎
	生物学概論	2	◎	◎	◎
	微分積分学Ⅰ	2	◎	○	○
	微分積分学Ⅱ	2	◎	○	○
演習・実験	化学生命工学基礎演習	2	◎	◎	◎
	化学生命工学基礎実験	2	◎	◎	◎
	無機・物理化学演習	2	○	○	○
	有機・高分子化学演習	2	○	○	○
	化学実験	2	◎	◎	◎
	生物工学実験	2	◎	◎	◎
	生命工学演習	2	○	○	○
	物質化学実験	2	◎	◎	◎
	環境生命化学実験	2	◎	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎	◎
知識情報系	コンピュータ応用Ⅰ	2	◎	○	○
	コンピュータ応用Ⅱ	2	◎	○	○
	化学・生命情報学	2	○	○	○
専門基礎	基礎物理化学	2	◎	○	○
	基礎無機化学	2	◎	○	◎
	基礎有機化学	2	◎	○	◎
	基礎生化学	2	◎	○	◎
	基礎分析化学	2	◎	○	◎
	基礎高分子化学	2	◎	○	○
	基礎分子生物学	2	◎	○	◎
	科学英語Ⅰ	2	◎	○	○
	科学英語Ⅱ	2	◎	○	○
	知的財産法	2	◎	○	○
化学系	物理化学	2	○	○	○
	無機化学	2	○	○	○
	有機化学	2	○	○	○
	高分子化学	2	○	○	○
	合成化学	2	○	○	○
	農薬化学	2	○	○	○
	機器分析化学	2	○	○	○
	生化学	2	○	○	○
生物工学系	微生物学	2	○	○	◎
	分子細胞生物学	2	○	○	◎
	遺伝子工学	2	○	○	○
	生命工学	2	○	○	○
	環境制御工学	2	◎	○	○
環境システム系	環境化学	2	◎	○	○
	資源循環化学	2	◎	○	○
	食品化学	2	○	○	◎
食品科学	分子栄養学	2	○	○	◎
	応用微生物学	2	○	○	◎

系	植物栄養学	2	○	○	○
	食品衛生学	2	○	○	◎
	食品工学	2	○	○	○
融合 複合	公衆衛生学	2	○	○	○
	生物有機化学	2	○	○	○
	グリーンケミストリー	2	◎	◎	◎
教職 関連 科目	物理学実験	2	○	○	○
	地学実験	2	○	○	○
	金属加工（製図及び実習を含む。）	2	○	○	○
	栽培・同実習	2	○	○	○

<履修方法>

生物化学コースにおいては、必修科目◎68単位、選択科目○の中から16単位以上、合計84単位以上修得すること。

環境化学コースにおいては、必修科目◎30単位、選択科目○の中から54単位以上、合計84単位以上修得すること。

食品科学コースにおいては、必修科目◎52単位、選択科目○の中から32単位以上、合計84単位以上修得すること。

機械工学科

区分		授業科目	単位数	必選別	
				機械設計 コース	エネルギー機械 コース
工学基礎	導入	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	数学	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
		微分積分学Ⅱ	2	◎	◎
		線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
		線形代数学Ⅱ	2	◎	◎
		微分方程式	2	◎	◎
		解析学	2	○	○
		確率統計学	2	◎	◎
	物理	物理学Ⅰ	2	◎	◎
		物理学Ⅱ	2	◎	◎
物理学演習		1	○	○	
工業力学		2	◎	◎	
工学	電算機基礎演習	1	◎	◎	
実験・実習	実験	機械工学基礎実験Ⅰ	2	◎	◎
		機械工学基礎実験Ⅱ	2	◎	◎
		機械工学実験	2	◎	◎
	実習	機械基礎工作実習	2	◎	◎
		卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
		卒業研究	6	◎	◎
材料と構 造	材料力学	材料力学Ⅰ	2	◎	◎
		材料力学演習	1	○	○
		材料力学Ⅱ	2	◎	○
		弾塑性力学	2	○	○
	材料工学	材料の基礎	2	◎	◎
		機械材料Ⅰ	2	◎	○

		機械材料Ⅱ	2	○	○
		鑄造材料学	2	○	○
運動と振動	機械力学	機械力学Ⅰ	2	◎	◎
		機械力学Ⅱ	2	○	○
設計と生産管理	設計・製図	機械製図法	2	◎	◎
		設計製図演習Ⅰ	2	◎	◎
		設計製図演習Ⅱ	2	◎	◎
		機械要素設計Ⅰ	2	◎	◎
		機械要素設計Ⅱ	2	◎	◎
		応用設計	2	◎	◎
	生産工学	加工学Ⅰ	2	◎	◎
		加工学Ⅱ	2	◎	○
		接合工学	2	○	○
		塑性加工学	2	○	○
エネルギーと流れ	流体力学	基礎流れ学	2	◎	◎
		流体力学Ⅰ	2	○	◎
		流体力学Ⅱ	2	○	○
		応用流体工学	2	○	○
	熱工学	工業熱力学Ⅰ	2	◎	◎
		工業熱力学演習	1	○	○
		工業熱力学Ⅱ	2	○	○
		伝熱工学	2	○	◎
		燃焼工学	2	○	○
情報と計測制御	計測制御工学	計測工学	2	◎	◎
		制御工学Ⅰ	2	○	◎
		制御工学Ⅱ	2	○	○
	電子情報工学	電気電子工学Ⅰ	2	○	○
		電気電子工学Ⅱ	2	○	○
		プログラミング	2	○	○
応用・関連	関連科目	法工学	2	○	○
教職・関連	教職関連科目	金属加工（製図及び実習を含む。）	2	○	○

<履修方法>

機械設計コースにおいては、必修科目◎67単位、選択科目○の中から「材料力学」、「材料工学」、「機械力学」、「生産工学」区分の8単位以上を含む17単位以上、合計84単位以上修得すること。

エネルギー機械コースにおいては、必修科目◎67単位、選択科目○の中から「流体力学」、「熱工学」、「計測制御工学」、「電子情報工学」区分の8単位以上を含む17単位以上、合計84単位以上修得すること。

情報学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			情報システムコース	情報メディアコース
	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
	微分積分学Ⅱ	2	○	○
	線形代数学Ⅰ	2	◎	◎

工学基礎	線形代数学Ⅱ	2	○	○
	応用数学	2	○	○
	基礎統計学	2	◎	◎
	情報数学	2	◎	◎
	コンピュータ基礎実習	1	◎	◎
	科学技術英語Ⅰ	2	◎	○
	科学技術英語Ⅱ	2	◎	○
	情報倫理	2	◎	◎
総合	情報基礎実習	1	◎	◎
	情報処理実習Ⅰ	2	◎	◎
	情報処理実習Ⅱ	2	◎	◎
	情報システム演習Ⅰ	4	◎	
	情報システム演習Ⅱ	4	◎	
	情報メディア演習Ⅰ	4		◎
	情報メディア演習Ⅱ	4		◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
卒業研究	6	◎	◎	
情報処理	コンピュータ概論	2	◎	◎
	コンピュータシステムとアーキテクチャ	2	◎	◎
	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	◎	○
	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2	○	○
	プログラミング実習Ⅰ	2	◎	◎
	プログラミング実習Ⅱ	2	◎	○
	コンピュータネットワーク	2	◎	○
	Web技術	2	○	○
	データベース管理	2	○	○
	オブジェクト指向とモデリング言語	2	○	○
	オブジェクト指向プログラミング	1	○	○
	情報セキュリティ	2	○	○
	ソフトウェア工学	2	○	○
	応用統計学	2	◎	◎
	システム最適化法	2	○	○
	知識情報処理	2	○	○
	データマイニング	2	○	○
オペレーションズ・リサーチ	2	○	○	
シミュレーション科学	2	○	○	
情報システム	情報システム工学概論	2	◎	◎
	情報システム開発法	2	◎	○
	情報システムの設計と運営	2	○	○
	会計情報システム	2	○	○
	サプライチェーンマネジメント	2	○	○
	経営情報システム	2	◎	○
	生産管理情報システム	2	○	○
	組織活動と情報システム	2	◎	◎
	企業情報システム演習	2	○	○
	経営学概論	2	◎	◎
	マーケティング	2	○	○

ム	プロジェクトマネジメント	2	○	○
	ビジネスプロセスモデリング	2	○	○
	E R Pシステム実習 I	2	○	○
	E R Pシステム実習 II	2	○	○
	情報システム管理	2	○	○
情報メディア	マルチメディア概論	2	◎	◎
	メディアデータ解析	2	○	◎
	コンピュータグラフィックス	2	○	○
	映像処理	2	○	○
	パターン認識	2	○	○
	メディア入出力デバイス	2	○	○
	組込みシステム	2	○	○
	マルチメディアプログラミング	2	○	○
	バーチャルリアリティ	2	○	○
	音響処理	2	○	○
	音響学	2	○	○
	Webデザイン	2	○	○
	ヒューマンインタフェース	2	○	○
教職関連科目	工作機械・同実習	2	○	○
	電気回路・同演習	2	○	○

<履修方法>

情報システムコースにおいては、必修科目◎62単位、「情報処理」区分の選択科目○の中から10単位以上、「情報システム」区分の選択科目○の中から12単位以上を含む22単位以上、合計84単位以上修得すること。

情報メディアコースにおいては、必修科目◎50単位、選択科目○の中から34単位以上、合計84単位以上修得すること。

建築学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			建築学コース	インテリアデザインコース
工学基礎	微分積分学 I	2	○	○
	微分積分学 II	2	○	○
	線形代数学 I	2	○	○
	線形代数学 II	2	○	○
	応用物理学	2	○	○
	建築プログラミング	1	○	○
建築設計製図	建築図法	2	○	○
	造形演習	2	○	○
	建築CAD・CG演習	2	○	○
	建築基本製図	2	◎	◎
	建築演習	2	◎	◎
	建築設計製図	2	◎	◎

	木造住宅設計	2	○	○
	建築設計演習Ⅰ	2	◎	◎
	建築設計演習Ⅱ	4	◎	◎
	建築設計演習Ⅲ	4	◎	◎
	建築設計・集中演習Ⅰ	1	◎	◎
	建築設計・集中演習Ⅱ	1	◎	◎
建築計画	建築史Ⅰ	2	◎	◎
	建築史Ⅱ	2	○	○
	建築デザイン論	2	○	○
	建築計画Ⅰ	2	◎	◎
	建築計画Ⅱ	2	◎	◎
	都市計画	2	◎	◎
建築環境工学	居住環境学	2	◎	◎
	建築環境Ⅰ・同演習	2	◎	◎
	建築環境Ⅱ・同演習	2	○	○
建築設備	建築設備Ⅰ・同演習	2	◎	◎
	建築設備Ⅱ・同演習	2	○	○
構造力学	静定力学・同演習	2	◎	◎
	材料力学・同演習	2	◎	◎
	不静定力学Ⅰ・同演習	2	○	○
	不静定力学Ⅱ・同演習	2	◎	○
建築一般構造	構造演習	2	◎	◎
	構造設計Ⅰ・同演習	2	◎	◎
	構造設計Ⅱ・同演習	2	○	○
	構造設計Ⅲ	2	○	○
	建築地盤工学	2	○	○
建築材料	建築材料	2	◎	◎
建築生産	建築構法	2	○	○
	建築施工	2	◎	◎
	建築生産	2	○	○
インテリアデザイン	インテリアデザイン論	2		◎
	色彩・照明論	2	○	○
	インテリア設計演習	2		◎
	インテリアエレメント	2	○	○
	インテリア制作	2		◎
共通	建築概論	2	◎	◎
	建築法規	2	◎	◎
	職業観と倫理	2	◎	◎
	建築実験	2	◎	○
	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
教職関連科目	木材加工（製図及び実習を含む。）	2	○	○
	金属加工（製図及び実習を含む。）	2	○	○

<履修方法>

建築学コースにおいては、必修科目◎62単位、選択科目○の中から22単位以上、合計84単位以上修得すること。

インテリアデザインコースにおいては、必修科目◎64単位、選択科目○の中から20単位以上、合計84単位以上修得すること。

電子情報工学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			電気電子コース	情報通信コース
工学基礎	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	電気回路実験	1	◎	◎
	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
	微分積分学Ⅱ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅱ	2	◎	◎
	力学	2	○	○
実験・実習	電子情報基礎実験	2	◎	◎
	電子情報工学実験Ⅰ	2	◎	◎
	電子情報工学実験Ⅱ	2	◎	◎
	電子情報工学実験Ⅲ	2	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
電子情報基礎	コンピュータ概論	2	◎	◎
	プログラミング基礎	2	◎	◎
	回路理論Ⅰ	2	◎	◎
	回路理論Ⅱ	2	◎	◎
	電子回路Ⅰ	2	◎	◎
	電子回路Ⅱ	2	○	○
	電磁気学Ⅰ	2	◎	◎
	電磁気学Ⅱ	2	○	○
電子情報応用	微分方程式	2	○	○
	確率統計学	2	◎	◎
	コンピュータシステム演習	1	◎	◎
	論理回路	2	◎	◎
	デジタル回路設計	2	○	○
	過渡解析	2	○	○
	制御システム	2	○	○
	データ工学	2		○
	アルゴリズム演習	1	○	○
	集積回路	2	○	
	電子計測	2	○	
	情報理論	2	○	○
	アルゴリズム設計	2	○	○
コンピュータアーキテクチャー	2	○	○	
組込みシステム	2	○	○	
電気機器学	2	○		
エネルギー変換工学	2	○	○	
ソフト	プログラミングⅠ	2	◎	◎
	プログラミングⅡ	2	◎	◎
	Javaプログラミング	1	○	○

ウ エ ア 開 発	ソフトウェア設計	2		○
マ ル チ メ デ ィ ア 処 理	信号処理工学	2	○	○
	画像処理工学	2		○
情 報 通 信 メ デ ィ ア	情報通信ネットワーク	2	○	○
	情報通信システム構築演習	1	○	○
	通信工学	2	○	○
	半導体工学	2	○	
	光エレクトロニクス	2	○	
関 連 科 目	知的財産法	2	○	○
	情報技術英語Ⅰ	2	○	○
	情報技術英語Ⅱ	2	○	○
教 職 関 連 科 目	解析学Ⅰ	2	○	○
	解析学Ⅱ	2	○	○
	工作機械・同実習	2	○	○
	電気回路・同演習	2	○	○

<履修方法>

必修科目◎46単位、選択科目○の中から38単位以上、合計84単位以上修得すること。

ロボティクス学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			ロボット設 計コース	ロボット 制御コー ス
工学基礎	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
	微分積分学Ⅱ	2	○	○
	線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅱ	2	○	○
	確率統計学	2	○	○
	微分方程式	2	○	○
	ベクトル解析	2	○	○

	物理学Ⅰ	2	○	○
	物理学Ⅱ	2	○	○
共通	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
	科学技術英語Ⅰ	1	○	○
	科学技術英語Ⅱ	1	○	○
	知的財産管理	2	○	○
実験・実習・演習	機械標準製図法	2	◎	◎
	機械設計製図	2	◎	◎
	ロボット設計製図	2	◎	
	プログラミングⅠ	2	◎	◎
	プログラミングⅡ	2	◎	◎
	CAD/CAE/CAM実習	2	◎	◎
	ロボット工作基礎Ⅰ	2	◎	◎
	ロボット工作基礎Ⅱ	2	◎	◎
	ロボット工学実験Ⅰ	2	◎	◎
	ロボット工学実験Ⅱ	2		◎
ロボット創成実験	2	◎	◎	
設計・製造	流れ学	2	○	○
	基礎材料力学	2	◎	◎
	材料力学	2	○	○
	力学	2	◎	◎
	剛体の力学	2	◎	◎
	機械力学	2	○	○
	機械要素設計	2	◎	○
	機械材料	2	◎	◎
	加工学	2	○	○
	基礎数値解析	2	○	○
	数値解析	2	○	○
	生体工学	2	○	○
	電気・電子	電気回路Ⅰ	2	◎
電気回路Ⅱ		2	○	○
デジタル電子回路		2	○	○
ロボットインタフェース		2	○	○
制御・メカトロニクス	基礎制御工学	2	◎	◎
	制御工学	2	○	◎
	メカトロニクス	2	○	○
	計測・センサ工学	2	○	○
	ロボット機構学	2	○	○
	アクチュエータ工学	2	○	○
	ロボット工学	2	○	○
	ビークルシステム学	2	○	○
	ビークル運動学	2	○	○
情報	コンピュータ科学基礎	2	◎	◎
	知能情報工学	2	○	○
	ロボットビジョン	2	○	○
教職関連	代数学Ⅰ	2	○	○
	代数学Ⅱ	2	○	○

科目	幾何学Ⅰ	2	○	○
	幾何学Ⅱ	2	○	○
	工作機械・同実習	2	○	○
	電気回路・同演習	2	○	○

<履修方法>

必修科目◎48単位、選択科目○の中から36単位以上、合計84単位以上修得すること。

特修プログラム

区分	授業科目	単位数	
		選択	
情報技術特修プログラム	Webデザイン特講	4	
	Webデザイン実習	2	
	プログラミング特講	4	
	プログラミング実習	2	
	データサイエンス特講	4	
	データサイエンス実習	2	
教育学特修プログラム	教師論	2	
	教育原理	2	
	教育心理学	2	
	教育行政学	2	
	教育方法学	2	
	特別活動論	2	
	道徳教育論	2	
	教育情報学	2	
	人権教育論	2	
	生徒指導論（進路指導含む。）	2	
	教育相談	2	
	ピア・ティーチング演習Ⅰ	2	
	ピア・ティーチング演習Ⅱ	2	
	キャリアガイダンス	2	
特別支援教育	2		
総合的な学習の時間の指導法	2		
教職課程特修プログラム	技術コース	木材加工（製図及び実習を含む。）	2
		金属加工（製図及び実習を含む。）	2
		工作機械・同実習	2
		電気回路・同演習	2
		栽培・同実習	2
	数学コース	代数学Ⅰ	2
		代数学Ⅱ	2
		幾何学Ⅰ	2
		幾何学Ⅱ	2
		解析学Ⅰ	2
解析学Ⅱ	2		
国際経	コース共通	Intensive English Program	2
		TOEICⅠ	2
		TOEICⅡ	2
	英語コース	Media English	2
		Technical EnglishⅠ	2
		Technical EnglishⅡ	2

営 特 修 プ ロ グ ラ ム		Communication Skill for Global Engineers I	2	
		Communication Skill for Global Engineers II	2	
	技術経営コー ス	起業と経営		2
		技術・知識経営		2
		情報化社会の人間と組織		2
		サプライチェーンマネジメント		2
		ビジネス・アカウンティング		2
	生産性設計と国際競争力		2	

<履修方法>

16単位を限度として卒業単位として認定することができる。

〔特修プログラム修得内訳表〕

学科	教職課程特修プログラム	
	技術コース	数学コース
化学生命工学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 工作機械・同実習 電気回路・同演習	
機械工学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 電気回路・同演習 栽培・同実習	
情報学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 金属加工（製図及び実習を含む。） 栽培・同実習	
建築学科	工作機械・同実習 電気回路・同演習 栽培・同実習	
電子情報工学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 金属加工（製図及び実習を含む。） 栽培・同実習	代数学Ⅰ 代数学Ⅱ 幾何学Ⅰ 幾何学Ⅱ
ロボティクス学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 金属加工（製図及び実習を含む。） 栽培・同実習	解析学Ⅰ 解析学Ⅱ

別表(1)―14

産業理工学部

教養・基礎教育部門

○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目 ◇：自由科目

科目群	授業科目の名称	単位数	必修・選択 (JABEE)
第1群：人間性・ 社会性科目群	現代社会と法	2	□ (□)
	暮らしの中の憲法	2	□ (□)
	現代社会と倫理	2	□ (◇)
	哲学と人間・社会	2	□ (◇)
	人間のこころ	2	□ (◇)
	環境と社会	2	□ (○)
	環境と科学	2	□ (□)

	企業倫理と知的財産	2	□	(○)
	建学のこころ	1	△	(◇)
	インターンシップ	2	△	(◇)
	教養特殊講義A	2	△	(◇)
第2群：国際性・地域性科目群	国際経済入門	2	□	(□)
	国際社会と日本	2	□	(□)
	国際化と異文化理解	2	□	(◇)
	日本近現代史	2	□	(◇)
	日本文学論	2	□	(◇)
	地域社会と情報	2	□	(◇)
	地域社会と電気技術	2	□	(◇)
	教養特殊講義B	2	△	(◇)
第3群：課題設定・問題解決科目群	基礎ゼミ	2	○	(○)
	科学的問題解決法	2	○	(○)
	ライフデザイン	2	○	(○)
	日本語の技法	1	○	(○)
	論理的表現法Ⅰ	1	○	(○)
	論理的表現法Ⅱ	1	△	(△)
	キャリアデザイン	2	△	(△)
	就職計画	2	△	(△)
	情報処理Ⅰ	2	○	(○)
	情報処理Ⅱ	2	△	(△)
	情報処理Ⅲ	2	△	(△)
	教養特殊講義C	2	△	(◇)
第4群：スポーツ・表現活動科目群	生涯スポーツⅠ	1	□	(◇)
	生涯スポーツⅡ	1	□	(◇)
	健康とスポーツの科学	2	□	(◇)
	食生活と健康	2	□	(□)
	視覚表現の科学	2	□	(□)
	空間とデザイン	2	□	(□)
第5群：外国語科目群	英語Ⅰ	1	○	(○)
	英語Ⅱ	1	○	(○)
	英語Ⅲ	1	○	(○)
	英語Ⅳ	1	○	(○)
	実用英語Ⅰ	1	□	(□)
	実用英語Ⅱ	1	□	(□)
	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	□	(□)
	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	□	(□)
	インタラクティブ英語Ⅰ	1	□	(□)
	インタラクティブ英語Ⅱ	1	□	(□)
	留学英語	2	△	(◇)
	中国語Ⅰ	1	□	(□)
	中国語Ⅱ	1	□	(□)
	フランス語Ⅰ	1	□	(□)
	フランス語Ⅱ	1	□	(□)
	スペイン語Ⅰ	1	□	(□)
	スペイン語Ⅱ	1	□	(□)
海外語学研修	1	△	(◇)	
日本語Ⅰ	1	□	(□)	

	日本語Ⅱ	1	<input type="checkbox"/>	( <input type="checkbox"/> )
	日本語Ⅲ	1	<input type="checkbox"/>	( <input type="checkbox"/> )
	日本語Ⅳ	1	<input type="checkbox"/>	( <input type="checkbox"/> )

<履修方法>

必修科目14単位、選択必修科目 9 単位を含む計28単位以上修得すること。

J A B E E 認定コースにおいては、必修科目18単位、選択必修科目10単位を含む計28単位以上修得すること。

生物環境化学科

○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択		
			バイオサイエンス	食品生物資源	エネルギー・環境
基礎	数学Ⅰ	2	△	△	△
	数学Ⅱ	2	△	△	△
	物理学Ⅰ	2	△	△	△
	物理学Ⅱ	2	△	△	△
コア	生物学Ⅰ	2	○	○	○
	生物学Ⅱ	2	□	□	□
	物理化学Ⅰ	2	○	○	○
	物理化学Ⅱ	2	□	□	□
	有機化学Ⅰ	2	○	○	○
	有機化学Ⅱ	2	□	□	□
	無機化学Ⅰ	2	○	○	○
	無機化学Ⅱ	2	□	□	□
	分析化学	2	□	□	□
	地学概論	4	△	△	△
	アカデミック有機化学Ⅱ	2	△	△	△
	環境材料化学	2	△	△	□
	生物資源利用学	2	△	□	△
	栄養化学	2	△	△	△
	バイオ分析化学	2	□	□	△
	アカデミック物理化学	2	△	△	□
	アカデミック有機化学Ⅰ	2	△	△	□
	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	△	△	△
	生物環境化学特別講義Ⅱ	2	△	△	△
	生理学	2	□	□	△
	公衆衛生学	2	△	□	△
分光分析法	2	△	△	△	
卒業研究	6	○	○	○	
実験・演習	生物環境化学基礎実験	2	○	○	○
	生物環境化学演習	2	○	○	○
	環境化学基礎実験	2	○	○	○
	環境化学演習	2	○	○	○
	生物化学基礎実験	2	○	○	○
	生物化学演習	2	○	○	○
	物質化学基礎実験	2	○	○	○
	物質化学演習	2	○	○	○
	環境化学実験	3	○	○	○

	物質化学実験	3	○	○	○
	生物化学実験	3	○	○	○
	生物環境化学実験	3	○	○	○
展開（環境化学系）	公害防止管理	2	△	△	□
	環境バイオテクノロジー	2	△	□	□
	環境とバイオの統計学	2	□	△	△
	資源エネルギー化学	2	△	△	□
	環境生物学	2	□	△	△
	食品衛生学	2	△	□	△
	環境計量学	2	△	△	□
展開（生物化学系）	生物化学Ⅰ	2	□	□	△
	生物化学Ⅱ	2	△	△	△
	分子遺伝学	2	□	△	△
	生物有機化学	2	□	△	△
	バイオセンシング	2	△	△	△
	微生物学	2	△	□	△
	微生物バイオテクノロジー	2	□	□	△
	遺伝子工学	2	□	△	△
	食品化学	2	△	□	△
	食品保存学	2	△	□	△
	栄養学	2	△	△	△
展開（材料化学系）	高分子合成化学	2	△	△	△
	高分子物性	2	△	△	△
	化学と安全	2	△	△	□
	分子シミュレーション	2	△	△	□
	固体化学	2	△	△	□
	先端無機材料化学	2	△	△	△
	先端有機材料化学	2	△	△	△
	有機合成化学	2	△	△	△
	生体機能分子化学	2	△	△	△

<履修方法>

バイオサイエンスコースにおいては、必修科目42単位、専門選択必修科目14単位以上を含み、合計70単位以上修得すること。

食品生物資源コースにおいては、必修科目42単位、専門選択必修科目14単位以上を含み、合計70単位以上修得すること。

エネルギー・環境コースにおいては、必修科目42単位、専門選択必修科目14単位以上を含み、合計70単位以上修得すること。

電気電子工学科

○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択		
			応用エレクトロニクス	エネルギー・環境	情報通信
	基礎数学	2	○	○	○
	基礎数学演習	2	○	○	○
	電気電子数学	2	○	○	○
	電気電子数学演習	2	○	○	○
	応用数学Ⅰ	2	□	□	□

基礎	応用数学Ⅱ	2	□	□	□
	初等電磁気学	2	○	○	○
	初等信号理論	2	○	○	○
	シミュレーション	2	○	○	○
	コンピュータ概論	2	○	○	○
	エレクトロニクス概論	2	○	○	○
電気基礎	電磁気学Ⅰ	2	○	○	○
	電磁気学Ⅱ	2	○	○	□
	電気回路Ⅰ	2	○	○	○
	電気回路Ⅰ演習	2	○	○	○
	電気回路Ⅱ	2	○	○	○
	電気回路Ⅲ	2	○	○	□
電子工学	電子回路Ⅰ	2	○	○	○
	電子回路Ⅰ演習	2	○	○	○
	電子回路Ⅱ	2	○	○	□
	電子回路設計	2	○	○	△
	計測工学	2	○	○	○
	電気材料物性	2	□	□	△
	半導体工学	2	□	△	△
	集積回路	2	○	△	□
電力工学	電力システム概論	2	□	○	△
	電気機器	2	△	○	△
	パワーエレクトロニクス	2	△	○	△
	発電電工学	2	△	□	△
	送配電工学	2	△	□	△
	電気法規・施設管理	2	△	□	△
	エネルギー環境システム	2	○	○	△
計算機工学	計算機システム	2	○	○	○
	論理回路	2	○	○	○
	論理回路演習	2	□	□	□
	プログラミング	2	○	○	○
	プログラミング演習	2	○	○	○
	データ処理とプログラミング	2	○	△	○
情報・通信システム	電磁波工学	2	□	□	□
	無線通信工学	2	□	△	□
	情報通信工学	2	○	△	○
	情報ネットワーク	2	□	△	○
	情報社会と倫理	2	△	△	△
	情報と法	2	△	△	△
	情報と職業	2	△	△	△
応用エレクトロニクス	システムプログラミング	2	○	△	○
	制御工学	2	○	△	□
	組込み制御	2	○	△	○
	ロボティクス	2	□	△	□
	情報センシング	2	○	△	□
	情報メディア工学	2	△	△	□
	初等理工学実験	1	○	○	○
	初等電気工学実験	1	○	○	○
	電気工学基礎実験Ⅰ	2	○	○	○

実験・実習	電気工学基礎実験Ⅱ	2	○	○	○
	電気電子情報工学実験Ⅰ	2	○	○	○
	電気電子情報工学実験Ⅱ	2	○	○	○
	電子情報設計プロジェクト	2	○	○	○
	電子情報工学セミナー	2	○	○	○
	電機設計・製図	2	△	□	△
	卒業研究	6	○	○	○

<履修方法>

応用エレクトロニクスコースにおいては、必修科目84単位、専門選択必修科目10単位以上、計94単位以上を修得すること。ただし、自由科目は卒業所要単位としない。

エネルギー・環境コースにおいては、必修科目76単位、専門選択必修科目12単位以上、計88単位以上を修得すること。

情報通信コースにおいては、必修科目70単位、専門選択必修科目16単位以上、計86単位以上を修得すること。

建築・デザイン学科

○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択	
			建築工学	建築・デザイン
基礎	数学及び演習	3	△	△
	物理学	2	△	△
構造	静定構造力学Ⅰ及び演習	3	○	○
	静定構造力学Ⅱ及び演習	3	○	△
	不静定構造力学及び演習	3	○	△
	建築と構造	2	○	○
	鉄筋コンクリート構造	2	○	△
	鋼構造	2	○	△
	構造設計及び演習	3	□	△
生産	建築材料	2	○	○
	施工法Ⅰ	2	○	○
	施工法Ⅱ	2	○	△
	施工管理及び演習	3	□	△
環境	環境概論	2	○	○
	建築と環境	2	□	△
	都市と環境	2	□	△
	建築設備の基礎	2	○	○
	建築設備の計画	2	□	△
	設備設計及び演習	3	□	△
計画	環境とデザイン	2	□	□
	近現代建築論	2	□	□
	住まいの計画	2	□	□
	地域施設の計画	2	□	□
	建築計画	2	□	□
	空間造形	2	□	□
	都市計画	2	□	△
	基礎造形	3	△	△
	造形演習	3	△	△
	デザイン企画論	2	△	△

造形・表現	インテリアデザイン論	2	△	△
	インテリアデザイン演習	3	△	△
	画像設計演習	3	△	△
	視覚表現演習	3	△	△
	建築メディア論	2	△	△
	プレゼンテーション演習	3	△	△
設計	建築・デザイン演習Ⅰ	3	○	○
	建築・デザイン演習Ⅱ	3	○	○
	建築設計Ⅰ	3	○	○
	建築設計Ⅱ	3	○	△
	建築設計Ⅲ	3	○	△
	建築設計Ⅳ	3	□	△
	CADトレーニング	2	△	△
共通	建築工学実験	2	○	△
	建築法規	2	○	○
	建築技術者倫理	2	△	△
	プロジェクト研究	3	○	○
	卒業研究	6	○	○

<履修方法>

建築工学コースにおいては、必修科目53単位、選択必修科目17単位以上を含み、合計80単位以上修得すること。

建築・デザインコースにおいては、必修科目33単位、選択必修科目4単位以上を含み、合計70単位以上修得すること。

情報学科

○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択		
			情報エンジニアリング	メディア情報	データサイエンス
数学	数学	2	△	△	△
	数学演習	2	△	△	△
	情報数学	2	△	△	△
	情報数学演習	2	△	△	△
	応用数学	2	△	△	△
	確率論	2	△	△	○
	多変量解析	2	△	△	○
基礎・理論	コンピュータ概論Ⅰ	2	○	○	○
	コンピュータ概論Ⅱ	2	○	○	○
	ネットワークと通信の理論	2	△	△	△
	情報と符号の理論	2	△	△	△
	計算の複雑さ	2	△	△	△
	暗号とセキュリティの理論	2	△	△	△
マネジメント・資格支援	情報システム概論	2	○	□	△
	プロジェクト管理	2	○	□	△
	プロフェッショナルデザイン	2	△	□	△
情報と社会	情報と職業	2	△	□	△
	情報社会と倫理	2	△	□	△
	情報と法	2	△	□	△

プログラミング	プログラミングⅠ	2	○	○	○
	プログラミングⅡ	2	○	△	△
	データ構造とアルゴリズム	2	○	△	△
	データ構造とアルゴリズム演習	2	○	△	△
	ソフトウェア工学	2	○	△	△
	オブジェクト指向プログラミング	2	○	△	△
	オブジェクト指向プログラミング演習	2	○	△	△
	アドバンスドプログラミング	4	○	△	△
	ソフトウェア分析・設計	2	○	△	△
	ソフトウェア開発・展開	2	○	△	△
ソフトウェア開発演習	4	○	△	△	
ネットワーク	コンピュータネットワーク	2	○	○	○
	インターネット工学	2	○	△	△
	インターネット工学演習	2	△	△	△
	ネットワークセキュリティ	2	△	△	△
	ネットワークセキュリティ演習	4	△	△	△
コンテンツ系	コンピュータ音楽	2	△	△	△
	マルチメディア	2	△	○	△
	Webコンテンツ企画設計	2	△	△	△
	Webコンテンツ制作	2	△	△	△
	画像処理	2	△	○	△
	映像表現	2	△	△	△
	ゲームとシナリオのデザイン	2	△	△	△
	コンピュータグラフィックス	2	△	△	△
プロダクションワーク	2	△	○	△	
統計ソフトウェア・可視化	統計ソフトウェアⅠ	2	△	△	△
	統計ソフトウェアⅡ	2	△	△	△
	データマイニングと可視化Ⅰ	2	△	△	△
	データマイニングと可視化Ⅱ	2	△	△	△
情報の知的処理	シミュレーション	2	△	△	△
	知識工学	2	△	△	△
	知識工学演習	2	△	△	△
	データベース	2	○	△	○
	データベース演習	2	○	△	○
	データサイエンス	2	△	△	○
	データ分析演習	2	△	△	○
関連	情報学概論	2	○	○	○
	情報学序論	2	○	○	○
	情報学プロジェクトⅠ	2	○	○	○
	情報学プロジェクトⅡ	2	○	○	○
	卒業研究	6	○	○	○

#### <履修方法>

情報エンジニアリングコースにおいては、必修科目56単位以上、計70単位以上を修得すること。

メディア情報コースにおいては、必修科目28単位、専門選択必修科目6単位以上、計70単位以上を修得すること。

データサイエンスコースにおいては、必修科目34単位以上、計70単位以上を修得すること。

経営ビジネス学科

○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択	
			経営マネジメント	グローバル経営
基礎	経営ビジネス学入門	2	○	○
	基礎経営学	2	○	○
	基礎経済学	2	○	○
	基礎流通論	2	○	○
	基礎簿記Ⅰ	2	○	○
	地域マネジメント基礎論	2	○	○
	ビジネス英語基礎	2	△	□
	基礎情報システム論	2	△	△
	基礎人間工学	2	□	△
経営学・商学	経営管理論	2	□	□
	経営戦略論	2	□	□
	人的資源管理論	2	△	△
	企業論	2	△	△
	マーケティング論	2	○	○
	流通システム論	2	△	△
	データ分析	2	△	△
	会社法	2	△	△
	組織論	2	△	△
	広告論	2	△	△
	消費者行動論	2	△	△
	マーケティングリサーチ	2	△	△
	会計・財務	経営財務論	2	△
基礎簿記Ⅱ		2	□	□
会計学		2	□	△
財務諸表論Ⅰ		2	□	△
財務諸表論Ⅱ		2	△	△
原価管理		2	△	△
経営分析		2	△	△
税務会計		2	△	△
税法Ⅰ		2	△	△
税法Ⅱ		2	△	△
管理会計論		2	△	△
社会・工学	社会調査論	2	□	□
	システムの基礎	2	△	△
	人間工学	2	△	△
	NPOマネジメント論	2	△	△
	地域ビジネス論	2	□	△
	地域経済論	2	△	△
	スポーツマネジメント	2	△	△
	都市経営論	2	△	△
	グローバル経営論	2	□	□
	グローバル経済論	2	△	□
	国際環境政策論	2	△	△

グローバル	比較経営論	2	□	□
	アジア社会文化論	2	△	△
	グローバル・スタディ	2	△	△
	スポーツ社会学	2	△	△
	スポーツ文化論	2	△	△
	アジア企業論	2	△	△
コミュニケーション	外書講読	2	△	△
	ビジネス英語	2	□	□
	英語コミュニケーションⅠ	2	△	△
	英語コミュニケーションⅡ	2	△	△
	中国語コミュニケーションⅠ	2	△	□
	中国語コミュニケーションⅡ	2	△	△
	韓国語会話	2	△	□
	韓国語コミュニケーションⅠ	2	△	△
韓国語コミュニケーションⅡ	2	△	△	
演習	フィールドワーク	4	△	△
	マネジメントゲーム	2	△	△
	会計処理演習	2	△	△
	特別講義Ⅰ	2	△	△
	特別講義Ⅱ	2	△	△
	特別講義Ⅲ	2	△	△
	特別講義Ⅳ	2	△	△
ゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	○	○
	プレゼミナールⅡ	2	○	○
	ゼミナールⅠ	2	○	○
	ゼミナールⅡ	2	○	○
	卒業研究	6	○	○

<履修方法>

経営マネジメントコースとグローバル経営コースは、コース必修科目28単位、および、選択必修科目6単位以上を含み、合計70単位以上を修得しなければならない。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程

教科に関する科目

授業科目	学科	履修を必要とする学科				
		単位数	生物環境 化学科	電気電子 工学科	建築・デザ イン学科	情報学科
職業指導		4	○	○	○	○
職業指導（商業）		2				○

別表(2)ー1

法学部、経済学部、経営学部、理工学部、薬学部、文芸学部、総合社会学部、国際学部、農学部（食品栄養学科を除く。）

教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	◇教科に関する専門的事項 ◇各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中28 高24	学部学科等が定める科目	20	
			国語科教育法Ⅰ		2
			国語科教育法Ⅱ		2
			国語科教育法ⅢA		2
			国語科教育法ⅢB		2

		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2
		社会科・地歴科教育法Ⅲ	2
		社会科・公民科教育法Ⅰ	2
		社会科・公民科教育法Ⅱ	2
		社会科・公民科教育法Ⅲ	2
		数学科教育法Ⅰ	2
		数学科教育法Ⅱ	2
		数学科教育法ⅢA	2
		数学科教育法ⅢB	2
		理科教育法Ⅰ	2
		理科教育法Ⅱ	2
		理科教育法ⅢA	2
		理科教育法ⅢB	2
		美術科教育法Ⅰ	2
		美術科教育法Ⅱ	2
		美術科・工芸科教育法Ⅰ	2
		美術科・工芸科教育法Ⅱ	2
		技術科教育法Ⅰ	2
		技術科教育法Ⅱ	2
		技術科教育法ⅢA	2
		技術科教育法ⅢB	2
		農業科教育法Ⅰ	2
		農業科教育法Ⅱ	2
		工業科教育法Ⅰ	2
		工業科教育法Ⅱ	2
		商業科教育法Ⅰ	2
		商業科教育法Ⅱ	2
		水産科教育法Ⅰ	2
		水産科教育法Ⅱ	2
		英語科教育法Ⅰ	2
		英語科教育法Ⅱ	2
		英語科教育法ⅢA	2
		英語科教育法ⅢB	2
		情報科教育法Ⅰ	2
		情報科教育法Ⅱ	2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	(A) ◇教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育の思想と歴史A		2
			教育の思想と歴史B		2
	◇教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2	
(B) ◇教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学			教育行政学		2
			教育社会学		2
			比較教育学		2

	校安全への対応を含む。)				
	(C) ◇幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ◇特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		学習心理学 発達心理学		2 2
			特別支援教育学	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	◇道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育の理論と方法	2	
	◇総合的な学習の時間の指導法 ◇特別活動の指導法		総合的な学習の時間・特別活動論	2	
	(D) ◇教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ◇教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程・方法論A 教育課程・方法論B		2 2
	◇生徒指導の理論及び方法 ◇進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	
	◇教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	
教育実践に関する科目	◇教育実習	中5 高3	教育実習指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	1 2	2
	◇教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目名	単位数
大学が独自に設定する科目	中4 高12	道徳教育の理論と方法	2
		人権と社会1	2
		人権と社会2	2

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目名	単位数
日本国憲法	2	学科開講共通科目	
体育	2	生涯スポーツ1	1
		生涯スポーツ2	1
外国語コミュニケーション	2	学科開講外国語科目	
情報機器の操作	2	学科開講専門科目	

<履修方法>

(1) 上記の(A)(B)(C)の各領域より各2単位以上を選択し、計6単位以上履修すること。

- (2) 上記の(D)の領域より、2単位以上履修すること。
- (3) 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の単位の修得方法は、各免許教科について、中学校一種免許状の取得を希望する場合は8単位以上を、高等学校一種免許状の取得を希望する場合は4単位以上を修得するものとする。
- (4) 「道徳教育の理論と方法」は、中学校免許状取得については「教育の基礎的理解に関する科目」として開設、高等学校免許状取得については「大学が独自に設定する科目」として開設する。
- (5) 中学校一種免許状を取得する場合は、教育実習Ⅱは必修科目とする。
- (6) 「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」若しくは「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて中学校免許状を取得の場合は4単位以上、高等学校免許状を取得の場合は12単位以上修得すること。
- (7) 「大学が独自に設定する科目」の人権と社会1、人権と社会2については、総合社会学部のみ開設する。

#### 農学部食品栄養学科

##### 栄養に係る教育に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
栄養に係る教育に関する科目	◇栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	4	学校栄養指導法Ⅰ	2	
	◇幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項				
	◇食に関する指導の方法に関する事項				
	◇食生活に関する歴史的及び文化的事項		学校栄養指導法Ⅲ	2	

##### 教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	(A) ◇教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育の思想と歴史A		2
			教育の思想と歴史B		2
	◇教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2	
	(B) ◇教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学		2
			教育社会学		2
			比較教育学		2
(C) ◇幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		学習心理学		2	
	◇特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		発達心理学		2
		特別支援教育学	2		

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	◇道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育の理論と方法	2	
			総合的な学習の時間・特別活動論	2	
	(D) ◇教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ◇教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程・方法論A 教育課程・方法論B		2 2
	◇生徒指導の理論及び方法		生徒指導の理論及び方法	2	
	◇教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	
教育実践に関する科目	◇栄養教育実習	2	栄養教育実習指導 栄養教育実習	1 1	
	◇教職実践演習	2	教職実践演習（栄養教諭）	2	

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目名	単位数
日本国憲法	2	暮らしのなかの憲法	2
体育	2	生涯スポーツ1	1
		生涯スポーツ2	1
外国語コミュニケーション	2	English Communication 1	1
		English Communication 2	1
情報機器の操作	2	学科開講専門科目	1

<履修方法>

- (1) 上記の(A)(B)(C)の各領域より各2単位以上を選択し、計6単位以上履修すること。
- (2) 上記の(D)の領域より、2単位以上履修すること。
- (3) 平成15年度入学生・平成16年度入学生は、栄養教諭一種免許取得のための科目を履修することができる。

生物理工学部

教科及び教科に指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	・強化に関する専門的事項 ・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中28 高24	学部学科等が定める科目	20	
			数学科教育法Ⅰ		2
			数学科教育法Ⅱ		2
			数学科教育法特講Ⅰ		2
			数学科教育法特講Ⅱ		2
			理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			理科教育法特講Ⅰ		2

		理科教育法特講Ⅱ		2
		情報科教育法Ⅰ		2
		情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	2	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	1	
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育論	2	
	・総合的な学習の時間の指導法		教育方法と総合的な学習の時間の指導法	2	
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		特別活動論	2	
	・特別活動の指導法		生徒指導論（進路指導を含む。）	2	
	・生徒指導の理論及び方法		教育相談	2	
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習Ⅰ	2	2
			教育実習Ⅱ		
			教育実習特講	1	
教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）	2	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目	単位数
---------------	-----	------	-----

大学が独自に設定する科目	中4	人権と社会Ⅰ	2
	高12	人権と社会Ⅱ	2
		道徳教育論	2

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	
科目	単位数		必修	選択
日本国憲法	2	暮らしのなかの憲法		2
体育	2	生涯スポーツ1		1
		生涯スポーツ2		1
外国語コミュニケーション	2	オーラル・スキル（英語）1		1
		オーラル・スキル（英語）2		1
情報機器の操作	2	情報処理基礎Ⅰ	1	
		情報処理基礎Ⅱ	1	

<履修方法>

- (1) 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の単位の修得方法は、各免許教科について、中学校一種免許状の取得を希望する場合は8単位以上を、高等学校一種免許状の取得を希望する場合は4単位以上を修得するものとする。
- (2) 該当教科教育法については必修科目として修得すること。
- (3) 「道徳教育論」は、中学校免許状取得については、「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設、高等学校免許状取得については「大学が独自に設定する科目」として開設する。
- (4) 中学校一種免許状を取得する場合は、教育実習Ⅱは必修科目とする。
- (5) 「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」若しくは「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて中学校免許状を取得の場合は4単位以上、高等学校免許状を取得の場合は12単位以上修得すること。

工学部

教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	◇教科に関する専門的事項 ◇各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中28 高24	学部学科等が定める科目	20	
			数学科教育法Ⅰ		2
			数学科教育法Ⅱ		2
			数学科教育法ⅢA		2
			数学科教育法ⅢB		2
			理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			理科教育法ⅢA		2
			理科教育法ⅢB		2
			技術科教育法Ⅰ		2
			技術科教育法Ⅱ		2
			技術科教育法ⅢA		2
			技術科教育法ⅢB		2
			工業科教育法Ⅰ		2
			工業科教育法Ⅱ		2
			情報科教育法Ⅰ		2
情報科教育法Ⅱ		2			

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数
------------------	------	-----

科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	◇教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	
	◇教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教師論	2	
	◇教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	2	
	◇幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	◇特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	◇道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育論	2	
	◇総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	2	
	◇教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		特別活動論	2	
	◇特別活動の指導法				
	◇教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法学	2	
	◇教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育情報学 教育相談	2 2	
教育実践に関する科目	◇教育実習	中5 高3	教育実習特講 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	2 2	2
	◇教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目	単位数	
			必修	選択
大学が独自に設定する科目	中4 高12	人権教育論 道徳教育論 教育情報学 東広島学	2 2 2 2	

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	授業科目	単位数
日本国憲法	2	日本国憲法	2
体育	2	生涯スポーツⅠ	1
		生涯スポーツⅡ	1
		スポーツ概論	2

外国語コミュニケーション	2	英会話基礎Ⅰ	1
		英会話基礎Ⅱ	1
情報機器の操作	2	学科開講科目	計2

<履修方法>

- (1) 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」は、取得免許状の種類に該当する授業科目ごとに選択すること。
- (2) 該当教科教育法については必修科目として修得すること。
- (3) 「道徳教育論」及び「教育情報学」は、中学校免許状取得については「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設し必修科目とする。高等学校免許状取得については、「大学が独自に設定する科目」として開設し選択科目とする。
- (4) 中学校一種免許状を取得する場合は、「教育実習Ⅱ」は必修科目とする。
- (5) 「教師論」「教育原理」「教育心理学」「教育行政学」「教育方法学」「特別活動論」「道徳教育論」「教育情報学」「人権教育論」「生徒指導論（進路指導含む。）」「教育相談」「キャリアガイダンス」「特別支援教育」「総合的な学習の時間の指導法」は特修プログラムで修得すること。
- (6) 「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて中学校免許状を取得の場合は4単位以上、高等学校免許状を取得の場合は12単位以上修得すること。

産業理工学部

教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科に関する専門的事項</li> <li>・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</li> </ul>	24	学部学科等が定める科目	36	
			理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			工業科教育法Ⅰ		2
			工業科教育法Ⅱ		2
			商業科教育法Ⅰ		2
			商業科教育法Ⅱ		2
			情報科教育法Ⅰ		2
			情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎理解に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</li> <li>・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）</li> <li>・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）</li> <li>・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）</li> <li>・幼児、児童及び生徒の心身の</li> </ul>	10	教育学概論	2	
			教職論	2	
			教育行政学	2	
			教育心理学	2	

	発達及び学習の過程				
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	2	
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活動を含む。）		教育方法論	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	
教育実践に関する科目	・教育実習	3	教育実習 教育実習指導	2 1	
	・教職実践演習	2	教職実践演習（高等学校）	2	

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	授業科目	単位数	
			必修	選択
日本国憲法	2	暮らしの中の憲法	2	
体育	2	生涯スポーツⅠ	1	
		生涯スポーツⅡ	1	
外国語コミュニケーション	2	インタラクティブ英語Ⅰ	1	
		インタラクティブ英語Ⅱ	1	
情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	2	

<履修方法>

(1) 「教育課程及び指導法に関する科目（各教科の指導法）」は、取得免許状の種類に該当する授業科目ごとに選択すること。

別表(2)ー2

免許状の種類及び免許教科

学部名	学科名	高等学校教諭一種免許状（免許教科）	中学校教諭一種免許状（免許教科）	その他の免許状
法学部	法律学科	公民・地理歴史 英語	社会・英語	
経済学部	経済学科	公民・地理歴史 英語・商業	社会・英語	
	総合経済政策学科 国際経済学科	公民 英語・商業	社会・英語	
経営学部	経営学科（昼間主・夜間主コース） 商学科 会計学科 キャリア・マネジメント学科	公民・商業	社会	
	理学科	数学・理科 情報	数学・理科	

理工学部	生命科学科 応用化学科	理科	理科	
	機械工学科	数学・理科・工業	数学・理科・技術	
	電気電子工学科	数学・理科・工業・情報	数学・理科・技術	
	社会環境工学科	工業	技術	
	情報学科	工業・情報		
薬学部	医療薬学科 創薬科学科	理科	理科	
文芸学部	文学科（日本文学専攻）	国語	国語	
	〃（英語英米文学専攻）	英語	英語	
	芸術学科（舞台芸術専攻）	国語	国語	
	〃（造形芸術専攻）	美術・工芸	美術	
	文化・歴史学科	公民・地理歴史	社会	
総合社会学部	総合社会学科	公民・地理歴史	社会	
国際学部	国際学科	英語	英語	
農学部	農業生産科学科 応用生命化学科 環境管理学科 生物機能科学科	理科・農業	理科	
	水産学科	理科・水産	理科	
	食品栄養学科	理科	理科	栄養
生物理工学部	生物工学科 食品安全工学科 遺伝子工学科	理科	理科	
	生命情報工学科	数学・情報	数学	
	人間環境デザイン工学科	数学	数学	
	医用工学科	理科		
	化学生命工学科	理科・工業	理科・技術	
	機械工学科	工業	技術	
工学部	情報学科	工業・情報	技術	
	建築学科	工業	技術	
	電子情報工学科	数学・工業・情報	数学・技術	
	ロボティクス学科	数学・工業	数学・技術	
	生物環境化学科	工業・理科	----	
	電気電子工学科	工業・情報	----	
	建築・デザイン学科	工業	----	
産業理工学部	情報学科	工業・情報	----	
	経営ビジネス学科	商業	----	

別表(3)

司書課程科目及びその単位数

授業科目	単位数	
	必修	選択必修
図書館情報学概論	2	
生涯学習概論	2	

図書館制度・経営論	2	
図書館サービス概論	2	
児童サービス論	2	
情報サービス論	2	
情報サービス演習Ⅰ	2	
情報サービス演習Ⅱ	2	
情報資源概論	2	
情報資源組織論Ⅰ	2	
情報資源組織論Ⅱ	2	
情報資源組織演習Ⅰ	2	
情報資源組織演習Ⅱ	2	
図書館情報技術論	2	
ファイリング論		2
文書情報管理論		2
出版流通・書店論		2
知財情報サービス論		2
情報資源史		2
計	28	10

<履修方法>

- 1 司書の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位のほかに、次に定めるところにより、32単位以上を修得しなければならない。
- 2 必修科目14科目28単位および選択科目を2科目4単位以上修得しなければならない。

別表(4)

博物館学課程科目及びその単位数  
(文芸学部)

授業科目	必修	選択	自由
生涯学習概論	2		
博物館概論	2		
博物館経営論	2		
博物館資料論	2		
博物館資料保存論	2		
博物館展示論	2		
博物館実習A	1		
博物館実習B	2		
博物館情報・メディア論	2		
博物館教育論	2		
書誌学1		2	
書誌学2		2	
日本美術史A		2	
日本美術史B		2	
西洋美術史A		2	
西洋美術史B		2	
工芸史A		2	
工芸史B		2	
絵画論		2	
立体造形論		2	
陶芸論		2	
染織論		2	

日本美術史特論 A		2	
日本美術史特論 B		2	
西洋美術史特論 A		2	
西洋美術史特論 B		2	
日本史概説 A		2	
日本史概説 B		2	
文化資源学概説 A		2	
文化資源学概説 B		2	
歴史考古学 A		2	
歴史考古学 B		2	
日本古代史 A		2	
日本古代史 B		2	
日本近世史 A		2	
日本近世史 B		2	
日本近現代史 A		2	
日本近現代史 B		2	
日本思想史 A		2	
日本思想史 B		2	
日本民俗学		2	
環境民俗論		2	
日本考古学 A		2	
日本考古学 B		2	
近畿歴史文化探索		2	
西洋芸術文化史 A		2	
西洋芸術文化史 B		2	
日本芸術文化史 A		2	
日本芸術文化史 B		2	
デザイン感覚基礎 A		2	
デザイン感覚基礎 B		2	
デザイン史 A		2	
デザイン史 B		2	
アートコミュニケーション論 A		2	
アートコミュニケーション論 B		2	
プロデューサー論 A		2	
プロデューサー論 B		2	
空間デザイン論		2	
視覚デザイン論		2	
視覚文化論		2	
近畿風土論		2	
文化政策論		2	
劇場文化論		2	
世界の文化遺産 A		2	
世界の文化遺産 B		2	

<履修方法>

必修科目10科目19単位と、選択必修科目55科目から4科目8単位以上を修得しなければならない。

(農学部)

学科・学部	授業科目	単位数	履修条件
-------	------	-----	------

		必修	選択	
学部共通	生涯学習概論	2		9科目 19単位必修
	博物館概論	2		
	博物館経営論	2		
	博物館資料論	2		
	博物館資料保存論	2		
	博物館展示論	2		
	博物館実習	3		
	博物館情報・メディア論	2		
	博物館教育論	2		
農業生産科学科	環境植物学		2	計8科目 16単位より4科目 8単位以上を修得
	昆虫学		2	
	植物病理学		2	
	遺伝学		2	
	工芸作物学		2	
	園芸植物学		2	
	昆虫生態学		2	
	雑草管理学		2	
水産学科	魚類生態学		2	計8科目 16単位より4科目 8単位以上を修得
	海水養殖学		2	
	水産海洋学		2	
	介類増殖学		2	
	水質学		2	
	生態系科学基礎		2	
	化学		2	
	水産経済学		2	
応用生命化学科	微生物学		2	計8科目 16単位より4科目 8単位以上を修得
	生物学		2	
	生物化学		2	
	生態系科学基礎		2	
	分子生物学		2	
	天然物化学		2	
	生命有機化学		2	
	森林資源科学		2	
環境管理学科	河川生態学		2	計8科目 16単位より4科目 8単位以上を修得
	水圏動物学		2	
	野生動物保護論		2	
	動物生態学		2	
	里山生態学		2	
	生物多様性の科学		2	
	植物生態学		2	
	環境政策学		2	
生物機能科学科	生物学基礎		2	計8科目 16単位より4科目 8単位以上を修得
	化学基礎		2	
	発生生物学		2	
	分子生物学		2	
	微生物学		2	
	環境生物学		2	
	有機反応化学		2	

## &lt;履修方法&gt;

必修科目 9 科目 19 単位と、各学科の選択科目 8 科目 16 単位から 4 科目 8 単位以上を修得しなければならない。

## 別表(5)

日本語教員養成課程  
(文芸学部)

授業科目	必修	選択	自由
日本語教授法基礎 1	2		
日本語教授法基礎 2	2		
日本語教授法 1	2		
日本語教授法 2	2		
日本語教授法 3	2		
日本語教授法 4	2		
日本語学概論		2	
日本語文法		2	
言語学 1		2	
言語学 2		2	
日本語特殊講義 1		2	
日本語特殊講義 2		2	
日本語史論 1		2	
日本語史論 2		2	
English Linguistics A		2	
English Linguistics B		2	
Global Issues and Literature A		2	
Global Issues and Literature B		2	
Comparative Literature A		2	
Comparative Literature B		2	
Culture and Literature A		2	
Culture and Literature B		2	
日本史概説 A		2	
日本史概説 B		2	
日本古代史 A		2	
日本古代史 B		2	
現代学入門 A		2	
現代学入門 B		2	
言語文化セミナー初級		2	
言語文化セミナー A		2	
言語文化セミナー B		2	
伝統芸能作品研究 A		2	
伝統芸能作品研究 B		2	
心理と行動		2	
地域と環境の地理学		2	
国際経済入門		2	
国際社会と日本		2	
国際化と異文化理解		2	
日本文学論		2	

## &lt;履修方法&gt;

必修科目12単位と選択必修科目から14単位以上、合計26単位以上履修すること。  
(国際学部)

授業科目	必修	選択	自由
日本近現代史	2		
日本語の技法	2		
異文化理解	2		
日本語教授法 1	2		
日本語教授法 2	2		
日本語教育基礎実習	2		
日本語学	2		

<履修方法>

必修科目14単位、すべて履修すること。

別表(6)

削除

別表(7) 学費表

(単位 円)

学部	費目	◎入学金	授業料	課外活動 育成費	合計	入学検定 料		
法学部		250,000	1年次	1,085,000	20,000	1年次	1,355,000	35,000
			2年次	1,105,000		2年次	1,125,000	
			3年次	1,125,000		3年次	1,145,000	
			4年次	1,145,000		4年次	1,165,000	
経済学部 経済学科		250,000	1年次	1,085,000	20,000	1年次	1,355,000	35,000
			2年次	1,105,000		2年次	1,125,000	
			3年次	1,125,000		3年次	1,145,000	
			4年次	1,145,000		4年次	1,165,000	
経済学部 国際経済学 科 総合経済政 策学科		250,000	1年次	1,085,000	20,000	1年次	1,355,000	35,000
			2年次	1,105,000		2年次	1,125,000	
			3年次	1,125,000		3年次	1,145,000	
			4年次	1,145,000		4年次	1,165,000	
経営学部		250,000	1年次	1,085,000	20,000	1年次	1,355,000	35,000
			2年次	1,105,000		2年次	1,125,000	
			3年次	1,125,000		3年次	1,145,000	
			4年次	1,145,000		4年次	1,165,000	
理工学部		250,000	1年次	1,442,000	20,000	1年次	1,712,000	35,000
			2年次	1,472,000		2年次	1,492,000	
			3年次	1,502,000		3年次	1,522,000	
			4年次	1,532,000		4年次	1,552,000	
建築学部		250,000	1年次	1,442,000	20,000	1年次	1,712,000	35,000
			2年次	1,472,000		2年次	1,492,000	
			3年次	1,502,000		3年次	1,522,000	
			4年次	1,532,000		4年次	1,552,000	
薬学部 医療薬学科		250,000	1年次	2,032,000	20,000	1年次	2,302,000	35,000
			2年次	2,062,000		2年次	2,082,000	
			3年次	2,092,000		3年次	2,112,000	
			4年次	2,122,000		4年次	2,142,000	

		5年次	2,152,000		5年次	2,172,000	
		6年次	2,182,000		6年次	2,202,000	
薬学部 創薬科学科	250,000	1年次	1,442,000	20,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,472,000		2年次	1,492,000	
		3年次	1,502,000		3年次	1,522,000	
		4年次	1,532,000		4年次	1,552,000	
文芸学部 文学科 文化・歴史 学科 文化デザイン 学科	250,000	1年次	1,085,000	20,000	1年次	1,355,000	35,000
		2年次	1,105,000		2年次	1,125,000	
		3年次	1,125,000		3年次	1,145,000	
		4年次	1,145,000		4年次	1,165,000	
文芸学部 芸術学科	250,000	1年次	1,442,000	20,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,472,000		2年次	1,492,000	
		3年次	1,502,000		3年次	1,522,000	
		4年次	1,532,000		4年次	1,552,000	
総合社会学部	250,000	1年次	1,085,000	20,000	1年次	1,355,000	35,000
		2年次	1,105,000		2年次	1,125,000	
		3年次	1,125,000		3年次	1,145,000	
		4年次	1,145,000		4年次	1,165,000	
国際学部	250,000	1年次	1,280,000	20,000	1年次	1,550,000	35,000
		2年次	1,280,000		2年次	1,300,000	
		3年次	1,300,000		3年次	1,320,000	
		4年次	1,300,000		4年次	1,320,000	
農学部	250,000	1年次	1,442,000	20,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,472,000		2年次	1,492,000	
		3年次	1,502,000		3年次	1,522,000	
		4年次	1,532,000		4年次	1,552,000	
生物理工学部	250,000	1年次	1,442,000	20,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,472,000		2年次	1,492,000	
		3年次	1,502,000		3年次	1,522,000	
		4年次	1,532,000		4年次	1,552,000	
工学部	250,000	1年次	1,378,000	20,000	1年次	1,648,000	35,000
		2年次	1,408,000		2年次	1,428,000	
		3年次	1,438,000		3年次	1,458,000	
		4年次	1,468,000		4年次	1,488,000	
産業理工学部 生物環境化 学科 電気電子工 学科 建築・デザ イン学科 情報学科	250,000	1年次	1,244,000	20,000	1年次	1,514,000	32,000
		2年次	1,274,000		2年次	1,294,000	
		3年次	1,304,000		3年次	1,324,000	
		4年次	1,334,000		4年次	1,354,000	
産業理工学部 経営ビジネ ス学科	250,000	1年次	869,000	20,000	1年次	1,139,000	32,000
		2年次	899,000		2年次	919,000	
		3年次	929,000		3年次	949,000	
		4年次	959,000		4年次	979,000	

C方式入学検定料：20,000  
 P C方式入学検定料：+10,000  
 併願検定料（1志願）：+10,000

学部	費目 ◎入学金	授業料	教育充実費	施設設備 費	実験実 習費	合計	入学検 定料
医学部	1,000,000	4,100,000	1,000,000	400,000	300,000	1年次 6,800,000 2年次 5,800,000 以降	60,000

C方式入学検定料：30,000

備考1 ◎印は入学年度のみ納入するものを示す。

- 上記以外に、学生健保共済会費、学部学生部会費及び校友会終身会費が必要。（ただし、校友会終身会費は既に全額を納めた者は不要。）
- 入学検定料について、インターネット出願を利用した場合は1志願ごとに3,000円を減額する。ただし、C方式のインターネット出願で医学部を含まない場合は、2志願まで20,000円とし、3志願目からは1志願ごとに3,000円を減額する。また、C方式のインターネット出願で医学部を含む場合は、2志願まで30,000円とし、3志願目からは1志願ごとに3,000円を減額する。
- 留学期間中（1年次後期～2年次前期）の本学の学費等は免除とするが、留学費用に係る提携先大学等の授業料等については別途徴収する。

## 別記(1)

### 近畿大学教育方針

(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)

本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育理念」は、知識基盤社会へ転換しようとする21世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であると自負します。

本学が、総合大学として各学部の特色を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけではなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実に立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を発揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような学生を社会に送り出すことが、これからの時代に、本学が目指す社会的使命であります。

### アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

本学の「建学の精神」と「教育理念」に共感する入学者を国内外から広く受入れます。

- 本学が求める基礎学力と倫理観を備える人。
- 謙虚に学ぶ姿勢を有するとともに、自ら課題を発見し解決していく意欲にあふれる人。
- 「人に愛され、信頼され、尊敬される」前に、まず人を愛し、信頼し、尊敬することができる人。
- 社会のニーズに対応できる実学や教養及び国際性を身につけたい人。
- 自分の得意分野を伸ばし、社会に貢献したいと考える人。

### カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「共通教育科目」と「専門教

育科目」を2本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。

さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。

- 1 入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供します。
- 2 専門教育に携わっている教員が教養教育（共通教育科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。
- 3 「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進めます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性の育成に努めます。
- 4 さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するために、国際スタンダード教育への参加を進めます。
- 5 産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。
- 6 社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。
- 7 学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。
- 8 ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。

#### ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

- 1 大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
- 2 問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
- 3 専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
- 4 異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

#### 別記(2)

##### 近畿大学 学部・学科の教育・研究の目的について

#### 【近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」】

近畿大学学園の建学の精神は、「実学教育と人格の陶冶」です。この建学の精神を具体的に実践するために「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念に掲げています。

この建学精神と教育理念に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。

学生の皆さんには、上記の建学精神と教育理念を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。

#### 【法学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

法学部は、本学の建学の精神や教育目標を念頭に、法的思考力いわゆるリーガル・マインドの育成と涵養をその理念・目的としています。さらに、激動する社会の中で広い視野と豊かな（法的）思考により、積極的かつ柔軟に行動する能力を修得させることと、そのような能力を備えた21世紀を担う人材を育成することを教育目標としています。また、社会のニーズに添った人材を輩出することこそが実学教育の理念に基づく教育の到達目標であると考えており、そのため社会の変化に添った形で法学部の改革を続けております。

平成20年度からの改革として、法科大学院設置以後の法学部のあり方を検証し、新しいカリキュラムを導入します。その特徴は、従来どおりスペシャリストを育成する一方で、どんなことにも対応できる豊かで柔軟な教養をもったジェネラリストを育成することをベースにしたカリキュラムを組んでいることです。具体的には、就職・進路を意識した履修モデルをパッケージ化して設定し、出口を意識した教育を行います。その他、英語教育を充実させ、グローバルゼーションに対応できる人材の育成にも力を注いでいるところです。

#### 【法律学科の学習・教育目標】

法律学科の学習・教育目標は、上記のとおり法学部の理念に沿って、法学の基礎知識や思考方法を十分に習得した法学士を養成することです。従来の法学部教育は、法曹養成を目標とする一方で、法的素養をもったジェネラリストの養成をも目標とするものでしたが、この二つの目標を同時に追求したために、大多数の学生にとっては高度で専門的すぎる内容となっていました。しかし、法科大学院の設置に伴い法学部教育が法曹養成の役割から解放された今日においては、学部卒業後に法科大学院へ進学し法曹を目指す学生のニーズにも応えながら、各学生の多様な関心と興味に即応して、社会の広い分野で活用できる法学の基礎知識や思考方法を身につけてもらうことが学習・教育目標となります。

#### 【法律学科カリキュラム編成上の特色】

法律学科では、上記の学習・教育目標に到達するために、従来の法学部にはない、ユニークなカリキュラム編成を平成20年度から導入しています。

第1に、法学の主要科目（憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法）については、これまでの教育内容を一新し、従来は同一科目の中で行われていた教育内容を基礎と応用に分離しています。その上で、基礎的な内容は「基幹科目」として1年次から2年次に配置し、学生全員が法学の基礎知識や思考方法を理解して社会へ出られることを目指します。

第2に、法学の基礎知識や思考方法を1年次から十分に習得しながら、2年次から、4つの専攻プログラムのいずれかを選択して、これらの中でパッケージ化された「展開科目」を履修することで、学部卒業後の進路を考え、そこへ誘われることを目指しています。法律学科では、「犯罪・非行と法」（公務員、検察事務官、裁判所事務官、警察官を目指す学生向け）、「経済生活と法」（商社、メーカー、銀行、司法書士、企業法務を目指す学生向け）、「会計・税務と法」（金融、税理士、公認会計士、企業の会計業務を目指す学生向け）「まちづくりと法」（地方自治体、建設・不動産関連企業を目指す学生向け）という4つの専攻プログラムと「司法コース」（法曹を目指す学生向け）、「行政コース」（公務員行政職を目指す学生向け）、「国際コース」（国際社会での活動を目指す学生向け）の3つのコースを設けることにより、低学年から将来の進路を考える機会が与えられ、専攻プログラム中の「展開科目」の履修を通じて、学生が自らの目指す進路へ誘います。

第3に、法学の基礎を習得した学生で、さらに深い法学の学習、研究を希望する学生のために、法学の主要科目（憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法）については、「発展科目」を配置しています。

第4に、少人数教育が挙げられます。1年次前期に基礎ゼミ、1年次後期にキャリアデザイン1、2年次前後期に一般演習、3年次から4年次にかけて専門演習を配置し、4年間を通して、演習授業を通して、各学生が教員と身近に接することのできる環境で、自ら学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶための知識と知恵とを習得することができる体制を整えています。

#### 【その他の特色】

専攻プログラムに関連する展開科目はいずれも講義科目ですが、これらをより深く研究したい、あるいは様々な紛争や社会問題などへの応用を考え解決を図りたいという学生のため

に、知的財産法や英米法、国際私法、法制史など幅広い分野にわたって、専門演習を置いて、学生が主体的で自律的に学ぶ場を用意しています。

#### 【経済学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

経済学はその生誕以来、常に専門化・総合化・グローバル化の視点から研究を目指してきましたが、その傾向は最近ますます強まっています。本学部は経済学科、国際経済学科、総合経済政策学科の3学科体制をとり、こうした時代の要請に対応しています。経済学科では複雑多岐な経済問題の解明とその対応策の専門的な研究を理論・実証の両面から探求していますし、経済の国際化と多面的に政策問題を研究するという意味での総合化には国際経済学科と総合経済政策学科においてそれぞれ特化されています。これらの3学科のいずれにも一貫して流れる教育目標は、高い専門性と時代の要請に応える問題発見とその解決能力の修得にあります。

そのために本学部では特に1～2年次で英語をはじめとする外国語教育とIT教育が徹底的になされ、社会が必要とする実践的な技術を高めます。その上に経済学の専門性と総合性を両立させるように志向された特色のあるカリキュラムが実施され、将来を見据えた生きた経済学を学べます。

本学部の専門科目は、高度な研究水準にある教員スタッフを迎え、各学年に魅力的に配置されています。とくに1～2年で統計学、経済学入門、経済統計学、ミクロ経済学、マクロ経済学などが学科共通の専門基礎科目として開講され、経済学的な分析手法に慣れ、2～4年次で学生各自が分野を選択し、その分野に属する科目を中心に経済学をより系統的・専門的に学んでいきます。入学して4年後には情報処理の技術（IT）に精通し、英語も話せ、かつ経済学の専門知識と分析能力に長じた経済学士が誕生します。この経済学士こそ本学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」の具体的な姿であり、必ず実社会で役に立つ人材になるはずで

#### 【経済学科の学習・教育目標】

激しく推移する昨今の経済状況に対して、本学科に用意された経済学のメインストリートと言うべき諸科目を学ぶことで現状を正確に把握して、広い視野で将来を明確に見通せる分析能力を養い、公共部門やビジネスの第一線で活躍できる経済人を育成します。

経済学部のどの学科でも共通しますが、経済学をより系統的・専門的に学ぶために分野制がとられています。本学科では経済学の理解を深めるために、まず学部共通科目を1年次で履修して、2年次から自分の目指す進路に合わせて科目を選択し、段階的に専門性を高められるように配慮されています。具体的には経済学を「理論・計量分野」、「財政・金融分野」、「産業・情報分野」、「歴史・社会分野」にわけ、2年次から学生がより深くこの学問に接近できるようになっています。

#### 【経済学科のカリキュラム編成上の特色】

本学科の学生はミクロ経済学、マクロ経済学、経済史、経済政策論などの本学科専門基礎科目の修得と並行して、選択した分野に従って科目を履修します。現実の経済動向を理論と計量の両面から分析する「理論・計量分野」は経済統計学、計量経済学、数理経済学、経済変動論などの科目でカリキュラムが編成されています。財政制度や金融制度の仕組みと資本主義経済の関わりに取り組む「財政・金融分野」では、財政学、地方財政学、金融論、公共政策論、財政政策論などの科目が学べます。日本の産業が抱える諸問題に接近し、その解決策を考え、また情報社会の動向や問題点に注視する「産業・情報分野」では現代産業論、産業構造論、情報システム論、知的財産論、労働経済論などの科目が選択できます。経済社会の歴史的展開を学び、それをもとにして現代社会がもつ諸問題を追求する「歴史・社会分野」では日本経済史、西洋経済史、アジア経済史、西洋経済思想史、コミュニケーション論、経済社会学などの科目が提供されています。他方、選択した分野以外の他分野の科目も卒業に必要な単位のなかに組み込まれていますから、より総合的に経済学を把握できるようなカリキュラム編成になっています。

#### 【その他の特色】

本学科の教育方針は経済学のメインストリートを歩むことであり、メインストリートに並

ぶ経済学の諸科目の基礎を積み上げることにより、複雑に多岐に展開される経済社会の実態に容易に対応できる能力を育成することが常に心掛けられています。

#### 【総合経済政策学科の学習・教育目標】

総合経済政策学科では、「公共政策分野」と「企業戦略分野」に分かれ、現代社会が抱える環境、福祉、過疎・過密などの公共的な経済問題や、資金調達、生産、投資などの民間企業の意味決定の問題を、現実に対応して鋭く分析し、社会や組織に役立つ政策提言を行う能力を養います。こうした公共部門や民間部門が抱く課題を見出し、具体的に解決策を考える場合には、経済学の理論的枠組みや実証分析などの研究蓄積をしなければなりません。1～2年次で基礎的な経済学の科目を修得したあとに、総合経済政策にまつわる幅広い応用問題を考えるために、多様な専門分野の講義が現実即して展開されます。このような学問的興味を満たす専門科目の受講をとおして現実の公共的政策や民間部門の施策に提言するだけではなく、それらの有効性を評価しその問題点をあぶり出し、必要な対応策を新たに思考する訓練を行うのも本学科の大きな教育目標です。特に、種々の現場を体験する本学科固有のフィールドワークの科目は教室で習得した総合経済政策の知識をもとに、現実的な問題を分析し、その評価や対応策を思索する絶好の機会であります。

#### 【総合経済政策学科のカリキュラム編成上の特色】

2年次から経済制度に関する予備知識を得るために、財政学、金融論、公共経済学、産業組織論、社会保障論、簿記論などの総合経済政策の基礎になる分野を学科共通科目として学習します。本学科では2分野制をとり、公共政策について関心のある学生は、社会政策論、福祉政策論、産業政策論、地方財政学、地域経済論などの政策に関連した科目を学ぶことが可能です。他方、企業やNPOの意味決定に興味を示す学生は、経営科学、企業金融論、デリバティブ論、中小企業論、IT関連科目などを学ぶことができます。さらに経済学の範囲を超えて、法律や会計関連の科目も用意されています。

#### 【その他の特色】

本学科の学習・教育目標を達成するために、多くの科目で経済学部他学科と比較して、より少人数で講義が行われていることが大きな特色です。少人数の講義は教員と学生の距離が自然と近くなり、両者間のコミュニケーションが円滑になりますので、この上もない良好な教育環境が作り出されます。

#### 【国際経済学科の学習・教育目標】

国際経済学科は経済のグローバル化が著しく進んでいくなか、国際経済や海外事情に精通し、国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。本学科では「国際産業・金融分野」と「国際地域経済」の2分野制をとり、前者はヒト、モノ、カネが国境を越えて移動、又は取引されている現実について理論と実践の面から学び、後者は日本とのかかわりの深い地域の経済実態や日系企業の進出状況、地域統合の状況などを学習します。1～2年次にしっかりと修得した英語及び情報処理能力を十分に生かして、国際経済理論、貿易理論、外国投資論、国際金融論等の知識を身につけ、アジアや欧米の地域事情にも通じた語学能力の高いかつ意欲的な人材の輩出を目標にしています。

#### 【国際経済学科のカリキュラム編成上の特色】

1～2年次で経済理論、統計学、国際経済学を学習し、それらを基礎にして3～4年次ではより高度の理論系あるいは政策系科目や応用系経済学を学びます。2年次に経済理論、国際経済学、貿易論、開発経済論などの国際経済学科共通科目が開かれ、また分野科目も入ってきて、履修すべき科目は多様でより専門的になってきます。「国際産業・金融分野」では国際投資論、国際金融論、多国籍企業論、開発経済論などの科目が、「国際地域経済分野」では世界経済論、ヨーロッパ経済論、アジア経済論、地域統合論、国際協力論などの科目が提供されます。ただし、2つの分野にまたがって開講されている科目も多くあり、弾力的に受講できます。日本語以外の言語によるコミュニケーション能力は国際化の時代に不可欠であるため、国際経済学科では英会話や中国語会話の科目をⅠからⅧまで用意し、学生各自の水準に合わせて外国語が習得できるようになっています。

#### 【その他の特色】

なるべく早いうちに外国を体験し、異文化に触れることをとおして国際経済学の問題意識

が高められるように、1年次には海外体験プログラムが組まれています。

#### 【経営学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

経営学部は、企業や非営利組織体の運営と相互交渉が行われるビジネスの場における「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」を総合的に扱う複合学部として、所属する学科・コースを超えて関心を寄せる授業科目を履修することを認めるとともに、他方、授業科目を基礎科目、情報科目、基幹科目、関連科目に細分することで、専門知識の習得に必要な科目を段階的かつ発展的に履修するという教育体制を採っています。また、教授内容に関しては、単なる座学に止まず、「学問・実際一如」という実学教育の理念を実践するために、企業等の現場で実績を挙げた方々を専任教員や非常勤講師等として招き、実践的な視座からの講義を行っています。また、企業人による「ビジネス最前線」と題する講演会を随時開催し、さらに、企業活動を自ら体験するためのインターンシップ制度を設けて、理論と実践の融合を図っています。さらに、ビジネス・エシックスに関連する授業科目を設置して、高い倫理観をもった人材の育成に努め、また、昼夜開講制を採ることで、月～土曜日の1時限から7時限までの授業を自由に履修できるようにして、多くの学習機会を提供するように配慮しています。

#### 【経営学科の学習・教育目標】

経営学科では、企業や非営利組織体の組織運営に関わる学科として、企業や非営利組織体の組織運営に関連して生じる種々の課題を合理的に解決して、望ましい成果を効率的に得るための実践的知識を有し、他方で、それらの知識が依拠する理論的基盤に存する原理・原則を体系的に整序して、理解することを目指す「学問・実際一如」を体現した人材の育成を目標としています。

#### 【経営学科のカリキュラム編成上の特色】

本学科に「企業経営コース」、「ITビジネスコース」、「スポーツ・マネジメントコース」の3コースを設置し、各コースに共通する授業科目を基礎科目、情報科目、関連科目に区分し、段階的かつ総合的な履修を図ると共に、それぞれのコース毎に各コースの特色に応じた授業科目を基幹科目として配置しています。

#### 【その他の特色】

企業経営コースでは、経営戦略の立案や経営管理に係る知識を現実的なものとするために事例研究の手法を取り入れ、ITビジネスコースでは、経営学部棟内に設置されている経営情報処理ステーション(MIPS)の最新の機器・ソフトを利用してバーチャル企業を設立して、これを経営する手法をマスターするなどの情報処理の高度なスキルを修得し、スポーツ・マネジメントコースでは、スポーツビジネスのリーダーやアマチュアスポーツの指導者を育成する指導が行われています。

#### 【商学科の学習・教育目標】

商学科では、企業や非営利組織体の相互間の、また、消費者との間の俗に「モノ」、「カネ」、「情報」と言われる財・サービスの空間的、時間的移転に関する理論と実践を学びます。

#### 【商学科のカリキュラム編成上の特色】

商学科では、(1)マーケティング戦略コース (2)観光・サービスコース (3)貿易・ファイナンスコースの3つのコースを設けています。1-2学年においては、3つのコースに共通し学習することが望ましい知識と、それぞれのコースの全体像が把握でき、かつ基礎理論を学べるプログラムを基幹科目として設定しています。3学年から、3つのコースに分かれてより専門的な学習プログラムを提供します。

- (1) マーケティング戦略コースは、マーケティング戦略の理論と理論を使える能力を身に付けます。そのために、マーケティング発想によるプランニング能力、マネジメント能力を育成します。
- (2) 観光・サービスコースは、観光分野、サービス分野の理論と実践で使える能力を身に付けます。そのため、ビジネス状況を理解しつつ、戦略的かつ実践的なプランニング能力、マネジメント能力を育成します。

(3) 貿易・ファイナンスコースは、貿易とファイナンスの基礎知識、専門知識、及び実務で使える能力を身に付けます。貿易及びファイナンスに必要な実践的なマネジメント能力を育成します。

**【その他の特色】**

国際ビジネスコースでは、特に外国語による会話力や国際感覚の修得を促すために、ネイティブの教員による指導を行い、また、認定留学制度を設けています。

**【会計学科の学習・教育目標】**

会計学科では、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフローの状況を示す財務諸表を作成し、その内容を分析して、より良い経営の方向性を見出す企業会計の理論と技法を学習し、公認会計士、税理士などの職業会計人や、社内における会計参与や会計エキスパート等として、あるいは会計・財務に関するコンサルタントとして活躍できる人材の育成を目指しています。

**【会計学科のカリキュラム編成上の特色】**

上記のような人材を育成するために、本学科では、簿記、財務会計、管理会計、監査に関する基礎知識を徹底的に教育する体制を採っています。さらに、こうした専門知識の修得のみならず、会計職業倫理に関する科目を設けて、高い倫理観を兼ね備えた会計人を育成するようにカリキュラムを編成しています。

**【その他の特色】**

学習の便宜を図るために、会計学科学生のための学習相談室を設け、教員による指導を絶えず受けられるようにしています。

**【キャリア・マネジメント学科の学習・教育目標】**

キャリア・マネジメント学科では、企業組織におけるキャリアと、組織で働く個人のキャリアの2つの視点から考察し、適切なキャリアパスを見出すことで、個人の能力を最大に引き出し、経営力を高めるための理論と実践を学びます。

**【キャリア・マネジメント学科のカリキュラム編成上の特色】**

インターンシップ制度を積極的に推進し、「仕事とは何か」、「ビジネスとは何か」を現場で直接に学ぶことで、実務経験を積む機会を多く提供しています。

**【理工学部 of 教育研究の理念と目的、育成する人材像】**

理工学部では、「学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標にしています。

様々な角度から物事をみることができたり、自主的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を有する人材を育てるという教育の理念・目標の実現のため、一年次に創成科目として「基礎ゼミ」を設け、これには学科の全教員が教育に当たり、自ら学ぶ動機付けを与えると共に、自律的に考え、課題を探求し、解決するための基礎となる素養を身につけてもらいます。

今、大学教育では教室における授業だけではなく、授業の前提として読んでおくべき文献の提示や宿題を課すなど学生諸君が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えるとともに、学生と教員との対話型授業（学生参加型授業）が求められています。そこで、理工学部では、教員からの一方通行の講義ではなくて、学生に問題を与え、学生が自ら調べ、考えたことを報告させ、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業を推進しています。

理工学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

- 1 教員は学生と真剣に向き合い、学生参加型授業を推進し、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業の実践に努力する。
- 2 卒業時における学生の質を保証し、就職などの出口での成果の向上を一層図ると共に教員による出口支援を強化する。
- 3 国際的資格である J A B E E 認定を受けている工学系の 6 学科では J A B E E プログラムを積極的、かつ継続的に遂行し、世界に通用する人材を育成する。

- 理工学部の教員養成カリキュラムを一層強化し、毎年50名以上の教員採用試験合格者を目指す。
- 理工学部内に競争的環境を創出し、「知の創造」と「役に立つ」といういずれかの尺度で見て、国内外に大きなインパクトを与える研究成果を発信する。
- 以上の到達目標の実現に努力し、社会で大いに活躍できる有能な人材を育成し、理工学部のブランド力の一層の向上を図る。

#### 【理学科の学習・教育目標】

理学とは？

数学、物理、化学は、数とは何か？宇宙とは何か？物質とは何か？を追求することから出発して人間と自然との関わりを保ちながら、原子、分子のミクロな世界から宇宙のようなマクロな世界までを支配する自然法則を見出そうとしている基礎学問であります。現在においてもこの探求は休むことなく続けられています。数学、物理、化学は独立した学問ではなく、互いに密接な関係を保っています。そして、電気、機械、土木などの工学を育んできただけでなく、現在では生命科学、環境科学などの最先端技術にも広く応用されています。現在のめまぐるしく移り変わる社会環境では、技術、知識を習得することも大事ですが、絶え間なく発展する先端技術、方法を受け入れる柔軟な頭脳を養うことと、より発展させる発想力と創造力を身につけることがより重要です。このような柔軟な頭脳、創造力を育てるためには数学、物理、化学で養われてきた物の見方、考え方を学ぶことが大変役に立ちます。

#### 【理学科の教育理念と目標】

理学教育の総合的、有機的な連携を図るため、理学科は数学、物理学、化学の3コースから構成されています。理学科では学問を単なる知識として教えるのではなく、自然科学に対するより深い興味、喜びを引き出し、学生が自主的に学ぶ習慣を養います。学生が試行錯誤しながら自律的に考えることによって、発想力や創造力を豊かにし、その結果、社会に貢献できる、広い視野を持つ、応用力が効く、柔軟な頭脳をもつ学生を養成します。

理学科カリキュラム編成上の特色

理学科では、数学、物理、化学という専門教育だけでなく、自然科学の幅広い知識や他の分野での物の見方を学ばせるため、3コースが有機的に連携しながら教育を進めています。さらに、理学科では教員志望の学生が多く、数学と理科の2種類の教員免許の取得を希望する学生も多数おります。

このため、理学科のカリキュラム編成として、

- 他コースの科目を習得した場合、卒業単位の選択科目として30単位まで認定する。
- 「教職指定科目」を最大で20単位まで専門科目の選択科目として認定する。

#### 【その他の特色】

- 技術者、研究者を育てる大学院との連携した教育

科学技術の高度化が進む中で、より高いレベルの技術者や研究者が望まれています。また、高校教員にもより質の高い理科教育が望まれています。現在理学科では約3分の1弱の学部生が大学院へ進学し、卒業研究では大学院生と学部生が連携して研究を行っています。また大学院生はTAとして学部の授業にも携わっています。

- 理数考房

理数教員志望学生の資質を向上させるため、理学科には数学・算数考房、理科考房、物理実験考房、化学実験考房、パソコン考房の五つのサークルが設置されています。各考房では学生が授業方法や実験方法などについて自主的に考え、工夫し、実践します。この一環として、年に数回の出前授業を行っています。

- 教員試験受験対策講座

教員採用試験の受験を支援するため、理学科教員が中心となって受験対策講座を開設しています。講座の目的としては数学、理科、技術教員を目指す学生に受験勉強のきっかけを作ることにあります。1次、2次試験対策講座だけでなく、特に理科教員を目指す学生に対して、中高生への実験指導教育を行っています。

- 保護者懇談会

保護者の方々に理学科の教育理念を理解していただくとともに、学生への細やかな指導

を行うために保護者の方々と教員とのコミュニケーション活動を毎年行っています。

#### 【数学コースの学習・教育目標】

「数学に夢を持ち、自らの力を信じて挑戦する人間の育成」

この教育目標の実現に向けて、数学コースでは学生に達成感を持たせることを第一に考えた教育課程を組み立てています。個々人の達成感を原動力に、より高度な数学的思考方法、知識、論理的思考力を身につけてもらい、プレゼンテーション技術の向上と訓練とを合わせて、学生一人一人が人生を自ら切り開くことのできる能力を、数学を基盤として獲得できる教育が目標です。論理的思考力はコンピューターのオペレーティングシステム（OS）にたとえられます。どんな優れた計算機とソフトウェアがあっても、優れたOSがなければ実用には適さず、優れたOSである論理的思考力の鍛錬に重点を置いた教育こそが数学コースの教育目標の根幹をなすものです。

#### 【数学コースカリキュラム編成上の特色】

- 1 「数学講究(1)～(8)」において、現代数学の基礎をなす微分積分学・線形代数学・集合論・群論などの基本を復習し、講義では扱いきれなかった内容も補足できるよう多角的に学びます。
- 2 1年次の数学講究と3年次の数学講究をリンクさせて、複数の教員の指導により、3年生が1年生の演習を補佐することにより、教育実習を想定した教育実践の場と加えて数学の内容の理解を深める講義を同時に修得する機会としています。
- 3 4年次の科目として、現代数学の講義を8科目開講しています。ここでは、幾何、代数、解析、応用数学の世界最先端の数学の研究についてのトピックを、その道の専門家である教員によってより専門的な講義を行っています。

#### 【その他の特色】

毎年開催される近畿大学数学コンテストにより、学内・学外の数学好きの老若男女と数学を通して広く交流する場、数学を楽しむ場を提供しています。

#### 【物理学コースの学習・教育目標】

「物理学全般を教育することによって、科学的な物の見方、考え方を育てる。」

物理は数学と同じく、順序立てて考える技術（論理的思考）を養う学問です。したがって、物理現象あるいは自然現象を理解するには数学の知識が不可欠であるため、物理学コースでは物理数学教育の充実を図っています。低学年の物理実験教育では、実験内容をより深く理解させるため、講義と密接に連携した物理学実験を行います。これによって、自分なりの自然現象、科学についての考え方を持たせ、“自分自身の物理的センスあるいは自然観”を身に付けさせます。卒業研究ゼミナール、卒業研究では具体的な研究を通して各学生の物理的自然観を集大成させます。

#### 【物理学コースのカリキュラム編成上の特色】

- 1 力学、電磁気、熱統計力学、量子力学は物理学の基幹科目であるため、講義だけでなく、解法（演習）を設けています。
- 2 低学年から、最先端の物理の魅力に触れさせるため、複数の教員が担当する「物理学最前線」の講義を1年次で開講しています。それぞれの教員が各自の研究分野の魅力や最新の動向などについて、1年生にも分かりやすく講義します。
- 3 一方、4年生の科目として、現代物理学の講義を5科目開講しています。ここでは、物性から宇宙までの最先端の物理学について、より具体的な講義を行っています。

#### 【その他の特色】

物理学コースで実施している特色ある教育プログラム

##### 1 「基礎物理学実験Ⅰ及びⅡ」

教育効果が上がるように、数名の教員が小人数の学生グループに対して丁寧に実験技術と物理学の内容を指導しています。学生が自ら物理現象に興味をもち、実際の装置・器具でどのようにすれば実験がうまくでき、どのような問題点があるか、装置・方法に改善すべき点や改良の可能性があるかなどを考えさせるような実験テーマ、指導を行っています。実験（測定）器具の扱い方やレポートの書き方等、実験を通じて理解させるのではなく、それらを一つ一つのテーマにしてしっかりと教育しています。実験も自分達で測定器具を製作して行う

ことにしています。

## 2 充実したセミナー形式における双方向教育

低学年では総合セミナーとして少人数教育を行い、発想力、創造力を養います。中高学年ではより専門性の高い、あるいは先端の研究を題材にした物理講究を通して少人数教育を行います。

## 3 物理学学習支援室

高校で物理を履修してこなかった学生、入試科目で物理を選択しなかった学生、また大学での物理の講義が分らない学生など、高校で物理学を苦手科目と意識してしまった学生にとっては、授業だけでこの苦手意識を払拭させることは困難になっています。このような現状を少しでも改善するため、理工学部学生の基礎学力の向上を目指すだけでなく科学への興味を抱かせるため、物理学コースでは、物理学学習支援室を開設しています。

### 【理学科化学コースの学習・教育目標】

化学コースでは、物質世界を解明する中心的なサイエンスとして「化学」を位置付け、自然の真理に化学の視点から迫るべく、生命化学、環境科学、新物質の創製などの新しい領域へのアプローチを展開しています。化学の基礎知識やその基本原理を学ぶことでサイエンスの論理性に感動し、自然との調和を目指した技術者、理科系教員、研究者の養成が目的です。また、生命、環境に対する問題意識を持ち、国内外で活躍できる化学の知識及び倫理観を持った人材の育成を目指しています。

### 【理学科化学コースのカリキュラム編成上の特色】

化学コースでは、できるだけ早く化学に親しんでもらうため1年次から多くの専門科目を学び、理論を通して理学的な考え方を身に付けるとともに、実験を通して物質の合成、反応、分析、構造決定や物性測定などを修得します。したがって基礎学力を養う科目だけでなく演習科目も重視したカリキュラムとなっており、応用にも十分な力を発揮できるようバランスのとれた人材の育成に配慮しています。1年次開講の「基礎ゼミ1、2」は少人数で行なう対話型授業であり、討議能力やプレゼンテーション能力ばかりでなく、相互評価により聞く力も養えます。

また、数学、物理、化学という専門教育だけでなく、自然科学の幅広い知識や他分野の物の見方を学ばせるため、数学コース及び物理コースと有機的に連携しながら教育を進めています。

### 【生命科学科の学習・教育目標】

2003年、ヒトゲノムの解読が終了し、遺伝子診断・遺伝子治療・ゲノム創薬などが身近になりつつあります。「環境保全を考慮しながら人類の福祉に貢献できる生命科学やゲノム科学の探求に取り組む学科」として、近畿大学理工学部では2002年に生命科学科を誕生させました。生命科学に関する幅広い基礎知識と実践力を身に付け、医療・薬品・食品・化学などの産業で活躍する人材の育成を目指しております。そのため、バイオサイエンス科目を中心に医学・薬学関連科目を充実させています。発生・老化・病気の謎を解き明かすための基盤となる研究を推進し、再生医療や遺伝子診断などの人類のために役立つ最新知識を習得し、それらの分野を総合的に捉えることのできるポテンシャルの高い人材を育成します。深刻化する食糧・エネルギー・環境問題の解決に向け、実験・実習を通してバイオテクノロジーの応用が実感できます。また、総合大学の利点を活かして医学部・薬学部とも連携を取りながら、研究と教育を行っています。

本学には生命科学の教育・研究を目的とする生物理工学部及び農学部が存在しますが、本部キャンパスにある生命科学科の特徴は、「人」を中心に置き、人に役立つ科学・人バイオテクノロジーの研究と教育を目指していることです。

### 【生命科学科のカリキュラム編成上の特色】

生命科学は広い領域の叢智を結集し、人の幸福のために健全に発展する必要があります。一方で生命科学科が求められる方向性は多岐にわたります。そのニーズに応えるため、生命科学科ではゲノムの環境から生命倫理まで幅広く総合的に学ぶことができます。基礎と応用を有機的に結合したカリキュラムが作成されております。具体的には、講義科目と実験・実習科目を連携させ、基礎的な化学実験、物理学実験と専門分野の環境科学実験、分子生物学

実験、細胞生物学実験を第1～3学年に設置しています。卒業研究は学科の総力を挙げ、教員と学生が一体となって取り組んでおり、科学的分析や考察を実践的に修得することができます。具体的には遺伝子系、機能分子系、細胞組織系、環境倫理系の4つのフィールドに分かれ、専門性を活かした高度な研究を進めています。

さらに、各種の資格取得に対応するため、高等学校教諭一種免許（理科）、中学校教諭一種免許（理科）、バイオ技術者、環境計量士、放射線取扱主任者、X線作業主任者、危険物取扱者、食品衛生管理者、食品衛生管理者などの資格認定あるいは受験資格を得ることを可能としております。

#### 【その他の特色】

生命科学科の高度先端技術、および高度教育システムは、時代の先端を担うJST（科学技術振興機構）の大型プロジェクトに採択されました。

- ・超高速バイオナノスコープの開発：プロジェクトリーダーである近畿大学理工学部社会環境学科の江藤剛治教授と共同し、世界最高速ビデオカメラ（1秒間に100万枚の撮影速度）をさらに高速化・高感度化することで、これまで未知であった生体の超高速現象の解明を行っています。

#### 【応用化学科の学習・教育目標】

応用化学科では、下記(1)～(8)の8項目の学習・教育目標を設定しています。

- 1 よく聞く者であれ、そして学び続ける者であれ。  
科学技術が地球環境の保護を前提とした人類全体の幸福をもたらす手段の一つであることを理解し、それに携わる技術者として社会に対し貢献する意欲と実行力を備えている。また、価値観の異なる他者の考えを理解できるだけの広い視野と柔軟な思考力を持つよう努力しながら、自らの問題解決能力を高めるための学習を、自主的かつ計画的に継続することができる。【柔軟性、自主性、継続性】
- 2 倫理は、技術者の免許証。  
科学技術、なかでも、化学工業が社会を便利で豊かなものにしてきたという事実とそれが社会及び自然環境の犠牲をともなってきたという事実を理解し、将来的に科学技術が社会に対して与える危険性を排除しつつ最大の利益を生むためのあり方について、考え続けることができる。【技術者倫理、社会性、自己啓発】
- 3 基礎学力なくして、進歩なし。  
数学、物理学、化学、化学工学系科目の基礎知識を身につけ、専門基礎科目の理解、実験及び演習課題の解決に対して統合的に活用することができる。【基礎学力、論理性】
- 4 基礎から応用、理論から実践へ、そして習得へ。  
専門基礎科目及び実験実習科目を通じて基礎的な専門知識及び基本的な実験技術を身につけており、これらの知識や技術を活かして、複雑な問題を解決する能力と実行力を備えている。【应用能力、実験技術】
- 5 デザイン能力は、エキスパートへの第一歩。  
物質の開発及び応用を扱う合成化学及び材料化学の分野における専門的知識を身につけている。他者との多くのディスカッションを通して、課題をさまざまな角度から眺め全体像を理解した上で、解決のための計画を構想できる。専門知識を駆使してその計画を遂行し、課題を解決できる。【専門的課題の解決能力、計画遂行能力、デザイン能力】
- 6 斬新な技術は、共同プロジェクトから。  
複数の分野が関連する境界領域における技術開発の重要性が高まっている現状を理解し、分野の異なる複数の技術者との共同作業を必要とする問題に直面した際に、問題提起からプロジェクトの企画・立案、遂行に至る一連のプロセスを実行できる能力と、全ての段階において、他のメンバーと協調しながらプロジェクトを遂行する能力を身につける。【協調性、デザイン能力】
- 7 国際性とコミュニケーション能力は、技術者のたしなみ。  
計画立案、実験、データのまとめ、得られた結果についてのグループディスカッション、成果の発表といった様々な場面において、問題並びに要点を明確に文章化し、ディスカッションし、プレゼンテーションすることができる。さらに、科学技術英語の読解、表

現法について、その基礎力を身につけており、諸外国の技術者との交流を行うことができる。【基本的文章力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、英語基礎能力】

8 情報処理能力は、技術者のかなめ。

文献情報データベースをはじめとする化学技術情報の収集、データ解析及びレポート作成ならびにプレゼンテーション資料作成等に、コンピューター利用技術及び情報処理技術を活用することができる。【情報リテラシー能力、情報処理能力】

【応用化学科のカリキュラム編成上の特色】

1 学生の自立・自発的学習を誘導する教育

学科教員と大学院生のティーチングシススタントによるきめ細かいサポート体制のもと、数人からなる学生グループでプロジェクトを組み、グループ内で自由に実験をデザインして課題解決を行うProject-Based Learning (PBL) を実施しています。

「基礎ゼミ1・2」（課題設定・問題解決科目）、「応用化学実験V、VI」（専門科目）、「卒業研究」（専門科目）など

2 技術者倫理教育の重視

現在、社会で最も重視されている技術者の倫理の問題に正面から向き合い、1年次から科学技術をめぐる諸問題への理解を深め、倫理観を身につけることができるよう科目を設けています。

「化学技術者倫理」（専門科目）、「技術と倫理」（人間性・社会性科目）

3 広い視野と柔軟な思考力を身につける

技術士、弁理士、企業関係者や他大学教員などによる集中講義形式で「応用化学セミナー」（専門科目）を開講しています。

4 ディスカッション・コミュニケーション能力を身につける

1年次から、「基礎ゼミ」や「応用化学実験I～VI」においてプレゼンテーションを継続的に行い、今日、社会的に最も重視されているコミュニケーション能力が身につくようなカリキュラムになっています。

5 情報処理科目の強化

「情報処理基礎」（専門基礎科目）、「化学情報処理基礎」（専門科目）の学部共通の情報処理基礎科目に加えて、化学構造やモデリング、専門的な内容を教材にしたデータ処理やグラフ化など、化学分野のより実践的な情報処理教育も実施しています。

6 最先端の実験研究に没頭できる充実した卒業研究

応用化学科の4年次は、ほぼ「卒業研究」に専念します。物理化学・無機化学・有機化学といった既存の学問領域を超えて、より広い学問領域の立場から、多角的に化学現象の解明、新物質の創出に取り組みます。

【その他の特色】

・応用化学科の教育プログラムは、日本技術者認定機構（JABEE）から5年間（平成16年度～平成20年度）の認定を受けました。現在では、応用化学科に入学した学生全員がこのJABEE認定プログラム「応用化学科」を履修しています。さらに、社会や学生の要望を反映させながら、教員一丸となって継続的な教育改善に取り組んでいます。

・応用化学科では、特に学生実験を重視しています。学生実験専用を導入されている最新の機器分析装置およびマルチメディアシステムを活用しながら、実践的な技術者の育成に注力しています。

・即戦力の技術者・研究者を育成することを目的として、共同利用センターに配備された最新の各種大型機器分析装置を駆使しながら、各研究室でナノマテリアルを中心とした最先端の研究が活発に行われており、その結果、私立大学としては高い大学院進学率を誇っています。

【機械工学科の学習・教育目標】

機械技術は、カメラ、OA機器、ロボット、自動車、医療機器、さらに航空機や宇宙ロケット等に活用されており、その普及はいつそう加速化しています。こうした技術の中核にある学問が「モノづくり」の原点である機械工学です。

機械工学科ではモノづくりの基本となる設計製図能力を重視し、手書き図面から3次元—CAD図面に至る一貫した作図能力の修得を目標にするとともに、実験や実習による体験を重視したカリキュラムを編成しています。さらに時代の要求に応じて、人間との接点を持ち社会的ニーズに対応するロボットや自動車に関係する科目も配置した総合的な能力を身につける教育を展開しています。これらの能力に立脚した専門技術の展開能力、問題解決能力を身につけ、機械と人間社会との共生、適合、調和の考えられる国際性豊かな自立的機械技術者の育成を目的にしています。

J A B E Eに対応した機械工学コースと智能機械システムコースの2コース制としています。

#### 【機械工学科のカリキュラム編成上の特色】

特色ある科目名とその内容

##### 1 科目名：機械加工実習1、2

内容：モノ作りの楽しさ、面白さあるいは作り方を体験させることによって、機械工学への興味を持たせるようにします。全員が形の違う簡単な機械製品（豆ジャッキ、ゼネバカムホイール）を、図面の作成から製品の完成までの全工程をすべて自分の手で行い、完成したときの喜びと感激を体験します。また本実習では工作機械基礎実習とNC旋盤実習とをリンクさせて行っています。

##### 2 科目名：熱力学演習実験、流れ学演習実験、機械力学演習実験、材料力学演習実験、制御工学演習実験

内容：講義により知識を習得させた後、演習を行うことにより知識を身についたものとし、実験で体験させることによって理解度と興味が一層深まることをめざし、より学習効果を上げるように工夫を凝らした科目です。

##### 3 科目名：図学および機械製図、機械製図基礎演習、機械製図演習、設計製図の基礎、設計製図、応用機械製図

内容：モノづくりに必要な図面の書き方の基礎から具体的な機械部品のスケッチ、手書き組立図の作成と作図ツールである2次元・3次元CADを用いた機械部品図面の作成を行います。これらの基礎知識に基づき設計製図法を学習し、設計計算からCADによる設計図面の作成を通して、機械技術者として必要な製図能力を習得します。このため1年生より3年生まで系統的な製図関係の科目を配置しています。

#### 【その他の特色】

・創成科目の特色あるものの紹介（卒研ゼミ）：第6セメスターに開講されている卒研ゼミは、研究活動に必要な情報収集やプレゼンテーション能力の向上、実験装置の使用・製作などを行い卒業研究への導入教育になるとともに、就職活動をサポートする役目も果たし、教員と学生の相互コミュニケーションの活性化にも役立っています。

・導入教育の特色あるものの紹介（基礎ゼミ1、2）：受身の学習ではなく積極的に学習する習慣およびその楽しさを知るとともに、グループで活動し、チームを組んで与えられたテーマに取り組み、問題を解決していく能力とともにプレゼンテーション能力を養います。

#### 【電気電子工学科の学習・教育目標】

現代社会では、多面的な角度から総合的に物事を判断できる幅広い知識を備えた技術者が求められています。電気電子工学科ではエレクトロニクス、情報・通信、エネルギー・環境という3領域を統合し、エレクトロニクスを軸に、高度情報化社会、環境共生社会のあらゆる分野で活躍できる教養豊かなエキスパートを養成するために以下のような学習・教育目標を設定しています。

- 1 数学、自然科学、コンピュータなどの基本的な知識をベースに、電気電子工学の基礎的知識を有する。
- 2 エレクトロニクス、情報・通信、制御、コンピュータハードウェア・ソフトウェア、エネルギー発生・伝送システム、環境計測などのいずれかの分野の専門的知識を有する。
- 3 幅広い工学的知識に基づき、課題を分析し、解決のための適切な計画を立案・実行できる能力を有する。
- 4 得られた結果・情報を文書・報告書としてまとめる能力及び口頭で正しく伝達する能力

を有する。

5 技術者としての社会的責任、科学技術の社会との関わりを自覚する能力を有する。

6 自ら新しい知識や情報を得て、自主的・継続的に学習する能力を有する。

#### 【電気電子工学科のカリキュラム編成上の特色】

電気電子工学科では、上記の学習・教育目標を達成するために、情報・通信コース、エネルギー・環境コースおよび総合エレクトロニクスコースの3つのコースを設定しています。2年次進級時に希望によりいずれかのコースに配属を行いますが、1・2年次は全コース共通のカリキュラムであり、3学年よりコース独自のカリキュラムが始まります。また、各学年に実験および実習科目を配置し、自主的に様々な問題に取り組む能力の育成を図っています。

情報通信コースでは情報の処理、伝達、利用の技術を系統的に学べるカリキュラムを整えています。情報理論をはじめ情報・通信機器、通信システム、制御システム、アナログ・デジタル回路の開発設計など今日の高度情報化社会に不可欠なハードウェアに基礎を置いたシステム構築ができるエキスパートの養成を目指しています。

エネルギー・環境コースでは火力、水力、原子力から太陽エネルギー、水素エネルギー、バイオエネルギーなどの新エネルギーまで、エネルギーの発生・伝送・応用の技術を系統的に学べるカリキュラムを整えています。発電・送配電システム、電気機器、電気設備システム及びエネルギー管理・運用について、また、環境計測、環境マネジメントをはじめとする環境についての知識と実践力を身につけた技術者の養成を目指しています。

総合エレクトロニクスコースはJ A B E E（日本技術者教育認定機構）により認定を受けた教育プログラムであり、電気電子工学の基礎科目が総合的に重点配置されています。講義と演習を一体化し、それらの内容に関連した実験・実習を通して、電気電子現象を確実に把握できるようにしています。電気電子材料、光・レーザー工学、デバイスの開発、電気・電子回路設計、電子応用機器の開発設計など、エレクトロニクス技術を支える工学分野全般の基礎力と想像力を兼ね備えた国際的に通用する技術者の養成を目指しています。

#### 【その他の特色】

##### 実験・実習

1年次の「ものづくり実習」では、各種道具、機械の仕組みとその正しい使用法を習得させ、各々にオペアンプと抵抗を用いた増幅器の製作を行わせ「ものづくり」の楽しさを経験させています。また、総合エレクトロニクスコース3年次の「総合エレクトロニクス実験」では、通常の実験とは異なり、6つの実験テーマから2テーマを選び、それぞれ6週間に亘って実験を行います。実験手順を示すテキストはなく、受講生自らがグループ作業を通して技術上の様々な問題点を抽出し、その解決法を立案し、実験を遂行します。

##### 資格

本学科で開講されている科目の中から所定の科目を修得することにより第3種電気主任技術者、第1級陸上特殊無線技師、第3級海上特殊無線技師の3つの資格が得られる他、教職指定科目を履修することにより、高等学校教諭第一種免許（工業、情報、数学、理科）及び中学校教諭第一種免許（数学、理科、技術）が取得できます。また、総合エレクトロニクスコースの修了者は技術士補第1次試験合格者と同等の修習技術者となり、申請をすれば技術士補となることが可能です。さらに実務経験をつみ二次試験に合格すれば技術士の資格が得られます。

#### 【社会環境工学科の学習・教育目標】

社会環境工学科では、社会に貢献する技術者としての基本的な人格形成として「愛と自律ある人材育成」、技術者としての知識・技術の習得と活用に関して「専門知識を通じて社会に貢献できる人材育成」、技術者としての社会的責任の自覚として「環境と社会に関心を持ち、問題解決に寄与できる人材育成」を柱とした教育目的を掲げています。

教育目的を達成していくために、4つの教育目標を設定しています。

1 社会に貢献できる技術者として必要な基本的な思想や能力を身につける

(1) 人類と地球に貢献し、社会に奉仕する思想を身につける。

(2) 倫理を重んじ、情熱と勇気のある自立した技術者として必要な資質を身につけ

- る。(技術者倫理)
- (3) 変化に対応して継続的・自律的に学習できる。(生涯学習能力)
- (4) 社会・経済・福祉・人間に常に関心を持ち、自らのあり方を考えるとともに、社会への貢献を行える力を養う。
- 2 社会的なニーズに応えるため時代や社会に即した幅広い知識や技術を習得する
- (5) 建設技術者として直接必要な専門的知識を身につける。(専門性)
- (6) 人類の幸福・福祉・環境共生など、これからの社会形成に必要とされる応用的分野に習熟する。
- (7) 身近な環境・資源から地球環境・資源まで常に関心を持ち、自らが行えることを実行できる力を養う。
- 3 複雑に絡み合った社会の課題に対して、総合的、創造的に対応するための能力を養う
- (8) 実際の計画や設計について、専門性と独創性をもってハード・ソフト両面で具体的な形を作り上げる力を養う。(デザイン能力)
- (9) 人間や社会の課題に関し、地域・まちづくりの立場から課題を発見し、問題を分析し、それを総合的に解決する力を養う。(「まちづくり」)
- 4 協働で社会問題に対処するためのコミュニケーション能力をつける
- (10) 国内外で幅広くコミュニケーションが行える。
- (11) 情報機器、インターネットなど新しいメディアを使いこなす力をつける。

#### 【社会環境工学科のカリキュラム編成上の特色】

人々が生活しているまちにある環境から社会福祉まであらゆる分野を対象とし、近未来の快適なまちを創造するための幅広い知識とそれを多角的に活用する力を養うことを目的としています。道路や橋、河川、上下水道など、さまざまな社会基盤の構築やまちづくりにおいて、自然環境や社会環境への配慮は切り離すことができません。幅広い視野と高度な技術力を養い、構造物・生態系・水環境・都市計画・コミュニティづくりについて学ぶためのカリキュラムを構築しています。

#### 【情報学科の学習・教育目標】

情報学科では「情報のデジタル化」を学びます。CDやDVDと言われる板の中に音楽・動画・文書といった多様なデータが混載できることは誰もが知っています。そればかりでなくUSBメモリにもSDカードにも入ります。この自由を生み出した魔法を情報学科では、勉強します(日経新聞、2008.1.25坂村健「デジタル文明の行方」から一部引用)。

情報学科には2つのコースがありますが、情報システムコースでは、情報技術の理論体系と応用力を養成することを目指しています。情報メディアコースでは、コミュニケーションを重視したICT(Information and Communication Technology)としてのメディア構築技術者を養成することを目指しています。

より詳しく説明しますと、次の学習・教育目標を設定しています。

- 1 広い視野に立った問題発見、即ち地球的視点から多面的に物事を考える能力を持ち、問題可決に必要な知識の習得への意欲を継続的に持つことが出来ること。
- 2 情報処理技術と人間、社会、文化の関わりを多面的に理解し、情報処理技術の発展の社会的影響に関する深い洞察力を身につけること。ここでは、大きな意味で企業倫理という理念が根底にあります。
- 3 離散数学、確率と統計を含む数学、並びに自然科学に関する知識を習得し、それらを情報システムの開発に活用できる力を身につけること。
- 4 計算機システムや計算機ネットワークの原理並びにプログラミングに対する基礎知識を習得し、問題解決に適用すること。この基礎的知識によって、日本の経済を支えているとされている多くの中規模企業の情報化の遅れを支援することが可能となります。
- 5 ソフトウェアに関するモデル課題を理解分析し、モデル課題に対する適切な解を与えること。
- 6 情報処理技術の工学分野あるいは社会システムへの応用に関する知識を習得し、情報処理技術の多面的な応用能力を身につけること。
- 7 日本語によるコミュニケーション能力を与えられた課題の理解、解決に有効に利用する

ことが出来、現実の諸問題に他と協調して対処できるコミュニケーション基礎能力を持つこと。技術英語に対する理解力を持ち、活用できること。日本語を真に理解できる能力を持つことは必要です。とりわけ、最近この基本能力が次第に失われているのではないかという危機感が指摘されています。当学科は少人数教育によってこの基本能力を高めるための仕組みを作っています。

#### 【情報学科カリキュラム編成上の特色】

次の2つの特色を持っています。

- 1 上の学習・教育目標を実現するため、次に述べる具体的な方策を採っています。即ち、J A B E E 認定プログラムを実施するため、人文科学・社会科学などの学習250時間以上、数学・自然科学の学習250時間以上、専門分野の学習900時間以上、総計1800時間以上の学習を保証します。必然的に欠席・遅刻は一切認められない旨、シラバスに明記します。単に明記しているばかりでなく一旦作成したカリキュラムをセメスター毎に評価委員会の下で評価し次年度の授業内容に反映する仕組みを作っています。
- 2 学習・教育目標を達成するため、その目標を幾つかの分野に分類し、それに授業科目を割り当てています。そして、指定された基準に従って科目を習得すれば、学習教育目標が達成される仕組みを作っています。

コース別には、次のとおりです。

情報システムコースでは、オブジェクト指向設計・データベース論・ネットワーク技術・自然言語処理などをしっかりと学び、情報技術の理論体系を習得します。また、大規模情報システムやネットワークシステムの構築に応用できる創造能力も養います。そのために、オブジェクト指向設計、ネットワーク技術Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア工学、データベース論Ⅰ・Ⅱを特に学生に勧めています。

一方情報メディアコースでは、人と人とのコミュニケーションには情報メディア（新聞、テレビなどのいわゆる社会的メディアではありません）が重要な役割を持つという基礎にあって、このコースでは音声認識やコンピュータグラフィックスを学ぶだけでなく、心理学などの視点から人間のコミュニケーション形態を学習して、コミュニケーションを円滑に行うメディア構築ができる技術者を育てます。そのために、コミュニケーション論、パターン認識、コンピュータグラフィックス、音声認識を特に学生に勧めています。

#### 【その他の特色】

- 1 新入生に最新のノートパソコンの購入を義務づけ、システム工房と称している8つの室を潤沢に利用し、自らの意思によって勉学に励むことの出来る環境を作っています。この室からは無線LANによって外部の世界と接続が可能で、文献検索・情報収集が可能です。この環境を通じて、当学科の学生は授業の合い間の短い時間を有効に利用し、少ないコストで大きなリターンを獲得することが出来ます。
- 2 シスコシステムズ合同会社というネットワーク技術に関する財とサービスを販売する専門の会社があり、幾つかの社会貢献をしています。その中に、「シスコ・ネットワーキングアカデミー・プログラム」と呼ばれるものがありますが、本学科ではこれを有効に活用しています。授業を助けるものだと考えてください。このプログラムを学習することで「シスコ技術者認定」を受験できるレベルの実力を身につけることが可能です。具体的には、e-Learningと称しています技術を使い、学内のサーバに収められた教材をブラウザで呼び出して受講します。

#### 【建築学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

建築学部では、「つくり・守り・育てる建築学の修得と共に、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標とします。

様々な角度から物事をみることが出来る能力や自主的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を有する人材を育てるという教育の理念・目標の実現のため、一年次に「基礎ゼミ」を設け、これには学科の全教員が教育に当たり、自ら学ぶ動機付けを与えると共に、自律的に考え、課題を探究し、解決するための基礎となる素養を身につけさせます。また、建築専

門技術の修得については、1年次、2年次は設計教育を中心に建築学全般に対する基礎学力を身につけさせます。

今、大学教育では教室における授業だけではなく、授業の前提として読んでおくべき文献の提示や宿題を課すなど学生諸君が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えるとともに、学生と教員との対話型授業（学生参加型授業）が求められています。そこで、建築学部では、教員からの一方通行の講義ではなくて、学生に問題を与え、学生が自ら調べ、考えたことを報告させ、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業を推進します。

建築学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

・建築学部の教育理念

技術者教育と建築家教育を総合した独自の体系をもつ我が国のホリスティックな（包括的にバランスのとれた）建築教育の良さを生かした専門教育を目指します。

・学習・教育目標

- 1 人類の英知である人文科学・社会科学についての一般的知識と素養を養う。
- 2 将来の技術者として必要とされる語学能力、コミュニケーション能力を養う。
- 3 数学・自然科学の基礎的専門知識・能力、及び情報などの先端領域の基礎知識を養う。
- 4 技術が自然及び人間社会に対して果たすべき役割を学ぶことを通して技術者倫理を身に付ける。
- 5 自発的・主体的に学び、自ら考える習慣・力を身につける。
- 6 建築と人間、社会の関係について理解し、それを方向づけるための企画・設計・計画についての基礎知識を修得する。
- 7 歴史・社会・経済、住生活との関係で建築・都市を多面的にとらえ、総合化する基礎的能力を養う。
- 8 建築構造を実現するために必要な方法・技術に関する知識、及び建築構造を理解するために必要な力学的知識を修得する。
- 9 建築材料の種類・特性及び建築生産の方法・プロセスに関する基礎的知識を修得する。
- 10 快適・健康・安全を持続させる建築環境を工学的に認識・評価する技術を修得する。
- 11 社会資産として建築を作り、維持管理するために必要な知識を修得する。
- 12 建築各専門分野の基礎知識の上にたち、より複雑な機能・現象や境界領域について、専門的知識、能力を養う。
- 13 幅広い知識を総合して具体的提案に結びつけるデザイン能力とそれを的確に表現するプレゼンテーション能力を身につける。
- 14 計画的に演習・調査・実験を行い、そのデータを整理・集計・分析する能力を養う。
- 15 設計演習などで、明らかにすべき課題に対して創造的に考え、問題解決に導く能力を養う。
- 16 ゼミナール演習、卒業研究を通して、社会から要請される専門分野に到達する能力を養う。

【建築学科のカリキュラム編成上の特色】

デザイン重視の欧米の建築家教育に対し、技術者教育と建築家教育を統合した独自の体系を持つ日本の建築教育は、国際的にも高く評価されています。建築学とは人間のための快適な空間と環境を創造する学問であり、時代によって求められる建築も変わります。それゆえ、常に自己変革できる能力を備えた人材が求められます。本学科では、近畿大学理工学部建築学科のこれまでの歴史の中で培われてきた包括的な建築教育を建築工学専攻の中で継承しながらも、建築家養成コースである建築デザイン専攻、「住まい」の建築学を総合的に学ぶことのできる住宅建築専攻、新しい時代に対応した守り育てる建築を専門的に学ぶ企画マネジメント専攻を新しく設置します。

建築工学専攻では、建築学科の長い歴史の中で培ってきた多くの卒業生のネットワークを活かしながら総合建設業を中心に建設業界で活躍できる人材を育成します。

建築デザイン専攻は、大学院との連携を重視しながら、建築家との交流の機会を活発に設

け先鋭化した建築家教育を実施します。

住宅建築専攻は、これまで多くの卒業生を輩出してきた住宅産業で活躍できる人材を引き続き育てながらも、インテリアや外構計画を含めた、「住まい」に関わる建築学を総合的に学ぶことができます。

企画マネジメント専攻では、建設業の枠を超えて住宅・建築・都市に関わる様々な業態に対応できる能力を身につけ、建設関連業界に対する社会の新しい要請に応えることのできる人材を育成します。

理工学部建築学科から建築学部生まれ変わることによって、工学だけではなく、また文系・理系の枠を超え、社会や時代が真に求める建築を学ぶ機会を提供することをお約束します。少人数教育の重視、フィールド調査や内外セミナーへの参加など、学外や社会との関係・連携を重んじ、バランス良く、総合的な力を備えた専門家を育成します。

#### 【その他の特色】

建築学科では、4専攻とも、一級建築士をはじめ、二級建築士、木造建築士、建築施工管理技士などの技術的な資格に加え、宅地建物取引主任者や不動産鑑定士といった建物全般に関わる資格の取得を考慮した教育を実施します。できるだけ多くの資格を在学中に取得できるよう、支援体制を整えています。

#### 【薬学部の教育研究の理念と目的・育成する人物像】

薬学部の理念は、21世紀の生命科学、基礎薬学、創薬科学、医療薬学、衛生薬学などの基盤に立脚し、医療に貢献できる薬剤師を養成するとともに、これらの薬学分野での研究に貢献し、活躍できる人材の育成を行うことにより、人類の福祉と健康に奉仕することです。

これらの理念を具現化するために以下のような人材の育成を教育の目標とするとともに、薬学に関わる多様な分野での研究に取り組むことを使命としています。具体的には、薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力並びに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成すること、さらに医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で社会と人類の福祉・健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出することを学部教育の目的としています。薬学部卒業生は、医療の現場で薬を扱う立場に立つこと、あるいは人の生命に直結する医薬品の創製・開発に携わることから、専門知識・技能に加えて、幅広い教養とともに、生命、医療に対する高い倫理観をもち、豊かな人間性を備えた社会に信頼される人材の養成も本学部の重要な使命、教育目標の一つです。

平成18年度から導入された薬剤師養成教育6年制への移行に伴い、近畿大学薬学部では「医療薬学科（6年制）」と、「創薬科学科（4年制）」の2学科を開設しました。

#### 【医療薬学科の学習・教育目標】

医療薬学科では高度・多様化する医療において活躍できる人材、すなわち薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する指導的薬剤師、及び薬剤師の資質を活かして薬学研究の発展に貢献できるリサーチマインドを有する人材の養成を目標としています。さらにはがん治療のエキスパートであるがん専門薬剤師の養成を目的とした〈癌プロフェッショナル養成プラン〉に加えて、近畿大学医学部との〈医薬連携〉体制の推進により、一層充実した臨床教育・実務実習体制を目指しています。

#### 【創薬科学科の学習・教育目標】

創薬科学科では、有機化学、レギュラトリーサイエンス、ゲノム科学、in silico創薬、細胞生物学などの最先端の薬学分野の知識とテクノロジーに精通し、医薬品の創製・設計、開発などの分野で薬学研究者・技術者として国際的に活躍できる人材を社会に輩出することを目標としています。また、アンチエイジングセンターや薬学総合研究所などの附属研究機関とともに最先端の薬学教育・研究体制のさらなる充実と活性化を目指しています。

#### 【薬学部のカリキュラム上の特色】

昨今の医療制度の多様化・複雑化、及び生命科学のめざましい進展などの大きな変革によって薬学教育を取り巻く環境は激変しています。近畿大学薬学部ではこうした潮流を先取りし、レギュラトリーサイエンス、ゲノム創薬科学、細胞生物学などの最先端の生命薬学分野、

及び薬物治療学、病態薬理学などの医療薬学に直結する分野の新しい研究室の設置を積極的に進めてきました。

近畿大学薬学部では、理念に掲げた「高い臨床能力とリサーチマインドを備え、優れた資質を有する薬剤師、及び薬学研究に貢献できる人材」を養成するために、医療薬学科及び創薬科学科において、以下のような特色あるカリキュラムを編成しています。

#### 【医療薬学科のカリキュラム上の特色】

- 1 充実した臨床教育：医学部・病院を擁する総合大学の特徴とメリットを最大限に活かした高度な臨床教育、臨床薬学分野のスタッフによる実務実習プログラム、医薬連携講義や生涯教育研修会との連携による最先端の臨床講義などを充実させました。
- 2 生命倫理教育の重視：医学部における人体臓器見学、病棟体験などのアーリーエクスポージャーに始まり、解剖組織学、生命倫理学など、医療人として極めて重要な倫理観を涵養し、確立するための教育を充実させました。
- 3 最新の医療薬学分野関連科目の充実：薬効薬理処方解析、病態生理学、薬物治療学、臨床心理学などの臨床に直結する重要科目に加えて、遺伝子治療や再生医療など高度先端医療に対応できる薬剤師の養成を視野にいれ、ゲノム医療などの科目を導入しました。
- 4 卒業研究の重視：科学的根拠に基づき問題を解決する〈リサーチマインド〉を備えた薬剤師を育成するために重要な鍵となる卒業研究を充実させました。
- 5 万全の国家試験支援体制：全国トップレベルの薬剤師国家試験合格率を支える「教育専門部門」を中心とした講師陣による対策講義、「Webによる薬剤師国家試験自習システム」などのe-learningシステムを充実させました。

#### 【創薬科学科のカリキュラム上の特色】

- 1 得意領域を伸ばす専修コース設定：選択必修科目に化学系と生物学系の2つのコースを設定し、どちらか一方の専修コース科目を重点的に学習することにより、深い専門性の修得を目指します。
- 2 最先端の創薬関連の講義：ベーシックからアドバンスドまで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するために、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させるとともに、ゲノム創薬や創薬分子設計学など最先端の講義と実習も導入しました。
- 3 充実した英語教育：医薬品開発や製薬業界のグローバル化、国際化に対応できる「英語力を強化」するカリキュラムを充実させることで、国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。

さらに二つの学科に共通した特色ある取り組みとして以下のものがあります。

- 4 コミュニケーション・プレゼンテーション能力の重視：「基礎ゼミ」を1年次に開講し、学生が興味を持ったテーマについて調査・討議し、ポスター発表を行います。この科目は、優れた薬剤師としても、また薬学研究者としても極めて重要な〈コミュニケーション・プレゼンテーション能力、ディスカッション能力〉の育成に非常に効果的です。
- 5 充実した情報教育：情報科学の講義と実習を充実させるとともに、学術研究高度化推進事業により、全国でも有数の情報処理教育施設であるKUDOSのメリットを最大限に活用した学習支援体制を完備しました。

#### 【文芸学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

本学部は、文学科（日本文学専攻、英語英米文学専攻）、文化・歴史学科、芸術学科（舞台芸術専攻、造形芸術専攻）、文化デザイン学科の4学科4専攻で構成され、「未来志向の実学教育と人格の陶冶」という建学精神をふまえた上で、〈超ジャンル〉的な文芸世界の探求と創造を理念としています。〈超ジャンル〉とは、ともすれば狭い専門領域にのみとらわれがちであった既存の文学部の概念を克服し、文学、文化・歴史、芸術、文化デザインのどの学科に学ぼうとも、人間の命（いのち）を護り、その命を輝かせる歴史的・社会的な試みこそが今と未来を担う者の責務であることを、共通理念として根底に置いた教育の場を実現することであります。この理念は、文芸学部を創設した平成元年以来一貫して保持されており、教育環境が厳しい転機に直面している21世紀においてもこれを堅持して行きます。

人間に例えれば、青年期にさしかかっている文芸学部では、この間、学生に対しては入学

時や新学期、基礎ゼミナール、専門教育のゼミナールの開始時等に文芸学部が掲げる理念と目的を説明し、また再確認しながら教育を進めてきました。そして教員側は絶えずその検証を行い、社会・教育環境の変化を見極めるために学部内に「教育システム改革委員会」を設けるなどして教育力の向上とその内容改善に努めてきました。

#### 【文芸学部の学習・教育目標】

本学部では、平成12年度より Semester 制が導入されました。その第一の目的は、多目的、学際的、独創的な教育を目差す本学部の教育目標を達成するためです。すなわち、Semester 制によって、学生に対して通年制のほぼ2倍の異なった分野の授業を提供し、その分だけ多様化する社会のニーズに応える幅広くかつ高度な知識、能力、あるいは問題意識を与えることができることとなります。また、学期期間の異なる外国の大学への留学制度を円滑に進行させるためにも有効です。さらに、ややもすれば冗長となる通年の講義よりも、内容を濃密にして半期でまとめる授業のほうが学生に支持されるという近年の傾向にも応えるものがあります。

本学部の専門教育は、この Semester 制に基づいて構成されています。

「専門科目」のカリキュラム構成の特徴は2つあります。ひとつは、文学系学部が陥りやすい座学的理論だけではなく、実学的実践を平行して教育すること、もうひとつは、他学科の開放科目を自学科の自由選択科目として履修する制度によって、学科・専攻・コースの枠を超える教育、すなわち学部の理念である〈超ジャンル〉の教育を行うことです。このようなカリキュラムによって、学生は専門分野に関する豊富な知識、表現力、さらに実践的能力を習得することができます。これらは、実学に重きを置く大学の教育理念、豊かな人間性と創造性を訓育する学部の理念とも合致しています。また、学校教育法第52条の「広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を展開させる」ことにも適合しています。

#### 【文学科のカリキュラム編成上の特色】

文学科は日本文学専攻と英語英米文学専攻の2専攻構成になっています。

##### 日本文学専攻

日本文学専攻は「言語・文学コース」と「創作・評論コース」に分かれます。1、2年で総括的、概論的知識を身につけ、3、4年次においては、詩歌、散文、創作、評論、日本語の5分野に分かれます。最終的には、それぞれの主題に即した研究の成果を論文に、また創作として作品にまとめていきます。

##### 英語英米文学専攻

英語英米文学専攻では、英語圏留学制度の充実、及び少人数制クラスとチュートリアル制のきめ細かな個別指導が特色です。徹底した個別指導による、高度な英語コミュニケーション能力の育成と英語圏における文学作品や文化の研究指導、さらに卒業論文の制作指導などによる分析的思考力や論理的表現力の涵養など、世界を視野において積極的に活躍できる人材の育成を目指します。

#### 【芸術学科のカリキュラム編成上の特色】

芸術学科は舞台芸術専攻と造形芸術専攻の2専攻構成になっています。

##### 舞台芸術専攻

芸術学科「演劇・芸能専攻」は平成18年度から専攻名称を「舞台芸術専攻」と改称しました。本専攻においては、実習、実技によって基礎的なものから専門的なものへと段階的に実技力、表現力を習得すること、同時に芸術の理論的知識を習得することの両面を覆う科目構成がなされています。具体的には、1年次より演劇・舞踊公演を学内外で発表する機会を頻繁に設け、積極的に社会との交流を図り、意欲的に専門分野に取り組む姿勢を促進しています。

##### 造形芸術専攻

造形芸術専攻においても、基礎的なものから専門的なものへの段階的教育が組織的に実行されています。本専攻では平成16年度より「ゼミナール選択制」を採用し、1年次で4ゼミ、2年次で2ゼミを選択し、3年次で最終のゼミを決定することになっています。2年間自分の能力、関心がどこにあるのかを模索できるこの制度は有効に機能しています。また、平成

28年度からは、造形コースと芸術学コースの区別をなくし、造形系と芸術学系を合わせて9ゼミが並列的に置かれ、すべての学生が3年次に芸術学の論文を書くことを必修としました。このカリキュラムによって、全学生が芸術についての芸術学的・美術史的知識をより広く習得することができるようになりました。

#### 【文化・歴史学科のカリキュラム編成上の特色】

文化・歴史学科では、1年次より読む、書く、発表するといった基礎的能力を養うため「文化・歴史基礎研究」をゼミ形式で行っています。それにより、2年次以降の専門科目の履修と3・4年次の専門研究に一定の見通しが得られます。文化資源系の授業では、現地調査等の体験型授業を行うことで、知識の活用や発信のできる人材の育成を目指しています。

#### 【文化デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】

文化デザイン学科では、「感性学系」「デザイン系」「プロデュース系」の3つの系を設置し、まずそれらすべての領域をまんべんなく学ぶことを求めるカリキュラム編成となっています。それを基礎にして、人間の文化的・芸術的成果を社会につなげるシステムやプログラムをデザイン／構想し、創造し、実行／プロデュースするため知識と能力を習得する専門科目群が設置され、加えて各系の学問的理論だけではなく、1年次から4年次までの「ゼミナール」あるいは「プロジェクト演習」「プレゼンテーション演習」など実践的なタスクワークを重視するカリキュラム編成がなされています。

教育課程の根幹ともいえる「ゼミナール」については、1年次から必修として全教員の「ゼミナール」を履修し、年次毎に研究テーマを絞り込みながら、最終的に4年次において一つのテーマに取り組むという4年間の段階的発展をたどる教育課程として編成されていることも特色です。

#### 【総合社会学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

21世紀の課題は、『グローバル化』、『新ネット社会の登場』、『世界的な格差社会の拡大』、『自然環境の異変』などに象徴されます。

総合社会学部では、多様な視点から現代社会が直面する複雑な問題群を理解し、多様な見方を総合化していくために、人々の心的活動や行動（心理学）・社会システム（社会学）・環境と社会の関係（環境学）というミクロな視点からマクロな視点まで、視点の異なる学問分野を連携させた教育・研究により、複雑化した現代社会の問題群に一つの組織として総合的に取り組みます。

また、総合社会学部では、現代社会の諸課題をしっかりと見極めて、未曾有の転換期を生き抜く人材の養成にあたります。21世紀の社会は、情報社会・ネットワーク社会と呼ばれるものであり、それはインターネットに代表される情報通信技術の進展に大きく影響を受けて発展してきました。そこで、これからの社会を担う人材には、ネットワーク社会がどのようにもたらされ、どのような方向に向かっていくのかについて、的確に理解できることが求められます。

本学部では、現代社会が直面する複雑な問題を理解することができ、ミクロな視点からマクロな視点、ローカルな視点からグローバルな視点まで、多様な見方を総合化していくことができることを教育の到達目標とし、複雑化する社会問題を総合的、実証的に捉え解決を図ることができる人材の養成を学部全体としてめざしていきます。

#### 【総合社会学部の学習・教育目標】

総合社会学部は、教育・研究の連携を保つために、1学科組織となっていますが、系統性のある学習を行う必要性から、教育の柱となる領域を定めています。学生が自分の興味がある科目のみを履修し、学部・学科の科目を自由に修得する教育課程では、広く浅い知識だけで問題の表層だけしか見ず、問題の本質を知るといった力は育ちません。

そこで本学部は、より深く系統性のある学習を行うために、

- ①現代社会そのものの構造や動きを研究するための、社会学をベースとした『社会・マスメディア系専攻』
- ②現代社会を構成する主体である、人間の心的活動や行動を探求するための、心理学をベースとした『心理系専攻』

③現代社会を取り巻く環境と社会との関係を研究するための、環境学・地理学・都市学・地域学・政策学をベースとした『環境・まちづくり系専攻』

という3つの体系的な教育課程を専攻別に編成し、個別重点的、かつ分野横断的に教育することにより、多様な見方を総合化して問題の本質を見抜く確かな学力を養成していきます。

#### 【総合社会学科カリキュラム編成上の特色】

総合社会学科の教育課程は、「共通教養科目」、「外国語科目」と本学部独自の「学部共通コア科目」により、本学部生の土台を形成し、その土台の上に連続して「専門科目」を専攻別に基礎から発展へと編成することにより教育課程の体系性を確保しています。

「共通教養科目」では、幅広い知識と社会人としての基礎力を養い、「外国語科目」ではコミュニケーション能力の育成とともにグローバルな視点をも養成していきます。そして、「共通教養科目」である1年次必修科目の「基礎ゼミ」に始まり、『学部共通コア科目』としての「総合社会学演習」、さらに各専攻に分かれても4年間一貫してゼミナール形式の少人数教育を施す「講読」、「演習」、「卒業論文」、「卒業制作」といった科目を必修科目として段階的・連続的に編成しています。このうち、どの専攻に所属しようとも必ず受講する『学部共通コア科目』では、学際的な学部としての総合的、実証的な視点や、人々の心的活動や行動（心理）・社会システム（社会）・環境と社会の関係（環境）といったミクロな視点からマクロな視点まで、異なる3つの視点を持つ各専攻の専門科目の基盤となる科目を編成し、「専門基礎科目」へと体系的につながっています。そして、学部教育の土台から連続して、学生の教育の柱となる領域を定めるため、「専門基礎科目」から「専門発展科目」へと体系的な教育課程を編成しています。

#### 【その他の特色】

外国語科目（英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語）は、共通教養科目や専門科目の「国際関係」科目と同様に、総合社会学部の目的の一つであるグローバルな視点を養成するために重点を置く科目群です。本学部の外国語学習プログラムでは、提供するすべての外国語科目において基幹科目と発展科目を配置し、学生は基礎から上級レベルまで段階的に外国語学習に取り組むことができます。また、複数の外国語を学習できる環境を1年次から提供し、それぞれの進路・希望に応じて系統性のある学習が行えるプログラムとなっています。学生は、興味・関心の拡がりに合わせた科目の選択も可能です。外国語科目として18単位が卒業要件となっていますが、グローバル社会における英語の重要性に鑑み、英語の基幹科目のうち必修科目6単位を含む8単位以上を修得する必要があります。これらの科目を通して基礎的な英語コミュニケーション能力を育成します。高度なレベルの英語運用能力の習得を希望する学生には、英語科目の重点的な履修も可能としており、マッコーリー大学（オーストラリア）へのセメスター留学制度の利用、上級レベルの英語の授業履修等の機会が充実しています。また、英語・中国語・韓国語については、単位認定を含めた短期海外語学研修に参加することもできます。

#### 【国際学部 国際学科の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

「国際学部 国際学科」は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」という本学の建学の精神を人材養成の礎とした上で、グローバル化というかつてないほど大きな社会の転換期を生き抜き、積極的にグローバル社会に参画するための知識と教養の吸収を目的とした教育を行います。具体的には、(1)外国語による高いコミュニケーション能力を有し、(2)幅広い教養と専門性を備え、(3)自文化と他文化を尊重し、かつ多面的に理解し、(4)自主性と協調性を持って行動できる人材、すなわち「国際教養人」の育成を目的とします。この教育理念を具現化するには、従来の座学的教育にはおのずと限界があります。よって本学部では1年次後期から1年間の留学を原則必修とし、大学生活早期の外国語コミュニケーション能力の習得、自文化・他文化の尊重と理解、自主性と協調性の涵養、の3つの目標の実現を目指します。さらに留学後に幅広い教養と専門性を深めることによって、グローバル社会で活躍できる人材の輩出という目的の実現を目指します。

#### 【国際学科の学習・教育目標】

国際学部は、教育および研究の連携を保つために、1学科組織となっていますが、留学を基盤とした確固たる言語運用能力の上で学習を行う必要性から、英語を専修言語とする「グ

ローバル専攻」、中国語および韓国語を専修言語とする「東アジア専攻」という2つの柱を定めます。

グローバル専攻は英語を主軸としますが、単に英語を学ぶに留まらず、英語で何ができるかに重点を置きます。そして「グローバル・スタディーズ」、「コミュニケーション・スタディーズ」、「アジアン・スタディーズ」という方向性の異なる3つの専門分野で学習を深めます。

- ①「グローバル・スタディーズ」では、世界の多様性、そして多様な価値観を理解し、グローバル化に伴う課題を理解・分析し、よりよい解決法を模索することを学習・教育目標とします。具体的には、現実に課題解決にあたっている国際ボランティアや国際機関を扱う科目や、日本をグローバルに見る科目を通し、自らの文化を相対的に理解し、尊重する視点を養います。
- ②「コミュニケーション・スタディーズ」では、理論的側面と現象面からコミュニケーションを理解し実践することにより、高いコミュニケーション能力を育成することを学習・教育目標とします。また、グローバル社会におけるコミュニケーション媒体として欠くことのできない英語を教育面において研究する科目も配置し、英語教育を目指す人材の育成にあたります。
- ③「アジアン・スタディーズ」では、長年にわたる歴史と文化の交流によって培われてきたアジア地域と日本との関係を踏まえ、現代アジアの実情を多元的に捉え考察する力を養成すること、また、同時代を共に生きるアジアの一員としてアジアを学ぶことで豊富な知識と柔軟に考える力を身につけ、日本を複眼的に捉える視点を持つことを学習・教育目標とします。

「東アジア専攻」は、中国語を専修言語とする「中国語コース」および韓国語を専修言語とする「韓国語コース」を設置し、それぞれの言語・文化の理解を基盤に専門性を深めます。「中国語コース」では、中国語圏の人々と中国語で自在にコミュニケーションのとれる能力を高め、異なる価値観に対する寛容と自己の文化的立場の認識を深め客観化を図るべく、語学学習と並行して、中国語圏の文化、歴史、慣習、思考様式に関する知識および日中の過去現在にわたる文化的交流の知識を得ることを学習・教育目標とします。「韓国語コース」では、韓国語でコミュニケーションのとれる能力を涵養し、韓国の文化、歴史、思考様式、社会構造を学ぶことにより、日韓のさまざまな交流に貢献できる地域専門性を身につけることを学習・教育目標とします。

以上のように、英語を専修言語とする「グローバル専攻」と中国語および韓国語を専修言語とする「東アジア専攻」の2本の柱を持ちますが、分野横断的な学習が可能であり、多様性の理解と尊重のもと、さまざまな問題の本質を見抜く確かな学力を養成していきます。

#### 【国際学科のカリキュラム編成上の特色】

「国際学科」の教育課程は、全学共通科目である「共通教養科目」および「外国語科目」により学習の基礎を形成し、「専門科目」を段階的に編成することにより教育課程の体系的性を確保しています。

「共通教養科目」では、1年次必修科目の「基礎ゼミ」に始まり、(1)人間性・社会性科目群、(2)地域性・国際性科目群、(3)課題設定・問題解決科目群、(4)スポーツ・表現活動科目群から偏向なく履修することにより、幅広い知識と社会人に求められる基礎能力を養います。「外国語科目」ではドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語をそれぞれ入門、基礎、中級、上級の4レベルで開講し、学生の学習目標やキャリアの必要性に応じて主体的に選択ができます。

専門科目は、「国際教養人の育成」という目的を達成するべく教育課程を編成し、それは「学部共通開講科目」、「留学科目」、「セミナー科目」、「言語科目」、「専門基礎科目」(グローバル専攻のみ)、「専門発展科目」から構成されます。

「学部共通開講科目」は、所属する専攻を問わず必要性が高く学生の関心が強い分野の科目で、1年次前期の必修科目「留学セミナー」、「グローバル化入門」、「異文化理解」は、1年次後期から1年間留学する学生にとって必要な知識を身につける科目です。また、2年次後期からの選択科目には、主に学生のキャリアパスに関わる内容を扱う科目を配置してい

ます。

「留学科目」は、各専修言語の海外提携校で履修する科目です。1年次前期の必修科目「留学セミナー」、「グローバル化入門」、「異文化理解」に加え、集中語学学習で培った知識・技能を1年間の留学で確認し、さらに高めます。

「セミナー科目」は、留学修了から卒業までの期間を通して、少人数で指導を行う科目です。まず、帰国直後の必修科目「帰国後セミナー」によって留学体験を整理し、今後の学修の方向づけを行い、「セミナー1」、「セミナー2」、「セミナー3」で、専門分野で段階的に専門性を深化させ、「卒業プロジェクト」で研究成果を論文などの形にします。

「言語科目」は本学部の背骨となる科目で、グローバル専攻では英語を、東アジア専攻では中国語または韓国語を指します。「言語科目」学修の目的は、実践的運用能力を身につけることだけでなく、「セミナー科目」などでの研究の基盤とすることにあります。

「専門基礎科目」は「グローバル専攻」にのみ設置する科目です。留学修了後、上述した3つの「スタディーズ」の中から自分に合った分野を選択するための概論的科目群で、これらの科目をバランスよく履修することで、それぞれの「スタディーズ」の特徴を知ることができます。

「専門発展科目（グローバル専攻）」は、2年次までに修得した知識・技能、また留学で得られた異文化体験を基盤に、より専門性の高い学修を行うための科目で、「グローバル・スタディーズ」、「コミュニケーション・スタディーズ」、「アジアン・スタディーズ」それぞれの学問分野において基礎から専門まで段階的に科目を設置しています。

英語に比べ、中国語および韓国語の習得期間は短いため、「専門発展科目（東アジア専攻）」ではグローバル専攻にあるような「スタディーズ」は設けることはせず、その代わりに専修言語習得をさらに強化し、学生自らの関心や進路希望に基づいて選択した履修モデルに従い、体系的に科目を選択し、履修していきます。

#### 【その他の特色】

「国際学科」は文化の多様性だけでなく、垣根を越えた学問の多様性(academic diversity)も重んじます。学生は各自の専攻の中で「スタディーズ」または「コース」に所属し所定の科目を履修しますが、学問の興味、またはキャリア面での技能にとって必要であれば学問横断的に科目を履修することができます。

また「国際学科」はコミュニケーション能力のさらなる育成のために、1年次後期から1年間の留学に加え、他言語習得のための短期海外語学研修や海外インターンシップを奨励し、また有資格者には交換留学など、さらなる留学機会を提供します。

#### 【農学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

農学部では、本学の建学の精神と教育理念に沿って、「積極的なチャレンジ精神を持ち、心豊かで社会に貢献できる人材を育成する」ことを教育理念としています。

農学は、生物生産、生命、環境等に関する体系的知識を核とした総合科学であり、その研究領域は、農業生産を中心とする食糧生産に関する研究にとどまらず、農林水産物の二次、三次加工、健康、機能的食品の開発、医薬品への活用など人間の健康維持に関する研究、更には地球環境、地域環境、住環境を含む環境保全、管理、改善に関する研究など人間生活の衣、食、住のすべてを包括した範囲にまで拡大しています。このような背景を踏まえて、農学部では、社会的ニーズに対応した専門的知識と技術が修得でき、将来、暮らしに役立つ未来の技術の開発に積極的に取り組むことができるよう、講義科目と実験、実習、演習などの科目を有機的に連動させ、論理的並びに実践的側面を両立させる手法を取り入れた教育を行います。また、自ら問題を見出し、それを解決できる能力を高めることによって生命現象や地球環境などに対する深い理解を示し、豊かな倫理性・人間性を養うことにも取り組みます。地球レベルから分子レベルまでの幅広く展開する教育研究に加え、語学力やコミュニケーション力を高める教育を行い、グローバルな視野を持った実践的な人材を社会に送り出すことを目指します。

#### 【農業生産科学科の学習・教育目標】

農業生産科学科では、「安全・安心な農業生産、食糧問題、環境問題、生物のいやし効果、

およびアグリビジネスに関する知識を持ち、それらに関する問題を解決するための方法論や技術を修得するとともに、その力を応用し、新たに直面する可能性のある未知なる問題にも果敢に挑戦する人材を育成する」ことを教育目標としています。

農業生産の分野では「環境と健康に配慮した21世紀型農業の確立」が求められており、理論と実践の両面から教育・研究を進めることが必要です。具体的には生物多様性の保全と利用を念頭に置いた安全・安心な環境保全型農業、花など生物のいやし機能の利用、これからの農業を発展させるためのアグリビジネスへの展開を目的としています。

この目的のため農業生産科学科では、安全性に配慮した食糧生産技術、病虫害や生理障害に対する管理技術、収穫物の流通・販売・消費に関する問題、などについて基礎から応用まで知識を習得できる講義を実施しています。また、実験や実習にも多くの時間を割り当てることにより、実践能力をもつ人材を育成することも教育目標としています。

#### 【農業生産科学科のカリキュラム編成上の特色】

農業生産科学科の専門科目は、1年次から開講されており、4年次の卒業研究まで一貫して農業生産科学に関する専門性の高い知識の教育を展開しています。また、アグリビジネスマイスター資格取得の制度を設け、ビジネスモデルの構想能力や地域産業とのコーディネート能力を有する人材の育成に取り組んでいます。

1年次では、農業生産の基礎となる生物学、植物学、植物保護に関する基礎的な科目を学習します。また、実践的に農業生産科学を理解するための農学野外実習を実施し、実学的に理解するとともに農業生産科学に取り組む心構えを養っています

2年次では、学科を構成する各研究室の専門分野に関連する専門科目が開講されます。農業生産に関わる植物に関する植物の種類ごとの専門科目、栽培植物の保護に関する種々の病虫害や農薬利用に関する科目、アグリビジネスマイスターのコースに関連する種々の科目が開講されています。また実験科目として、農業生産科学に関係する幅広い基礎的な内容を実践的に理解するため、基礎生物学実験及び基礎化学実験を実施しています。

3年次では、1年及び2年次で修得した基礎知識をもとに、それぞれの専門分野でより高度な内容を含む専門性の高い科目を修得できるように講義科目を開講しています。さらに各専門分野に関する英語力を身につけるため、ゼミ形式の専門英語を開講しています。これらの専門的内容を実践的に理解し、4年次の卒業研究に必要な実験手法や機器の取り扱いについて、直接的な指導が受けられる農学専門実験を通年で実施しています。またアグリビジネスマイスターのコースではアグリビジネス実習を開講しています。

4年次では、3年次までに修得した知識や実験手法を活用して卒業研究に取り組み、同時にゼミ形式の専門演習において研究における問題解決能力を向上させます。すなわち、1年から3年次までに修得した知識や技術を十分に活用して卒業研究を完成させるカリキュラム構成になっています。

#### 【その他の特色】

農業生産科学科では、農業生産に関する基礎教育を基盤として、応用的な専門教育を広く学べることを特色にしています。分子生物学を応用した遺伝子工学技術、植物組織培養技術を利用した苗生産技術を習得できます。また実学的な分野では、交配による育種技術、減農薬栽培のための物理的、生物的病虫害防除技術を体験・習得できます。収穫物の流通については、トレーサビリティを含む流通管理技術や野菜や果実の保存の現場を体験することができます。さらに、附属農場実習として、マンゴーやミカンの栽培、収穫、販売を体験することができます。また、近隣の農業研究センターの見学も定期的実施しています。

#### 【水産学科の学習・教育目標】

水産学科では、「地球的視野から水域の食料生産と環境・生物について多面的に考える能力を持った人材を育成する」ことを教育目標としています。

海に囲まれた日本において、水産業は極めて重要な産業であり、時代を通じて高い発展を図る必要があります。農学部水産学科では、自然と調和した水産学を志向し、増養殖、漁業、水産物加工・流通業などの水域の食料生産に関わる分野から、水産業に密接に関わる水域生態系の評価・保護・改善・修復・共生などの環境保全まで、幅広い水に関わる分野の教育をおこないます。

具体的には、下記に示す内容を学習・教育の目標としており、水産学科のカリキュラムは、ここに示すA群からH群までの8つの柱に沿って、それぞれの基礎から専門性の高い内容まで、確実に学習できるよう配当しています。

- A群 科学知識の基礎を習得し、様々な生命活動を理解する
- B群 水域における多様な食料生産システムを地球的視野から理解し、応用できる
- C群 水域の環境保全の重要性を生物・環境の両面から認識し、多面的に考える
- D群 世界における水産資源の利用方法を修得し、その流通を含む食料問題への対応力を養う
- E群 学内外の諸施設を利用した実験・実習・見学により実践力を修得する
- F群 水産技術者として必要な世界観・倫理観を身につける
- G群 水産技術者として必要な論理的記述力、口頭発表力、コミュニケーション力を身につける
- H群 水産技術者として必要なデザイン能力・自主性・計画的遂行力を身につける

#### 【水産学科のカリキュラム編成上の特色】

農学部のカリキュラムは、学部共通である共通教養科目・専門基礎科目・外国語科目、そして学科ごとの専門科目から構成されています。

水産学科の専門科目は学習・教育目標に定めたA群からH群の項目を系統的に学習できるよう、それぞれ目標に沿ってAからHまでの内容別に科目が配当されています。例えば、A群1（生命科学系）では、『魚類生態学』や『魚類環境生理学』といった水域の生物学に関する基礎から専門性の高い内容まで合計12科目が開講され、学生はそれらの中から自分が興味を持つ6科目以上を選択することになっています。

また、実学である水産学を机上の学問とするのではなく、必ず現場における実践を意識するため、実験室レベルにおけるカリキュラムに加えて、養殖魚の生産・水産物の製造・流通などを体験・見学します。そのため、E群（学内外の諸施設を利用した実験・実習・見学により実践力を修得する）では多くの実験、実習科目が選択科目として開講されています。その例として、白浜実験場で実施する『養殖学基礎実習』や『水族環境学実験』、関西地方の漁業協同組合や魚市場に出かけて水産流通の現場について学ぶ『水産経済調査実習』などがあります。さらに『潜水技術論』や『小型船舶操縦法』といった、将来に向けたキャリア形成のための資格取得が可能な選択科目も開講されています。

#### 【その他の特色】

水産学科発足時にその母体となった近畿大学水産研究所は、和歌山県に白浜実験場や浦神実験場など4カ所、また富山県と鹿児島県にも各1カ所の実験場を持ち、我が国で現在行われている魚類養殖方法の多くを開発したフロンティア的存在です。水産学科の授業においても、水産研究所のフィールドや実験施設、宿泊施設を利用した多くの実験、実習科目を開講しています。このように大規模な飼育施設を備えた実験施設は、我が国は元より世界的にも類を見ず、学生達は恵まれた環境で実践的な教育を受けることが可能です。

#### 【応用生命化学科の学習・教育目標】

応用生命化学科では、「生物を化学的視点から理解し、豊かな未来を創造できる人材を育成する」ことを教育目標としています。

本学科では、化学の立場からライフサイエンスの知識と技術を習得し、食糧・生命・環境の分野で発生する「様々な課題を解決できる能力」を身につけ、より良い社会生活の実現に貢献できる技術者・研究者の育成を行い、国際的に活躍できる人材の養成を目的としています。

したがって、基礎学力から応用研究を行う実践的な能力までを確実に4年間で習得できるように講義を実施するとともに、実験や演習の時間を豊富に設け、知識・技術を確実に身につけることができるように配慮しています。また、これらの技術者に必要な情報処理や英語力の養成にも力を注いでいます。

これから深刻になる食糧・環境問題に対処するため、化学と生物学の基礎を体得した実践的な技術者がますます必要になっています。応用生命化学科では人間生活の質の向上のため、食糧、生命、環境を化学的な視点から解明し応用へと導き、未利用資源の利用と再生に関する

る教育、研究を行います。そのため、生命現象を化学的に理解し、高度な先進的技術を習得させ、基礎から応用まで幅広く学べることを特徴としています。

#### 【応用生命化学科のカリキュラム編成上の特色】

応用生命化学科では、1年次から全学年にわたって専門科目が配されており、学生は入学してから卒業するまで綿密に計画された一貫教育を受けることになります。

1年次では、主に専門科目を受ける上で必要となる基礎科目、語学能力の習得を目的とした科目ならびに「物理学実験」、「生物学実験Ⅰ」が配されています。

2年次からは、1年次で学んだ知識を基盤として化学系の専門科目、生物系の専門科目及び「化学実験Ⅰ」、「化学実験Ⅱ」、「生物学実験Ⅱ」、「生物学実験Ⅲ」が配置されています。また、ゼミ形式で少人数の専門英語の授業も始まります。

3年次では、専門科目の要素も濃くなり、また研究室への配属も決まり専門科目実験が配置されています。専門英語については興味ある英語の論文を読ませ、この内容を要約して各人が発表するカリキュラムも配置されています。これらは「卒業研究」や卒業後社会で通用するためのより実践的な知識を身につけるためです。

4年次では、「専門演習」と「卒業研究」を配し、学術的な研究を先生の的確な指導と、大学院生のサポートのもとに行います。英語の論文も積極的に読ませるようにし、未知の分野を研究することで、これまで学んだ専門知識や技術を遺憾なく発揮し、自力で問題を解決する訓練を行います。これによって、多くの困難を自分の力で解決できる専門職業人としての力を身につけることができます。

#### 【その他の特色】

応用生命化学科では、実学教育にも力を注ぐ観点から、2006年に学科独自で酒造免許を取得しました。これにより、2年次以降の学生実験では清酒やワイン、ビールの試醸実験、食用きのこ類の栽培実験、乳酸発酵によるヨーグルト、納豆菌による納豆の試作などを取り入れ、ものづくりの楽しさと、生物・微生物の行う発酵や形態形成の機能とその化学的なメカニズムの解明を行っています。

#### 【食品栄養学科の学習・教育目標】

食品栄養学科では、「人間の基本要素である食、栄養、健康に関する多様な問題に取り組み、人々の生活を豊かにできる人材を育成する」ことを教育目標としています。

超高齢社会に入り、生活習慣病が大きな社会問題となっております。生活習慣病を予防して、健康寿命を延ばすための施策がとられています。この計画で指導的な活躍が期待されているのが管理栄養士です。そのためには、より高度な専門知識と技術を習得した資質の高い管理栄養士の養成が求められています。食品栄養学科では、医学・薬学部を併設する数少ない管理栄養士養成施設として、特色ある実践教育を展開しています。医療、保健、教育、福祉などの現場で独自に高度な対人栄養指導ができ、病院などでは医師をはじめ専門スタッフと共に医療チームを構成して栄養管理が出来る管理栄養士を養成することを目標としています。

#### 【食品栄養学科のカリキュラム編成上の特色】

カリキュラムは基礎から専門へと積み上げ方式で編成されています。本学科のカリキュラムと教育の特色を下記に示します。

##### 1 臨床系を強化したカリキュラム

人体の基礎を理解する解剖学、生理学、栄養学等の基礎科目、現場での臨床・カウンセリング系科目及び医学部・病院での実習科目を多く取り入れたカリキュラムを設定。

##### 2 総合大学のメリットを最大限に活かした教育支援体制

医学部・病院、薬学部、経営学部等との連携で医学・医療・健康面の基礎から実践的な教育を実施。

##### 3 医学部・病院での充実した実習

解剖学実習（2年次）は近畿大学医学部の施設で、また実践的に学ぶ臨床栄養学実習Ⅱ（3年次）では一日病院体験を導入、臨地実習Ⅱ・Ⅲ（4年次）においては本学が擁する病院で実習を行っています。

##### 4 研究能力・情報収集能力育成の強化

資格取得だけでなく、研究やプレゼンテーションの能力も合わせもった管理栄養士を養成するため卒業研究や演習を設定、特に自主的に学び、問題解決能力を高めるための演習を充実。

#### 5 国家試験対策講座

管理栄養士になるためには「管理栄養士国家試験」に合格しなければなりません。卒業生全員の国家試験合格を目指して3年次から模擬試験を実施し、4年次には特別講義で国家試験対策と実力の強化をはかるとともに、個別指導も行なっています。

#### 6 少人数教育

本学科の学生は目的意識が明確であり、その上に実験・実習は1クラスおおむね40人単位で行なっているので、学生は極めて緊張感のある状況下で受講できます。

#### 【その他の特色】

1 職域に対応した多様な資格取得が出来るカリキュラムを準備しています。

(例) 栄養教諭、健康運動実践指導者、食品衛生管理者、食品衛生監視員

2 より高度な管理栄養士を目指すものは、本学農学部や他大学の大学院に進学しております。博士課程は医学部大学院に連動させて、医学博士の学位をもった管理栄養士を育成します。

3 学外実習では社会人としての振る舞いが要求されます。礼儀・作法は管理栄養士養成にとって大切な教育の1つであります。日常生活における基本的な礼儀作法と正しい言葉使いを徹底させることにも注意を払っています。その大切さを認識させるために各職域の現場の管理栄養士の生の声を聞かせる講演会も実施しています。

4 管理栄養士は、対人栄養指導を行ないます。そのためには、相手を思いやるころ、自身の品格を高めることも大切です。調理学実習の一環として、西洋料理（2年次）、日本料理（4年次）の本格的な食事の作法をホテル、レストラン、料亭の専門家から学ぶことも行なっています。

#### 【環境管理学科の学習・教育目標】

環境管理学科では、「グローバルな視点から、人間と生態系の共生を目指した、環境マネージメント能力を有する人材を育成する」ことを教育目標としています。

環境をめぐる問題は分野や地域を超えた総合的な問題であり、その軽減・克服のためには、従来にも増して総合的な視野を持つ専門家の育成が求められています。このような時代の要請に応え、人類社会の持続的な発展に貢献するために、この環境管理学科が発足しました。未来社会を創造する上で、あらゆる社会経済活動と自然環境との調和が不可欠です。本学科ではこの視点に立脚して、生物を指標とした環境や生態系の評価、その評価に基づく環境の保全と修復、資源の持続的な利用及びこれらを具体化するための政策立案にいたるまでの環境管理にかかわる一連の流れについて教育及び研究を行います。

環境管理学科の教育の特色は、環境管理に関する一連の知識を養うために、生態学を共通の基礎学問としつつ多様な専門分野の授業を行うとともに、問題解決のための手法を広く学ぶことができるように工夫している点にあります。1、2年次には、環境問題について広く学ぶとともに、生態系評価のため、動植物の調査方法について遺伝子レベルから景観レベルまで学びます。動植物をとりまく環境については、水圏や土壌圏における様々な物理条件の測定方法や化学分析手法について学びます。また、環境経済や環境関連の法律についても学ぶことができます。これらを組み合わせることで、環境の保全、修復、持続的な資源利用について提言できる人材の養成を目指します。理論だけでなく実践を重視しているため、1年次から4年次までを通した実験・実習では、キャンパス里山から沿岸環境までの多様なフィールド調査を行います。さらにワークショップなどによる社会調査演習を充実させているのも特徴です。知識の集積と野外での実体験の双方から、環境に関する情報収集力、GISや統計ソフトを用いた解析技術、政策実践力の習得が可能で、環境問題は国際的な問題であるため、一部の講義、演習で導入する英語による授業や海外調査・研修、短期留学制度を活用して英語力を身につける機会も設けています。

このように、確かな知識と技術力を身に付けることによって、環境問題にかかわる技術者、研究者、政策担当者、企業人、NPO等の関係者として国際的に活躍できる広い視野を持つ

た人材を養成することを目標としています。

#### 【環境管理学科のカリキュラム編成上の特色】

環境管理学科の専門科目は、1年次から4年次まで全学年にわたって配置されており、学生は入学してから卒業するまで綿密に検討された一貫教育を受けることができます。環境管理学科では、実験室における環境測定・評価技術や統計処理法の習得と、フィールドにおける観察や実習の双方を重視していることが特色です。なぜならば、環境問題は多岐にわたるレベルを包括しており、また一つの側面からだけでは解決できない問題だからです。

1年次では生態学や環境管理に関わる専門科目について広く学ぶとともに、後期には環境管理学基礎実験・実習Ⅰが行われ、近畿大学奈良キャンパスの里山を中心としたフィールドで環境測定技術の基礎を習得し、身近な生態系の仕組みや生物多様性の理解に努めています。

2年次では、水環境学、植物生態学、環境微生物学、環境ビジネス学など、幅広い専門科目の選択肢の中から自分の興味に応じて講義を選択することができます。講義に加え環境管理学基礎実験・実習Ⅱを通して、さらに専門的な環境測定技術の習得に努めます。

3年次からは、里山生態学、水圏生態学、保全生態学、環境化学、森林資源学、国際開発・環境学、環境政策学の7研究室のいずれかに配属され、専門科目を学びながら研究室のゼミで卒業研究に向けた準備を開始します。また、研究を進めるために必要な英語力を培うため専門英語の授業も開始され、英語論文の読解や英語での発表などが行われます。

4年次では、学生生活4年間の集大成である卒業研究を中心に取り組みます。大学内の里山を含め、国内外を問わず学生一人一人がテーマを持って卒業研究を進めます。学生によっては卒業前に学会発表を行います。

奈良キャンパスの里山には、各種絶滅危惧生物をはじめ、多様な生物が生息しています。環境管理学科では、この里山環境を最大限に活用して卒業研究や実習に取り組んでいるのも大きな特色です。棚田の修復や里山林の下刈り、間伐等の実習により里山と人間社会との関係を深く理解するだけでなく、こうした体験や技術は海外での調査、研究、指導にも役立つことが実証されつつあります。キャンパス内に豊かな里山が存在することは、特に環境管理学科の教育、研究において多大な効果を与えています。

#### 【その他の特色】

国際的な環境問題、食料問題の実情を体験することを目的として、「海外調査・研修」を実施しています。また、さまざまな環境問題の特性に対応できるよう、複数の教員による「環境管理学概論」や現場での実務経験者による「自然保護論」を開講し、社会的な関心の強い問題や時代の先端を切り開くような先進的な取り組みを学びます。

#### 【生物機能科学科の学習・教育研究目標】

生物機能科学科では、「未来を拓く最先端バイオ技術で、世界の食料、環境、アグリバイオ分野をリードする人材を育成する」ことを教育目標としています。

近年のバイオテクノロジーの進歩はとどまるところを知らず、日進月歩の勢いで新しい知見が生み出されています。その上、新しい技術や方法論が開発され、ITやナノテクなどを始めとする工学的な技術革新も近年のバイオテクノロジーに大きな影響を及ぼしています。本学部生物機能科学科は、このようなバイオの世界の多次元の変化に対応しながら、国際的な競争力をもつ、最先端バイオサイエンス教育、研究を行う学科として設置されています。本学科では、生物科学の諸問題あるいは食糧・環境・生命といった問題を、幅広い視野に立って理解でき、独創的なフロンティア精神とリサーチマインドを兼ね備えた学生を養成します。また、最先端バイオサイエンスの基礎から農学への応用・実用化までを取り入れた一貫教育・研究システムにより、21世紀の日本バイオ産業を興隆し、実践的なバイオテクノロジー技術を習得した技術、研究者を養成します。新しい知見や技術をなるべく早い段階で導入していくために、他の先端技術研究機関との連携を強め、常に外に向かったオープンな特色をもつ学科として教育研究を行っています。さらに、自然科学的知識だけではなく、アグリバイオ技術の実用化に必要な社会的知識、バイオビジネスなどに関する教育、また英語能力の向上のための教育を強化し、地域産業のみならず世界に通用する人材の育成を目指します。

#### 【生物機能科学科のカリキュラム編成上の特色】

1年次では、生物学基礎、化学基礎、物理学など、それぞれの学問分野を全体的に概観す

る科目を履修し、入学以前に該当科目を学んだ経験のない学生が、それ以降の専門科目を支障なく学習できるように準備します。基礎知識の修得は、細胞生物学、分子生物学、動物発生学、生物化学Ⅰ、植物生理学基礎、有機化学Ⅰなどの専門基礎科目から始まっていきます。これらの科目は、2年次以降に配されている展開科目を履修する上で欠かすことのできない基礎知識を提供するものとなっています。1年次に組み込まれている物理学実験及び生物有機化学実験の二つの実験科目も、これらの基礎知識を補足するものとして重要な科目です。さらに、少人数でのゼミ形式での授業（基礎ゼミ）を実施し、双方向的な討議を通して、口頭発表や質疑応答の方法について習得します。

2年次からは本格的な専門的基礎知識の習得に力を注ぐこととなります。まず、総合的な専門基礎知識を得ることを目的として、生物化学Ⅱ、有機化学Ⅱ、生体物理化学、分子遺伝学、動物発生学などの科目を修得します。実験科目としては、細胞工学実験及び遺伝子工学実験を通して基礎知識を深めていきます。さらに2年次後半からは、いよいよ専門知識の中にも応用的な側面がかなり含められるようになります。本学科は生命科学に関する最先端の知識や技術を学び、「医療」、「創薬」、「食糧」、「エネルギー」などの分野から構成されており、それぞれの分野で特異的ないくつかの講義科目を準備しています。これらの科目は3年次後半に至るまで順次開講されていくこととなります。各分野の研究に必要な実験技術は、バイオサイエンス専門実験Ⅰで2年次後半に学ぶこととなります。

3年次には、バイオビジネス論、バイオビジネス実習、アグリバイオ実習の特徴的な科目が配されています。これらの科目は、生産業としてのバイオサイエンスを講義として、さらには野外にて学ぶことを旨としています。自然科学的知識だけでは、バイオサイエンス技術の実用化は不可能であり、それにふさわしい社会的知識をも修得させ、総合的な知識をもつバイオサイエンス技術者の養成に取り組みます。また、3年次からは上で述べた四つの分野の各研究室に正式に配属されることになり、バイオサイエンス専門実験Ⅱ及びⅢ（それぞれ1単位ずつ）を通して、各研究室ごとに専門的な技術を学んでいくこととなります。各研究室への配属後は、専門英語Ⅰ、Ⅱ（3年次）や専門演習Ⅰ、Ⅱ（4年次）を通して、バイオサイエンス関連英語の理解力の向上が図られ、研究論文の読み方、書き方、さらにはプレゼンテーション能力の向上をも目指します。

4年次においては、各研究室に配属された学生に対して、卒業研究のテーマが割り当てられ、各学生が当該研究室の教員の指導の下に研究を遂行していくこととなります。

#### 【その他の特色】

3年次以降、特別講義を開講し、学内外の先端技術研究機関より講師を招聘し、最先端の研究成果や方法を学ぶ機会とします。また、本学科カリキュラムの中には、バイオサイエンス研究に必要なコンピュータ技術を学ぶ実習（バイオインフォマティクス演習）が組み込まれており、バイオサイエンス関連の実用英語やIT関連技術も学べるように工夫しています。さらに、細胞（動物、植物、微生物）や哺乳類の受精卵の培養技術を習得させ、先端的バイオ関連機器を習熟させ、高度な研究の機会を学生に提供します。

#### 【医学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

本学の建学の精神と教育の目的に沿って、医学部の教育研究の理念・目的を「人間性豊かで知識、技能に優れた医師を育成します。さらに研究や診療を通じ、医学の進歩に貢献し、豊かで健康な社会の創生に寄与する」としています。

医師は直接人命を預かる職業ゆえに、高度な専門知識や技術とともに、高い人間性と道徳的責任感が要求されます。診療には高度の医学的知識と医療技術の修得が要求されますが、高度に進歩し、情報量の極めて多くなった知識・技能は必要最低限を把握するだけでも至難であり、しかも現時点での最新・最高の知識でも時間の経過とともに時代遅れになるのは必ず至ります。ここに医師を目指す者が基礎的な知識・技能の習得と同時に、自ら問題を解決する能力の養成が求められる理由があります。

#### 【医学部の学習・教育目標】

上記医学部の理念・目的と現代社会の多様な期待に応えるため、本学部の学習・教育目標として医師の養成、高度先進医療を提供する特定機能病院としての機能の維持、健康な社

会の創生に寄与する医学研究者の育成を掲げています。

具体的な学習・教育目標を次に列挙します。

1 近畿大学医学部の社会的評価の向上。

- (1) 社会が求め、学生が満足する教育を施行することにより、医師としての高い評価を得る卒業生を可及的多数送り出す。
- (2) 基礎系教授懇談会や教授会の議論を多くして、また少人数制の責任指導教員の活動を通して、良き医師になるための全人的教育の機会を増やす。
- (3) 小人数の学生を担当する指導教員制度を通じ学生の生活習慣を良好にし、自学自習の意識を高め、良き臨床医として社会で貢献出来る学生を輩出する。
- (4) 本学卒業生のみならず他大学卒業生も可及的多く、本学部・病院の大学院生や研修医を希望するような教育・診療・研究実績を作る。

2 臨床実習の教育を充実させ、地域中核病院として、医療を社会に還元するため、高度先進医療を実施する。

3 教育・診療を十分に行いながら、COEクラスの研究を育てる環境を作る。

【医学科カリキュラムの編成上の特色】

医学部は、本学の建学の精神と教育の目的に沿って、しかも「21世紀にあるべき医学部像」を探求し、先取している点が本学部の長所です。すなわち学生が自ら問題点を探し出し、解決する能力を養成すべく、early exposureとして1年次では外来患者さんのエスコートなどを中心とした病院実習を行い、また2年次では看護師とともに病棟での病院実習を行って、良き医師になるための動機付けを行っています。また、医学情報の飛躍的な増加に対応すべく、学生が主体的に問題意識をもって学習するテュートリアルシステムを医学教育全般に導入しているところに本学部の教育カリキュラムの特徴があります。

また、全人的教育を目指して、生命倫理やコミュニケーション、医療安全などプロフェッショナルリズム教育を複数年にまたがり実施するところも本学部のカリキュラムの長所です。地域医療教育として1年次には学外施設実習、5年次と6年次に和歌山県串本町で地域密着型地域医療教育（平成17年度文部科学省医療人GP採用）を実施しています。

具体的なカリキュラムは1年次の教養教育、準備教育を経て、2～6年次の医学専門教育に移行しますが、2～4年次では自律的に獲得する問題基盤型テュートリアルを中心として教育し、5～6年次で臨床の現場で患者さんの診療を基盤とした診療参加型臨床実習を行います。また、2～4年次に臨床実習入門のためのコースを設け、シミュレーションラボを活用しながらワークショップも取り入れ、臨床の場で役立つようカリキュラムを編成しています。その結果、

- 1 医師に必要な基礎的な知識・技能の習得
- 2 自ら問題を解決する積極的な学習態度の養成
- 3 広い学問的視野の育成
- 4 奉仕の心と協調精神の涵養
- 5 豊かな人間性と高邁な倫理観・責任感の養育

という5大教育目標に到達出来るよう、6年間に開講されている多くの授業科目に分散しつつ、最終的に臨床実習を通して体系化出来るカリキュラムとなっています。

【生物理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

(1) 教育理念：

生物理工学部は、生物系と理工学系の伝統的な科学・技術に裏打ちされた学際的な先端学術分野に係わる未来志向の教育と研究を通じて、高度な専門能力、豊かな教養に基づく独創的な創造力、そして高い倫理観と自主独往の精神を兼ね備えた人格の陶冶を理念とし、地域及び国際社会との連携や人類社会の福祉と持続的発展に貢献できる人材の育成を目指します。

(2) 教育目的：

生物理工学部は、次に示す人材の育成を教育目的として、教育研究に邁進します。

- 1 生物学と理工学の融合的あるいは学際的研究を基盤に、人類の発展に貢献できる独創性と創造性を備えた人材

- 2 最先端の学問研究を果敢に追及し、21世紀の課題の解決を志す人材
- 3 社会や科学技術に対して高い倫理観を有する人材
- 4 自然との共存・共生を目指した持続的可能な人類社会の発展に貢献できる人材
- 5 実践的語学力を有し、国際的な視野と教養が涵養された人材

#### 【生物工学科の学習・教育目標】

生物工学科では、人間をとりまく有用な生物、とくに植物や微生物を対象として、それらが示すさまざまな生命現象を、分子・細胞から個体・集団のレベルにわたる幅広い視点から理解するための教育を行い、生物学的手法に工学的手法を取り入れた、最新のバイオテクノロジーに対応できる技術者と研究者を育成するために、次の5項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

- 1 特定の生物学的分野に関する深い知識はもちろん、情報処理やシステム制御などの工学的手法をもとり入れた分野横断的な視野をもつ人材を育成する。
- 2 人類にとっての最大課題である食糧増産、人間の医療や福祉への貢献、種々の環境問題に対する生物学的対処などの地球規模の重要な課題解決を志向する人材を育成する。
- 3 社会的観点から、生物工学的技術のあり方と価値を適切にとらえる能力を涵養する人材を育成する。
- 4 長期的かつグローバルな視野をもち、様々な状況に適応できる人材を育成する。
- 5 世界からの情報の収集および世界へ向けての発信などを遂行できる能力をもつ人材を育成する。

#### 【生物工学科カリキュラム編成上の特色】

上記の目標達成にむけて、1年生ではまず生物に対する興味や関心を喚起するため、多様な分野における現状と展望を概括します。これに基づき、生物工学における共通した手法、基盤となる専門科目、さらに各種の実験や実習を、1～2年生より履修します。さらに専門性を深めるために、3年生から生物工学の幅広い分野をカバーする研究室へと分属し、専攻科目演習や4年生での卒業研究論文作成に臨みます。

本学科では、核酸・タンパク質等の生体物質の解析から生物生産技術開発・環境工学等にわたる、幅広い生命現象の分子的基础およびその活用技術を学びます。このように、広い入り口から深い出口へと進むことのできるのが、本学科におけるカリキュラムの特色です。

#### 【生物工学科の教育におけるその他の特色】

本学科を卒業した学生の約3割は、大学院へと進学し、専門的能力をさらに研鑽しています。主たる進学先である近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻は、平成14年度文部科学省「21世紀COEプログラム」、平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択されています。

その他の進路としては、食品、医薬品関連企業や、種苗会社、農業協同組合などの農業生産関連分野等があげられます。

#### 【食品安全工学科の学習・教育目標】

食品安全工学科では、「食」を科学的・工学的知見に基づいた概念で捉えた教育を行います。「食」を安全で機能的に優れたものにするための知識と技術を身に付け、それらを食産業社会に還元できる実践的な技術者と研究者を育成のために、次の5項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

- 1 生命科学を基盤とした基礎的な教育研究から、生命工学を基盤とした応用化・実用化およびイノベーションの創出までを視野に入れた実学的な知識を身に付けた人材を育成する。
- 2 食に関する情報を科学的に評価して、工学的に応用できる人材を育成する。
- 3 食品の生産、加工、流通、保存過程の安全性や生産現場の環境保全など食全般の安全管理にエンジニアリングの視点から携わる人材を育成する。
- 4 食に関わる生理や機能解析を基に食品と人間の健康との関連付けを食品工業に応用できる人材を育成する。
- 5 食品産業の企業倫理と生命倫理を正しく理解し、責任を持って行動できる人材を育成する。

#### 【食品安全工学科のカリキュラム編成上の特色】

食品産業の研究者・技術者、食品衛生関連の指導者・コミュニケーター、国・地方の行政官など食の安全の分野の専門家を育成するコースは、欧米の大学には見られるものの、アジア諸国を含めて世界的にその専門家は不足しています。食品安全工学科では、食品の生産、加工、流通、保存過程の安全性や生産現場の環境保全など食全般の安全管理にエンジニアリングの視点から携わる人材、および、食に関わる生理や機能解析を基に食品と人間の健康との関連付けを食品工業に応用できる人材の育成を目的としています。分野が広範囲にわたるため、カリキュラムは基幹専門科目を食品機能工学、食生産環境、食品管理評価、応用生命工学の4ブロックに分け、それぞれ年次が進むに従い、基礎から応用へとなるよう科目を配置し、無理なく知識を広め、深めることができるようにしています。専門科目には、生物工学科や遺伝子工学科の開講科目を一部取り込み、生物資源利用や生命科学の知識や情報を得られるようにしています。また、食の安全の時代性をより深く考慮した講義科目に加え、食の工学研究に必要かつ基本的な実験手法を修得する実験科目、ならびに、世界的に通用する実践力を養うために英語教材を用いた演習科目を設けています。さらに、食品加工現場での衛生管理者として、食品産業界で注目されるHACCP管理者の資格取得のためのカリキュラムも加え、学生の勉学意欲向上と実践者の育成を図ります。

#### 【食品安全工学科の教育におけるその他の特色】

食品基礎、食生産環境、食品管理評価、食品機能工学および生命機能工学を中心とした各専門分野をカバーする教育プログラムを充実させ、生産現場（食素材）から食卓（食品）に至る「食」の安全性と機能性を高めることを目的に、分子生物学、生化学、安全学などの科学科目と、保全工学、微生物工学および機能工学などの工学科目を基にした教育と研究を実施します。本学科は、近畿大学21世紀COEプログラム研究拠点となった大学院生物理工学研究科の生命科学の基盤を踏襲し、世界に通用する「食」のテクノロジストの育成を実施することから、中央教育審議会で提言された高等教育の多様な機能のうち、世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を重点的に担う学科を目指します。

#### 【遺伝子工学科の学習・教育目標】

遺伝子工学科は、遺伝子工学の技術を人類に役立てるために、分子生物学的手法を用いて遺伝子と生命の多面的・総合的な探求を行い、食物生産、医療、環境などの分野で貢献できる技術者や研究者を育成するために、次の5項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

- 1 遺伝子工学の科学的発展に寄与するため、生物学と理工学の融合的あるいは学際的研究を基盤にした教養を身に付け、独創性と創造性を備えた人材を育成する。
- 2 生命を総合的に理解して、遺伝子工学の最先端研究に挑戦することで、21世紀の課題である食糧・医療・環境問題の解決を志す人材を育成する。
- 3 遺伝子工学の技術と利用において高い倫理観を有する人材を育成する。
- 4 遺伝子工学に基づく生命理解の深化から、自然との共存・共生を図った持続的可能な人類社会の発展に貢献する人材を育成する。
- 5 世界中で開発競争されている遺伝子工学の分野で、実践的語学力を有し、国際的な視野と教養が涵養された人材を育成する。

#### 【遺伝子工学科カリキュラム編成上の特色】

本学科には、分子遺伝学、発生遺伝子工学、分子発生工学、分子情報解析学、応用遺伝子工学の研究部門があり、分子・細胞・組織・個体各レベルで生命現象を総合的に理解するための講義を行います。さらに、遺伝子工学科は、多くの教育研究プログラムを通じて、柔軟な思考を兼ね備えた世界で活躍できる研究者・技術者の育成を行っています。

#### 【遺伝子工学科の教育におけるその他の特色】

本学科では、3年生後期から各研究室に所属し、4年生より卒業研究が始まります。学生たちは、教員や大学院生の親身な指導を受けながら、最先端のテーマに取り組みます。卒業後は、民間企業への就職のみならず、多くの学生が大学院に進学し、研究者・技術者としての道を歩んでいます。なお、主たる進学先である近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻は、平成14年度文部科学省「21世紀COEプログラム」、平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択されています。

### 【システム生命科学科の学習・教育目標】

システム生命科学科では、通信・システム・情報科学を基盤にして、ミクロな生命情報からマクロな生体システムまで統合的に理解すること、生物の優れた構造や情報処理機能を通信・システム・情報科学分野に応用すること、さらにこの成果を「健康・医療」などの人間生活に直結する分野に応用、還元することを目標とし、人と環境に優しい技術者や研究者を育成するために、次の5項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

- 1 生命の「仕組み」と生体としての「営み」を、通信・システム・情報科学を基盤にして統合的に解明し、これを工学分野に応用して、新たな科学技術を創成し得る人材を育成する。
- 2 通信・システム・情報科学を基盤に、生物から学んだ知見を取り入れて、将来生じるであろう未知の課題に対して積極的に対応し、解決ができる人材を育成する。
- 3 高度情報化及びポストゲノム時代に対応でき、技術力に裏付けられた高い倫理観を持った通信・システム・情報科学に関する技術者を育成する。
- 4 1の成果を利用し、「健康・医療」、「福祉」、「環境」、「安全」をキーワードとする分野に応用、還元することを目標とし、人と環境に優しい技術者や研究者を育成する。
- 5 国際的に目覚ましく発展する、生命科学及び通信・システム・情報科学の理解に必要な、読解力と論理的思考力を有する人材を育成する。

### 【システム生命科学科カリキュラム編成上の特色】

通信・システム・情報科学を基礎に数学・統計学、生体工学、感性工学、分子生物学、脳・神経生理学などを横断的に学び、これらを統合したシステム生命科学に到達すべく、教育課程を編成しています。

数学や物理が主体の専門基礎科目の上に通信・システム・情報科学に関する専門科目を積み上げ、さらに2年生から先端専門科目を用意し、個別指導体制の充実を図っています。実技を磨くための実験や実習・演習科目も多く、また、企業や他大学から招かれた講師による先端技術に関する特別な講義も用意されています。

「生命」の全体像を統合して扱う知識と技術を幅広く学修するため、専門科目では「学科基礎科目」を中心に、以下の2つの科目群が設けられています。

#### ○ 生命情報科目群

通信・システム・情報科学を基盤に、DNA、RNA、タンパク質などのミクロな生命情報を単に配列情報として扱うだけでなく、コンピュータシミュレーション技術を駆使して、そのダイナミクスをシステム論的に捉えるための知識と技術を学修します。

#### ○ 生体システム科目群

視覚・聴覚などの五感や、脳波・心電・筋電などのマクロな生体情報から生体システムを理解するための知識と技術を、通信・システム・情報科学の観点から学修します。

### 【システム生命科学科の教育におけるその他の特色】

本学科のカリキュラム編成はITパスポート、基本情報技術者、バイオインフォマティクス技術者などの資格の取得にも結びつきます。また、通信・システム・情報科学を基礎に、生命情報科目群や生体システム科目群を体系的に学び、「生命」の全体像を統合して捉えるためのカリキュラム編成であるため、医療・バイオ情報系企業への就職はもちろんのこと、日本の基幹産業である情報・電子・電気系企業を中心とした技術職への就職も拓けています。大学院への進学の道も用意されており、より先端的な研究に取り組むこともできます。

### 【人間環境デザイン工学科の学習・教育目標】

人間環境デザイン工学科では、人の身体寸法や形状、生理的な反応や変化、心理的な感情の変化、人の生活空間・生活環境を研究し、その結果を人と環境にやさしいモノづくりに活用するユニバーサルデザイン技術を修得する。人間生活の質（QOL）の向上を目的とした生活関連プロダクトのデザイン分野で貢献する技術者や技術コーディネーターを育成するために、次の5項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

- 1 人間科学、医療・福祉工学、環境科学、力学に関係した分野横断的な教育研究を通じて、より豊かな人間生活を支援するための工学技術に貢献できる学際領域のマインドを有した人材を育成する。

- 2 科学的根拠に基づく設計規範に立脚したユニバーサルデザイン技術を追究して、21世紀の福祉・ユニバーサル社会の構築に寄与できる人材を育成する。
- 3 技術者倫理のみならず医療・福祉に対する高い倫理観を有する人材を育成する。
- 4 環境負荷の低減を前提とする生活関連プロダクトのユニバーサルデザインを通じて、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成する。
- 5 国際的な視野と教養を有するグローバルエンジニアとなり得る人材を育成する。

#### 【人間環境デザイン工学科カリキュラム編成上の特色】

少子高齢化社会を迎えた21世紀において、すべての人々が安心して自立した日常生活及び社会生活を送るため、人間生活の快適性や健康と結びつくプロダクトから医療・福祉に関連する生活支援プロダクトまで、人間生活の質（QOL）の向上を目的とした生活関連プロダクトのデザイン能力養成を目的に、以下に示す4系列の科目群を分野横断的に学び、ユニバーサルデザインの心と技術を身につけます。

##### ○ 人間科学系

人間医工学、感性や心理学、スポーツ科学といった人間科学の基礎学理を学び、生活関連プロダクトの使い心地を設計規範に取り込む技術を学びます。

##### ○ 機械科学系

材料力学、熱力学、流れ学といった生活関連機器設計のための工学の基礎を学び、高機能プロダクトを設計する能力を養います。

##### ○ 住環境科学系

生活環境における快適性や人間生活と自然環境との共生を学び、生活環境および地球環境に配慮した生活関連プロダクトの機能と構造をデザインする能力を養います。

##### ○ ユニバーサルデザイン系

人間工学や福祉機器デザインの技術を学び、人間・生活支援に関連したプロダクトをプランニング・開発する能力を養います。

#### 【人間環境デザイン工学科の教育におけるその他の特徴】

ユニバーサルデザイン技術の修得は、認定人間工学専門家、福祉情報技術コーディネーター、住環境コーディネーター、3次元CAD利用技術者等の資格取得にも結びつくため、自動車、家電製品、住宅、スポーツ・健康器具、医療・福祉機器といった生活関連プロダクトの開発・設計技術者やプロダクトのユニバーサルデザインを企画する技術コーディネーターとして幅広い進路選択の可能性を有しています。工学系および医療・福祉工学系の大学院への進学も可能です。

#### 【医用工学科の学習・教育目標】

医用工学科では、電気電子工学、制御工学、機械工学の専門知識や技術ならびに医学に関する幅広い知識を習得することで、医療福祉分野における科学技術の発展に貢献する、創造性と研究能力を兼ね備え、豊かな教養と高い倫理観を持つ臨床工学技士や技術者を育成するために、次の5項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

- 1 工学の専門知識と医学の基礎知識を備え、医療機器の開発を担うことのできるメディカルエンジニアを育成する。
- 2 高度な技術と専門知識に裏打ちされ、チーム医療に不可欠なコミュニケーション能力を備えた生命維持管理装置の専門家を育成する。
- 3 豊かな学識と優れた人間性を備え、生命に対する高い倫理観が涵養された医療従事者を育成する。
- 4 医療機器の操作や保守管理にとどまらず、その動作原理を熟知し、深い工学的素養を身に付けた医療従事者として、高齢化社会における人間生活の質的向上に貢献できる人材を育成する。
- 5 科学的な思考力と自発的に問題を解決する能力とともに、国際的視野や感覚を身に付けた、グローバルに進化する医療技術に対応できる人材を育成する。

#### 【医用工学科カリキュラム編成上の特色】

工学と医学の融合領域における広い視野を身につけ、新しい医療技術の開発を可能にする科学的思考力を養う教育を行います。特に、臨床工学技士の資格取得に留まらない高度な専

門知識を有する人材を育成するという観点から、専門基礎科目で学習した知識を、演習・実習を通してより深く理解することを目指します。また、4年次に実施する臨床実習は、医学部・病院などの学部外の医療機関において実施し、臨床現場で必要とされる実践的かつ総合的な知識や技術を修得します。一方、生命倫理に関する科目は全ての学生に必修とし、医療従事者に必要な倫理観を涵養します。

#### 【医用工学科の教育におけるその他の特色】

本学科では、卒業に必要な単位に加え、所定の科目を修得すると「臨床工学技士」の国家試験の受験資格を得ることができます。将来の国家試験を見据えて、3年次までに、医用生体工学の基礎知識を有することを認定する第2種ME技術者（日本生体医工学会認定資格）の資格取得を目指します。さらに4年次には、臨床工学特別演習で医療チームの一員として活躍する際に重要となる、様々な角度から問題を検討・解決できる能力を養成します。卒業後は、最先端医療機器の開発に貢献できる技術者として医療機関や医療機器メーカーなどで活躍します。また、大学院に進学し、修士号または博士号を取得することで、教育、研究機関にも就職することが可能になります。

#### 【工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

グローバル化が進み変革を余儀なくされている高度情報化社会にあって、技術者には、即戦力となる知性と技術に加え、良心と感性をもった付加価値の高い21世紀型の人材が求められています。

工学部では、本学の建学の精神と教育理念を旨として、そのような時代の要請に応えるべく、次の3つの教育目標

- 1 高い人格と倫理観を持つ人材の養成（人間性）
- 2 技術者としての専門的能力の涵養（専門性）
- 3 国際化時代を生き抜く力の養成（国際性）

を掲げて、長期的な視野で社会や技術の変化に対応し、持続可能な社会を実現できる技術者・研究者の育成を目指します。

そのために、工学部では、以下のカリキュラムを編成しています。

- (1) 人間・文化・社会・自然・環境・健康等、多方面にわたる科目を配置して、人間尊重と公共性の意識、国際的感覚、論理的思考力と課題設定・問題解決力、自己表現力とコミュニケーション力等をバランスよく育成し、幅広く調和のとれた豊かな教養と人間性を涵養します。
- (2) 基礎教育・外国語科目：習熟度別英語クラス編成により基礎学力を徹底して身につけさせるとともに、系統的な科目配置とバランスのよい講義、演習、補習等の実施により、異文化への関心、実践的な語学力及び国際的視野を身につけさせ、国際性を育成します。
- (3) 専門教育科目：分野及びレベルごとに階層化した専門基礎科目群と専門科目群、さらに分野間を繋ぐ科目群を系統的に配置し、幅広く応用可能な専門能力を身につけさせます。創成的内容を取り入れた演習・実験・実習と研究室での産学連携の共同研究等から、産業界に貢献できる実践的な専門性を育成します。
- (4) 特修プログラム：「情報技術」、「教育学」、「教職課程」、「国際経営」の4つの特修プログラムを編成し、学際的な視野を育成します。

これらのカリキュラムを通して、卒業時には、ア 高い人格と倫理観とともに、専門分野の知識を基礎として、専門領域を超えて課題解決に取り組む姿勢、イ 技術者・研究者としての専門的能力を生かして、持続可能な社会を目指すための課題を発見・分析・解決する能力、ウ 表現力、論理的思考力、コミュニケーション力、さらには幅広い知識を活用して国際的視点に立って行動する能力、といった資質を身につけることができます。

#### 【化学生命工学科の学習・教育目標】

化学生命工学科では、持続可能な社会の構築と健全で快適な生活の維持と促進に貢献できる技術者・研究者として必要な高い倫理観（人間性）、生命工学、環境化学、食品科学等の専門能力（専門性）及びこれらを活用して国際的問題を洞察する力（国際性）を育成します。

豊かな人間性と国際性を備え、判断力や指導力を発揮し社会に貢献できる人材を育成します。そのために、

- 1 地球と人を思いやる豊かな感性と高い倫理観を養成します。
- 2 国際的に通じる、筋道を立てて表現できる能力を養成します。
- 3 問題を提起しそれを解決するために行動できる能力を養成します。
- 4 生命科学や化学の基礎知識を持ち専門知識を活用できる能力を養成します。
- 5 化学、生命工学、環境化学、食品科学の知識や技術を総合的に養成します。

化学と生命科学分野を融合した「ものづくり」の観点から、豊かで健全かつ快適な持続成長可能な社会構築を実現するために、(1) 機能性素材、副作用の少ない医薬品、機能性食品の開発、(2) 健康維持のための食の安全・安定供給の確保、(3) 限りある資源の有効な活用と再生可能な資源の利用、(4) 環境保全のための環境分析に関連した教育・研究に取り組みます。

#### 【化学生命工学科カリキュラム編成上の特色】

化学生命工学科のカリキュラムは、化学、生命工学、環境化学、食品科学の知識や技術を総合的に身につけ、持続成長可能な社会を実現するための技術を修得できるように編成されています。1・2学年には総合科目、工学基礎及び化学と生命科学の基礎全般を学修するための専門基礎科目を、3学年には生物工学、環境化学、食品科学の専門知識や技術を養成するための専門科目を設けています。また、現在の社会で必要とされる技術者・研究者としての高い倫理観と国際性（教養・コミュニケーション能力）を4年間を通じて継続的に身につける科目を設けています。

化学生命工学科では、相互に深い関連を持つ以下の3つのコースを設置し、学習分野を明確にしています。

生物化学コース（J A B E E 認定コース 2006年度より継続）

化学、生命科学及びその複合領域の専門科目を縦断的に学び、その知識を複合的に応用し問題を解決する能力を身につけます。

環境化学コース

自由度の高い科目選択の特長を活かし、生物工学、化学、環境化学、食品科学等の専門分野を修得し、専門的な分野の基礎的知識と応用力を身につけます。

食品科学コース

食品成分の構造や性質について学び、食品の製造、衛生、機能に関する知識と応用力を身につけます。

#### 【機械工学科の学習・教育目標】

機械工学科では、機械工学の基礎知識を足場にした「ものづくり」のできる能力、国際化時代を生き抜く行動力と倫理観を持つ機械技術者を育成することを目指しています。そのため、まず、人文社会や自然科学からなる基礎教育プログラムを学修することにより、社会に貢献できる幅広い視野と倫理観を身につけることを目標にしています。また、外国語科目や専門科目を学修することにより、国際化時代を生き抜く能力を養成します。そして、機械技術者として国際的に活躍するために必要な機械工学の基礎知識と設計や生産に関する専門教育プログラムを学修することにより、機械工学の基礎に立脚した「ものづくり」のできる能力を修得していきます。特に、設計製図に重点を置き、「ものづくり」の基礎となる実学を通して、設計に関する論理的な考え方や「ものづくり」において重要な材料とその加工技術に関する深い知識と力学的思考に基づく応用力を身につけることを目指しています。これらを通して、問題を発見して、それらを解決する能力と、設計能力を備えた国際性豊かな機械技術者の育成を目標としています。

#### 【機械工学科のカリキュラム編成上の特色】

機械と人間の共存することに立脚した機械の設計に対する考え方が重要になってきます。さらに、環境にやさしいエネルギーによって機械を稼働させることなど、これからの機械技術者にはインフラの整備も含めた多くの課題が提示されます。このような現状を考慮し、機械工学の基礎学問と設計に関する専門知識を広く学び、かつ、設計製図に重点をおいて能力を養成していきます。また、「ものづくり」の基本となる実験や実習を通して設計に関する

思想や技術が身につけられるように、カリキュラムは構成されています。さらに、機械とエネルギーの関連性を考慮した深い知識と考察力や応用力を身につけることができ、幅広く国際的な工学知識と倫理観をもつ専門職業人へと育成できるように、カリキュラムは構成されています。

- 1 実学重視：設計製図、工学実験、工作実習などにより、座学による学習を実体験することで教育効果の向上を図ります。また、座学による講義においても演習を導入することにより、より深い理解と、問題の解決及び解決能力の向上を図ります。
- 2 創成科目の導入：既成の実験テキストには頼らず、自由な発想に基づき、課題に対して実験の企画、実験道具の調達と実験の遂行、データ処理、レポート作成までを、各人が資料調査をしながら達成していく実験等の創成型科目により、自由な科学的発想と目的実現手段を培い、問題発見・解決能力や表現力を養成します。
- 3 設計製図の一貫教育：単純な機械をテーマとしながらも、製図、機械要素及び機械設計の一貫した「ものづくり」教育を行います。

#### 【ロボティクス学科の学習・教育目標】

ロボティクス学科では、「I can do it.」をキーワードに、機械工学、情報工学、電気電子工学、制御工学など、幅広い工学知識と技術を系統的に学習できる教育プランの下で、ロボットを作り出すために必要な基礎知識と技術を修得します。これにより、様々な機能を持つロボットの開発において直面する問題を自ら解決する能力を育成するとともに、新しい機能や高度な知能化技術などを備えた新時代のロボットを開発することができる創造性豊かなメカトロニクス技術者を育成することを目指します。

この教育理念のもと、以下の5つの項目を具体的な学習・教育目標としています。

- 1 技術者としての社会倫理観の養成
- 2 工学の基礎知識の修得
- 3 工学の基礎知識と技術を駆使して創造性豊かなデザイン能力の養成
- 4 課題発見・解決能力の養成
- 5 論理的思考に基づくプレゼンテーション能力、及び外国語による基礎的なコミュニケーション能力の養成

#### 【ロボティクス学科のカリキュラム編成上の特色】

ロボティクス学科では、学生が自らロボットを作る力を身につけることを目指し、学生の自主性、創造性、問題発見・解決能力を養うとともに、機械工学、情報工学、電気電子工学、制御工学などロボット開発に必要な専門知識を定着させるために、実験・実習中心の体系化されたカリキュラムの下で、学年進行に伴う知識の積上げと専門科目間の関連性を考慮した教育を行っています。1年次にはロボットの基本構造を学びながら座学と並行して行われる豊富な実験・演習科目を通して、ロボットを製作し動作させるための基礎知識と技術を修得します。2年次にはメカトロニクスに関する要素技術を学び、さらに3年次にはその応用技術に関する専門知識を修得します。4年次には、それまでに学んだ基礎知識を用いてロボット関連の研究と開発を行うことによって問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力を養います。また本学科では、幅広い専門知識を身につけられるように、「ロボット設計コース」と「ロボット制御コース」を設けています。各コースは以下のような特色があります。

「ロボット設計コース」では、設計工学、加工学、機構学、アクチュエータ工学など、ロボットを作り出すために必要な知識と技術を重点的に修得させ、独創的なロボットを設計・開発できる人材を養成することを目指します。

「ロボット制御コース」では、情報工学、制御工学、電気電子工学、計測工学など、ロボットシステムを統合するために必要な知識と技術を重点的に修得させ、ロボットの知能化を実現できる人材を養成することを目指します。

#### 【電子情報工学科の学習・教育目標】

21世紀の高度情報通信社会を支える人材育成の要請に応えるべく、電気・電子工学、情報・通信工学の各分野において幅広く活躍できる技術者の育成を目指しています。

このような教育理念のもと、電子情報工学科では、ソフトウェアからハードウェアまで、コンピュータ関連の技術を幅広く修得させることを教育の目的とし、プログラミング技術と

電子回路設計能力、ネットワーク設計技術を有する技術者を育成することを学習・教育到達目標としています。

最先端のコンピュータ技術に関するハードウェアを研究するのが電気・電子工学で、ソフトウェアを研究するのが情報・通信工学です。この二つの分野をバランスよく学び、両方の分野に強い技術者になっていただくために、上のような学習・教育到達目標を本学科では掲げました。近い将来、現在の情報ネットワークが進化し、私たちの生活の隅々にまでコンピュータが浸透する「ユビキタス時代」になると、電子情報技術者が社会を支える重要な役割を担い、地域社会から国際社会まで幅広く活躍することが期待されます。

したがって、このような技術者には電子情報工学に関する知識や技術はもちろんのこと、幅広い教養や倫理観を持ち社会に対する責任を自覚したり、いろいろな問題を考察し、その結果を明解に表現し、また、自ら問題を発見してそれを解決したりする力が必要です。本学科では、このような豊かな人間性や問題解決能力・コミュニケーション能力なども身につけます。

電子情報工学科の各コースの特色は次の通りです。

「電気電子コース」では、情報技術やその関連技術の急速な発達に柔軟に適応し、国際的に活躍できるシステム・エンジニアを育てます。そのため、コンピュータの基礎知識はもちろん、ハードウェアの基礎から応用まで幅広い分野にわたるカリキュラムを構成しています。エネルギー変換工学や集積回路、光エレクトロニクスなどの電気・電子工学分野の専門から、IT時代に必要な関連知識まで広く身につけます。

「情報通信コース」では、コンピュータの基礎知識からソフトウェア開発、さらにネットワークやデータベースまでIT技術について幅広く学びます。ITの基礎や応用のみならず、技術開発に必要なハードウェア、画像処理技術など関連した高度な情報技術まで習得します。実験や実習による経験を重ねて、応用力をもった即戦力のエンジニアを育てます。

#### 【電子情報工学科のカリキュラム編成上の特色】

電子情報工学科のカリキュラムには次の3つの特色があります。

##### 1 実践力をつけるための実験・実習科目の重視：

プログラミング演習や電気・電子回路に関する実験など、多くの実験・実習科目を1年生から受講でき、実践力が早くから身に付けられます。また、実習と講義との結びつきを強くしているのも本カリキュラムの特徴であり、知識が生きたものとして身につきます。

##### 2 電気・電子工学と情報・通信工学の科目のバランスよい配置：

コンピュータ・ハードウェアの中心となる様々な電子機器の仕組みや、それを作り、動かすための技術、その物理的な原理等を学ぶ電気・電子工学分野と、ソフトウェア技術の中心となる種々のプログラミング手法や、ネットワークシステムを設計し運用する方法等を学ぶ情報・通信工学分野の科目をバランスよく配置してあるので、常に広い視野を保ちながら、両方の分野の力がつきます。

##### 3 専門性を磨き、個性を伸ばす柔軟なコース制システム：

2年生から電気電子コースと情報通信コースに分かれます。これにより、電気電子・情報通信の二つの分野をバランスよく勉強しつつ、「集積回路について深く学びたい」や「大規模ソフトウェアの具体的な設計法を知りたい」といった興味や希望に応じて、一人ひとりの個性を伸ばし、独自の専門性を磨いていくことができます。

#### 【情報学科の学習・教育目標】

製造業・流通業・サービス産業等の産業界の様々な分野における経営戦略の実現を支援する情報システムを企画・設計できる能力を有する技術者を育成します。現代社会では、情報システムを戦略的に活用し経営戦略をスピーディに実行する事が、企業が他社との競争において優位に立つ必須条件です。

先端的な情報メディア技術を活用して安全・快適な社会の創造を支援するマルチメディアシステムを提案・開発できる能力を有する技術者を育成します。様々な分野で情報メディアを有効に活用し、情報共有・情報伝達のスピードアップが求められています。

したがって、上記技術者の育成を目標に、情報システム構築の基礎となるコンピュータ技術やモデル化技術、情報システムの企画・設計・開発技術や情報メディア技術について学習

します。

#### 【情報学科のカリキュラム編成上の特色】

アルゴリズムなど情報システムの基礎から、ネットワークを活用する方法、マルチメディア社会にふさわしい情報の表現手段、さまざまな領域にまたがる応用システムの構築法に至るまで、広く情報システムに関する基礎理論・知識・技術を修得し、問題解決能力を身につけることで、情報システムデザイナー・システムエンジニアとして活躍できる能力を育成するためのカリキュラムを組んでいます。

産業界の第一線で活躍しているシステムインテグレータや情報技術者による特別講演形式の講義を行なうことによって、現場で役立つ技術とは何か、10年後、20年後のあるべき自分を実感できるようなカリキュラムを取り入れています。

教育支援システム(KSS)という学科独自で設けたコンピュータールームを特別に用意し、学生が自分から学習・研究を深めていける設備を使用したカリキュラムを多数組み入れています。また、企業情報システム演習室1及び2では、企業情報システムの構築を実践できる環境を整えています。さらに、オープンメディアラボ及びマルチメディア実習室では、新しい情報インタフェースを作り出すための3次元CG開発法等を体験的に学習できるようにしています。

カリキュラムの体系として、工学基礎、総合、情報処理、情報システム、情報メディアと大きく区分けしており、各区分の中に個々の専門科目を配置して、系統的に学習できるよう編成しています。平成24年度より、JABEE認定プログラム(IS(情報システム)分野)となりました。

#### 【建築学科の学習・教育目標】

本学科の学習・教育到達目標は、持続可能な社会を実現する未来志向の建築を設計・生産できる建築家や建築技術者像「1 豊かな人間性と総合的なデザイン力を持ち、地域社会や地域環境に貢献できる建築専門家 2 国内外における建築技術の伝統を引継ぎ、発展させる、実践的な建築専門家 3 人間と環境の時代に向けて、確かなデザイン力とチャレンジ精神のある建築専門家」に基づいて以下のように定めています。

- 1 豊かな人間性と総合力のある技術者として(A)～(D)の能力を身につける
  - (A) 環境問題を理解し意匠設計ができる(意匠設計力)
  - (B) 建築計画を理解し図面作成ができる(図面作成力)
  - (C) 構造設計を理解し構造計画ができる(構造計画力)
  - (D) 構造力学を理解し構造解析ができる(構造解析力)
- 2 実践力のある技術者として(E)～(G)の能力を身につける
  - (E) 建築倫理がわかる(建築倫理理解力)
  - (F) 生産管理がわかる(生産管理理解力)
  - (G) 環境設備がわかる(環境設備理解力)
- 3 チャレンジ精神のある技術者として(H)、(I)の能力を身につける
  - (H) チームで課題解決ができる(課題解決力)
  - (I) 新しいことに挑戦できる(チャレンジ力)

これらの学習・教育到達目標は社会の要求や学生の要望に応えられる水準を確保しています。

#### 【建築学科のカリキュラム編成上の特色】

本学科では、以上のような技術者を育成するために、以下の3つの教育方針を掲げています。

- 1 豊かな人間性と総合力のある技術者を育成するために、設計教育と力学教育を両輪とする建築教育を実施する。
- 2 実践力のある技術者を育成するために、実学志向教育を体系的に実践する。
- 3 チャレンジ精神のある技術者を育成するために、体験的・挑戦的教育を実現する。

以上の教育方針にしたがって、建築専門家(一級建築士)として必要となる設計・計画、環境・設備、構造、生産の総合的な基礎知識を確実に身につけることができるカリキュラムを編成しています。また、基礎力を確実に身につけさせる方法として以下のような取組みを

行っています。

- 1 初年次の構造力学科目については少人数クラスによる徹底教育を行い、基礎的な学力を確保しています。
- 2 講義後直ちに演習を行う〔講義＋演習〕科目を多用し、知識だけでなく実際に計算ができる能力を育成しています。
- 3 実物の住宅を計測し図面化する授業や、与条件のもとに設計し作成した構造模型の強度を競う創成型授業、建築実験（構造・材料・環境）など、体験的学修を重視する科目を多数配置しています。
- 4 総合的なデザイン能力とチャレンジ精神、実学志向にもとづく実践力を育むため、複数の建築家が直接指導する設計演習科目や国際交流を目的とした集中演習科目を配置しています。

#### 【その他の特色】

工学部では、各学科の教育目標に沿ったカリキュラムによる学習とは別に、多様な将来構想に役立つよう、どの学科に在籍しているかとは無関係に履修することができる、特修プログラムと呼ばれるもう一つの専門科目群を設けています。

特修プログラムには、情報化時代に必須の技術を実践的に学び取ることを目的とした「情報技術特修プログラム」、教育のあり方や指導の仕方を学ぶ「教育学特修プログラム」と「教職課程特修プログラム」、英語力の向上と豊かな国際感覚を養い、ものづくりの提供側と顧客側の価値共創の視点を育成するための「国際経営特修プログラム」の4つがあります。これらを学修することによって、技術者としての素養をさらに幅広く身につけることができます。

#### 【産業理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

近畿大学学園の建学の精神に基づいた産業理工学部の教育研究の理念と目的は、従来の大学における文科と理科に区別された教育に対する反省から

人間主義の工学 “HOT (Humanity-Oriented Technology)”

をキーワードに、理工系・芸術系・文系がクロスして創るテクノロジーとコミュニケーションに基づくHOTな教育と研究によって、21世紀が求める文理シナジー的発想を持った専門職業人を育成することを目的にしています。産業理工学部では技術偏重でない21世紀社会で活躍できる自立した専門職業人を育てることを目指して、専門知識を教える充実したカリキュラムはもちろん、人間、社会、環境を重視した実学教育を進めています。

実社会で活躍できる人材となるためには、専門知識ばかりではなく、社会人としての基礎能力もしっかりと身につけておくことも大切です。そのために産業理工学部では人間性・社会性科目群、国際性・地域性科目群、課題設定・問題解決科目群、スポーツ・表現活動科目群という四つの科目群と外国語科目群を開講しています。四つの科目群では幅広い教養科目の他に社会奉仕実習やインターンシップといった体験型の授業があります。外国語科目群では英語、中国語、フランス語、スペイン語などのスキルアップのために習熟度別にクラス分けを行い、実践的な教育を行っています。

産業理工学部は、21世紀にふさわしい新たな学びの場として人間力を高めるためのきめ細かな教育を提供し、本当に楽しく、充実した学生生活になるような体制を整えています。

#### 【生物環境化学科の学習・教育目標】

人類と地球環境をより良い未来へ導いていくためには、自然現象を分子レベルで理解し、問題解決していく能力が強く求められます。生物環境化学科では社会の幅広い分野で活躍できるプロの技術者を育てるため、「生物」、「環境」、「化学」をバランスよく学べるカリキュラムを用意し、講義科目だけでなく実験科目と演習科目を充実させています。生物環境化学科には次の3コースがあります。

バイオサイエンスコース：バイオテクノロジーを専門に学びます。遺伝情報の流れや、それをもとにした遺伝子医薬などの応用まで幅広く学びます。微生物を用いた実験やタンパク質を用いたバイオセンサーの実験など、種々のバイオテクノロジー全般の技能を修得します。

食品生物資源コース：食の安全と品質を守り、食料その他生物資源の有効利用に携わるエ

キスパートを育てる教育に力を入れます。バイオテクノロジーを基盤に、新しい食品機能の発見と健康への利用、微生物の産業利用、食品と栄養の科学について学びます。また、排水浄化と有害物質の分解、バイオマスの資源化など生物を利用した自然環境の保全修復技術も身につけます。

エネルギー・環境コース：環境にやさしい化学の観点から、地球温暖化対策、新エネルギーの研究開発、人と環境に優しい材料の開発、リサイクル技術、環境計測、環境教育を身につけます。また、導電性や磁性を持った先端材料の開発、選択的高性能化学センサーの開発、微量で特殊な化合物の検出ツールなど、21世紀を支える先端技術も身につけます。

#### 【生物環境化学科のカリキュラム編成上の特色】

1 21世紀の最重要課題「バイオ」、「環境」、「材料」の分野で、実社会の問題を解決し新たな技術やアイデアを生み出すことのできる人材の育成を目指したバランスのとれたカリキュラムを用意しています。

2 1、2年次ではおもに生物学・有機化学・無機化学を中心とするコア科目を配し、3年次以降の展開科目で幅広い専門知識を学びます。4年次では卒業研究を中心とした本格的な研究者・技術者養成のための教育を行います。

3 1年次よりすべての学期で実験科目が開講され、充実した研究設備のもと実践的な教育を行います。

#### 【その他の特色】

1 産学官連携による企業や公的機関との共同研究を積極的に推進しており、研究業務の実際や大学での勉強がどう生かされているのかを実感しながら勉強できます。

2 国家資格である「食品衛生管理者及び食品衛生監視員」の養成施設として当学科は認定されているほか、専門性を生かした公害防止管理者などの資格取得をサポートしています。

3 地域社会との交流による環境ボランティアや理科教育支援を積極的に行います。

4 近畿大学はもちろん、国公立大学の大学院への進学率も高く、そのためのきめ細かな指導も行います。

#### 【電気電子工学科の学習・教育目標】

電気電子・情報通信技術は、身近な携帯電話からインターネット・自動車・航空機・ロボットなどありとあらゆるところで利用され、広く産業社会活動の基盤技術となっています。電気電子工学科では、いつまでも最前線で輝ける技術者として活躍できるよう、電気工学の基礎に始まり、応用エレクトロニクス、情報通信、クリーンエネルギーにまで広がる個別技術をハードとソフトの両面から理解し、自然や地球環境と調和した基盤技術が開拓できる技術者を育てます。電気電子工学科には次の3コースがあります。

応用エレクトロニクスコース：専門基礎技術を理解し、独力で知識を吸収しながら時代をリードできる、より高いレベルの「自立した技術者」を目指して、アナログ技術とデジタル技術、ハードウェア技術とソフトウェア技術、さらにこれらの組み合わせ技術に精通し、とくにコンピュータによって制御されるエレクトロニクス機器を開発する技術を修得します。さらにコミュニケーション能力と多角的視野に基づいた教養も身につけ、世界に通用する技術者を育成します。

エネルギー・環境コース：環境保全に配慮した電気エネルギーの生成や安定供給、電気設備の設置や保全、電気電子デバイスの回路設計など、つねに社会で求めつづけられる専門知識と実践力を身につけ、社会や環境を創る・支える・守ることができる技術者を育成します。

情報通信コース：携帯電話やリモコンに組み込まれたコンピュータのソフト・ハード技術、ロボット制御技術など、情報通信社会を支える多種多様な技術を学びます。おもにコンピュータを利用した装置と装置間の通信技術を中心に、情報通信に関する理論と技術を身につけたICT基盤を支える技術者を育成します。

#### 【電気電子工学科のカリキュラム編成上の特色】

1 数学や物理の学習において高校からスムーズなつながりができるよう、補習的な講義などを通してリメディアル教育を行っています。また、専門分野へのつながりに配慮した専門基礎科目を設けています。

- 2 1、2年次では、電気電子分野の専門基礎科目を配置し、3年次以降に各コースに所属して、コースに応じた専門知識を教育します。
- 3 「電子情報設計プロジェクト」では、15週にわたり一つのテーマに関して、グループ討論による問題抽出、解決法の探索・実現を通してエンジニアリングデザイン能力を養います。
- 4 「電子情報工学セミナー」では、パネル発表と自己分析により、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養います。

#### 【その他の特色】

- 1 各学年複数教員の担任制で、一人一人の顔が見える学生指導体制をとっています。個人面談や授業の補習を兼ねた個別学習指導の時間として「ホームルーム」があります。
- 2 「知能ロボットプロジェクト」や「電気電子工学科ものづくり工房」により実践的なモノづくり教育を進めています。
- 3 電気電子・情報通信分野からの多くの求人があり、毎年、一部上場企業をはじめとして就職率が高く、質の高さが社会や産業界から認められています。

#### 【建築・デザイン学科の学習・教育目標】

建築の工学とデザインの感性を磨き、高い使命感と倫理観を身につけた建築技術者と美しい建築空間あるいはデザインコミュニケーション情報を創造するデザイナーの育成をめざします。建築や都市など規模の大きなものから、住宅や店舗の設計、ポスターデザインやウェブデザインなどの身近なものまで、幅広い「モノづくり」の技術・技能の習得を目標としてカリキュラムを編成しています。また、設計意図や完成作品の特徴を多くの人に伝え、深く印象付ける能力の習得も大切だと考えて開講科目を定めています。

建築・デザイン学科は次の2コースを設けています。

建築工学コース：国際的に通用する建築技術者に育つようより高いレベルの専門知識を授けます。建築に関する包括的な専門知識に加えて、さらに建築物や地域の安全性(建築構造)、快適性(建築環境・設備)、材料・構法(建築生産)に関する建築工学の高度な専門技術を習得するカリキュラムとしています。本コースを修了することで一級建築士受験資格と共に、二級施工管理技士受験資格を取得できます。

建築・デザインコース：自分の将来設計に合わせ、建築およびデザインの両方のプログラムを発展的に学習することができるコースです。幅広い素養と建築に関する包括的な専門知識・能力を身につけて、建設関連業界で活躍できる技術者や、企画から制作までの全過程を行える技能を持ち、デザイン関連業界で活躍できる人材の育成を目標としながら、その両方の資質を有したこれからの社会で必要とされる新たな建築士・デザイナーの育成を目指します。

建築設計・施工に欠かせない建築計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産の4分野にわたる内容と、ユニバーサルデザインを軸に情報・プロダクト・環境デザインの3分野を総合的に学習できる多彩な科目が用意されています。そのため、各学生の将来目的に応じて履修科目を選定することができます。本コースを修了することで二級建築士の受験資格を取得できます。さらに修得科目によっては一級建築士の受験が可能となります。

#### 【建築・デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】

- 1 建築とデザインのいずれをも学ぶことができるように、設定された多様な科目から、自分の将来設計にあった科目の選択が可能となっております。
- 2 幅広い視野を持ち人間力のある実践的な建築技術者と総合的なデザイン力のあるデザイナーを育成するため、建築教育とデザイン教育を高度に織り込んだ斬新なカリキュラムを編成しています。
- 3 一級建築士、二級建築士、技術士などの建築業務に関わる資格の取得をめざすカリキュラムとしています。また、インテリアコーディネーター、CG検定などのプロフェッショナル資格をめざした指導にも力を注いでいます。建築やデザインの分野で就職し活躍していくためには、専門資格の取得は必須です。

#### 【その他の特色】

- 1 設計事務所やデザイン事務所等の会社組織や実務者と連携した実践的な教育を行います。

- 2 演習を中心とした専門教育の多くは、少人数クラスの授業で個別指導を徹底しています。
- 3 学生にとって魅力があり、なおかつ社会的にも話題となっている課題を取り上げ、作品などその成果は、学外発表・展示などにより外部の評価を受け、授業改善に結びつけています。

#### 【情報学科の学習・教育目標】

情報が社会のあらゆるレベルに浸透し、私たちの身近な生活と切っても切れない存在であることが認められる中、情報自身は、常にその可能性を広げ、存在様式を進化・発展させ続けています。巨大化し、多様化していく情報と与し、手なづけ、役立てて行くためには、情報を扱うためのソフトウェアやネットワークの技術と知識を学ぶとともに、日々進化・発展していく情報の様々な形式に触れ、そのサイエンスとしての扱い方に慣れ親しみ、新たな情報メディアの可能性を常々考えるような習慣を身につけることが必要となります。このような技術と知識と体験を身につけた人を育成するため、情報学科では次の3つのコースを設けています。

情報エンジニアリングコース：情報システムの構築とその分析・設計・開発に関わる知識と技術を身につけ、インターネット社会の情報基盤を開発する最前線において活躍できる人材を育成します。このため、情報技術に関する基礎知識（ハードウェア、ネットワーク、データベース、アルゴリズム）、情報システムに関わる分析・設計・運用技術、プログラミング、セキュリティ、先端技術（クラウド、組み込みなど）の教育を提供します。

メディア情報コース：情報メディアに関する知識と、コンテンツを制作するための手続き的知識と技能を身につけ、創造産業を含む文化産業に従事できる人材を育成します。このため、社会生活における情報メディアの役割・知的財産権・インターネットサービスやビジネス等に関する基礎知識、コンピュータ音楽・コンピュータグラフィックス・デジタル映像といったコンテンツ制作技能、Webデザインの手法・Webプログラミング・Web解析技術といったWebサイトの企画・制作・運用に関する技能を修得するための教育を提供します。

データサイエンスコース：膨大なデータから有益な情報を抽出し、分析・予測に役立てるための手続き的知識と技能を身につけ、企業のマーケティングやデータ分析に携わる部門において活躍できる人材を育成します。このため、データ分析のための基礎知識（統計解析、データの可視化、データベース）、知識発見のための手法（データマイニング、機械学習、最適化）、そして、発展技術（シミュレーション、モデル同定）に関する教育を提供します。

#### 【情報学科カリキュラム編成上の特色】

- 1 カリキュラムは、各コース共通の知識となる科目群と、それぞれのコース毎に特徴的な科目群から構成されています。
- 2 演習科目を多数用意して徹底した実践力の修得を行います。
- 3 「情報学プロジェクトⅠ・Ⅱ」として、実際に社会の中で役立つシステムを構築することを目的として、ゼミ単位少人数のチームで企画、計画から設計、コスト試算、構築、実証評価までを行い、その結果をプレゼンテーションとして発表するという講義を行います。座学や演習だけでは身につけることができない社会に役立つ実践力を育てます。

#### 【その他の特色】

- 1 就職率が高いだけでなく、特に上場企業への就職者が多いのが特長です。
- 2 各コースの特性に沿った資格取得を積極的に指導します。男女の差なく、それぞれの分野のプロフェッショナルとして幅広く活躍できますので、女子学生のキャリアづくりにも最適です。

#### 【経営ビジネス学科の学習・教育目標】

経営ビジネス学科では、実践的な経営センスを持ち、地域や社会に貢献する人材を育成します。知識中心の組織社会化がますます進行する中で知的資源や人的資源をいかに活用していくかが重要となってきています。また近年、社会全体の価値観や利害の多様化が進み、複雑化し、それらの間の調和をいかに図っていくかが重要になってきています。このような変化のために、マネジメントに対するニーズと期待が高まっています。また、学生の関心

と活躍の場のグローバル化も起こってきています。

マネジメントについて最も必要なことは、社会における組織の使命や役割を明らかにすることです。その使命を果たし、役割を遂行するためには、二つの条件が不可欠です。一つは、組織の置かれている現状をつねにチェックし、改善を加えていくことで、革新性・創造性をもつということです。もう一つは、組織に対する社会の期待がどこにあり、社会が必要とするものは何か考えることで、それは社会性をもつということです。マネジメントのあり方は、この2つの条件、革新性・創造性と社会性によって左右されます。

このような基本的認識に立って、経営ビジネス学科では組織経営に関する理論的、実践的教育を進めています。なお、組織は、企業だけでなく、非営利組織・自治体・地域コミュニティも含まれます。これらの幅広い組織の経営（マネジメント）方法について、段階的に学んでいきます。

また、社会性を養うために、マネジメントの理論や技術だけでなく、そのよって立つ文化的背景をも学んでいきます。

#### 【経営ビジネス学科のカリキュラム編成上の特色】

- 1 経営マネジメント・グローバル経営の2コースを設け、学生が興味や関心に応じて履修できるような編成です。経営マネジメントコースでは、経営や会計について幅広く学び、理論と実践の融合を目指していきます。企業・非営利組織・自治体などの組織に着目して、それらの運営に関する科目を幅広く学びます。グローバル経営コースでは、国際的な視野に立ち、グローバル社会における組織経営に関わる能力を養成します。国際化に対応するために、外国の文化の理解や語学の習得もめざします。
- 2 専門基礎科目を重視し、主要分野に関する必修科目を配置しています。それをベースに、段階的、系統的履修を促します。
- 3 ゼミナールを中心にした少人数教育を徹底し、「全人教育」を目指し、各学年で少人数によるゼミナール教育を行います。
- 4 「会計処理演習」「フィールドワーク」「データ分析」を開講し、具体的事例や実践的テーマに対して、学生が直接参加する講義を行います。アクティブラーニングは各科目でも取り入れて、学習内容のより深い理解をめざします。

#### 【その他の特色】

- 1 簿記関連、販売士、ファイナンシャルプランナー、税理士、語学関連などの資格取得に関して、課外授業を行います。

## 変更の事由及び時期を記載した書類

### 1. 変更の事由

文部科学省高等教育局長通知（元文科高第391号令和元年9月2日付）の「地域の医師確保等の観点からの令和2年度医学部入学定員の増加について（通知）」を受け、医師不足が深刻な地域における医師の要請等の観点から、医学部医学科の入学定員及び収容定員の変更を次のとおり行う。

なお、このたびの学則の変更にあたっては、令和2年度及び3年度に限った臨時定員の増加であり、恒久定員の増加ではないことを明確にするため、本則には恒久定員のみ記載し、臨時定員を含めた入学定員及び収容定員は附則へ記載する。

#### [変更点]

- ・入学定員

115名 → 95名

- ・収容定員

690名 → 570名

- ・以下のとおり、附則に記載

#### 附 則

- 1 この学則の改正は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条の規定にかかわらず、令和2年度から令和8年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入学定員	107	107	95	95
収容定員	682	674	654	634

年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	95	95	95
収容定員	614	594	582

### 2. 変更の時期

令和2年4月1日

ただし、令和2年度新入生から適用する。

新学則	旧学則																																																																			
<p>(学部学科の構成及び定員)</p> <p>第2条 本大学には、次の学部及び学科を置き、その学生定員を次のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">学部・学科名 (省略)</td> <td style="padding-right: 20px;">コース名</td> <td style="padding-right: 20px;">入学定員</td> <td style="padding-right: 20px;">編入学定員</td> <td>収容定員</td> </tr> <tr> <td>医学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医学科</td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>95名</u></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>570名</u></td> </tr> <tr> <td>(省略)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p><b>附 則</b></p> <p><u>1</u> この学則の改正は、令和2年4月1日から施行する。</p> <p><u>2</u> 改正後の第2条の規定にかかわらず、令和2年度から令和8年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学定員</td> <td><u>107</u></td> <td><u>107</u></td> <td><u>95</u></td> <td><u>95</u></td> </tr> <tr> <td>収容定員</td> <td><u>682</u></td> <td><u>674</u></td> <td><u>654</u></td> <td><u>634</u></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学定員</td> <td><u>95</u></td> <td><u>95</u></td> <td><u>95</u></td> </tr> <tr> <td>収容定員</td> <td><u>614</u></td> <td><u>594</u></td> <td><u>582</u></td> </tr> </tbody> </table>	学部・学科名 (省略)	コース名	入学定員	編入学定員	収容定員	医学部					医学科		<u>95名</u>		<u>570名</u>	(省略)					年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	入学定員	<u>107</u>	<u>107</u>	<u>95</u>	<u>95</u>	収容定員	<u>682</u>	<u>674</u>	<u>654</u>	<u>634</u>	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	入学定員	<u>95</u>	<u>95</u>	<u>95</u>	収容定員	<u>614</u>	<u>594</u>	<u>582</u>	<p>(学部学科の構成及び定員)</p> <p>第2条 本大学には、次の学部及び学科を置き、その学生定員を次のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">学部・学科名 (省略)</td> <td style="padding-right: 20px;">コース名</td> <td style="padding-right: 20px;">入学定員</td> <td style="padding-right: 20px;">編入学定員</td> <td>収容定員</td> </tr> <tr> <td>医学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医学科</td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>115名</u></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>690名</u></td> </tr> <tr> <td>(省略)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	学部・学科名 (省略)	コース名	入学定員	編入学定員	収容定員	医学部					医学科		<u>115名</u>		<u>690名</u>	(省略)				
学部・学科名 (省略)	コース名	入学定員	編入学定員	収容定員																																																																
医学部																																																																				
医学科		<u>95名</u>		<u>570名</u>																																																																
(省略)																																																																				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																																																																
入学定員	<u>107</u>	<u>107</u>	<u>95</u>	<u>95</u>																																																																
収容定員	<u>682</u>	<u>674</u>	<u>654</u>	<u>634</u>																																																																
年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度																																																																	
入学定員	<u>95</u>	<u>95</u>	<u>95</u>																																																																	
収容定員	<u>614</u>	<u>594</u>	<u>582</u>																																																																	
学部・学科名 (省略)	コース名	入学定員	編入学定員	収容定員																																																																
医学部																																																																				
医学科		<u>115名</u>		<u>690名</u>																																																																
(省略)																																																																				

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### ① 学生の確保の見通し

##### ア 定員充足の見込み

##### ・入学定員設定の考え方

本学医学部では、大阪府 3 名、奈良県 2 名、和歌山県 10 名、静岡県 5 名の合計 20 名の地域枠臨時定員を設けていた。平成 31 年度で臨時定員増の期限が終了することに伴い、上記 4 府県と協議を重ねた結果、令和 2 年度からは大阪府 3 名、奈良県 2 名、和歌山県 2 名、静岡県 5 名の合計 12 名の地域枠定員を申請することで合意を得ている。

大阪府、奈良県、静岡県の地域枠定員数については、医師の確保を特に図るべき区域や診療科偏在に対応できるよう医師の確保を引き続き行う必要があるため、定員数に変更はない。和歌山県の地域枠定員数については、厚労省医師需給分科会第 4 次中間取りまとめの医師偏在指標にあるように、和歌山県が新たに医師過剰県（医師偏在指標が上位 33.3%以上の三次医療圏）となったため、和歌山県からの減員要請等を受け、10 名を 2 名に減員したものである。

地域枠定員の合計は 20 名から 12 名に減少することになるが、カリキュラム等については変更をすることなく、地域枠学生を含む本学医学部学生全員に十分な教育を提供することができると考えている。

##### ・定員を充足する見込み

本学医学部の地域枠は平成 22 年度入試から募集を開始した。手上げ方式事前型で選抜を実施してきたため、各府県の地域枠定員が充足しない年度もあった。このため、令和 2 年度入試からは、増員分についてその他の定員と区別して選抜する方式（別枠方式）により学生を選抜することとし、地域医療に従事する確固たる意思を持った学生を確実に確保することとしている。別枠方式での入試についての実績はないが、各府県の地域枠入試を専願で実施することにしており、以下に示す客観的なデータにより、恒久定員 95 名に加えて、地域枠定員 12 名を充足する見込みはある（各データの詳細は後述）。

A：医学部入試状況

B：医学部オープンキャンパス来場者数

C：関西地区私立医科大学の志願者数・受験者数・入学者数

D：地域枠設置府県及び近隣県出身者の入試状況

E：医学部入試の地域枠志願者数・受験者数・合格者数・入学者数

F：医学部入試の地域枠志願者の出身地合致率

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### A：医学部入試状況

年度	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	競争率 (倍)	合格率 (%)	入学者 (人)
H 31	3,532	3,340	249	13.4	7.5	113
H 30	4,037	3,841	272	14.1	7.1	115
H 29	4,275	4,038	269	15.0	6.7	118
H 28	4,625	4,376	288	15.2	6.6	115
H 27	4,759	4,492	349	12.9	7.8	122

上の表は本学医学部の過去5年間（平成27年度～31年度）の入試の状況をまとめたものである。全国的に医学部志願者が減少していること、加えて平成31年度は入試日程が他の医科大学と競合したこと等により、志願者数は減少傾向にあるが、競争率は13倍程度、合格率は7%程度を維持していることから、定員の充足は十分可能であると考えている。

### B：医学部オープンキャンパス来場者数

区分	R 1	H 30	H 29	H 28	H 27	合計
1回目	621	368	295	329	391	2,004
2回目			212	221	339	772
合計	621	368	507	550	730	2,776

注) 平成30年度からは年1回開催、30年度は台風により午後のみ開催

上の表は医学部が所在する大阪狭山キャンパスで開催したオープンキャンパスの過去5年間（平成27年度～令和元年度）の来場者数をまとめたものである。平成29年度までは7月と9月の年2回実施していたが、30年度からは開催時期及びイベント内容等を見直して年1回の実施とした。平成30年度実施分については、台風の影響で終日開催を午後のみ開催としたために来場者数が減少したが、令和元年度分は来場者数が大幅に伸びており、志願者数の増加とともに定員の充足を見込んでいる。

C：関西地区私立医科大学の志願者数・受験者数・入学者数

区分	大学名	H 31	H 30	H 29
志願者	近畿大	3,532	4,037	4,275
	関西医大	4,045	3,484	3,663
	大阪医大	3,233	2,944	3,265
	兵庫医大	2,108	2,991	2,798
受験者	近畿大	3,340	3,841	4,038
	関西医大	3,808	3,212	3,390
	大阪医大	2,813	2,659	2,852
	兵庫医大	1,995	2,921	2,622
入学者	近畿大	113	115	118
	関西医大	122	122	117
	大阪医大	112	112	113
	兵庫医大	112	112	112

注) 日本私立医科大学協会資料より

上の表は本学医学部の競合校となる関西地区の関西医大、大阪医大、兵庫医大の過去3年間（平成29年度～31年度）の志願者数、受験者数、入学者数をまとめたものである。本学医学部は、志願者数において平成31年度に関西医大に抜かれたものの、大阪医大、兵庫医大より多くの志願者を集めており、安定的に入学者を確保できている状況である。

D：地域枠設置府県及び近隣県出身者の入試状況

<地域枠設置府県>

府県名	年度	志願者	受験者	合格者	入学者
大阪府	H 31	1,050	1,021	86	42
	H 30	1,086	1,066	95	48
	H 29	1,169	1,131	82	43
奈良県	H 31	297	287	21	11
	H 30	328	319	32	11
	H 29	286	277	20	11
和歌山県	H 31	122	118	18	11
	H 30	101	101	13	7
	H 29	125	122	12	6

静岡県	H 31	34	31	2	1
	H 30	61	55	2	1
	H 29	67	58	2	0

<近隣府県>

府県名	年度	志願者	受験者	合格者	入学者
滋賀県	H 31	23	23	2	1
	H 30	33	32	0	0
	H 29	29	27	1	0
京都府	H 31	251	235	17	7
	H 30	264	249	22	6
	H 29	290	277	24	11
兵庫県	H 31	335	317	35	15
	H 30	406	378	30	10
	H 29	371	357	28	6
三重県	H 31	57	52	3	2
	H 30	54	47	0	0
	H 29	62	56	2	1
愛知県	H 31	110	101	8	3
	H 30	167	164	13	3
	H 29	184	174	10	3
岐阜県	H 31	14	12	0	0
	H 30	21	19	1	0
	H 29	44	41	0	0

上の表は本学医学部が設置している地域枠（大阪府・奈良県・和歌山県・静岡県）及び近隣県と考えられる近畿地方（滋賀県・京都府・兵庫県）、東海地方（三重県・愛知県・岐阜県）出身者（出身高校の所在地による集計）の過去3年間（平成29年度～31年度）の入試の状況（地域枠希望者を含む全志願者）をまとめたものである。

平成31年度入試までは、地域枠の募集を手上げ方式事前型で実施していたが、令和2年度入試からは別枠方式で実施することとしている。大阪府地域枠の出願には、大阪府出身者であることの条件が課せられているが、奈良県、和歌山県、静岡県地域枠への出願には出身地の条件は課せられていないため、奈良県、和歌山県地域枠へは両県以外の近畿地方の近隣県からの出願が見込める。同様に、静岡県地

域枠へは東海地方の各県からの出願が見込めるため、今回臨時定員として申請する地域枠定員についても、定員の充足については十分に可能であると考えている。

E：医学部入試の地域枠志願者数・受験者数・合格者数・入学者数

府県名	年度	志願者	受験者	合格者	入学者
大阪府	H 31	46	46	5	3
	H 30	10	10	0	0
	H 29	14	13	3	3
奈良県	H 31	18	18	2	2
	H 30	6	6	0	0
	H 29	6	6	1	1
和歌山県	H 31	79	76	7	6
	H 30	23	23	5	4
	H 29	20	20	3	2
静岡県	H 31	31	29	6	5
	H 30	12	12	2	1
	H 29	12	12	1	1
合 計	H 31	174	169	20	16
	H 30	51	51	7	5
	H 29	52	51	8	7

上の表は本学医学部が設置している地域枠の過去3年間（平成29年度～31年度）の手上げ方式による地域枠志願者のみの状況をまとめたものである。平成30年度入試までは地域枠への出願を推薦入試のみに限定していたが、31年度入試は、推薦入試だけではなく、一般入試（前期・後期）、センター試験利用のC方式（前期・中期・後期）の全入試区分に受験機会を増やし、地域枠学生の確保に努めた。また、受験者実績数の多い高校に地域枠受験案内を送付する取組も実施した結果、志願者数は51名から174名へと大幅に増加し、地域枠学生の確保に繋がっている。

令和2年度入試からは、地域枠入試を別枠方式で実施することにしており、大阪府地域枠入試、奈良県地域枠入試、和歌山県地域枠入試、静岡県地域枠入試としてそれぞれの定員を専願で募集する予定であり、地域枠学生の定員を確保できる見込みである。ただし、別枠入試実施後の検証において、一般枠入学者との間に大きな学力格差が生じた場合は、地域枠学生の学力を担保するための方策を検討しなければならないと考えている。

F：医学部入試の地域枠志願者の出身地合致率

府県名	H 31	H 30	H 29	平均
大阪府	98%	100%	91%	97%
奈良県	61%	83%	100%	72%
和歌山県	43%	42%	37%	42%
静岡県	26%	82%	64%	45%

上の表は E で示した地域枠志願者の出身高校所在地及び現住所が、志望する地域枠府県と合致するかどうかを調査したものである。「地域枠府県、出身高校所在地都道府県、現住所地の都道府県が全て一致する者」、「地域枠府県と出身高校所在地都道府県のみが一致する者」、「地域枠府県と現住所地の都道府県のみが一致する者」を合致する者と仮定し、それ以外の志願者を合致しない者と仮定して各府県の合致率を算出した。

大阪府は出身高校または出身地が大阪府に限るという条件（平成 30 年度から実施）があるため合致率が 100%に近い。奈良県は近隣府県（大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県）からの志願者もあるため合致率は 70%程度となっている。和歌山県も近隣府県からの志願者に加えて関東地方、四国地方、九州地方からの志願者も見られるため合致率は 40%程度である。静岡県は平成 31 年度に低い数字になっているが、29 年度から 30 年度は合致率が高く、東海地方からの志願者も多い状況である。

このように、大阪府はもちろんのこと、奈良県、和歌山県、静岡県の地域枠ともに、近隣県を含めた地元出身者が多く志願しており、地元に着して地域医療に貢献する意思のある学生を地域枠学生として確保することができると考えている。

以上、資料 A～F で示したように、本学医学部は恒久定員 95 名及び地域枠定員 12 名について、充足見込みが十分あると考えている。

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

### ア オープンキャンパス

医学部が所在する大阪狭山キャンパスで開催した医学部オープンキャンパスの来場者数は先述（①イ B）のとおりである。受験生のみならず、保護者をはじめ地域住民や医療関係者等、多数の方に情報を提供する場となっている。

医学部オープンキャンパスの内容は、医学部概要説明や入試概要説明のほかに、在学生が入試体験や学生生活等について語る在学生座談会、CPC 部（症例検討会）によるトリアージ体験、シミュレーションセンターでの内視鏡シミュレーター体験、ドクターカー見学等多彩な構成で実施している。さらに、医療に興味を持っている小中学

生のために、骨のしくみを学ぶ授業や、顕微鏡を用いたがんの組織細胞を観察する体験プログラム等も実施している。

また、本学の東大阪キャンパスでは、例年5回程度オープンキャンパスを開催しており、医学部もブースを設け、年間4万人以上の来場者に情報提供を行っている。

## イ 入試説明会・進学相談会

医学部では学生募集活動のひとつとして、日本私立医科大学協会主催の入試説明会や、予備校主催の進学相談会等のイベントに積極的に参加している。これらのイベントは東京、名古屋、大阪、福岡等各地で開催され、年間で20回程度、本学医学部・病院事務局教育グループ学務課所属の職員を派遣している。担当者は、本学医学部の概要や入試の説明を行うとともに、受験生や保護者からの様々な相談に応じており、相談者と直接対話することによって、本学医学部への関心が高まり、是非とも入学したいとの声が多く寄せられている。

## ウ 地域枠学生確保

オープンキャンパスや入試説明会・進学相談会では、一般枠学生の確保のみならず、地域枠学生の確保についても取り組んでいる。特に入試説明会・進学相談会では医学部が設置する4府県地域枠の修学資金の内容及び返還条件、卒業後のキャリア形成、臨床研修病院の紹介等について詳細な説明を行っている。

先述(①イE)したように、平成31年度入試からは地域枠への受験機会を増やすとともに、地域枠学生の募集にも力をいれた結果、地域枠学生の確保に繋げることができた。令和2年度入試からは、別枠入試として各府県の定員を専願で募集する予定であり、地域枠学生の定員を確保できる見込みである。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

本学医学部の教育方針は、本学建学の精神に則り、「実学教育」と「人格の陶冶」を重視することである。また、教育理念に則り、「人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される」医師を育成することを目的としている。そのために、病気のみを対象として治療を行うことを医療の本質とは捉えず、病める人を全体として捉え、ひとりひとりの患者さんが持つ心身の問題を解決することをめざす医師としての人格を涵養する。また、医学・医療に対する社会的ニーズに対応すべく、将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、チーム医療やプライマリ・ケアの基本的な診療能力(態度、技能、知識)を身につけた医師の養成に取り組んでいる。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 医師国家試験合格率推移

回数	実施年	在籍者(人)	卒業者(人)	卒業率	留年者(人)	国試合格者(人)	国試合格率
107	H 25	94	85	90.4%	9	77	90.6%
108	H 26	109	101	92.7%	8	77	76.2%
109	H 27	103	94	91.3%	9	83	88.3%
110	H 28	109	85	78.0%	24	85	100.0%
111	H 29	116	96	82.8%	20	87	90.6%
112	H 30	116	102	87.9%	14	97	95.1%
113	H 31	124	103	83.1%	21	98	95.1%



上の表は本学医学部 6 年生の卒業率及び医師国家試験合格率をまとめたもの、グラフは医師国家試験合格率について、本学医学部新卒者と日本私立医科大学(医学部)新卒者平均値の推移を示したものである。本学医学部新卒者の合格率は、第108回に76.2%と日本私立医科大学(医学部)新卒者平均値を大きく下回ったが、その後の取組により合格率を大きく向上させ、第110回以降は平均値を上回る結果となり、過去2回は95.1%と安定した合格率を保っている。その一方で、平成28年以降増加した留年者数に対する方策も並行して行い、医師としての能力を適正に判断して社会に

貢献できる人材を輩出している。毎年 100 人程度の本学卒業者が、近畿大学病院、近畿大学奈良病院をはじめとする大学病院や各地の臨床研修病院で 2 年間の初期研修を行い、医師としてのキャリアをスタートしている。初期研修後は、大阪府をはじめ全国各地で医療に従事しており、本学医学部は医師養成機関としての役割を十分に果たしていると考えている。

## イ 地域枠学生の進路等

地域枠学生は修学資金の貸与期間の 1.5 倍（9 年間）の就労義務があるが、卒業後は各府県の臨床研修病院で初期研修を行い、その後各府県の要請に合わせて医師の確保を必要とする地域や診療科等で地域医療に貢献している。

令和 2 年度入学の地域枠学生からは、各府県のキャリア形成プログラムの対象者となり、各府県の要請に基づいて卒業後の進路を決めることになる。

大阪府地域枠学生は、9 年間大阪府内の医療機関に勤務、うち 4 年間以上は大阪府が定める「医師の確保を特に図るべき区域」に所在する医療機関に勤務すること、また、5 年間以上は小児科・産婦人科・救命救急科等の指定診療業務に従事することが求められている。

奈良県地域枠学生も 9 年間の勤務義務があり、初期研修修了後はへき地医療機関、小児科・産婦人科・麻酔科・救急科等の特定診療科等、総合内科分野・児童精神分野の医師を養成する特定専攻課程のいずれかへの従事が求められている。

和歌山県地域枠学生も同様に、9 年間和歌山県内の公的医療機関に従事すること、うち 2 分の 1 以上の期間は、へき地医療機関に勤務することとなっている。

静岡県地域枠学生も同様で、9 年間静岡県の公的医療機関等に勤務することが求められている。なお、初期研修修了後は、本人の意向を聴取し、大学と協議した上で県が個別に勤務機関を指定することになっている。

府県別臨床研修病院数・臨床研修医定員数

府県名	病院数	定員(人)
大阪府	73	637
奈良県	10	121
和歌山県	9	124
静岡県	24	292

注) マッチング協議会 2019 中間公表データより集計

本学医学部地域枠各府県の臨床研修病院数・臨床研修医定員数は上の表に示した通りである。地域枠学生はキャリア形成プログラムに基づき、各府県が指定する臨床研修病院で 2 年間の初期研修を修了後、地域の医師不足や診療科偏在の解消に貢献

することになる。本学医学部では、従来から学生サポートの一環としてメンター制度を導入しているが、令和元年度から地域枠学生に対しては、既存のメンターに加えて別の教員を地域枠メンターとして配置し、キャリア形成を支援するとともに、地域枠からの離脱の防止にも繋げている。

基本計画書の「既設大学等の状況」の欄に記載した定員超過率が 0.7 倍未満の学科等について

## 1. 法学部法律学科（通信教育課程）について

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### ① 学生の確保の見通し

##### ア 定員充足の見込み

入学定員 2,000 人に対し、平成 30 年度入学生は 391 人で入学定員超過率は 0.1955 となり、入学定員未充足の状態である。しかしながら、以下の表に示すように、入学者数に科目等履修生を加えると毎年入学定員を充足している。これは、本学が提供する通信教育が社会人を中心とするニーズに応えられていることを実証する数字だと考えている。社会的ニーズの受け皿となっている現段階では、入学定員を削減するのではなく、後述する具体的な取組を行っていくことで、入学定員が充足できるよう努めていきたいと考えている。

(表)

	項目	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平均入学 定員超過率
		12月31日現在	12月31日現在	12月31日現在	12月31日現在	12月31日現在	
近畿大学 法学部 法律学科 (通信教育課程)	入学定員	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
	入学者数	391	355	349	339	341	355
	入学定員超過率	0.1955	0.1775	0.1745	0.1695	0.1705	0.1775
	科目等履修生入学者数【参考】	2,175	2,255	1,955	1,784	1,711	1,976
	正科生+科目等履修生【参考】	2,566	2,610	2,304	2,123	2,052	2,331
	科目等履修生を加えた入学定員超過率【参考】	1.2830	1.3050	1.1520	1.0615	1.0260	1.1655

#### ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学法学部法律学科（通信教育課程）では、特に以下 7 点について改善を進めている。

##### a. LMS（Learning Management System）の導入

平成 26 年度から LMS を導入し、居住地や勤務形態に囚われない学習環境の提供を開始した。

これまで単位修得に係る試験会場やスクーリング会場が近くになく、入学に至らなかった方々を中心に、入学促進を図っている。

##### b. ホームページのリニューアル

令和元年度、読みやすさ、わかり易さに重点を置き、また学園全体の最新情報を即時発信できるようホームページをリニューアルした。また、ホームページ上に掲載している『動画で見る入学説明会』を最後まで見ていただけるよう工夫に富んだ、学習方法が理解しやすいバージョンへのリニューアルを企画している。事前に本学での学習方法を理解いただくことで入学者の増加につなげていきたい。

### c. 3 年次編入学生の募集強化

専修学校専門課程を訪問し、当該学生及び進路指導担当教員に対して、卒業後の進路選択肢の一つとして本学を加えていただくよう説明を行っている。

### d. 提携する専門学校の新規開拓

専修学校専門課程を訪問し、専門学校に在籍しながら、大学卒業資格も取得できるダブルスクールの魅力を伝えている。

学習継続に必要な諸手続等の当該学校での事務的負担を軽減するため、団体でのスクーリング申込み、試験申込み、費用の一括請求等をオンラインから行える機能を平成 27 年度に本学独自のポータルサイトに追加し、他大学との差別化を図っている。

### e. 通信教育サポート校の新規開拓

居住地に近い場所で、通信教育課程における学習サポートを担える教室を全国各地に設置しようと、専修学校を中心に提携を提案している。これまでのダブルスクールと比較すると、学生は通信制大学の卒業のみを目的とするため、学習における負担が大幅に軽減され、サポートに係る費用を抑えられる。大幅な入学者数増加につながると期待している。

### f. 入学説明会の内容充実

本学法学部法律学科及び近畿大学短期大学部商経科の通信教育課程が合同で開催している入学説明会では、平成 26 年度秋季から、来場者の満足度向上に重点を置き、運営方法を一新した。開催告知対象を広げ、学習方法、学習サポート、必要経費等の説明に加え、本学 LMS を体験できるコーナーの設置、個別相談コーナーの人員を増やし満足度の向上に努めてきた。

その結果、平成 26 年度は 24.2%であった説明会来場者の入学率が、平成 29 年度は 47.2%、平成 30 年度 42.1%と着実に実績をあげている。

令和 2 年度入学希望者を対象とした入学説明会からはプレゼンテーションアプリを採用する予定である。入学後の学習方法について理解を深めていただくことで入学者数増加につながると期待している。

### g. SNS の活用

令和元年度から科目終末試験実施やスクーリング開講、全国各地で行っている学習相談会、ソフトバレーボール大会など、学事行事を Facebook ページで発信している。

入学前から学生生活を身近に感じていただくことで入学者の増加につながると期待している。

## 2. 短期大学部商経科（通信教育課程）について

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

#### ① 学生の確保の見通し

##### ア 定員充足の見込み

入学定員 2,000 人に対し、平成 30 年度入学生は 620 人で入学定員超過率は 0.31 となり、入学定員未充足の状態である。しかしながら、通信教育部には司書コースが設置されており、その基礎資格である短大卒業の資格を得ることを目的として入学される方も多く、社会人を中心とする方々のニーズの受け皿となっているといえる。また、短期大学部は標準修業年限が 2 年間であることから目的に合った学びを提供しやすく、生涯学習社会において重要な役割を果たすことが期待できる。

下表に示す通り、科目等履修生は安定的に相当数を受入れていることから、社会人を中心として自身のペースで目的に合った学習ができる通信教育の需要は継続していると考えられる。後述する具体的な取り組みを行い、社会的ニーズに沿った学びを提供し続けることで、入学定員充足率も改善できると考えている。

(表)

	項目	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平均入学 定員超過率
		12月31日現在	12月31日現在	12月31日現在	12月31日現在	12月31日現在	
近畿大学 短期大学部 商経科 (通信教育課程)	入学定員	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
	入学者数	620	501	443	399	398	472
	入学定員超過率	0.3100	0.2505	0.2215	0.1995	0.1990	0.2361
	科目等履修生入学者数【参考】	500	535	454	470	439	480
	正科生+科目等履修生【参考】	1,120	1,036	897	869	837	952
	科目等履修生を加えた入学定員超過率【参考】	0.5600	0.5180	0.4485	0.4345	0.4185	0.4759

#### ② 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本学短期大学部商経科（通信教育課程）では、特に以下 6 点について改善を進めている。

##### a. LMS（Learning Management System）の導入

平成 26 年度から LMS を導入し、居住地や勤務形態に囚われない学習環境の提供を開始した。

これまで単位修得に係る試験会場やスクーリング会場が近くになく、入学に至らなかった方々を中心に、入学促進を図っている。

##### b. ホームページのリニューアル

令和元年度、読みやすさ、わかり易さに重点を置き、また学園全体の最新情報を即時発信できるようホームページをリニューアルした。また、ホームページ上に掲載している『動画で見る入学説明会』を最後まで見ていただけるよう工夫に富んだ、学習方法が理解しやすいバージョンへのリニューアルを企画している。事前に本学での学習方法

を理解いただくことで入学者の増加につなげていく。

#### c. 提携する専門学校の新規開拓

専修学校専門課程を訪問し、専門学校に在籍しながら、大学卒業資格も取得できるダブルスクールの魅力を伝えている。

学習継続に必要な諸手続等の当該学校での事務的負担を軽減するため、団体でのスクーリング申込み、試験申込み、費用の一括請求等をオンラインから行える機能を平成 27 年度に本学独自のポータルサイトに追加し、他大学との差別化を図っている。

#### d. 通信教育サポート校の新規開拓

居住地に近い場所で、通信教育課程における学習サポートを担える教室を全国各地に設置しようと、専修学校を中心に提携を提案している。これまでのダブルスクールと比較すると、学生は通信制大学の卒業のみを目的とするため、学習における負担が大幅に軽減され、サポートに係る費用を抑えられる。大幅な入学者数増加につながると期待している。

#### e. 入学説明会の内容充実

本学法学部法律学科及び近畿大学短期大学部商経科の通信教育課程が合同で開催している入学説明会では、平成 26 年度秋季から、来場者の満足度向上に重点を置き、運営方法を一新した。開催告知対象を広げ、学習方法、学習サポート、必要経費等の説明に加え、本学 LMS を体験できるコーナーの設置、個別相談コーナーの人員を増やし満足度の向上に努めてきた。

その結果、平成 26 年度は 24.2%であった説明会来場者の入学率が、平成 29 年度は 47.2%、平成 30 年度 42.1%と着実に実績をあげている。

令和 2 年度入学希望者を対象とした入学説明会からはプレゼンテーションアプリを採用する予定である。入学後の学習方法について理解を深めていただくことで入学者数増加につながると期待している。

#### f. SNS の活用

令和元年度から科目終末試験実施やスクーリング開講、全国各地で行っている学習相談会、ソフトバレーボール大会など、学事行事を Facebook ページで発信している。

入学前から学生生活を身近に感じていただくことで入学者の増加につながると期待している。

### 3. 九州短期大学通信教育部生活福祉情報科について

#### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

##### ① 学生の確保の見通し

##### ア 定員充足の見込み

九州短期大学通信教育部生活福祉情報科は平成 28 年度から、従来の 3 年制を 2 年制に変更し、学生の修学期間及び経済的負担を軽減するとともに、卒業後、専門分野の職業に就く人材として活用できる資格の充実にも取り組むことで、入学定員充足率も改善できると考えている。

	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
	12 月現在	12 月現在	12 月現在
入学定員	300	300	300
入学者数	81	76	66
入学定員超過率	0.27	0.25	0.22

また、現在、本学通信教育部は、全国展開を行う大手学校法人を含む 60 校以上の専門学校と学務提携している。毎年、積極的に各校を訪問し、本学の強みである短期大学士の学位の取得や、その他の取得できる資格等について説明している。学科編成を行う専門学校に対して、合致する本学の学科を強くアピールすることでニーズに応え、新たな学務連携につなげ、定員確保に努めていきたい。

##### ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

以下の内容を更に充実させ、是正に努める。

##### a. 学校案内及び入学要項等の見直し

本学での学習内容と学習の流れが入学希望者にも理解しやすい内容に組み替え、さらに学習意欲が湧きやすい学習形態を広報する。

##### b. 取得できる資格の見直し

現在、医療・福祉の資格を取得できるが、各分野に福祉住環境コーディネーターや医療教育協会で取得できる資格（診療実務士等）の充実を図り、高齢化社会に対応できる人材育成を行なえる学科とし、職業との関連をわかりやすくすることにより入学者の増加を目指す。

##### c. 3 年次編入学の P R

通学・通信問わず 4 年制大学への編入学への広報を新たに加え、学習機会の多様化に対応する。

##### d. 退学者の減少、学習サポートの強化

退学者の減少を図り、定員充足率の維持に努めるため、レポート提出、科目終末試験

等の学習が進んでいない学生に対し、地区別で巡回指導を徹底し、日常は文書や電話等で現状を確認し、学生の学習意欲を継続できる体制を整えている。

令和 2 年度  
医学部入学定員増員計画

近大総発第 1 1 1 号  
令和元年 9 月 10 日

文部科学省高等教育局長 殿

学校法人近畿大学

理事長 清水 由洋



「地域の医師確保等の観点からの令和 2 年度医学部入学定員の増加について（令和元年 9 月 2 日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	総務部次長 上原 真一
	TEL	06-4307-3002
	FAX	06-6727-4435
	E-mail	soumuka@itp.kindai.ac.jp

大学名	国公立
近畿大学	私立

1. 現在(令和元年度)の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
115	0	0	685

↑  
(収容定員計算用)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	計
(ア)入学定員	110	115	115	115	115	115	685
(イ)2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	115	115	115	115	115	685

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和2年度の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
95	0	0	570

↑  
(収容定員計算用)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
(ア)入学定員	95	95	95	95	95	95	570
(イ)2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	95	95	95	95	95	95	570
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和2年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
107	0	0	594

↑  
(収容定員計算用)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
(ア)入学定員	107	107	95	95	95	95	594
(イ)2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	107	107	95	95	95	95	594
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 12

↑  
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増(地域枠)	12
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増(研究医枠)	0
(3) 歯学部入学定員の削減を行う大学の特例に伴う入学定員／編入学定員増(歯学部振替枠)	0
計	12

## 1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 12

### (1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	大阪府	3
	奈良県	2
	和歌山県	2
大学所在地以外の都道府県	静岡県	5
計		12

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

### (2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	H30地域枠定員 (※1)	H30貸与者数 (※2)	R1地域枠定員 (※1)	R1貸与者数 (※2)	H30とR1の貸与者数のうち多い方の数
大阪府	3	0	3	3	3
奈良県	2	0	2	2	2
和歌山県	10	4	10	6	6
静岡県	5	1	5	5	5
					0
					0
計	20	5	20	16	16

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和2年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和元年度に実施した地域枠学生の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
推薦入試	(i) 推薦入試 (指定校推薦を含む)	手挙げ(事前)	20	20	一次試験: 数学、英語、理科 二次試験: 小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)に該当する者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を平成30年3月に卒業した者および平成31年3月卒業見込みの者。 (2) 学業、人物ともに優秀で出身高等学校長もしくは中等教育学校校長が推薦する者。 なお、調査書に記載している各教科の評定平均値については、各学部が選考に使用する教科・科目の(学習)成績が優秀であることが望ましい。 (3) 地域医療に従事・貢献しようとする強い意欲のある者、ただし、大阪府地域枠は大阪府出身者に限る。	H22	
一般入試・前期	(iii) 一般入試地域枠(前期・後期)	手挙げ(事前)	(全入試で20名)	(全入試で20名)	一次試験: 数学、英語、理科2科目 二次試験: 小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)のいずれかに該当し、かつ(4)を満たす者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および平成31年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および平成31年3月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。 (4) 地域医療に従事・貢献しようとする強い意欲のある者、ただし、大阪府地域枠は大阪府出身者に限る。	R1	
一般入試・後期	(iii) 一般入試地域枠(前期・後期)	手挙げ(事前)	(全入試で20名)	(全入試で20名)	一次試験: 数学、英語、理科2科目 二次試験: 小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)のいずれかに該当し、かつ(4)を満たす者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および平成31年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および平成31年3月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。 (4) 地域医療に従事・貢献しようとする強い意欲のある者、ただし、大阪府地域枠は大阪府出身者に限る。	R1	
C方式(前期)	(iii) 一般入試地域枠(前期・後期)	手挙げ(事前)	(全入試で20名)	(全入試で20名)	一次試験: センター試験(英語、数学2科目、理科2科目) 二次試験: 小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)のいずれかに該当し、かつ(4)~(5)を満たす者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および平成31年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および平成31年3月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。 (4) 平成31年度大学入試センター試験で本学が指定した教科・科目を受験する者、または受験した者。 (5) 地域医療に従事・貢献しようとする強い意欲のある者、ただし、大阪府地域枠は大阪府出身者に限る。	R1	
C方式(中期)	(iii) 一般入試地域枠(前期・後期)	手挙げ(事前)	(全入試で20名)	(全入試で20名)	一次試験: センター試験(英語、数学または国語、理科2科目) 二次試験: 小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)のいずれかに該当し、かつ(4)~(5)を満たす者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および平成31年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および平成31年3月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。 (4) 平成31年度大学入試センター試験で本学が指定した教科・科目を受験する者、または受験した者。 (5) 地域医療に従事・貢献しようとする強い意欲のある者、ただし、大阪府地域枠は大阪府出身者に限る。	R1	
C方式(後期)	(iii) 一般入試地域枠(前期・後期)	手挙げ(事前)	(全入試で20名)	(全入試で20名)	一次試験: センター試験(英語、国語、数学・理科から2科目) 二次試験: 小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)のいずれかに該当し、かつ(4)~(5)を満たす者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および平成31年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および平成31年3月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。 (4) 平成31年度大学入試センター試験で本学が指定した教科・科目を受験する者、または受験した者。 (5) 地域医療に従事・貢献しようとする強い意欲のある者、ただし、大阪府地域枠は大阪府出身者に限る。	R1	
合計			20	20				

(※1) 貴大学の学生募集要項の事項をそのままご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和2年度に実施する地域枠学生の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
大阪府地域枠入試	(iii)一般入試地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	3	3	一次試験:数学、英語、理科2科目 二次試験:小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)のいずれかに該当し、かつ(4)~(6)を満たす者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和2年3月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。 (4) 将来、大阪府の地域医療に貢献しようとする強い意思を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 (5) 大阪府出身者(定義は添付の入学試験要項参照)。 (6) 大阪府医師確保研修学資金の貸与を受け、別に定める条件(添付の入学試験要項参照)を全て満たすことを確約できる者。	R2	
奈良県地域枠入試	(iii)一般入試地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	2	2	一次試験:数学、英語、理科2科目 二次試験:小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)のいずれかに該当し、かつ(4)~(5)を満たす者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和2年3月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。 (4) 将来、奈良県の地域医療に貢献しようとする強い意思を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 (5) 奈良県緊急医師確保研修学資金の貸与を受け、別に定める条件(添付の入学試験要項参照)を全て満たすことを確約できる者。	R2	
和歌山県地域枠入試	(iii)一般入試地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	2	2	一次試験:数学、英語、理科2科目 二次試験:小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)のいずれかに該当し、かつ(4)~(5)を満たす者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和2年3月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。 (4) 将来、和歌山県の地域医療に貢献しようとする強い意思を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 (5) 和歌山県地域医師確保研修学資金の貸与を受け、別に定める条件(添付の入学試験要項参照)を全て満たすことを確約できる者。	R2	
静岡県地域枠入試	(iii)一般入試地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	5	5	一次試験:数学、英語、理科2科目 二次試験:小論文、面接 一次試験、二次試験の成績および地域枠志望理由書・調査書等を総合的に判定	次の(1)~(3)のいずれかに該当し、かつ(4)~(5)を満たす者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和2年3月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。 (4) 将来、静岡県の地域医療に貢献しようとする強い意思を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 (5) 静岡県医学研修学資金の貸与を受け、別に定める条件(添付の入学試験要項参照)を全て満たすことを確約できる者。	R2	
合計			12	12				

(※1) 貴大学にて作成予定の学生募集要項の事項をそのままご記入ください。  
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

## 1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要(令和2年度)について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次から地域の医療施設や保健センター等で働く医療関係者の仕事を体験する「学外施設実習/総合医学」を実施している。2～4年次には、「社会医学」、「臨床総論」、「臨床各論」等の科目の中で、地域医療に関連する事項を学ぶ。4～6年次は、60週間の「臨床実習(C.C.)」を実施している。本学の2つの病院での各診療科のローテーション実習に加えて、和歌山県串本町にあるくしもと町立病院でのへき地実習を1週間実施している。また、6年次には教育連携病院で4週間または8週間の地域医療実習を組み込んでいる。

(参考:記入例)

1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和2年度からは、■●を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②(過去に地域枠を設定したことがある場合)これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成22年度から大阪府・奈良県・和歌山県地域枠による増員を開始し、上記①に記載のとおり、各科目や臨床実習で地域医療に貢献する医師養成への取組を行ってきた。令和元年度までに85名の地域枠学生を確保し、そのうち19名が現在大阪府・奈良県・和歌山県で地域医療に貢献している。なお、静岡県地域枠は平成27年度から増員を開始したため全員が在学中である。

(参考:記入例)

平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■●などの取組を行ってきた。令和元年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容(正規科目)について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修/選択の別		講義/実習の別	単位数 (時間)	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年次	学外施設実習/ 総合医学	全員	必修	必修	実習	60h	H26
2年次	社会医学 I	全員	必修	必修	講義	90h	H30
3年次	臨床総論 II	全員	必修	必修	講義	90h	H21以前
3年次	臨床各論 V	全員	必修	必修	講義	180h	H27
4年次	社会医学	全員	必修	必修	講義	180h	H28
4年次	臨床各論 VIII	全員	必修	必修	講義	120h	H29
4～6年次	臨床実習(C.C.)	全員	必修	必修	実習	2120h	H30

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。(地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修/選択の別を「選択」とご記載ください。空欄がある場合は、何も記入せずそのままにご提出ください。)

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例:○週間)	プログラムの概要(1~2行程度)	開始年度
1年次	地域医療セミナー	地域枠学生	なし	2コマ	1)救命救急センター医師による地域の救急医療連携についての講義 2)地域枠メンター教員によるキャリア形成についての講義	R1

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。  
※空欄がある場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和元年度以前から継続する取組を含む)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずにご提出ください。

**2. 都道府県等との連携**

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」(平成元年法律第64号)第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。  
なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額 (例:200,000)		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定の有無	(診療科の限定がある場合) その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無(※1)			
大阪府	3	新入生	100,000	7,200,000	次の①～④をすべて満たすこと。 ①大学卒業後、1年6カ月以内に医師免許を取得すること。 ②大学卒業後、キャリア形成プログラムの対象となること。 ③大学卒業後、引き続き9年間以上(初期臨床研修を含む)、大阪府が指定する医療機関に勤務し、うち初期臨床研修期間を除く4年間以上は、大阪府が定める「医師の確保を志向するべき区域(※注1)」に所在する医療機関に勤務すること。 ④初期臨床研修修了から5年間以上は、指定診療業務(※注2)(初期臨床研修修了までに府が指定する診療業務)に従事すること。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	×	○	(1)総合周産期母子医療センターに指定された医療機関又は地域周産期母子医療センターに認定された医療機関の産婦人科(産科・小児(新生児)科) (2)小児科を協力科とする救急告示病院の小児科 (3)救命救急センター	※注1 大阪府医師確保計画(2020.3策定)で医師確保が必要とした2次医療圏等 ※注2 次の(1)から(3)までのいずれかの診療業務 (1)総合周産期母子医療センターに指定された医療機関又は地域周産期母子医療センターに認定された医療機関の産婦人科(産科・小児(新生児)科) (2)小児科を協力科とする救急告示病院の小児科 (3)救命救急センター * 指定診療業務となる診療科(業務)や(1)～(3)の医療機関は、今後の医療環境の変化で変更する可能性がある。
奈良県	2	新入生	200,000	15,400,000 (入学金 1,000,000含む)	次の①～⑤をすべて満たすこと。 ①卒業した日から2年以内に医師の免許を取得すること。 ②卒業後、キャリア形成プログラムの対象となること。 ③医師免許取得後、直ちに知事が指定する臨床研修病院で初期臨床研修に従事すること。 ④初期臨床研修の修了後引き続き、へき地医療機関または知事が定める医療機関の特定診療科等(小児科、産婦人科(産科を含む)、産科科、救急科、総合診療科及び救命救急センター)又は特定専攻課程(総合内科分野(※注1)、児童精神分野(※注2))のうち知事が指定するものにおいて医師としての業務に従事すること。 ⑤③及び④の期間の合計が、修学資金の貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間に達すること。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	×	○	小児科、産婦人科、麻酔科、総合診療科、救急科、総合内科分野、児童精神分野	※注1 内科のうち、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科等の特定の診療科に偏ることなく、多様な疾患を対象とする診療の分野 ※注2 精神科のうち、児童の精神疾患および発達障害を対象とする診療の分野
和歌山県	2	新入生	200,000	14,400,000	次の①～③をすべて満たすこと。 ①卒業した日から2年以内に医師免許を取得すること。 ②卒業後、キャリア形成プログラムの対象となること。 ③医師免許取得後、引き続き9年間(臨床研修期間を含む)和歌山県内の公的医療機関に従事すること。うち2分の1以上の期間は、へき地医療機関に勤務すること。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	×	○	へき地医療機関における診療科は内科	
静岡県	5	新入生	200,000	14,400,000	次の①～③をすべて満たすこと。 ①卒業後、「静岡県キャリア形成プログラム」が適用されること。 ②卒業した日から2年以内に医師免許の登録を完了すること。 ③医師免許取得後、9年間(初期臨床研修期間を含む)静岡県の公的医療機関等に勤務すること。なお、初期臨床研修修了後は、本人の意向を聴取し、大学と協議した上で県が個別に勤務機関を指定するものとする。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	×	×		

(※1)○の場合は、備考欄に詳細をご記入ください。  
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。(例: 在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度
大阪府地域医療確保修学資金等賞付金説明会	近畿大学医学部教員(小児科、産婦人科、救命救急センター等)による地域医療の役割等の講演会	H27
奈良県地域枠説明会・相談会	奈良県地域枠学生を対象とする医療政策等についての説明会、キャリアパス支援等についての面談、初期研修病院を回るバスツアー	H28
和歌山県地域枠説明会	和歌山県地域枠学生を対象とする和歌山県地域医療や保健医療計画についての説明会	H27
静岡県地域枠に係る意見交換会	静岡県職員と近畿大学教職員との意見交換会、静岡県職員と地域枠賞与学生との懇談会(キャリア形成や医療機関についての情報提供等)	H27

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのまま提出ください。

### 3. その他

**1~2に記入したもの以外で、**その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

特に、都道府県からの奨学金の賞与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

本学では従来から学生サポートの一環としてメンター制度を導入しているが、本年度から地域枠学生に対しては、既存のメンターに加えて別の教員を地域枠メンターとして配置し、キャリア形成を支援するとともに、地域枠からの離脱の防止にも繋げる。

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### ア 学則変更（収容定員変更）の内容

医学部医学科 入学定員 95名 収容定員 570名

令和2年度から令和8年度までの入学定員及び収容定員は次の通りとする。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	107	107	95	95	95	95	95
収容定員	682	674	654	634	614	594	582

### イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学医学部では、平成22年度から大阪府3名、奈良県2名、和歌山県5名を地域枠として新設し、平成24年度からは和歌山県を5名増員、平成27年度からは静岡県を5名新設し、合計20名の地域枠を設けて、地域の医師不足の解消に貢献すべく教育に取り組んできた。平成31年度で地域枠による臨時定員増が終了することに伴い、引き続き上記4府県と連携し、地域やへき地の医師不足の解消、診療科偏在の解消を図るべく、入学定員、収容定員の学則変更（収容定員変更）を申請する。

### ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

#### （ア）教育課程の変更について

本学医学部の教育課程では、1年次から地域医療関係者の仕事を見学・体験する「学外施設実習／総合医学」を実施している。2年次から4年次の社会医学、臨床総論、臨床各論等の科目の中で、プライマリケア、地域包括ケア、へき地医療・地域医療構想等を学ぶ。その後、近畿大学病院、近畿大学奈良病院、くしもと町立病院（和歌山県）や大阪府下の教育連携病院で臨床実習を実施している。学則変更（収容定員変更）後もこれらの教育課程に変更はないが、2年次から4年次の各科目の授業の中で、地域医療関連の内容をさらに充実させることを検討している。

#### （イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容について

教育方法及び履修指導方法について変更はなく、収容定員変更に伴い教育水準が低下することはないと考えている。

#### （ウ）教員組織の変更について

教員組織について変更はなく、収容定員変更に伴い教育水準が低下することはないと考えている。なお、本学医学部の教員数及び学生数は、以下のとおりである。

教員数：教授 57名、准教授 43名、講師 163名、助教 146名 計 409名

学生数：1学年 123名、2学年 120名、3学年 121名、

4学年 128名、5学年 125名、6学年 125名 計 742名

（令和元年5月1日現在）

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容について

施設・設備について変更はなく、収容定員変更に伴い教育水準が低下することはないと考えている。

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ホノイ ヨシヒコ 細井 美彦 <平成30年4月>		博士 (農学)		近畿大学 学長 (平成30年4月～令和3年3月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。